

授業名	宗教学	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎福島 寅太郎		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。 〔授業の概要〕 本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。 本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。 本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準:CD1102		
授業の到達目標	〔到達目標〕 ①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係: 知識理解、創造的思考力		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	試験成績60点、授業における発表20％、授業における参加態度20％など。理解度8割で、合とする。
テキスト	特に指定していないが、途中から必要に応じて指定する場合がある。その場合は事前に詳細を知らせる。		
参考書	特になし		
学生への要望	ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。	初回に当たり、とくになし。	1.5
2	生活と宗教（１）一禅の教えと歴史	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブツ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしながら、生活における禅の役割を考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
3	生活と宗教（２）一生活の中の「禅」	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
4	生活と宗教（３）一「生活禅」とは何か	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
5	生活と宗教（４）一だるまさん・ダルマと達磨	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがあろう。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
6	生活と宗教（５）一般若心経	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	生活と宗教（6）－こころと心	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にするものである。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
8	生活と宗教（7）－禅マンガについて	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
9	生活と宗教（8）－宗教における悩みの対処法	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
10	生活と宗教（9）－アニメにおける宗教的要素 其の一	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
11	生活と宗教（10）－アニメにおける宗教的要素 其の二	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスカ、それともメスカ。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
12	生活と宗教（11）－生活と宗教との関わり 其の一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
13	生活と宗教（12）－生活と宗教との関わり 其の二	前回の続き。「人間らしく生きるためにはどうしたらいいか」「人間の本質とは何か」などの問題について、教科書を参考にしつつ考えてみる。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
14	生活と宗教（13）－まとめ	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
15	最終回－まとめ其②	授業の内容を踏まえつつ、本学の建学精神である「尊敬・責任・自由」の意義を再び考えてみることにする。	ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

授業名	情報処理Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢 米本 順子 松本 侑子		
開講期			
授業の概要	パソコンの普及及びネットワーク化の急激な進展を踏まえ、今後必要となる情報処理技術であるコンピュータ、ネットワーク及びオフィスソフトの基礎技術を学ぶ。とくに本演習ではオペレーティング・システム(OS)の基本操作・メールやウェブの利用方法・文書作成・表計算について学習する。 フィードバックとして、未提出物がある場合や提出物の内容が不十分である場合などは追加課題の実施等を行う。		
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. オペレーティング・システム(OS)の基本的な操作ができること。 2. ウェブとメールを利用した情報収集および情報伝達ができること。 3. 文書作成・表計算ソフトウェアを利用し、必要な情報を盛り込んだ文書を作成することができること。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。		
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは提出物・課題により評価する。内容毎に課題を提示し演習と確認を行う。評価の比率は提出物を15%、課題1を15%、課題2を35%、課題3を35%とする。
テキスト	イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル Office 365・Office 2021対応、noa出版（2022）		
参考書	なし。		
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。		
位置付け・水準	CD1130		
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」		
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）☑		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理工情情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、オリエンテーション時の内容を復習し、Webメールを利用、Windowsの基本操作ができるようにする。	復習として次のことを行うこと。 ・Webメールから携帯電話へメールを送信する(正しく着信することを確認する)。 ・携帯電話からWebメールのアドレスへメールを送信する。メールが転送されることを確認する。	45
2	ブラウザと検索	World Wide Web (WWW) を利用するために、ブラウザ・文字コード・Uniform Resource Locator・プロトコルなどのネットワークを利用する上での基礎事項を学習する。またインターネットの普及を踏まえ、インターネットを利用するためのセキュリティについて触れる。	復習として、次の点についてまとめること。 ・URLの構造 ・インターネットを利用する際に注意すべきポイント	45
3	Email	Email のアドレスの構造やメール転送の仕組みを学ぶ。 メールアドレスの管理やメールのフィルタリング、TO, CC (Carbon Copy), BCC (Blind Carbon Copy) 違いなどメールの基本について学ぶ。 また Email を利用するためのセキュリティについて学ぶ。 ローカルコンピュータ上のメーラーだけでなく、Gmail を用いて Web 上のメールの用法も理解する。	復習として、Emailアドレスの構造とTO, CC, BCC の違いをまとめること。	30
4	課題1	インターネット（ブラウザ・メールなど）の用法について、正しく利用できるか確認をする。 また次回以降の教材の準備を行う。 教材のダウンロード http://www.noa-prolab.co.jp/download/	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	Wordによる文書作成1	Word を用いた文章作成について学ぶ。Word の画面構成と名称を学び、書式の意味とその設定を行う。また文章中での表の作成・挿入などの方法を学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト1を実施すること。	20
6	Wordによる文書作成2	表作成の操作として、列幅や行幅の変更・セルの結合・スタイルの設定等について学ぶ。さらにワードアートを始めた図の挿入方法とその際の各種設定方法について学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト2を実施すること。	20
7	Wordによるレポート作成	レポート作成時に必要となる基本的な設定方法について学ぶ。また文章内に表やグラフを挿入する際に必要となる Excel の基礎知識、脚注や引用などについても学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Word STEP2 確認テスト3, 確認テスト4を実施すること。	40
8	課題2	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での文章作成を行う。作成した文章については Web を通じて指定箇所に提出することで、一連の学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
9	表の作成	Excel を用いて表計算ソフトを学ぶ。表計算ソフトの基本画面構成・文字と数値の扱い・データ削除方法などの基本操作のほか、オートフィルや書式の設定などについて学ぶ。	復習として、授業内でオートフィルの機能を用いて作成した連続データを、再度作成してみること。	30
10	計算とアドレス	数式を用いた計算方法を学ぶ。特に表計算を行う上で重要な相対アドレス・絶対アドレス・混合アドレスの差異を学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.141までを読んでおくこと。	30
11	関数	コンピュータ上での関数について学ぶ。基本的な関数である SUM 関数および AVERAGE 関数を用い、表計算ソフト上での関数の扱いについて学ぶ。	予習として教科書のp.132からp.152までを読んでおくこと。	30
12	論理	実用的な計算を行う上で重要な論理計算を行う関数について学ぶ。具体的には IF 関数や COUNTIF 関数などの用法などについて学ぶ。	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP2 確認テスト5, 確認テスト6を実施すること。	30
13	表とグラフ	表計算ソフトでの表の書式設定を学び、作成した表からグラフを作成する方法について学ぶ。またグラフに関する基本的な設定を行う。	復習として、eLearning Systemを用いて Excel STEP3 確認テスト1, 確認テスト2を実施すること。	30
14	課題 3	これまでの学習内容を踏まえ、提示された課題について一定時間での Excel で処理を行う。処理したファイルは Web を通じて指定箇所に提出する。これにより学習状況の確認を行う。	課題でできなかった点について、教科書等を用いて復習しておくこと。	60
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを用いたプレゼンテーションの基本やスライド作成の注意点、スライド作成の基本機能について学ぶ	予習として、パワーポイントに関する章を読んでおくこと。	30

授業名	総合英語コミュニケーション	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎ポール パーナミィ		
開講期			
授業の概要	PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed high school English. Students should be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, such as likes and dislikes. They also should be able to give basic personal and family information. EVALUATIONS FOR THIS CLASS: ① You should be able to give a short clear self-introduction. ② You should be able to read smoothly and understand a short passage. ③ You should be able to do basic grammar in the context of spoken and written form. FEEDBACK: I will frequently give constructive feedback to students on their participation, articulation, homework, quizzes and development.		
授業の到達目標	GOALS OF THIS CLASS: A. The main focus will be to enhance key listening and language proficiency with active learning. B. Additionally, required quizzes and homework will incorporate listening tasks to evaluate overall comprehension. There will be a cumulative final exam. C. The minimum standard to receive 2 credits for this subject is to achieve 60% or higher on the overall average of these main criteria, attitude, quizzes and the final test.		
履修条件	短大1年	成績の 評価方法・基準	1. Active, Enthusiasm (20%) 2. Quizzes, Homework (30%) 3. Final Cumulative Test (50%)
テキスト	Speak NOW 2 by Jack C. Richards & David Bohlke		
参考書	Oxford University Press 2012		
学生への要望	Don't miss class. Be attentive. Do regular listening of your audio files. Study 120 minutes of homework each class. Review all material including textbook, online self-study and supplemental material.		
位置付け・水準	The number of this subject is CD 1103		
ディプロマポリシーとの関係	The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Knowledge" and "Understanding."		
オフィスタイム	Visit for questions before or after class and by appointment, contact me through the Education Department.		
アクティブラーニング実施内容	Active learning is used in every lesson through methods including class discussions about relevant subjects, small group speaking opportunities, pair work reading activities, and detailed listening activities to promote confidence in active learning.		
実務家教員の経歴	Instructor for this course taught English at Koriyama Women's University Attached High School for 15 years. Additionally, instructor taught computer art & design elective classes for 10 years. Moreover, instructor has corporate graphic design and computer sales as practical work		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Introduction to Class	Lessons 1-4---FRIENDS & FAMILY---Lesson 1---Where are you from? Pages 2-8, Explain Textbook, Tests, Quiz. Active Learning Explained. External Supplements Explained. Homework, Attendance, etc. I will explain in detail how the online portion of the class will be used. Encourage students to ask questions and to give feedback on office hours, assignments, quizzes, test information, and any question they would like to ask.	Review the textbook. Read through Scope and Sequence of the textbook. Explain lessons we will do for the class. Show and explain the textbook and the online activities the students will do for the class. Bring textbook to all classes. Bring computer to all classes.	120
2	Lesson 1	Lesson 1---Where are you from?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 2-4. Conversation. Active learning pair work activity. English in Action Video, Page 10. Watch and explain online video.	Review the textbook. Read through pages 2-3. Listen to tracks 2-4. Do vocabulary worksheet 1. Do first online assignment.	120
3	Lesson 2	Lesson 2---I'm tall and thin.---Review Lesson 1---Where are you from?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 5-6. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 4-5. Listen to tracks 5-6. Do vocabulary worksheet 2. Do online assignment.	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	Lesson 3	Lesson 3---Alice is more serious.---Review Lesson 2---I'm tall and thin.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 7-8. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 6-7. Listen to tracks 7-8. Do vocabulary worksheet 3. Do online assignment.	120
5	Lesson 4	Lesson 4---All of my friends text.---Review Lesson 3---Alice is more serious.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 9-11. Conversation. Active learning pair work activity. Summary review. Pages 10-11. Confidence booster. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 8-9. Listen to tracks 9-11. Do vocabulary worksheet 4. Do online assignment. Review pages 12-13 English in Action online video supplement.	120
6	Lesson 5	Lessons 5-8---RESTAURANTS---Lesson 5---I've never had Thai food.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 12-13. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 12-13. Listen to tracks 12-13. Do vocabulary worksheet 5. Do online assignment.	120
7	Lesson 6	Lesson 6---First, grill the bread.---Review Lesson 5---I've never had Thai food.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 14-16. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 14-15. Listen to tracks 14-16. Do vocabulary worksheet 6. Do online assignment.	120
8	Lesson 7	Lesson 7---The service is great.---Review Lesson 6---First, grill the bread.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 17-18. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 16-17. Listen to tracks 17-18. Do vocabulary worksheet 7. Do online assignment.	120
9	Lesson 8	Lesson 8---Are you ready to order?---Review Lesson 7---The service is great.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 19-21. Conversation. Active learning pair work activity. Summary review. Pages 20-21. Confidence booster.	Review the textbook. Read through pages 18-19. Listen to tracks 19-21. Do vocabulary worksheet 8. Do online assignment. Review pages 20-21 English in Action online video supplement.	120
10	Lesson 9	Lessons 9-12---HEALTH---Lesson 9---I have a sore throat.---Review Lesson 8---Are you ready to order?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 22-23. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 22-23. Listen to audio tracks 22-23. Do vocabulary worksheet 9. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120
11	Lesson 10	Lesson 10---What should I do?---Review Lesson 9---I have a sore throat.---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 24-27. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 24-25. Listen to audio tracks 24-27. Do vocabulary worksheet 10. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120
12	Lesson 11	Lesson 11---I'd love to try that!---Review Lesson 10---What should I do?---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 28-29. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 26-27. Listen to audio tracks 28-29. Do vocabulary worksheet 11. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120
13	Lesson 12	Lesson 12---Soccer is more exciting!---Review Lesson 11---I'd love to try that!---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 30-32. Conversation. Active learning pair work activity. Summary review. Pages 30-31. Confidence booster. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 28-29. Listen to tracks 30-32. Do vocabulary worksheet 12. Do online assignment. Review pages 30-31 English in Action online video supplement.	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	Lesson 13	Lessons 13-16---JOBS---Lesson 13---I can write pretty well.---Review Lesson 12---Soccer is more exciting!---Listening and Pronunciation. Listen to tracks 33-36. Conversation. Active learning pair work activity. English Picture Book. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages 32-33. Listen to tracks 33-36. Do vocabulary worksheet 13. Do online assignment. Review English in Action online video supplement.	120
15	Test Review	Textbook Summary, CD Review, Quiz, Conversation. Active learning pair work activity review. Test Preparation & Review. English Picture Book Final Presentation. Students read book in front of class.	Review the textbook. Read through pages indicated to study for the final test. Listen to all audio tracks indicated during test preparation.	180

授業名	英語（リーディング＆ライティング）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎安田 純子			
開講期				
授業の概要	英語は世界で広く使われ、国際コミュニケーションのためにもその必要度は増してきています。 本講座では、基礎的な英語の理解力を高め、英語の読解力(読む力)を伸ばすこと、英語での表現力（書く力）を総合的に習得することを目標とします。 バランスのとれた英語力習得のために不可欠な単語力養成と文法・語法の着実な理解を図ります。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	目標は ①平易な英語の文章（英検3級レベル程度）を読んでものおおよその意味を把握できる。 ②基本的な英文の構造や文法をある程度理解している。 ③基本的な単語を用いて、平易な英文が書ける。 単位認定の最低基準は、内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	受講資格 地域創生学科 1年以上	成績の 評価方法・基準	成績評価方法 試験50%、豆テスト30%、課題20%	
テキスト	教科書 Enjoyable Reading [SEIBIDO]			
参考書	参考書 英和辞典はできるだけ新しく語彙数と用例の多いものをすすめます。			
学生への要望	学生への要望 編入対策も意識して英語のレベル・アップを図るため、予習復習などまじめに取り組むこと。			
位置付け・水準	CD1109			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日13:00～16:30 金曜日13:00～16:00 場所は、創学館4F No.1研究室			
アクティブラーニング実施内容	Pair work, Group work, Chorus reading, Q&A			
実務家教員の経歴	高校教員（英語）経験あり。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	Class Introduction	・ Explanation (Contents, The meaning of learning of English, course purpose and exposed goals, evaluation details) ・ Contents（テキストの目次から）	small test の準備	60
2	Small Test①②	・ Small Test①②	small test の復習	40
3	Chapter1 A Lesson from Bhutan	1 Key Sentence Patterns 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition, Essential Basic Sentence Patterns, Phrase Reading)	90
4	Chapter2 The Story of Mother's Day	1 Key Sentence Patterns (Pattern7～pattern12) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition, Essential Basic Sentence Patterns, Phrase Reading)	90
5	Chapter3 George Morikami's Dream	1 Key Sentence Patterns (Pattern13～pattern18) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition, Essential Basic Sentence Patterns, Phrase Reading)	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	Chapter 4 Pizza:An International Favorite	1 Ker Sentence Patterns (Pattern19~Pattern24) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition,Essential Basic Sentence Patterns,Phrase Reading)	90
7	chapter 5 The Story of the Red Rose	1 Key Seneence Patterns (Pattern25~Pattern31) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Duided Summary 5 Dialogue 6 Oral composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral composition ,Essential Basic Sentence Patterns, Phrase Reading)	90
8	Chapter 6 Madame Butterfly and Intercultural Marriages	1 Key Sentence Patterns (Pattern32~Pattern38) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition, Essential Basic Sentence Patterns,Phrase Reading)	90
9	Chapter7 A Siesta Makes You Smarter!	1 Key Sentence Patterns (Pattern39~Pattern44) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition, Essential Basic Sentence Patterns,Phrase Reading)	90
10	Chapter 8 Unwanted Pets and Eco-Disasters	1 Key Sentence Patterns (Pattern45~Pattern51) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	*WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition, Essential Basic Sentence Patterns,Phrase Reading)	90
11	Chapter 9 Going Green	1 Key Sentence Patterns (Pattern52~Pattern58) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	*WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition,Essential Basic Sentence Patterns,Phrase Reading)	90
12	Chapter10 Laughter Keeps You Healthy	1 Key Sentence Patterns (Pattern59~Pattern65) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading	*WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition,Essential Basic Sentence Patterns, Phrase Reading)	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	Chapter11 A Lesson from the Nagasaki Islands / Exam Prep1	1 Key Sentence Patterns (Pattern66~Pattern72) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading ・ Pre session for the Exam planned Week15 Review of each lesson (復習)	*WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition, Essential Basic Sentence Patterns,Phrase Reading)	90
14	Chapter12 A Lesson from the Olympics / Exam Prep2	1 Key Sentence Patterns (Pattern73~Pattern79) 2 Reading Passage 3 Comprehension Questions 4 Guided Summary 5 Dialogue 6 Oral Composition 7 Essential Basic Sentence Patterns 8 Phrase Reading ・ Prep session for the Exam planned Week15 Review of each lesson (復習)	*WAME-UP(Vocabulary Preview, Grammar Point) Assignment (Oral Composition,Essential Basic Sentence Patterns,Phrase Reading)	90
15	Examination / Explanation for Examination / Total Review	・ Examination ・ Explanation for Examination ・ Total Review	・ Examination の準備 ・ 全体のまとめと総復習	120

授業名	キャリアデザインⅠ(地域創成)		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎知野 愛 黒沼 令 仲田 佐和子			
開講期	Ⅰ期			
授業の概要	本学におけるキャリア教育は、「一人一人の社会的自立に向け、生涯を通して自己を磨き続けることができる能力を育成するための教育」と定義されます。本授業では、まず大学生として学ぶ姿勢の基本を身につけることで、「つくる力」(創造力、論理的思考力、表現力)と「かかわる力」(主体的行動力、コミュニケーション能力、倫理・道徳観)という社会で活躍するための基礎力を確認し、主体的に大学生活を送ることで各自のライフキャリアを構築できるようにします。 □最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	初回と最終回の自己評価票の記入・2回の課題レポート提出・最終回のテキスト提出を単位認定の最低基準とする。			
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	授業時のワークへの取り組み状況（使用テキスト提出）と提出物（2回のレポートと最終授業のマンドラチャートは必須）から「認」評価を判定する。	
テキスト	教材集「キャリアデザイン」配布			
参考書	授業中に適宜提示する。			
学生への要望	・自分自身の進路について、周囲の友人や家族と日常的に話してみましょう。また、身近にいる社会人から仕事や家庭生活に関する話を聞いてみることも、進路を考える上でヒントになります。 ・就職部の実施する就職ガイダンス・各種模擬試験・インターンシップなどの活動に積極的に参加しましょう。			
位置付け・水準	CD1903			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係： 課題解決力・主体的行動力			
オフィスタイム	各担当教員が授業初回時に説明します。			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションーキャリアデザインの意義と目的	本講義の目的・意義・内容・計画を理解した上で、「キャリア」とは何か、「キャリアをデザインする」とはどういうことかを考えます。	自己評価票を真摯に記入し、現時点での自分をよく観察してみましょう。	60
2	郡山女子大学を知ろうー建学の精神と学園の歴史	学園の歴史と建学の精神の基本的な考え方を解説します。	大学のホームページや図書館で『学園史』を手に取ったり、集会などで学科の先生と建学の精神について話し合ってください。	60
3	「つくる力」を育てる(1)ー情報を読む力・まとめる力	講義から情報を読む力（聴く力・ノートにまとめる力）をトレーニングします。	講義を聞く姿勢、ノートの取り方の基本は同じでも、詳細は科目によって異なります。自分でも工夫を心掛けてみましょう。	60
4	「つくる力」を育てる(2)ー書く力・伝える力の育成	レポートの書き方を手掛かりに事実と意見の違いや「きちんと考える」ことの必要性を確認します。	新聞や参考文献、友人や家族と話し合ってみて、レポートの構成を良く考えましょう。	120
5	「つくる力」を育てる(3)ー社会でのパソコン活用マナー	メール作成の方法、添付ファイルの方法、パソコンによるレポート作成の方法を基礎から学びます。	パソコンを用いてレポートを書いた後、提出前に必ず読み直しをして「推敲」しましょう。	120
6	「かかわる力」を育てる(1)ーお金から考えるライフプランニング	長いキャリアを生きる中で、私たちは多くのライフイベントを経験し、生活共同体の中での役割を変化させていきます。その時々々の状況を経済的側面から考えます。	講義の後、自分自身や家族の貯金・保険・年金などについて実際に具体的な話をしてみましょう。	60
7	「かかわる力」を育てる(2)ー働くためのルール	労働法の基礎知識から働く上での諸問題への対応方法を考えます。	講義の後、自分自身のアルバイト経験や家族の働き方について話をしてみましょう。	60
8	「かかわる力」を育てる(3)ー女性のキャリアモデルを知ろう！① 講演	社会で活躍している卒業生を講師としてお招きし講話を伺います。	講演を傾聴し、講演後はSNSや新聞などで講演者や時代などについて調べてみましょう。もっと多くのモノが見えてきます。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	「かかわる力」を育てる(4) ー女性のキャリアモデルを知ろう！② グループ討論	前回の外部講師の講演を踏まえて討論し、レポートを作成します。	授業時間だけでなく、友人とレポート執筆を念頭に是非意見交換をして下さい。	120
10	「かかわる力」を育てる(5) ー多様化する生活とワーク・ライフ・バランス	女性のライフコースの多様な選択肢をワーク・ライフ・バランスに着目して考えます。	現時点の自分の考えを確認すると共に、家族や友人と意見交換をして、異なる意見に沢山出会ってください。	60
11	「かかわる力」を育てる(6) ー働き続けるための支援	出産・育児や介護と雇用労働を両立させるための制度を学びます。共働き増加の背景や課題なども考えます。	共働き夫婦が利用すると助かるサービスとして何がありましたか？そのサービスの利点や欠点も考えてみましょう。	60
12	「かかわる力」を育てる(7) ー「自分」と「社会」との結びつき	PM理論やソーシャルスキルを学び、社会（集団）の中で適応的に「個人」として生きることについて考察します。	学校生活だけでなく、家庭や友人関係、サークル活動、アルバイトなど多様な集団と個人の関係を考えてみましょう。	60
13	「かかわる力」を育てる(8) ーアサーショントレーニング①	堂々と自分の意見を述べるために必要なアサーションの考え方の基本を学びます。	アサーションは、自分自身が考え納得して行動することが大切です。表面的なテクニックだけでなく、よく自分の内面と向かい合ってみてください。	60
14	「かかわる力」を育てる(9) ーアサーショントレーニング②	アサーションの技術を向上させる。I・Youメッセージを学びます。	アサーションは、自分自身を守るためだけでなく、相手のことを考えることに繋がります。周りの人とよく話し合ってみましょう。	60
15	まとめ ー自分のキャリアを創ろう！	自己評価票の記入・授業アンケートを実施し、「マンダラチャート」を作成して各自のキャリアプランの作成を試みます。	初回の自己評価票とじっくり比較すると共に、「マンダラチャート」で次の具体的な一歩を明確にしましょう。	60

授業名	キャリアデザインⅡ（地域創成学科）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎森　　みい		
開講期			
授業の概要	【授業のねらい】 将来の社会生活や職業生活に向けて、自らの資質を向上させ、社会的職業的自立を図るために必要な能力を培い、幅広い人間形成を図ることを目的としています。社会人としての自覚と行動を視野に入れて、主体的にキャリア形成能力を育成します。働くことの実態、意義、面白みを体感していきます。インターンシップを推進して、学生の自己認識、社会・職業認識の深化を促し、就職意欲のある学生に対して、豊富かつ適切な就職情報を提供するとともに希望に添った就職活動が行えるよう支援します。 インターンシップ終了後に、課題・レポート提出及び、インターンシップ報告会を行い、課題についてフィードバックを行います。 【授業の概要】 インターンシップ（就業体験）を通じ、自らの専門や将来希望する職業の関連した職場での体験で、学んでいる内容と社会との関連性を認識し、今後の主体的な学修への動機付けを強め、職業を具体的に理解することで仕事の奥深さを実感していきます。働くことについて総合的に理解や仕事をする達成感、充実感、社会貢献を体得します。前期6回の講義、夏休み期間中のインターンシップ（5日間）、および、受け入れ企業のご担当者を招いた報告会から構成されています。インターンシップ終了後報告書を作成することで成果と課題を理解します。担当者は、大学・短大の就職部長であり、キャリアコンサルタントの資格を有し、長く就職指導にあたっている経験を活かし授業を行います。 GC1118		
授業の到達目標	【授業終了時の達成目標】 インターンシップを通して、社会人として必要な能力と知識を学び、今後の学生生活の中に活かしていくことで、新たな学習意欲の契機となることを目標とします。仕事の奥深さを実感し、働くことへの理解、責任の重さや成し遂げる充実感や社会への貢献、多様な課題を自らの手で発見し、それらを分析し解決する力を身につける事を目標とを目標としています。		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	就業体験50％・報告会10％・提出物10％「認」評価判定
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生への要望	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
位置付け・水準	GC1122		
ディプロマポリシーとの関係	学修成果から人材を育成し、社会へと送り出す		
オフィスタイム	12時30分以降(月～金)		
アクティブラーニング実施内容	インターンシップは自分の変化や成長を実感できる機会です。広い視野を持ち、各個人のキャリアを考えて、新たな挑戦で自らの可能性の枠を広げてみてはどうでしょう。		
実務家教員の経歴	就職部長、キャリアコンサルタント		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	インターンシップの概要 4/11(Ｖコマ)	インターンシップの概要説明で理解を深める、インターンシップの目的の明確化。各業界の今後の発展方向をみる。就業体験先の希望調査。「インターンシップ希望調査票」「志望理由」の提出をする。インターンシップに必要な書類についての確認する。	就業体験先の希望調査があるので、企業・業界研究をしておく。 インターンシップの目標を設定する。	30
2	インターンシップの心構え 4/18(Ｖコマ)	働く人の話を聞き、仕事の内容、組織での関りを学び、インターンシップの考えを深化させていく。	インターンシップを具体的にどのように考えていくか、社会人の話を聞き、企業研究をする。	30
3	企業研究（講演） 5/16 （Ｖコマ）	身近な若き経営者の講演を実施する。社会と協働する中で、人間力や就業観の醸成及び学習意欲を高めていくか、また、人生をどのように生きていくか、自分の将来のキャリアプランを考える。	企業の働きから、社会の動向を学び、働く事への理解を深める。	30
4	事前指導 （ビジネス文書作成） 5/30（Ｖコマ）	メールと封書でのお礼状の書き方を理解して実践する。また電話やメールのアポイントのとり方を学ぶ。また、就業体験先の決定をする。	手紙の書き方、ビジネスでのメール送信、電話の掛け方等、一般的なナマールを確認しておく。	30
5	事前指導 （マナー講座） 6/20（Ｖコマ）	マナー講座実施を通して、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶等、円滑な人間関係を築くための基礎を身に付ける。就業体験先との打合せを始める。	挨拶・言葉遣いを実践で学んでいくので、印象のいいマナーを日常から意識をして練習する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	直前指導 (インターンシップ先の企業研究)7/20 (Vコマ)	業界・企業知識やインターンシップ(就業体験)の基本知識を学び、企業研究を深める。先輩の体験からインターンシップ直前の留意点を確認する。	インターンシップ先にアポイントを取り担当者と打合せをする。電話の掛け方、インターンシップに向けてマナーの練習をする。	30
7	インターンシップ 実施 1班8/26～8/30 2班9/2～9/6	各企業において、夏季休業中 (8月中旬～下旬)に5日間のインターンシップ(就業体験)を行います。	企業研究及び交通手段の確認をする。インターンシップ先の企業研究を行い、最終確認をする。	30
8	インターンシップ報告会 9/13 (Iコマ)	事後報告会として、グループで全員が報告会を実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会の準備と提出物の最終確認をする。	30
9	インターンシップ報告会 9/13 (IIコマ)	事後報告会として、代表者の報告を企業の方も参加して実施する。実習日誌、その他の提出物を提出する。	報告会で発表し、報告者の発表から課題を考えていく。	30

授業名	地域創成ゼミナールⅠ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎小松 太志 斎藤 美保子 福島 寅太郎 斉藤 弘久 桑野 聡 會田 容弘 知野 愛 山口 猛 仲田 佐和子 黒沼 令 和知 剛 佐藤 愛未 佐々木 達矢 米本 順子		
開講期			
授業の概要	本学科の目指す「学生各自の学びとそれを活かした地域活動」に貢献できる人材の育成を進めていく上で重要な基礎力を育むことを目的とする。具体的には、①本学科で「地域」を考えるための手掛かりとして学科所属教員各自の専門分野と地域に関する考え方、取り組みなどを学び、「地域」が人々の生活の連鎖の中で作り上げられてくる歴史的・社会的共同体であることを確認することで地域共同体形成への基本姿勢を準備する。次に後期のはじめに②もみじ会で具体的な企画イベントの実施を経験する。その後、半期の地域創成学科での学びを踏まえて、③実際の地域活動の事例を外部講師を招いて講演いただき、次に④各学生の学びの核となる卒業研究の仮所属期間を挟んで、⑤近代市民社会において私たちが「地域」とどのように関わっていくのかを2年生の地域創成プロジェクト演習の具体例から学び、次年度に取り組む具体的な地域活動への所属を決定する（「他との協調」）。 □もみじ会終了後の後期ガイダンスと最終授業で全体に対するフィードバックを行います。 CD1101		
授業の到達目標	学生各自が前期の学科教員全員による担当授業から地域創成学科での学びの核と地域活動の繋がりを自覚し、地域形成のさまざまな切り口を例にそれぞれの地域共同体とどのように関わっていくことが出来るかを主体的に考え、最終的に次年度から実際に参加する具体的な地域活動（プロジェクト演習）の所属を決める際に積極的に取り組む姿勢を持つことを達成目標とする。 □単位認定の最低基準は、「プロジェクト演習」のアンケートに主体的に答え、授業内容の7割を理解していること。 □ディプロマポリシーとの関係： 知識理解・創造的思考力・主体的行動力		
履修条件	地域創成学科1年必修	成績の 評価方法・基準	
テキスト	特に使用しません。		
参考書	必要に応じて随時授業の際に提示します。		
学生への要望	この授業は、各自が「学びの核」（卒業研究に繋がる一番力を注ぐ専門分野）を持ちながら、2年次の地域創成プロジェクト演習に連動する地域創成学科の必修科目です。学びを行動に繋ぐ主体性・積極性を期待します。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

[illegible]

令和6年度

授業名	地域創成ゼミナールⅡ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 必修
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要			
授業の到達目標			
履修条件		成績の 評価方法・基準	
テキスト			
参考書			
学生への要望			
位置付け・水準			
ディプロマポリシー との関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニン グ実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

[illegible]

授業名	地域創成プロジェクト演習		
担当教員名	◎桑野 聡 福島 寛太郎 斉藤 弘久 會田 容弘 知野 愛 小松 太志 山口 猛 仲田 佐和子 黒沼 令 佐藤 愛未 和知 剛 佐々木 達矢 斎藤 美保子 米本 順子	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 必修
開講期			
授業の概要	1 年次の「地域創成ゼミナール」を踏まえて具体的な地域活動に関わることで、地域活動の難しさと共に楽しさを学ぶ。今年度は11のグループに分かれて実施する。①パブリックアートの鑑賞と活用、②歴史遺産を活用した地域創成プロジェクト、③取材活動プロジェクト、④版都ふくしまプロジェクト、⑤数理モデルとシュミレーションプロジェクト、⑥地域と暮らしプロジェクト、⑦郡山の魅力発信プロジェクト、⑧郡山女子大学周辺の宗教学+、⑨まちの歴史再発掘プロジェクト、⑩データセット作成プロジェクト、⑪つなぐデザインプロジェクト。 もみじ会において各プロジェクトの活動内容を伝えるパネル展示を行い、12月末に一般公開の活動報告会を実施することで1年間の授業内容を振り返り、整理します。		
授業の到達目標	目標は、①教員の支援を得ながら、地域に役立つプロジェクトを積極的に実施できるようになる、②地域との一度のみの関係ではなく、継続的な関係を構築できるようになる、です。 単位認定の最低基準は、具体的な地域活動に直接参加し、もみじ会・学内の中間報告と12月に予定されている活動報告会のいずれかには参加し、授業内容の7割を理解していること。		
履修条件	一年時の「地域創成ゼミナール」の単位を取得した地域創成学科の学生	成績の 評価方法・基準	グループワーク（50点） 中間発表(もみじ会)・最終報告（50点）
テキスト	グループごとに指示する。		
参考書	グループごとに指示する。		
学生への要望	協調性を持ちつつ、積極的に行動すること。		
位置付け・水準	CD1201		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係： 創造的思考力・課題解決力・主体的行動力		
オフィスタイム	各担当教員に要確認		
アクティブラーニング実施内容	基本的に1 1 のプロジェクトの全てがアクティブラーニングを基本として展開される。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	学年全体で、この授業の位置づけと評価等について説明した後、11プロジェクトに分かれて活動の準備に入る。	自分のグループのプロジェクトの進め方を理解する。	90
2	各プロジェクトの活動1	グループごとの活動 1	活動の振り返りと次の準備	90
3	各プロジェクトの活動2	グループごとの活動 2	活動の振り返りと次の準備	90
4	各プロジェクトの活動3	グループごとの活動 3	活動の振り返りと次の準備	90
5	各プロジェクトの活動4	グループごとの活動 4	活動の振り返りと次の準備	90
6	各プロジェクトの活動5	グループごとの活動 5	活動の振り返りと次の準備	90
7	各プロジェクトの活動6	グループごとの活動 6	活動の振り返りと次の準備	90
8	各プロジェクトの活動7	グループごとの活動 7	活動の振り返りと次の準備	90
9	各プロジェクトの活動8	グループごとの活動 8	活動の振り返りと次の準備	90
10	各プロジェクトの活動9	グループごとの活動 9	活動の振り返りと次の準備	90
11	各プロジェクトの活動10	グループごとの活動10	活動の振り返りと次の準備	90
12	各プロジェクトの活動11	グループごとの活動11	活動の振り返りと次の準備	90
13	各プロジェクトの活動12	グループごとの活動12	活動の振り返りと次の準備	90
14	中間発表①	グループごとにパワーポイントを用いた発表（前半）	パワーポイント読み上げ原稿の作成	90
15	中間発表②	グループごとにパワーポイントを用いた発表（後半）	パワーポイント読み上げ原稿の作成	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	もみじ会①	グループごとに展示を準備する	パネル等の作成と準備	90
17	もみじ会②	グループごとに展示を完成させる	パネル等の作成と準備	90
18	もみじ会③	11グループによるもみじ会の反省	もみじ会を振り返りまとめる	90
19	各プロジェクトの活動13	グループごとの活動13	活動の振り返りと次の準備	90
20	各プロジェクトの活動14	グループごとの活動14	活動の振り返りと次の準備	90
21	各プロジェクトの活動15	グループごとの活動15	活動の振り返りと次の準備	90
22	各プロジェクトの活動16	グループごとの活動16	活動の振り返りと次の準備	90
23	各プロジェクトの活動17	グループごとの活動17	活動の振り返りと次の準備	90
24	各プロジェクトの活動18	グループごとの活動18	活動の振り返りと次の準備	90
25	各プロジェクトの活動19	グループごとの活動19	活動の振り返りと次の準備	90
26	各プロジェクトの活動20	グループごとの活動20	活動の振り返りと次の準備	90
27	各プロジェクトの活動21	グループごとの活動21	活動の振り返りと次の準備	90
28	各プロジェクトの活動22	グループごとの活動22	活動の振り返りと次の準備	90
29	活動報告会①	1年間の活動の報告（前半）	1年間の活動を振り返りまとめる	90
30	活動報告会②	1年間の活動の報告（後半）	1年間の活動を振り返りまとめる	90

授業名	生涯学習概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎瀬谷 真理子		
開講期			
授業の概要	「生涯学習」の現代的意義と「社会教育」の概念と意義について、基本的な内容の理解をしていきます。その理解を踏まえて、多角的な視点から「生涯学習」を分析し、社会教育施設としての図書館、博物館（美術館含む）、公民館等の役割について考察するとともに学習支援者としての役割について考察していきます。授業全体を通して、主体的で対話的な深い学びの実践を目指します。毎回、授業の内容から課題をとらえ実施する課題レポートは、評価を加えて次回授業冒頭に返却し、フィードバックします。また、「学び」について様々な角度から考えていくため、現代的課題をとらえながら我が国の現状と課題について考え、未来に向けた学びの視点を育んでいきます。さらに最終回の授業において、授業全体をフィードバックします。 なお、福島県教育行政において実務経験である社会教育課勤務を活かした社会教育主事の視点での実践的な指導を行うとともに学校教育現場の実務経験をふまえながら学校教育との関連性を持たせ、社会教育施設の役割や生涯学習の意義を捉える観点を重視します。		
授業の到達目標	1.現代的課題を踏まえ「生涯学習」の意義と必然性を理解する。 2.「社会教育」と「生涯学習」の関連性を理解する。 3.「生涯学習」の観点から社会教育施設の意義を理解する。 4.「知の拠点」としての社会教育施設の役割を理解する。 5.家庭教育について現状と課題を把握し、地域における家庭教育支援のあり方を考える。 6.主体的で対話的な学びを通じて、生涯学習を推進するための学習支援者としての実践力を育む。 単位認定の最低基準は、上記1～6の総合的評価が達成度7割以上であること。		
履修条件	科目を選択履修した者、司書、学芸員補資格取得希望者	成績の 評価方法・基準	自宅学習の課題として出される課題レポート（40％）、最終回のまとめの授業で実施される理解度確認テスト（60％）の内容で総合評価し、60%以上が合格となる。
テキスト	二訂「生涯学習概論」執筆・編集代表 馬場祐次朗 授業ごとに配布されるプリント、内容をまとめたノートと一緒にファイリングすること。		
参考書	・山本順一、前平泰志、渡邊洋子監修『生涯学習概論－知識基盤社会で学ぶ・学びを支える』ミネルヴァ書房、2014年 ・浅井経子編著『生涯学習概論－生涯学習社会への道－増補改訂版』理想社		
学生への要望	「生涯学習」とは、何か。「学ぶ」とは何か。未来に向けて何が課題となっているのか。社会教育の果たす役割と社会教育施設（図書館、博物館、美術館、公民館等）の意義を踏まえ、確かな知識を獲得しながら、自己の思考を展開していく主体的な姿勢を持って授業に臨んでください。		
位置付け・水準	CD1104		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、創造的思考力、主体的行動力		
オフィスタイム	家政学館 4 F被服学実習室 月曜日 1 限		
アクティブラーニング実施内容	課題について、自分自身の考えをレポートにまとめた内容を発表する。		
実務家教員の経歴	福島県立高等学校校長、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	前半は、授業を受けるにあたっての一般的な注意事項や授業計画・評価方法等について説明する。生涯学習について導入を行う。 「学び」について、次の授業までにレポートにまとめる。	ノート整理 課題レポート	90
2	「生涯学習」の現代的意義	前時の教育モデルに関する受講生の認識を基盤にしながら、「生涯学習」とは何か、「学ぶ」とは？について理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
3	「生涯学習振興施策」の動向	「生涯学習論」について、リカレント教育について、学びについて理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
4	「社会教育」の概念と意義	「社会教育」の概念と意義について理解を深め「社会教育」の特質について注目し、日本における歴史的展開とその意義を理解する。	ノート整理 課題レポート	90
5	「社会教育」の特質	「社会教育」の特質について理解し、デンマークにおけるワーク・ライフ・バランスについて着目し子育て支援策についても理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	「社会教育」の対象	「社会教育」の対象として学習者の特性を理解し、「社会教育」の内容、方法、形態について学ぶ。	ノート整理 課題レポート	90
7	日本における社会教育の歴史的展開	日本における社会教育の歴史的展開とその意義について理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
8	社会教育の基本法令・施策	社会教育の基本法令から学校教育との連携やその補完機能としての期待を担った社会教育の役割を理解する。	ノート整理 課題レポート	90
9	社会教育に関する団体と指導者	社会教育に関する団体について理解を深め、行政との関係と団体への学びの支援、社会教育に関する指導者について学ぶ。	ノート整理 課題レポート	90
10	社会教育施設の意義と役割	社会教育施設の法的根拠や「知の拠点」として果たす役割について、各社会教育施設の特徴を把握しながら理解を深める。	ノート整理 課題レポート	90
11	社会教育施設における事業と生涯学習	地域における「知の拠点」としての役割を果たすとともに、人々の「生涯学習」を支援するための事業について、図書館、公民館における事業について理解する。	ノート整理 課題レポート	90
12	生涯学習社会と家庭教育	現代社会における子育ての現状と課題を把握しながら、地域における家庭教育支援に向けた生涯学習施策について考える。スウェーデンにおけるワーク・ライフ・バランスについて着目し子育て支援策についても理解を深め、我が国との比較により、今後の支援策の在り方を考える。	ノート整理 課題レポート	90
13	生涯学習社会と学校教育	学校教育との連携において社会教育の果たす役割を認識しながら、「学校」「家庭」「地域」の一体となった教育を推進していくために必要な施策について考える。	ノート整理 課題レポート	90
14	現代的課題と生涯学習の役割	知識を創る学習を奨励する意味での「知識基盤社会」の持つ可能性と課題とを明らかにする。	ノート整理 課題レポート	90
15	授業のまとめ	「生涯学習概論」についての総括として、授業のまとめを行う。	確認テスト レポート	90

授業名	家族社会学	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	I			
授業の概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を中心に考える。少子高齢社会の現状と課題を様々な視点で考える。 最終回到、筆記試験採点後の答案を返却しフィードバックを行います。			
授業の到達目標	達成目標は、筆記試験で7割以上の得点となること。 単位認定の最低基準:内容の7割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	筆記試験(50点)、課題提出物(50点)	
テキスト	特に指定しない			
参考書	園井ゆり監修『第4版 家族社会学 基礎と応用』九州大学出版会 2022年			
学生への要望	授業に関連するテーマの新聞記事や書籍を積極的に読むこと。			
位置付け・水準	位置づけ・水準:CD1105			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、2)課題解決力			
オフィスタイム	火曜Ⅱ限、Ⅲ限 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき授業概要・目標、成績評価法、今後の授業予定等を説明した後に、家族の定義について学ぶ。	復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚選択への過程、結婚について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に関する社会的視点、家制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の勢力関係と情緒関係等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー・事実婚における親子関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
10	少子化と子育て支援	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、少子化対策、少子化の要因と背景等を考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
11	児童虐待と里親制度	児童虐待とその背景、里親制度の展開と意義、児童福祉の将来展望について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	中高年世代と家族	中高年世代と家族変動、ロスジェネ世代が抱える問題、中高年者の社会的孤立、支援の仕組み等について学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
13	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、家族政策と高齢者介護等について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
14	授業全体の振り返り・筆記試験	授業全体の内容を振り返り、理解度を確認するために筆記試験を実施する。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
15	筆記試験の結果講評・フィードバック	筆記試験の結果を返却し講評、フィードバックする。	予習:テーマに関連する書籍を読むなど。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

授業名	生活芸術学入門	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎斉藤 弘久 小松 太志 黒沼 令 米本 順子		
開講期			
授業の概要	生活芸術学入門では芸術や美についてのさまざまな考え方に触れながら、生活と芸術（美術を中心に）の関わりを考えます。この講義では地域創成学科アート＆デザイン系教員によるオムニバス形式をとり、各教員の専門を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深める一助とします。また担当教員の紹介する芸術作品などにも幅広く触れ、それらを題材として意見を出し合いながら生活と芸術の関わりを考える授業とします。提出したレポートなどを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。CD1106		
授業の到達目標	オムニバス形式として各教員の高度な専門性を手掛かりにしながら「芸術と美」についての理解を深めることを目標とします。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は知識理解・創造的思考力となります。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70％以上であること（配点80点）②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	特になし（必要な資料等は各担当教員が準備します）		
参考書	新版造形の基礎技法（建帛社） 美学辞典（竹内敏雄編集/弘文堂）		
学生への要望	生活芸術という概念をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	生活芸術学入門のガイダンス及び絵画 絵画（1）担当・浅野章	この授業の目標と内容、および授業の進め方、授業資料・参考書などについてのガイダンス。また絵画についての考え方を解説する。	【事前学習】授業内容に関連する「絵画」について事前に調べておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
2	絵画（2）担当・浅野章	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し、愛され、生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないだろう。その理由を画像や参考資料を用いながら少しずつ紐解いていく。	【事前学習】授業に関連する「絵画」について事前に調べておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集やインターネットなどで復習しておく。	30
3	絵画（3）担当・浅野章	絵画を中心とした参考作品画像を紹介、解説する。それを基に、生活の中での絵画の生かし方、楽しみ方、考え方を探っていく。授業後半に生活芸術学入門・絵画に関する簡単な小テストを実施する。	【事前学習】授業に関連する「絵画」について事前に調べておく。また小テストに備え、絵画について自分の考えをまとめておく。 【事後学習】授業内容を踏まえ、画集などで復習しておく。	30
4	デザイン（1）担当・齊藤弘久	教員の自己紹介と印刷の歴史を解説し、グラフィックデザインにおけるさまざまな表現を紹介します。	【事前学習】グラフィックデザインの意味を各自が調べる。 【事後学習】生活の中グラフィックデザインを探してみる。	30
5	デザイン（2）担当・齊藤弘久	「生活をデザインする」とか「人生をデザインする」とよく言いわれますが、いろいろな形を変えるデザインを考えて行きます。	【事前学習】幅広いデザインの意味を調べておく。 【事後学習】興味を持った分野をまとめてみる。	30
6	デザイン（3）担当・齊藤弘久	ブランディングとデザインから見えてくる自己表現を考えます。	【事前学習】ブランディングの意味を調べておく。 【事後学習】自分の個性を明確にする表現をまとめる。	30
7	デザイン（4）担当・齊藤弘久	時代と共に変わる印刷と生活の中にある様々な印刷の表現を考えます。	【事前学習】印刷にはどんな種類があるか調べておく。 【事後学習】自分の気に入った印刷媒体をまとめる	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	映像メディア（1）担当・小松太志	地域創成学科における映像メディア分野について理解を深めます。卒業生の映像メディア分野の作品、担当教員のデザインと作品制作、デザインを通した地域における活動を紹介します。	【事後学習】映像メディア（テレビ、映画、映像配信サービス、SNS、芸術作品など）の中で、自分の興味・関心の高い作品の魅力について簡単なレポートにまとめること。	30
9	映像メディア（2）担当・小松太志	広告としての映像メディアについて理解を深めます。「日本の広告費（株式会社 電通）」をもとに、コミュニケーションメディアの変遷を解説して、今後の映像メディア分野の発展について考えます。	【事前学習】教員の提示する広告費に関する資料を読んでおくこと。【事後学習】授業内容を整理してレポートにまとめること。	30
10	映像メディア（3）担当・小松太志	芸術としての映像メディアについて理解を深めます。メディアアートの歴史を概説して、近年のメディアアートにかかわる作家・作品を紹介します。	【事前学習】、教員の提示する映像作品を視聴しておくこと。【事後学習】授業内容を整理してレポートにまとめること。	30
11	映像メディア（4）担当・小松太志	AI技術と美術・デザインの関係について概説します。実際に画像生成を行ないながらデザインや美術への応用可能性について考えます。	【事前学習】、教員の提示する資料を読んでおくこと。【事後学習】授業内容を整理してレポートにまとめること。	30
12	彫刻（1）担当・黒沼令	教員自己紹介を兼ねて自分の作品を紹介しながら、彫刻という表現活動が自己形成にどのように関係してきたか紹介します。その後、日本の彫刻表現について、様々な作品を紹介しながら、どのような時代的变化を経て来たか解説します。	【事後学習】授業の内容について、また、授業を受ける前の彫刻に関する知識や経験等を簡単にレポートにまとめる。	30
13	彫刻（2）担当・黒沼令	西洋の彫刻表現について、様々な作品を紹介しながら、どのような時代的变化を経て来たか解説します。	【事後学習】授業の内容について、簡単にレポートにまとめる。	30
14	彫刻（3）担当・黒沼令	現代の彫刻表現について、これからどのような表現が求められているか、映像資料を紹介しながら解説します。	【事後学習】授業の内容について、簡単にレポートにまとめる。	30
15	彫刻（4）担当・黒沼令	映像資料の紹介と実際の彫刻作品の制作過程について、教員や学生の作品を例に説明します。	【事後学習】授業の内容について、また、4回の授業を受けて彫刻の印象がどのように変化したか等、簡単にレポートにまとめる。	30

授業名	基礎学力トレーニング	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎山口 猛 仲田 佐和子 佐々木 達矢		
開講期			
授業の概要	学生生活に必要な基礎的能力・資質を獲得し、自身の課題を見つけ、解決する技量、および授業聴講に必要な技量を養い、自学自習の学習習慣を身に付けます。また「大学での学び」の特徴を学ぶことで、大学生活を有益に活用するための準備を行います。更に小・中・高校で学んできた英国数理社の一般常識的な力を「めばえドリル」で確認し、大学の専門教育に必要な基礎力を改めて準備すると共に、公務員試験や一般企業への就職活動を進めるための汎用的な能力の確保にも努めます。この授業での学びは「キャリアデザインⅠ」、就職部の就職模試、本学科の必修科目「地域創成ゼミナール」、集会など連動して振り返りを実施します。CD1107		
授業の到達目標	・基礎学力の向上を行い、就職活動を想定したSPIや一般常識の対策方法を理解できる ・自主学習やグループ学習の習慣を身につける ・職業適性検査、就職模試、SPI模擬試験を受験する ディプロマポリシーとの関係： 知識理解、課題解決力		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	めばえドリルへの取り組み（40％）、実地研修レポート（20％）、就職模試参加（30％）、授業内ワークへの取り組み（10％）
テキスト	「めばえドリル1 基礎編」「めばえドリル2 応用編」「めばえドリル SPI」『ふくしま手帖』		
参考書	なし		
学生への要望	現在の自分を冷静に受け止め、短大生活2年間で成長しようとする主体的な気持ちと姿勢を持つことが大前提となることを自覚しましょう。自発的な基礎学力トレーニングと将来の就職試験対策を目的としています。積極性・継続性を高く評価します。何度も挑戦しましょう。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目的と進め方を解説します。その後、教材となる「めばえドリル」の有効活用術の解説を行います（ラインズ株式会社）。【桑野・佐々木】	【事前学習】 入学前課題に取り組んだ学生は、目標の全科目で実力テスト100点を目指す。 【事後学習】 はじめて「めばえドリル」に取り組む学生は、全科目の実力テスト100点を目指して取り組む。他の学生は、不足課題に取り組む。	30
2	グループ学習を学ぶ①	各5人程度の16のグループに分かれて、福島県内の市町村について調べ、一泊二日程度の地域散策プランを作るワークに取り組みます。【黒沼・佐藤・和知・佐々木】	【事前学習】 自分の住む地域のセールスポイントを考えてみよう。 【事後学習】 担当となった地域のことをいろいろ調べてみよう！	60
3	グループ学習を学ぶ②	各グループ毎に調べた情報を共有し、これらをまとめて発表するためのパワーポイントの作り方について説明を聞き、グループ毎に作成に取り組む。【黒沼・佐藤・和知・佐々木】	【事前学習】 自分の調べた情報を分かり易く伝える工夫をしよう。 【事後学習】 グループ内で意見を交換し、客観的に見て分かり易いパワーポイント資料を作成する。	60
4	グループ学習を学ぶ③	グループ毎にパワーポイントを使ってプレゼンテーションを実施する。【黒沼・佐藤・和知・佐々木】	【事前学習】 発表原稿を作り、練習しておく。 【事後学習】 他のグループの良い点を確認し、自分たちの発表の問題点を確認する。	30
5	グループ学習を学ぶ④			30
6	キャリア・トレーニング①	進路と学び方の関係について解説する。主に進学（本学専攻科・本学生活科学科3年次編入・美術系大学編入・その他の4年制大学編入）と公務員受験について解説する。【黒沼・佐藤・和知・佐々木】	【事前学習】 自分の2年後の進路を改めて確認しておく。 【事後学習】 自分の進路プランと関連した者は、次の一歩（具体的行動）を！	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	大学周辺を学ぶ①	グループに分かれて大学周辺を散策し、地域の文化・歴史・美術・不思議などを学びます。【桑野・黒沼・佐藤・和知・佐々木】	【事前学習】大学の周辺に何があるかを注意しておこう！ 【事後学習】研修後の気付きをペーパーにまとめる。	30
8	キャリア・トレーニング②	就職部の就職模試を受験する。【佐々木】	【事前学習】めばえドリルを有効活用して試験に備えよう！ 【事後学習】就職模試の結果を踏まえて、めばえドリルで苦手箇所を克服しよう！	30
9	キャリア・トレーニング③	就職活動と就職試験について解説し、SPI対策を実施します。「めばえドリルSPI」の活用を促します。【佐々木・和知】	【事前学習】自分の進路をもう一度考えてみよう！ 【事後学習】「めばえドリルSPI」にどんどん取り組みましょう！	30
10	キャリア・トレーニング④	就職部実施の職業適性検査を受検する。【佐々木】	【事前学習】めばえドリルに取り組む 【事後学習】キャリアデザインⅠの授業などと連動させて自分のキャリアプランを考えてみよう！	30
11	大学周辺を学ぶ②	グループ活動による情報共有を進めながら、発表準備を進める。【黒沼・佐藤・和知・佐々木】	【事前学習】自分なりの視点を考えて実習に臨んでみよう！ 【事後学習】確認できたことや発見、意外な驚きなどをレポートにまとめてみよう！	30
12	大学周辺を学ぶ③			30
13	大学周辺を学ぶ④			30
14	キャリア・トレーニング⑤	就職部のSPI模試を受験する。【佐々木】	【事前学習】めばえドリルSPIに取り組む。 【事後学習】苦手なSPIに継続的に取り組んでいこう！	30
15	まとめ	大学周辺を学ぶの情報共有のためのプレゼンテーションを実施する。 「めばえドリル」の学習状況を確認し、Ⅱ期以降の学び方について各自が確認作用を行います。【桑野・黒沼・佐藤・和知・佐々木】	【事前学習】「めばえドリル」の学習目標達成に努める。 【事後学習】「めばえドリル」が未達成の者は期限までに努力！	60

授業名	数理・データサイエンス基礎(地域創成)	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢		
開講期			
授業の概要	この講義では、数理・データサイエンス・Artificial Intelligence (AI) の社会に与える影響・データを扱う上での注意事項・データを扱うための表現・データから情報を抽出する方法を学ぶことを目的とする。従来より様々なデータを処理し、情報を抽出することは重要な作業とされていた。今日では、コンピュータの発達やインターネット等の情報網の発達により大量のデータが得られるようになったことやAIに代表される情報処理技術の進展により、いかにデータから情報を抽出するかということがこれまで以上に重要となった。これらの情報抽出は統計学を含む数的な扱いに基礎をおいており、昨今の数理データサイエンスを学ぶうえで数理的な扱いを含むデータ処理を理解しておくことが必須である。以上を踏まえ、本講義では、数理・データサイエンス・AIに基づく社会の変化、大量のデータを扱う場合の留意点、データを扱うための基礎的な数理表現、データから情報を抽出する基本的な方法を学ぶ。 フィードバックとして、リフレクションペーパー（理解度確認ペーパー）の返却や中間課題の説明等を行う。		
授業の到達目標	社会におけるデータ活用の基本的な知識を習得し、データを扱い情報を抽出する基本的な方法を理解する。具体的な目標は、 1. 社会におけるデータやAI利活用およびその留意事項等について説明できること 2. データを扱うために必要な数な扱い（冪・関数・行列・集合）ができるようになること 3. データの記述とデータからの情報抽出（検定・回帰）ができるようになること である。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること		
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	リフレクションペーパー・中間演習の結果・レポート課題による。成績評価への割合は、リフレクションペーパーの提出を20%、中間演習とレポート課題の割合をそれぞれ40%とする。
テキスト	テキストを PDF として Web 上で配信する。		
参考書	前野 昌弘, 三國 彰, "統計解析", 日本実業出版社 (2000); 涌井 良幸, 涌井 貞美, "多変量解析", 日本実業出版社 (2001)		
学生への要望	事前に資料に目を通しておき、理解できない部分を確認しておくこと。		
位置付け・水準	CD1108		
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」		
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の構成と数理・データサイエンス・AIによる社会の変化と動向	本講義で行う目的・内容・単位数・成績評価方法など説明を行う。近年は大量のデータを取得し取り扱えるようになったことにより、データサイエンス・AIと呼ばれる分野が盛んになった。本時では、数理・データサイエンス・AIによって社会にどのような変化が生じているか、また今後はどのような方向に向かうと考えられるか概説する。	復習として、これまでの社会変化がどのようなものであったか整理してみること。	30
2	利活用されているデータ・利用領域・利用技術・利活用の現場	社会では様々な種類のデータが活用されている。本時ではデータやAIの活用領域、利用するための技術、利活用例などについて学ぶことにする。	政府統計ポータルにアクセスし、少なくとも三つのデータもしくはグラフを確認すること。	30
3	データサイエンスと情報の保護	データサイエンスやAIの知識や技術を利用すると、様々な大量のデータを結合し、特徴を抽出することが可能となる。このことは利便性を生む反面、個人の行動・趣味などの秘匿すべき情報も分析できることを意味する。本時では、データを扱う上での留意事項を学ぶこととする。	Ethical, Legal and Social Implications (ELSI) について調べてみること。 Society4.0とSociety5.0の違いを比較し整理してみること。	60
4	巾の演算	積の概念を発展させたものに冪がある。概念的には積と商で理解できるが、冪の演算に習熟すると様々な場面で計算が簡略化される。本時では冪とその演算規則について学ぶ。	復習として冪に関する演算規則を確認すること。また冪を用いた数値の表現について確認すること。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	一次関数	一次関数は連続量を扱う数学では基本的な関数である。微分とも関連し応用範囲は広い。本時では一次関数とグラフの関係や回帰式などについて触れる。	復習として、一次関数の各係数の意味、グラフとの関係を再確認しておくこと。	45
6	ベクトルと行列	複数の数値はひとまとめにしてベクトルとすると扱いやすくなる。本時では、データを扱う際に必要となるベクトルとベクトルに作用する行列について学ぶ。	2行2列の行列を作成し、行列の積が非可換であることを確認すること。また逆行列が存在しない行列を具体的に構成してみることに。	45
7	集合	数学の基礎の一つに集合がある。本時では部分集合や集合の積・和・差などの概念を導入する。また集合演算の基礎であるド・モルガンの法則やその応用方法を学ぶ。	復習として、集合の基本概念（空集合など）および集合間の演算について確認すること。	60
8	課題	これまで学修した内容に対する課題を提示する。本課題を通じ、これまでの学修内容を確実なものにする。また本時では本課題の説明も行う。	復習として、提示した課題を再度行ってみること。このことにより、理解が不足している部分を確認すること。	120
9	データとその記述	データには様々な種類がある。ここでは統計を適用する上で認識しておくべきデータの種類、基本的な統計量を学ぶ。実際に受講生自身で基本統計量を算出することとする。	復習として、データの種類毎に実例を探してみることに。また平均や分散などの特徴を再確認すること。	90
10	相関	二つの事柄に関係があるとき相関があるという。この相関を統計学的に見出す手法について学ぶ。また実際に受講生がデータから相関を算出することとする。	復習として、相関係数の定義を確認すること。また相関関数の値をみることで、あらゆる相関が判断できるわけではないことを確認すること。	45
11	検定の基礎	ある仮説が正しいか否かを統計的に調べる方法を検定という。本時では検定の基本的な考え方を学ぶ。検定を行うための前提条件である正規性や検定を行う過程で用いられる帰無仮説・優位水準・p値などの概念を学ぶ。また検定における過誤についても学ぶ。	検定で用いられる、正規性・帰無仮説・優位水準・p値などの用語を整理すること。	60
12	パラメトリック検定	検定する対象により様々な検定方法があるが、本時ではパラメトリックな平均値の検定を学び、受講生自身により平均値の検定を試みることにする。またパラメトリックな検定が利用できない場合に用いるノンパラメトリック検定について、その概略を学ぶ。	復習として、複数のデータで平均値の検定を行ってみること。	90
13	適合度の検定と独立性の検定	検定には、測定値が理論値と合致するか否かを判断するための適合度の検定や、二つの要素に関連性があるか否かを判断するための独立性の検定がある。本時ではこれらの検定の考え方を学ぶ。また簡単な例を通して、これらの検定を受講生自らが検定結果を確認することとする。	復習として、講義内で示した例において、数値を変えて適合度の検定や独立性の検定を行ってみること。	60
14	回帰分析による実データの分析	ある変数(目的変数)と他の変数(説明変数)からなる回帰式と呼ばれる式により分析することを回帰分析という。本時では回帰の基本的な考え方および線形回帰と非線形回帰の違いを学ぶ。その後、国・地方公共団体・産業界等によって収集された実データを分析する。分析するための処理を行い、その後、線形回帰によりデータを分析をする。一連の過程を受講生自身が行うことにより、回帰分析および実際の分析過程を学ぶことにする。	復習として、回帰の基本的な考え方を確認すること。また実際に回帰直線を求め、回帰直線の決定の仕方により、目的変数と説明変数の間に非対称が生じうることを確認すること。	90
15	まとめ	本科目の総まとめをする。どのような統計手法がどのような目的で使われたのか整理する。また総まとめとなるレポート課題を提示する。	授業内容に則し、課題を実施しレポートとしてまとめること。	300

授業名	芸術鑑賞講座・教養講座Ⅱ		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 0.5単位 必修
担当教員名	◎黒沼 令 和知 剛			
開講期				
授業の概要	芸術は、優れた感性を磨き、豊かな人間性を育てます。教養は、個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を刺激するものです。芸術鑑賞講座として年に4回程度、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有します。また年に3回程度、深い学問的思索や先端的思考、あるいは最新の科学技術の成果に触れることのできる教養講座を実施します。			
授業の到達目標	知的で心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める力を養います。			
履修条件	本学の全学生		成績の 評価方法・基準	レポート（各回の感想文）
テキスト	リーフレット、講演資料			
参考書	各回、図書館で関連図書を展示します。			
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動および考えを、国語として正しい文章にまとめましょう。			
位置付け・水準	GU1902 GU1903 GU1904 GC1902			
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	第1回 教養講座 4/22(月) 11:00～12:10	学校法人郡山開成学園創立78周年記念式典 教養講座 海野道郎氏（東北大学名誉教授）「環境問題の社会的ジレンマ」	講演で学んだ知識を身近な環境問題に結び付け、感想文を書き、今後の生活に生かしていく。	90
2	第222回芸術鑑賞講座 6/19（水）13:00～14:30	郡山交響楽団「100万回生きたねこ」朗読コンサート 朗読は山崎義也氏（元劇団四季）	童話「100万回生きたねこ」のあらすじなど、作品について理解を深めておく。音楽と融合した時、その物語や音楽はどの様に感じたのかを感想文にまとめる。	90
3	第2回教養講座 7/10（水）13:00～14:30	後藤あや氏（ハーバード大学国際公衆衛生大学院教授） 「題目未定」	公衆衛生とは何か、理解を深め、感想文を書く。	90
4	第223回芸術鑑賞講座 9/17（火）～9/27（金）	「源氏物語/歳暮の衣配り」より等身大装束展（株）井筒企画	光源氏が紫の上ら親しい女性に贈った桂（うちき）など7点の特色を捉え、それぞれの女君の人となりを想像し、感想文を書く。さらに、生活文化博物館で服飾史を再確認する。	90
5	第224回芸術鑑賞講座 10/8（火）～10/13（日）	もみじ会共催 「棟方志功版画展」（港屋）	民芸の代表的な作家、棟方志功とその木版画作品について理解を深め、感想文を書く。	90
6	第3回教養講座 10/30（水）13:00～14:30	大山采子氏（大山忠作氏長女、俳優） 「大山忠作襖絵展と父・大山忠作を語る」	講演だけでなく、二本松の大山忠作美術館を訪ね、襖絵展を鑑賞した体験も含め、感想文を書く。	180

授業名	芸術鑑賞講座・教養講座Ⅱ		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 0.5単位 必修
担当教員名	◎佐藤 愛未 佐々木 達矢			
開講期				
授業の概要	芸術は、優れた感性を磨き、豊かな人間性を育てます。教養は、個々の専門知識を縦横に関連づけ、創造的な思考を刺激するものです。芸術鑑賞講座として年に4回程度、一流のアーティストや作品を学内に招き、全学で感動を共有します。また年に3回程度、深い学問的思索や先端的思考、あるいは最新の科学技術の成果に触れることのできる教養講座を実施します。			
授業の到達目標	知的で心豊かな、人の役に立つ人生について、考えを深める力を養います。			
履修条件	本学の全学生	成績の 評価方法・基準	レポート（各回の感想文）	
テキスト	リーフレット、講演資料			
参考書	各回、図書館で関連図書を展示します。			
学生への要望	自分でも積極的に調べ、毎回きちんと感動および考えを、国語として正しい文章にまとめましょう。			
位置付け・水準	GU1902 GU1903 GU1904 GC1902			
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	第1回 教養講座 4/22(月) 11:00～12:10	学校法人郡山開成学園創立78周年記念式典 教養講座 海野道郎氏（東北大学名誉教授）「環境問題の社会的ジレンマ」	講演で学んだ知識を身近な環境問題に結び付け、感想文を書き、今後の生活に生かしていく。	90
2	第222回芸術鑑賞講座 6/19（水）13:00～14:30	郡山交響楽団「100万回生きたねこ」朗読コンサート 朗読は山崎義也氏（元劇団四季）	童話「100万回生きたねこ」のあらすじなど、作品について理解を深めておく。音楽と融合した時、その物語や音楽はどの様に感じたのかを感想文にまとめる。	90
3	第2回教養講座 7/10（水）13:00～14:30	後藤あや氏（ハーバード大学国際公衆衛生大学院教授） 「題目未定」	公衆衛生とは何か、理解を深め、感想文を書く。	90
4	第223回芸術鑑賞講座 9/17（火）～9/27（金）	「源氏物語/歳暮の衣配り」より等身大装束展（株）井筒企画	光源氏が紫の上ら親しい女性に贈った袷（うちぎ）など7点の特色を捉え、それぞれの女君の人となりを想像し、感想文を書く。さらに、生活文化博物館で服飾史を再確認する。	90
5	第224回芸術鑑賞講座 10/8（火）～10/13（日）	もみじ会共催 「棟方志功版画展」（港屋）	民芸の代表的な作家、棟方志功とその木版画作品について理解を深め、感想文を書く。	90
6	第3回教養講座 10/30（水）13:00～14:30	大山采子氏（大山忠作氏長女、俳優） 「大山忠作襖絵展と父・大山忠作を語る」	講演だけでなく、二本松の大山忠作美術館を訪ね、襖絵展を鑑賞した体験も含め、感想文を書く。	180

授業名	図書館概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	「図書館」とは何か、その意義と役割を、その理念・歴史・教養の3つの面からそれぞれ説き起こす。講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。市井においては公共図書館のよき理解者であり利用者、大学においては大学図書館のよき利用者たることを目指す。担当教員はこれまで大学図書館に30年ほど勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準は、①内容の8割を理解すること、②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることである。			
履修条件	地域創成学科に在籍する1年生。司書ユニット受講の有無は問わない。	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
テキスト	『図書館情報学基礎資料』樹村房			
参考書	大学図書館のNDC010-019に排架されている書籍はすべて参考書			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。			
位置付け・水準	CD2110			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館概論で何を学ぶか 大学の講義でのノートのとり方	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	イントロダクション	図書館概論で何を学ぶか いま図書館をめぐる起きていること	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「図書館」が存在する理由	体験の違いによる異なる「図書館」像 社会的共通資本 ユネスコ公共図書館宣言ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	近代日本における公共図書館の歴史（その1）	日本の「公共図書館」事始め 「図書館」以前 新思潮としての「図書館」紹介	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	近代日本における公共図書館の歴史（その2）	リクエストアワー（第1回）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	近代日本における公共図書館の歴史（その3）	日本の「公共図書館」事始め 新思潮としての「図書館」紹介（続） 「書籍館（しょじやくかん）」の設置 帝国図書館へ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	近代日本における公共図書館の歴史（その４）	日本の「公共図書館」事始め 明治大正期の図書館を支えた「私立図書館」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	近代日本における公共図書館の歴史（その５）	「通俗図書館」という言葉の登場 教育会図書館の設立 東京市立図書館の設立	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	近代日本における公共図書館の歴史（その６）	リクエストアワー（第2回）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	近代日本における公共図書館の歴史（その７）	福島県の図書館事始め	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	近代日本における公共図書館の歴史（その８）	図書館法制度のはじまり 大正デモクラシーと公共図書館 関東大震災と図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	近代日本における公共図書館の歴史（その９）	文部省図書館員教習所の設立 福島県の公共図書館史（続） 国家による図書館統制の強化 第二次世界大戦 戦後の再建	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	近代日本における公共図書館の歴史（その１０）	映画「格子なき図書館」（1950）上映と解説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	近代日本における公共図書館の歴史（その１１）	図書館法制定後の図書館業界 『中小レポート』の成立 『市民の図書館』の成功	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	近代日本における公共図書館の歴史（その１２）	映画「図書館とこどもたち」（1979）上映と解説	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	博物館概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎會田 容弘 仲田 佐和子			
開講期				
授業の概要	実務経験を活かし、博物館の様々な側面を経験に基づいて講義を行う。博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に地域創成学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け水準 CD2120			
授業の到達目標	<到達目標> 博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。 博物館利用者として、十分な知識を持つこと。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	地域創成学科学生及び学芸員資格取得希望学生	成績の 評価方法・基準	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。	
テキスト	『博物館概論』			
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集,地域創成学科報告集第1～5集			
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。			
位置付け・水準	資格科目の基本科目である。資格取得の学生は、関連科目との関係から十分な理解が必要である。			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力			
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので、考古学実習室にいます。			
アクティブラーニング実施内容	博物館施設見学をレポート課題としている。博物館に対する自主的な興味だけでなく、見学が授業理解には必要である。			
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として研究室が保管する考古資料の貸し出し業務を行った。奥松島縄文村歴史資料館学芸員として歴史資料館立ち上げの過程に携わり、常設展製作、映像資料の製作を行った。オープン後は企画展・体験学習の実施、博物館経営、発掘調査による資料収集を担ってきた。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は地域創成学科卒業選択共通専門科目であると同時に、学芸員資格課程の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則にのっとり、説明を行う。	授業内容を整理し、レポートで用いる見学したい博物館を博物館・美術館ホームページなどで検索する。	30
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の法的位置づけを説明する。	授業内容を整理し、見学したい博物館の事前調査を行い、その博物館の使命や概要をまとめておく。博物館の見学を行う。	30
3	2：続・博物館とは何か	博物館について、博物館法をもとに説明する。法規はシラバスに掲載されているホームページを開き、ダウンロードしておく必要がある。	授業内容を整理し、授業で取り上げた教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－を出力し、ノートに加えておく。	30
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。	授業内容を整理し、見学した博物館について概要、展示内容、注目した点などを箇条書きにまとめておく。	30
5	4：博物館学芸員の役割（1）	博物館法、公立博物館の条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。	授業内容を整理し、レポートを作成してみる。	30
6	5：博物館学芸員の役割（2）	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通した仕事内容を説明する。	授業内容を整理し、レポートを推敲し、不足部分を補う。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	6：博物館の歴史（１）	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。博物館前史の説明を行う。近代博物館成立以前に博物的機能をもった様々な施設を紹介する。	授業内容を整理し、レポートを完成させる。	30
8	7：博物館の歴史（２）	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する	30
9	8：博物館の歴史（３）	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。	30
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。	30
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。	30
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。	授業内容を整理し、授業で紹介された博物館のＨＰを閲覧する。文化財保護法を出力し、ノートに加える。	30
13	12：博物館の現状と課題（１）	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。	授業内容を整理し、指定管理者制度についてネットでしらべてみる。	30
14	13：博物館の現状と課題（２）	博物館の位置づけは時代によって異なる。博物館法が成立した1950年代と現代では社会環境が大きく異なっている。今博物館は何を求められ、博物館は何ができるのかを考え、これからの博物館について、望ましい姿を模索する。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30
15	14：博物館の危機管理	3・11東日本大震災で多くの博物館は被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。	授業内容を整理し、試験に備え、全体を振り返ってみる。、	30

授業名	女性文化史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎知野 愛		
開講期	Ⅱ		
授業の概要	日本における女子教育や福祉、文芸や芸術など各分野で先駆者となった女性達に焦点をあて、その生涯と功績、時代背景、その功績の意義などを学ぶ。 筆記試験を返却しフィードバックを行う。		
授業の到達目標	授業中に指示した課題を必ず提出する。単位認定の最低基準:内容の8割以上を理解していること。		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	筆記試験(50点)、授業提出物(50点)
テキスト	特に指定しない。作成資料を配布する。		
参考書	随時、提示する		
学生への要望	小レポートを宿題として出すことがあります。これも必ず提出して下さい。		
位置付け・水準	位置付け・水準:CD2150		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係: 知識理解、課題解決力		
オフィスタイム	月曜Ⅲ限、金曜Ⅱ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスに基づき、授業概要、目標、成績評価の方法などを説明する。導入として授業で扱う女性史全体像を説明する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読む。課題がある場合は作成する。予習:次回テーマの関連書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
2	【教育福祉分野の先駆者】瓜生岩子	近代以降の女子教育史の先駆けとなった瓜生岩子(福島県出身、貧困児童の救済などに尽力)に注目する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
3	【女子教育の先駆者】山川捨松	明治初年の女子留学生の1人、山川捨松(福島県出身、大山捨松)の生涯と功績、時代背景等を理解する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
4	【女子教育の先駆者】津田梅子	明治初年の女子留学生の1人、津田梅子の生涯と功績、時代背景等を理解する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
5	【振返り】女子教育史について 補足	ここまでの振返り、三名について補足説明をする。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
6	【文学】若松賤子	「小公子」「小公女」の翻訳者、若松賤子の生涯や功績を考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
7	【文学】村岡花子	「赤毛のアン」の翻訳者、村岡花子の生涯や功績を考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
8	【文学】水野仙子	福島県出身の水野仙子の生涯と功績、時代背景について学ぶ。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
9	【文学】与謝野晶子	「君死に給うことなかれ」の詩で有名な与謝野晶子の生涯、功績、文学史上の位置づけ等を考察する。。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
10	【振返り】文学の分野での女性先駆者達	文学分野での女性先駆者達の生涯功績について振返り補足する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
11	【芸術】上村松園	女流画家第一人者と言われる上村松園の生涯や功績、時代背景について考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
12	【芸術】高村智恵子	高村光太郎「智恵子抄」で知られる高村智恵子の生涯や功績、時代背景について考察する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	【振返り】芸術分野での女性先駆者達	芸術分野の女性先駆者達についてまとめと補足をする。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
14	筆記試験	授業で扱った人々の業績や生涯についてポイントを理解しているか筆記試験で確認する。	復習:疑問点があれば調べる。できるだけ書籍を読む。予習:次回テーマの書籍を読むなど各自積極的に取り組む。	60
15	まとめ、フィードバック	筆記試験の答案を返却しフィードバックする。授業のまとめ。各自が授業評価アンケートに回答する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読む。	60

授業名	デザイン論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	近代デザインの歴史を概観し、デザインが社会とどのような関わりを持って発展してきたのかについて理解を深める。併せて、制作プロセスや造形、経済などの視点からデザインについて学び、広い視野をもってデザインを考える力を培う。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、コミュニケーション手法としてのデザインについて実例とともに説明する。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：各回でミニッツペーパーを配布する。興味・関心や疑問点、理解度について確認を行いフィードバックする。 ・位置づけ・水準 CD2165		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①近代デザイン史の概要を理解している。 ②コンセプトと造形を関連付けてデザインを考えることができる。 ③社会との関わりの中でデザインの果たす役割について理解している。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
履修条件	地域創成学科1年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①授業への態度・意欲（20%）②授業内容の理解度（30%）③レポート（50%）
テキスト	適宜、配布する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の内容、目標、受講資格、評価について説明する。	シラバスの内容を確認する。	60
2	デザインの歴史①	アール・ヌーヴォーに代表される19世紀末から20世紀初頭のデザイン運動について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
3	デザインの歴史②	20世紀初頭のドイツ工作連盟からバウハウスまでの歴史について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
4	デザインの歴史③	20世紀初頭のドイツ工作連盟からバウハウスまでの歴史について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
5	デザインの歴史④	第2次世界大戦後から現代までのデザイン運動について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
6	視覚と認知	視覚と認知の仕組みについて講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
7	色彩について①	色と光、色彩知覚の仕組み、色彩と心理について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
8	色彩について②	色の分類、配色について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
9	タイポグラフィについて①	書体の歴史と分類について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
10	タイポグラフィについて②	タイポグラフィについて、視認性と可読性、レイアウトとの関係から講義を行う。簡易な文字組の練習を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
11	タイポグラフィについて③	タイポグラフィの視覚的な効果について、作品事例とともに講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
12	レイアウトについて①	レイアウトについて視覚的なバランスと統一感、ユーザビリティ、視線誘導の観点から事例とともに講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	レイアウトについて②	レイアウトについて視覚的な階層構造、ブランディングの観点から事例とともに講義を行なう。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
14	デザインのプロセス①	デザインのプロセスについて、アイデア創出とコンセプトの策定について講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60
15	デザインのプロセス②	マーケティングの観点からデザインのプロセスについて講義を行う。	配布資料を確認して、授業内容をまとめる。	60

授業名	色彩学	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎松田 理香		
開講期	I 期		
授業の概要	色彩の基礎を学びます。物理的側面と心理的、生理的側面を概観しながら、日常生活における色彩の役割について学びます。色が見えるとはどういうことか、色の役割、色の分類や名前、心理効果、配色などについて解説します。毎授業の最後に簡単な確認問題に取り組みます。また色相やトーン体系を理解するために、色材を使つての混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組むとともに、色覚弱者についても学びます。 提出作品や確認問題の答え合わせの際には解説やコメントなどによるフィードバックを行います。		
授業の到達目標	色彩に関する知識（検定試験3級程度）を身につけることを目標とし、講義内容の7割程度の理解を期待します。 ○単位認定の最低基準：演習課題の提出および確認問題における理解 （ルーブリック評価に基づいて判定します）		
履修条件	地域創成学科の学生	成績の 評価方法・基準	確認問題(60点)、演習課題(40点)で総合的に評価します。
テキスト	各単元ごとに資料を配布します。		
参考書	・カラーマスターベーシック（NPO法人アデック出版局） ・色彩学概説（千々岩英彰著 東京大学出版社） ・色彩感覚データ&テスト（近江源太郎著 財団法人日本色彩研究所監修） ・色のユニバーサルデザイン（財団法人 日本色彩研究所著・社団法人 全国服飾教育連合会(AFT)監修） 他		
学生への要望	○授業受講にあたって ・日常生活の中で色彩が果たす役割について考えてください。 ○演習課題について ・使用する用具（ハサミやカッター、のりなど）は各自で準備してください。 ・「新配色カード199a」（日本色彩研究所監修）の準備 （課題については授業の中でガイダンスを行い、配色カードの購入希望者が多数いた場合はまとめて発注します）		
位置付け・水準	DA2166		
ディプロマポリシーとの関係	①知識・理解 ②総合的な学習経験、創造的思考力		
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱコマ 研究室		
アクティブラーニング実施内容	色相やトーン体系理解のため、色材を使った混色演習や、配色カードを用いた課題に取り組みます。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的や内容について説明する。 2. 色を見るとはどういうことか、色の役割などについて考える。	ガイダンスで配布された資料をもとに生活の中にある色の役割を考える。	30
2	講義：色のなりたち（1）	1. 色を感じる経路 2. 光 3. 物体の色 4. 色を見るための光源 ※確認問題 1	色が見える仕組みや光とは何かについての理解を深める。	60
3	講義：色のなりたち（2）	5. 光がつくる自然の色 6. 目の構造と視細胞 ※確認問題 2・3	目の構造について資料や確認問題を参考に理解を深める。	60
4	講義：色の分類（1）	1. 有彩色と無彩色 2. 色の三属性	色の整理分類について理解を深める。	60
5	講義：色の分類（2）	3. トーン（トーンの位置とトーン名、イメージ等） 4. 色立体 5. PCCS色彩体系（日本色研配色体系）	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。	60
6	講義：色の表示方法（1）	1. 表示方法の分類 （1）記号による表示 2. 表色系（マンセル、PCCS、オストワルト、XYZ等） ※確認問題 4－9	色の表示方法について資料を参考に理解を深める。PCCSによる色彩体系について理解を深める。	60
7	演習 1：PCCSの色彩体系	〔演習課題〕 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。 ①12色相環 ②PCCSトーン別色相環 ③PCCS色相・トーン一覧表	新配色カードを用いた台紙を完成させ、色の体系についての理解を深める。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	講義：色の表示方法（2）	1. 表示方法の分類（2）色名による表示 2. JIS標準色票と用途について ※確認問題 10・11	色の表示方法について資料を参考に、PCCSによる色彩体系も含めて理解を深める。JIS標準色票について理解を深める。	120
9	講義：混色	1. 混色と等色 2. 三原色 3. 加法混色 4. 減法混色 5. 色材の混色 ※確認問題 12	混色について配布資料や確認問題を参考にして理解を深める	60
10	講義：色の知覚効果	1. 色の対比効果 2. 色の同化効果 3. 色の伝達効果 4. さまざまな色の見え方 ※確認問題 13－15	色の知覚効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60
11	講義：色の心理効果 演習2：トーンとイメージの2色配色	1. 色の感情効果 2. 色のイメージと連想 3. 色の象徴性 ※確認問題 16 〔演習課題〕 新配色カード199aを用いて以下の台紙に色紙を貼る作業を行う。 ④色の心理効果	色の心理効果について資料や確認問題をもとに理解を深める。	60
12	講義：色彩調和（1）	1. 配色と色彩調和 2. 色彩調和の原理 3. 色彩調和の形式 4. 配色の基本的な考え方 5. 色相を基準にした配色	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、色の調和とは何かについて理解を深める。	120
13	講義：色彩調和（2）	6. トーンを基準にした配色 7. 基本的な配色技法 8. 慣習的な配色技法 9. 秩序の原理による配色の形式 10. 配色とイメージ ※確認問題 17・18	色彩調和について資料を参考に振り替える。特に、配色とは何かについて理解を深める。	60
14	演習3：配色演習	〔演習課題〕 新配色カード199aを用いて配色演習を行う。 ⑤色相を基準にした配色 ⑥トーンを基準にした配色 ⑦配色技法	⑤～⑦の配色演習に取り組むことにより、配色についての理解を深める。	60
15	講義：色のユニバーサルデザイン まとめ	1. 色弱者の見え方 2. 高齢者の見え方 3. ユニバーサルデザイン 4. 見えづらい例と改善例 【まとめ】 1. 講義のまとめ 2. 演習課題のまとめ 3. その他 色彩に関する検定試験について	色のユニバーサルデザインについて配布資料を参考に理解を深める。 これまでの資料や演習課題を振り返り、色彩の基礎について理解を深める。	30

授業名	情報処理Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Word365の受験に相当する内容を学びます。授業の後半では、模擬試験プログラムを用いて、アクティブラーニングによる学習に取り組むことで、自分のペースで技術向上を図ることができます。 間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。 また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。			
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. Microsoft Office Specialist Word365スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける 2. Word365の応用的な利用方法を身につける 3. Word365において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる 模擬試験プログラムを実施し、60％以上の理解・正解すること			
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。内容の区切りで課題を提示し演習と確認を行う。評価は学習意欲（随時課題提出）20％、模擬試験プログラム成績80％とする。	
テキスト	Microsoft Word 365 対策テキスト& 問題集			
参考書	なし。			
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。			
位置付け・水準	CD2130			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	文書の作成と管理（1）	テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	文書の作成と管理（2）	2回目と同じ。（テンプレート、PDF作成、外部データインポート、検索、ハイパーリンク、ページ設定、ヘッダー・フッター、頁番号、プロパティ設定、クイックアクセスツールバー設定、アクセシビリティ検査、下位バージョン互換性検査）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	文字、段落、セクションの書式設定（1）	置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	文字、段落、セクションの書式設定（2）	4回目と同じ。（置換、オートコレクト、特殊文字、フォント変更、行の間隔、段落の間隔、配置、インデント、書式コピー、強調表示、ワードアート、組み込みスタイル、ページ区切り、段組み、セクション区切り）	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	表やリストの作成（１）	表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
7	表やリストの作成（２）	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
8	参考資料の作成と管理（１）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理（２）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（１）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（２）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験（１）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（２）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（３）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Word365スペシャリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

授業名	情報処理Ⅲ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	いかなる職業においても必要なパソコン活用能力の習得に向けて、情報処理士の資格取得が目指せることは、ご承知の通りです。昨今の就職活動や就業後のキャリアアップにおいて注目されている、Microsoft Office Specialist Excelの受験に相当する内容を学びます。授業の後半では、模擬試験プログラムを用いて、アクティブラーニングによる学習に取り組むことで、自分のペースで技術向上を図ることができます。 間違いの多い箇所の解説を授業で解説することで、フィードバックを行います。 また、随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。			
授業の到達目標	本演習における達成目標は次の通りとする。 1. Microsoft Office Specialist Excel365スペシャリストレベルの合格に必要なスキルを身につける 2. Excel365の応用的な利用方法を身につける 3. Excel365において、操作時の不明点を自分で調べ、解決することができる 課題1～3を実施し、 6 0 %以上の理解・正解すること			
履修条件	なし。	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。具体的には、授業の後半で実施するMOS模擬試験の結果を総合的に判断し 1 0 0 %の割合で評価する。毎回の授業の予習・復習を怠らないことを望む。	
テキスト	Microsoft Excel 365対策テキスト& 問題集			
参考書	なし。			
学生への要望	授業内容を反復して練習すること。			
位置付け・水準	CD2230			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してパソコン操作を含むアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴	システムエンジニアとして株式会社エフコムに勤務 システム開発・情報処理の経験をもとに、文書作成・表計算についての授業を行う。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	この演習の目的・内容・単位数・教科書・成績評価について説明する。また演習を始めるにあたり、パソコンのセットアップを行う。	パソコンのセットアップ後の、操作方法を復習する。	30
2	ワークシートやブックの作成と管理（1）	1-1 ワークシートやブックを作成する 1-2 ワークシートやブック内を移動する 1-3 ワークシートやブックの書式を設定する	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
3	ワークシートやブックの作成と管理（2）	1-4 ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする 1-5 配布するためにワークシートやブックを設定する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
4	セルやセル範囲のデータの管理（1）	2-1 セルやセル範囲にデータを挿入する 2-2 セルやセル範囲の書式を設定する 2-3 データをまとめる、整理する 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60
5	テーブルの作成	3-1 テーブルを作成する、管理する 3-2 テーブルのスタイルと設定オプションを管理する 3-3 テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題	テキストの実施個所について、再度実施し、復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	数式や関数を使用した演算の実行	4-1 関数を使用してデータを集計する 4-2 関数を使用して条件付きの計算を実行する 4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
7	表やリストの作成	6回目と同じ。（表作成、文字列→表変換、表→文字列変換、テーブルスタイル、データ並び替え、セルの予約、セル結合・分割、サイズ調整、タイトル行繰り返し、箇条書き、段落番号、行頭文字、リストレベル変更）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
8	参考資料の作成と管理（1）	脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
9	参考資料の作成と管理（2）	8回目と同じ。（脚注、文末脚注、資料文献、引用文献、図表番号、目次、表紙）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
10	グラフィック要素の挿入と書式設定（1）	図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
11	グラフィック要素の挿入と書式設定（2）	10回目と同じ（図形挿入、スクリーンショット挿入、テキストボックス挿入、アート効果、図の背景削除、図の効果、図のスタイル、オブジェクト書式設定、SmartArt）	テキストの実施箇所について、再度実施し、復習する。	60
12	模擬試験（1）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
13	模擬試験（2）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
14	模擬試験（3）	模擬試験の実施と解説。	模擬試験プログラムの実施結果から、不正解箇所の解説動画を閲覧する。	60
15	まとめ	総合確認と、Microsoft Office Specialist Excel365スペシャルリストレベル 受験計画	授業内で指定する模擬試験について、100%中80%程度の正解率を目指し、実施する。	60

授業名	情報概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢		
開講期			
授業の概要	コンピュータや情報通信技術の基本原理を学び、実際のハードウェア構成、ソフトウェアの種類や機能を理解すると共にコンピュータをネットワークで接続したインターネットの日常生活やビジネスでの活用とそれを支える基本技術について学ぶ。さらに、ネット社会が抱える問題とその解決法について考える。また、今後、学習していく情報関連の授業が理解できるようにする。 フィードバック方法：最終授業で授業内容を振り返り、試験のポイントを解説する。e-learningの実施状況については随時フィードバックを行う。		
授業の到達目標	1. 情報処理の基本である情報の単位が説明でき、2進16進の計算ができること。 2. パソコンの動作の仕組みが説明できること。 3. ネットワークの仕組みを理解すること。 4. 情報セキュリティと情報モラルについて基本的な事項を理解すること。 ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準 超スマート社会の様々な課題を論理的に捉え問題を解決していく力を身につけるために、ICTの専門的知識の基礎を修得する。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。		
履修条件	なし	成績の	e-learningの学習成果：30%、mocaを使ったオンライン試験：70%
テキスト	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」NOA出版 IPA 情報処理推進機構/情報セキュリティ https://www.ipa.go.jp/security/index.html		
参考書	パソコン検定 3級試験対策本、ITパスポート試験対策本全般		
学生への要望	馴染みの無い言葉が沢山出てくるが、教科書をよく読み分らない言葉はインターネットで調べる等して学習する習慣をつけてください。		
位置付け・水準	CD2131		
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」		
オフィスタイム	月3限、火3限、木曜1・2限（芸術館2階 地域創成学科研究室No3）☑		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerで、リスク管理や経営企画担当者として数理的情報処理・統計的分析の実務経験をもつ教員が担当します。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	講義内容を説明する。コンピュータ上で扱う情報について表現方法や演算の方法について学ぶ。 用語：2進法、16進法、文字コード	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
2	コンピュータの基礎	コンピュータの歴史やコンピュータの種類、パソコンの形や取扱いの注意について学ぶ。 用語：ノイマン型コンピュータ、PS/AT互換機、ハードウェア、ソフトウェア	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
3	ハードウェア 1	パソコン本体の内部がどのような部品で構成されているか確認し、それぞれの役割や性能について学習する。 用語：CPU、メインメモリー、RAM/ROM	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
4	ハードウェア 2	外部記憶装置および代表的な出力装置の動作原理や種類、性能の見方について学ぶ。 用語：ハードディスク、リムーバブルディスク、CRT、液晶、ラスタデータとベクタデータ	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
5	ハードウェア 3	入力装置の種類とその動作原理について学ぶ。また、周辺装置を接続するインターフェースについて学ぶ。 用語：キーボード、マウス、スキャナー、シリアル転送、パラレル転送、IEEE1394、USB	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
6	基本ソフトウェア	OSの役割と種類を学習し、現在の主流となっているWindowsの特徴について学ぶ。 用語：ディスク管理、レジストリ、ファイルシステム、拡張子	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
7	アプリケーションソフトウェア	オフィス処理関係ソフトの種類と機能を学習するほかにデータベースソフトやプログラミングについて学ぶ。 用語：テキストエディタ、DTPソフト、テーブル、レコード、フィールド、SQL、プログラミング	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
8	情報通信ネットワークの仕組み	コンピュータネットワークの代表的な形態について学び、それぞれの違いについて確認する。 用語：LAN、WAN、OSI、クライアント、サーバー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
9	LANの構成	LANの規格、データ転送方式、LANのハードウェア、セキュリティについて学ぶ。 用語：イーサネット、無線LAN、ハブ、ルータ、ファイアウォール、暗号化	e-Learningの該当箇所を実施する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	インターネットの仕組み	インターネットとは何かについて、歴史、しくみ、代表的サービスであるWWWの観点から学ぶ。 用語：ARPAnet、IPアドレス、ドメイン名、ISP	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
11	インターネット上のサービス	メールがどの様にして届くか学び正しく利用できる知識を得るとともにインターネット上の色々なサービスについて学ぶ。また、インターネットへの接続方法について説明できるようにする。用語：POP、SMTP、メーリングリスト、ADSL、FTTH	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
12	情報セキュリティ	セキュリティに関する正しい知識を持ち、適切な対策を講じることができるように学習する。 用語：コンピュータウィルス、ウィルス感染の予防、スパイウェア	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
13	不正アクセスと詐欺の防止	不正アクセスとは何か及びそれを禁止している法律について学ぶとともに不正アクセスを防ぐ技術対策を理解し実施できるようにする。また 最も利用機会の多いブラウザのセキュリティ機能を有効に使用するため、設定方法を学び利用形態に合わせた設定ができるようにする。 用語：不正アクセス禁止法、セキュリティホール、ファイアウォール、Cookie、ソーシャルエンジニアリング、フィッシング詐欺	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
14	情報モラル及びフィードバック	情報社会の問題点と法律、自分を守るための方法について学ぶ。 試験のポイント及びe-Learning実施状況フィードバック 用語：知的財産権、個人情報、インターネット利用上のマナー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
15	最終テスト	授業中に、mocaを用いてオンラインの試験を実施する。 試験後に、問題の解説、フィードバックなどを行う。	これまでの授業とe-Learningの内容を復習し、疑問点等あれば整理しておく。	60

授業名	情報倫理	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎佐々木 達矢		
開講期			
授業の概要	倫理は安定した社会を築くための基盤であり、その現代社会は情報化が進展している。本講義では情報を扱う場合にどのような倫理観が必要となるのか、またどのようにすれば安全の確保ができるのかについて学び、実社会に出た時にネット上で人に迷惑をかけない、また犯罪に巻き込まれないような知識を身につける。 フィードバック方法：授業で提出されたレポートやe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。		
授業の到達目標	1.ネット社会の基本的仕組みを知り、色々なリスクの回避やリスクへの対応を出来る様にする。 2.ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連及び単位認定の最低基準 ①超スマート社会における多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力を身につけている。 ②ICTの専門的知識を活用し、論理的に課題を捉え問題を解決していく力を身につけている。 単位認定の最低基準：7割を理解している必要がある。		
履修条件	地域創成 2 年	成績の 評価方法・基準	レポート 1 回：10%、e-learningの学習成果：20%、mocaを使ったオンライン試験：70%
テキスト	教科書は指定しない。 e-learningシステムmocaで資料配布。		
参考書	「これだけは知っておこう！情報リテラシー」 NOA出版；IPA 情報処理推進機構/情報セキュリティ https://www.ipa.go.jp/security/index.html		
学生への要望	日頃からハイク犯罪や倫理の問題を意識して、ニュース等を見聞し、関心を持つこと。		
位置付け・水準	CD2132		
ディプロマポリシーとの関係	「知識理解」「課題解決力」		
オフィスタイム	月 3 限、火 3 限、木曜 1・2 限（芸術館 2 階 地域創成学科研究室No3）		
アクティブラーニング実施内容	特になし。		
実務家教員の経歴	岡崎信用金庫と株式会社F-Powerでのリスク管理統括や経営企画担当者の実務経歴を活かして、実践的な授業を行います。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の目的や進め方、評価方法について述べる。また、「情報倫理」とは何かについて概要を理解する。 e-Learningの活用について説明する。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
2	ネットワーク社会	ネットワーク社会に参加するにあたって、最も基本的な心構えや注意事項を学ぶ。これにより、被害にあわない、他に迷惑をかけないためのポイントを理解する。<キーワード> 情報、倫理、サイバー犯罪	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
3	ネットワークとインターネット	ネットワークやインターネットの基本的な仕組みとインターネットで提供されているさまざまなサービスについて学ぶ。 <キーワード> ネットワーク、インターネット、ネットワーク社会、ネット上のエチケット、インターネットの代表的サービス	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
4	ユーザ認証とアカウント	アカウントの大切さや、より安全なパスワードの設定方法などを学ぶ。これにより、実際にパスワード設定する場面でクリックされにくい文字列で設定できるようにする。<キーワード> アカウント、パスワード、ユーザID、クッキー	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
5	情報受発信と情報検索 ①	メールを使った悪質ないたづらや犯罪も増加傾向にある。自らがメールのマナーを身につけるとともに、自己防御のための知識を学ぶ。 <キーワード> メール、チェーンメール、メーリングリスト、電子掲示板、チャット	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
6	情報受発信と情報検索 ②	悪質なサイトや有害な情報も混在しており、それに対応したWebページを見る側の知識や心構えを学ぶ。 また、携帯電話での心構えや知識も学ぶ。 <キーワード> 検索エンジン、WEBページの作成、ブログ、WIKI	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
7	ネットワークセキュリティ	ネットワーク利用者の一人ひとりが身に着ける必要があるネットワークセキュリティについての正確な知識を学ぶ。 <キーワード> ネットワークセキュリティ、コンピュータウイルス、不正アクセス、DOS攻撃、踏み台、ボットネット	e-Learningの該当箇所を実施する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	情報の流出とサイバー犯罪レポート 1	個人情報も含めた機密情報の流出は、流出時点で被害は甚大である。サイバー犯罪の防止のビデオを上映し、具体的にサーバー犯罪の危険性、防止策について学ぶ。 <キーワード> コンピュータウイルスと情報流出、スパイウェア、ファイル交換、記憶装置の紛失 レポート課題：最近のサイバー犯罪について	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
9	ネットワーク社会と生活	インターネットの普及で、様々な機関がインターネットを通じてサービスを開始した。そのため社会生活も大きく変化している。社会の変化とネットサービスについて学ぶ。 <キーワード> ISP、電子商取引、BtoB、B to C、GtoC、トレーニング、バンキング、オークション	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
10	「超スマート社会」とは	ネットワーク技術と情報技術を駆使した「超スマート社会」（Society 5.0）の実現が提唱されている。どのような社会を目指したいのかと実現する必要となるキーテクノロジーは何かについて学ぶ。 <キーワード> サイバーセキュリティ技術、IoTシステム構築技術、ビッグデータ解析技術、AI技術	授業内で紹介した動画を見る。 (mebaeのリンク先)	50
11	「超スマート社会」の技術	「超スマート社会」を実現するために開発されている最新の技術について学習する。 <キーワード> 5G、AI、ロボット、AR、VR	授業内で紹介した動画を見る。 (mebaeのリンク先)	50
12	ネットワーク社会の問題とトラブル	ネットワークを利用することは非常に便利な面があるが、一方では、不備、脆弱面も多々ある。犯罪や被害事例を学び、自分を守る術を身につける。ネットワークの犯罪は、本人が全く認識しないまま巻き込まれることがあるが、知識の有無でかなりリスクが異なる事を理解する。 <キーワード> 情報の信頼性、ネットワーク犯罪の傾向、オークション詐欺、不正請求、サーバーテロ	e-Learningの該当箇所を実施	30
13	ネットワーク社会を取り巻く法律（全般、個人情報保護法）①	個人生活の観点からネットワーク社会を取り巻く法律を全般的に学ぶ。生活の中で密接に関連して来る個人情報保護法について詳しく学ぶ（個人情報保護法、児童買春防止法、訪問販売法）。授業の中では、政府が作成したビデオを活用する。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
14	ネットワーク社会を取り巻く法律（著作権法、その他）②	ビジネス社会や日常生活において密接に関係する著作権法について、最近の法律改正事項も含め学習する。 また、法律の改正とネットワーク社会の発展の関係について学び、仕事の中で生かせる知識を得る（不正アクセス禁止法、電子署名法、プロバイダ法）。	e-Learningの該当箇所を実施する。	30
15	全体のまとめとフィードバック	提出されたレポート及びe-learningの実施状況についてフィードバックを行う。	これまでの授業とe-Learningの内容を振り返り、疑問点等あれば整理しておく	30

授業名	情報メディア論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎山口 猛		
開講期			
授業の概要	高度情報化社会といわれる21世紀、我々は情報を得ることなくしてよき生活を営むことは考えられない。その情報を伝えるメディアは人間のあらゆる社会的な生活にとって、また人間らしい生活を営む上で必要不可欠なツールとなっている。メディアの歴史と現状を見つめ、充実した社会生活を営むためのメディアの利用方法を身につける。 随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。		
授業の到達目標	1. 日常生活でメディアを活用する力を身につけること 2. 情報の受け方・利用の仕方を理解すること 3. 各種メディアの特性を理解すること 単位認定の最低基準：最終レポートおよび新聞スクラップブックの提出		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは、授業態度・課題・レポートにより評価する。 授業態度20%、実習課題（新聞スクラップブック含む）30%、レポート50%とする。
テキスト	担当教員作成のプリント		
参考書	なし		
学生への要望	テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで毎日必ずニュースに触れること。随時、社会の出来事に関する感想・意見を求めるので積極的に発言すること。		
位置付け・水準	CD2133		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力		
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室		
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通して新聞スクラップブックの作成と発表を実施		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス メディアの歴史	メディアとは何か、生活情報の入手手段としてのメディアはいかに変遷してきたか、日本におけるメディアの歴史と展開を見る。またマスメディアの現状と日常生活との結びつきを考える。	ガイダンスで説明をする新聞スクラップブックの準備を行う。	30
2	マスメディアの理解 －新聞－（１）	最も古いマスメディアである新聞の歴史と、情報提供者として果たしてきた役割を見る。また、実際に新聞を読みながら、スクラップブックの作成を行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、新聞メディアの特徴を復習する。	60
3	マスメディアの理解 －新聞－（２）	前回の続きとして、スクラップブックの発表を行い、マスメディアとしての長所や短所などの理解を深める。	新聞スクラップブックを追加する。ゲストから学んだ内容を復習する。	60
4	マスメディアの理解 －新聞－（３）	地元新聞社の担当者をゲストに迎え、新しい時代の新聞、読者の新聞への期待と新聞社の対応について理解する	新聞スクラップブックを追加する。ゲストから学んだ内容を復習する。	60
5	デジタルネイティブ世代の ニューメディア（１）	デジタルネイティブ世代（生まれた時からインターネットやパソコンのある生活環境の中で育ってきた世代）が馴染みのある従来のマスメディアに問われないニューメディアの理解を目的に、歴史と特徴を説明する。	新聞スクラップブックを追加する。また、自分のスマホ利用等の生活を振り返りで至るネイティブの特性の理解を深める。	60
6	デジタルネイティブ世代の ニューメディア（２）	映像資料を見ながら、ニューメディアの事例を具体的に確認し、特徴理解を深める。	新聞スクラップブックを追加する。また、ニューメディアとマスメディアの特徴の違いを振り返る。	60
7	デジタルネイティブ世代の ニューメディア（３）	ソーシャルメディアの情報発信手段として重要視されているSNSについて学び、従来のマスメディアとの比較を行い、メディアが持つ目的や役割の違いを理解する。	新聞スクラップブックを追加する。また、ニューメディアとマスメディアの特徴の違いを振り返る。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	マスメディアの理解 ーテレビー（１）	地元のテレビ局の支援を受け、テレビ番組の制作から放送までのシステムを学ぶとともに、情報の送り手（アナウンサー、ディレクター、記者）との懇談を通して、情報の受け方、利用の仕方を学ぶ。 （１）では、テレビ局が制作した番組その１を視聴し、番組制作の工夫を考える。	新聞スクラップブックを追加する。また、テレビメディアの特徴を復習する。	60
9	マスメディアの理解 ーテレビー（２）	前回の続き。 （２）では、テレビ局が制作した番組その２を視聴し、番組制作の工夫を考える。	新聞スクラップブックを追加する。また、テレビ局訪問の結果をまとめる。	60
10	マスメディアの理解 ーテレビー（３）	前回の続き。 （３）では、番組視聴後の感想について意見交換を行うとともに、（６）で実施するオンライン研修に向けた役割分担を行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、グループワーク結果のノートを振り返る。	60
11	マスメディアの理解 ーテレビー（４）	前回の続き。 （４）では、役割分担の各グループごとに、スライド作成や機器操作方法を理解する。	新聞スクラップブックを追加する。また、作品の作業進捗に合わせて、作業を進めておく。	60
12	マスメディアの理解 ーテレビー（５）	前回の続き。 （５）では、研修のリハーサルを行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、プレゼンテーション練習を行う。	60
13	マスメディアの理解 ーテレビー（６）	前回の続き。 （６）では、研修の本番を行う。	新聞スクラップブックを追加する。	60
14	情報メディアの将来	メディアは、インターネットの普及と情報媒体の高性能化により、今後も進化が進んでいくと予想される。現時点で近い将来に世に出てくるであろう情報メディアをまとめたビデオ教材の視聴と解説により、情報メディアへの柔軟な理解を行う。	新聞スクラップブックを追加する。また、将来のメディアについての理解を深め、柔軟な対応の有用性を理解する。	60
15	総合まとめ	課題レポート「日常生活にメディアをどう活かすか」を作成。授業の感想と質疑応答	新聞スクラップブックを追加する。また、課題レポートのテーマについて事前に考えをまとめる。	60

授業名	地域食文化論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎星 千歳		
開講期			
授業の概要	和食文化の特徴について理解するとともに、食文化の地域性について、演習を交えながら理解を深める。また「地域」と「食文化」に関する調べ学習を通して現状を把握し、地域における食文化を次世代に伝え継ぐための方法について検討する。 位置づけ・水準 CD2180 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック（評価の伝達）方法】 課題を課した翌週に、フィードバックの時間を設定し、解説します。 【教育課程内の位置づけや水準（ナンバリング）】 CD2180		
授業の到達目標	【授業終了時の達成課題（達成目標）】 ①和食文化の特徴について理解できたか。 ②食文化の地域性について、具体例をあげて説明することができるか。 ③地域における食文化を保護・継承しようとする意識を持つことができたか。 【単位認定の最低基準】：「内容の6割を理解してること」 【ディプロマポリシーとの関係】：知識理解、主体的行動力		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	課題の取組み50点、発表内容30点、授業態度20点の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とするが、授業理解度は8割以上が望ましい。
テキスト	江原絢子・石川尚子編『日本人の食文化「和食」の継承と食育 新版』アイ・ケイ・コーポレーション 2,500円＋税		
参考書	日本の食生活全集編集委員会『日本の食生活全集 全48巻』農山漁村文化協会,1993-2002 他		
学生への要望	日頃から地域の食文化について関心を持ち、文献・聞き取り・現地調査などを通して積極的に情報収集を行ってください。 得られた情報から、食文化の保護・継承について、自分なりの考えを持ってください。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域食文化論ガイダンス	地域食文化論の授業内容を確認し、地元（出身地または現在の居住地）の代表的な料理について発表する。	地元の特産品、料理について調べ、レポートを作成する（シラバス2回時に提出）。	90
2	和食文化の特徴	和食の献立構成、主食、副食に用いられている調理法について学び、和食文化の特徴を理解する。（一汁三菜献立作成）	テキスト112～113頁を読む。 一汁三菜の献立を作成する（シラバス3回時に提出）	90
3	行事と地域の食文化	年中行事と行事食/通過儀礼と儀礼食について学び、地域に伝わる行事食には、地域性が反映されていることを理解する。	テキスト142～145頁を読む。 地元の年中行事と行事食について調べる（定期試験中にリポート提出）。	60
4	伝統料理・郷土料理と地域性（1）	地域に伝わる伝統料理・郷土料理には、地域性が反映されていることを理解する。実習：福島県の郷土料理「ちまき」	実習内容を振り返る。	30
5	伝統料理・郷土料理と地域性（2）	地域に伝わる伝統料理・郷土料理には、地域性が反映されていることを理解する。実習：福島県の郷土料理「ちまき」	実習内容を振り返る。	30
6	伝統料理・郷土料理と地域性（3）	日本列島は南北に長く、気候風土も土地によって異なっている。本時では、これら地域の様々な条件のもと、生活環境や生業、宗教、歴史とも結びついて、地域独特の食形態を形成した郷土料理について理解する。	テキスト146～149頁を読む。	60
7	日本の食文化	日本の食文化は、日本の気候風土とそこに住む人々の知恵と工夫によってつくりあげられた。日本料理は、西洋料理、中国料理と比較して「見る料理（目の料理）」「水の料理」といわれているが、こうした食文化が形成された要因として、さまざまな自然環境および社会環境が考えられる。本時は、こうして形成された日本の食文化の特徴について理解する。	テキスト4～7、36～37頁を読む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	福島県の食文化	福島県の地理的特性、気候風土、歴史、流通等を学び、それらから発祥し今日まで伝承されている食文化の特徴について理解する。	テキスト146～149頁を読む。	60
9	食文化の地域性（1）	日本各地の様々な地勢、気候、歴史、文化、住民気質、特産物、調理法などが、地域ごとに多様な食文化を築いてきたことを踏まえ、グループで、調べ学習のテーマを考える。	調べ学習のテーマを考える。	60
10	食文化の地域性（2）	日本各地の様々な地勢、気候、歴史、文化、住民気質、特産物、調理法などが、地域ごとに多様な食文化を築いてきたことを踏まえ、グループで、食文化の地域性を調べる。	決定した地域の食文化について、各自分担内容を進める。	60
11	食文化の地域性（3）	日本各地の様々な地勢、気候、歴史、文化、住民気質、特産物、調理法などが、地域ごとに多様な食文化を築いてきたことを踏まえ、グループで、食文化の地域性を調べる。	決定した地域の食文化について、各自分担内容を進める。	60
12	食文化の地域性（4）	発表会の準備を進める。	各自分担した内容をグループ内でまとめる。	60
13	食文化の地域性（5）	次週の発表会の最終確認を行う。	発表前の最終調整を行うとともに、発表原稿を確認する。	60
14	食文化の地域性（6）	食文化の地域性について、グループごとに発表し、相互評価を行う。	各グループの発表内容について振り返り、今後の授業や卒業研究活動の参考となるようまとめる。	60
15	地域における食文化の保護と継承、まとめ	地域における食文化の保護と継承について意見交換を行う。 半期間の学習内容を振り返り、修得内容の定着を図る。	食文化を次世代に伝え継ぐ方法について検討する。 テキスト152～159頁を読む。	60

授業名	服飾文化論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎田辺 真弓		
開講期			
授業の概要	衣服は人がそれを装うときに成り立つものであり、衣服の主人公は人間である。衣服にはいろいろな時代背景や社会状況の中で、人間の様々な心情が託されてきた。本講義では、衣服を人間の存在と結び付いて長い間に培われてきた文化のひとつとして捉え、衣服が着る人の心とどのようにかわっているかを考える。衣服の機能、衣服への感情移入、衣服の流行、制度と慣習、日本と西洋との色彩感情の違い等に着目する。さらに服飾研究の進め方について例を挙げて解説し、服飾研究に対する関心を高める。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	目標は ①身近な生活圏の服飾文化を理解し、地域社会に貢献できる力を身につけていること。 ②柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけていること。 ③現代の衣生活における多様な課題を発見し、分析・解決する能力を身につけていること。 ④服飾文化に関する専門的知識を基に論理的に課題を探求し、他者と協調しつつ、主体的に問題を解決していく能力を身につけていること。 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科 1年生	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題レポート・期末筆記試験により確認と評価を行う。 ①課題レポート2回 20点 ②期末筆記試験 80点 60点以上を合格点とする。
テキスト	教科書は用いず、資料を配布する。		
参考書	増田美子編『日本衣服史』吉川弘文館、小池三枝著『服飾文化論』光生館、小池三枝著『服飾の表情』勁草書房、徳井淑子著『服飾の中世』勁草書房、徳井淑子著『ヨーロッパ服飾史』河出書房新社、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』朝倉書店・平成28年、その他は授業で紹介する。		
学生への要望	服飾文化に関心をもつとともに、授業で紹介した参考文献にはできるだけ目を通し、自ら調べようとする姿勢を身につけること。		
位置付け・水準	位置づけ・水準 CD2181		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係：1) 地域社会貢献力 2) 創造的思考力		
オフィスタイム	場所 教務部非常勤講師控室 時間 木曜日IV時限		
アクティブラーニング実施内容	解説を聴きながら生活文化博物館の見学をすることにより、展示されている時代衣装についての知識と関心を深め、さらに見学後にディスカッションや文献調査を行い、レポートをまとめることにより、創造力、構成力を養う。また、授業で学んだ内容の中で最も関心を持った事柄について自ら文献を調べて考察し、レポートをまとめることにより、能動的学習力、課題解決力を養う。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 授業計画の提示 生活文化博物館見学・服飾解説	授業計画を提示し、授業目標ならびに授業内容について説明する。 図書館1階の生活文化博物館を見学し、当館に展示されている装束、ならびに時代背景についての解説を聴き、日本の服飾についての関心を高めるとともに理解を深める。	生活文化博物館見学の感想を配付用紙に記し、第2回の授業時に提出する。(1回目レポート)	60
2	なぜ衣服を着るのか 衣服の機能 衣服の表現・感情移入	衣服が持つ様々な機能について知る。また、衣服の機能のひとつである社会性について考えるとともに、衣服による表現と衣服への感情移入について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
3	着心地とはなにか	着心地には物理的な着心地と、心理的な着心地とがある。ここでは衣服を着るとき心の状態を通して、個人・集団・文化のレベルの着心地について知り、衣服が着る人の心にどのように働きかけているかを考える。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
4	衣服の流行	衣服の流行はどのように発生して広がり、交代していくか、また、それに付随してどのような現象が現れるか、また、それはどのような意味をもっているかについて、文献および絵画等の資料を参照しながら学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
5	日本の色と西洋の色	日本の色彩が季節感と密接に結びついているのに対して、西洋の色彩は季節感とほとんど結びついていないこと、また、日本と西洋では色彩の意味や用い方等に大きな違いがあることを知り、日本と西洋の色彩感情、色彩感覚が異なっていることを理解する。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	制度と慣習	日本の律令制における位の色や禁色、江戸時代の服飾に関する禁令、西洋の身分制度と服装等について知るとともに、日本の更衣(ころもがえ)や祝いで着などにみられる慣習について学ぶ。また、更衣に連動して日本で伝統的に行われてきた衣料を使い切る衣生活について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
7	衣服の美感	日本の近世の美感である「だて」と「いき」とはどのようなことを表し、服飾の上にどのように現れているのかを絵画資料、図版資料、文献等を通して知る。また、あわせて西洋の「ダンディズム」、日本の明治期の「ハイカラ」について、それが服飾上にどのように現れ、どのような影響を及ぼしたかを理解する。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。 第2回～第7回の中から最も興味深かった回を一つ選び、概要ならびに感想をまとめ、「めばえ」に提出する。(2回目レポート)	60
8	「壺装束」と「むしのたれぎぬ姿」	平安時代に高貴な女性の外出着として、壺装束とむしのたれぎぬ姿が見られた。これらは文学作品や絵巻物にしばしば登場し、その多くは当時盛んに行われていた寺社詣の際の旅装であった。これらがどのような装束で、どのような意味をもっていたかを学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
9	「近世小袖」と町人服飾	近世小袖文様の流行と町人文化が花開いた元禄期の町人服飾について、文様の効果、「近世小袖」と雛形本、小袖の二通りの鑑賞法、小袖文様の題材と技法、読み解く文様について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
10	日本近代の衣生活① 文明開化と衣生活の変化	明治維新後の文明開化期は服飾にも大きな変化をもたらした。日本において洋服がどのように用いられるようになっていったかを絵画や写真資料ならびに文献等を基に年代を追って見ていき、当時の人々が衣服についてどのような思いをもち、どのような衣生活をしていたのかを知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
11	日本近代の衣生活② 束髪流行と女学生の袴 婚礼服と喪服	一時は流行するかに見えた女性の洋装の衰退と女性の改良髪型、女学生の袴の流行について知る。また、婚礼服の変化と日本の伝統的な喪の色の「白」や「浅黄」が西洋の喪の色の「黒」に変わり、黒の喪服が浸透し始めたことを学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
12	日本近代の衣生活③ 洋風の防寒衣料	西洋から羊毛織物がもたらされたことにより、防寒着として男性の「二重廻し」、女性の「東コート」などの外套、「赤毛布」や「肩掛」などのはおりものが流行した。これらの和服に組み合わせる防寒衣料が日本の衣生活に急速に浸透していったことについて知る。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
13	日本近代の衣生活④ 働く女性と洋装の採用 学生服・子供服の洋装化	女性の洋装化は男性に比べて遅れたが、明治末から大正にかけては女性の社会進出に伴い洋装化が進んだ。大正末から昭和初期には「モボ」・「モガ」が現れた。合わせて、学生服・子供服の洋装化について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
14	日本近代の衣生活⑤ 繊維工業の進展 戦時体制下の衣生活	明治から昭和初期まで、日本の繊維工業は目覚ましく発展したが、日中戦争以降、戦争が拡大していくにしたがって衰退した。衣料品が不足し、市民は窮乏生活を強いられた。戦時体制下での劣悪な繊維「ス・フ」や衣料切符制度など、戦時体制下の衣生活について学ぶ。	本日の講義内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
15	授業のまとめと期末筆記試験	授業のまとめを行う。 期末筆記試験を実施する。	試験において筆記した内容について、配付資料を参照し、再検討を行う。	60

授業名	家庭福祉論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	IV			
授業の概要	子ども家庭福祉を中心に学び、現代の親子が置かれている状況、少子高齢社会の展望、子ども家庭福祉の基本的枠組み等に焦点をあてる。授業提出物・筆記試験を返却しフィードバックする。			
授業の到達目標	毎回授業後半に意見提出を求め、最終的に筆記試験により理解度を確認します。単位認定の最低基準:内容の7割以上を理解していること。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	筆記試験(50点)、課題提出物(50点)	
テキスト	レジュメを配布する			
参考書	『子どもと福祉』林浩康、福村出版、2009他			
学生への要望	課題を出しますので必ず提出して下さい。			
位置付け・水準	位置付け・水準:CD2141			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係: 知識理解、課題解決力			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限、金曜Ⅱ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業概要、目標、成績評価法等についてシラバスに基づき説明する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
2	現代の親子が置かれている状況	現代の親子が置かれている社会的状況について理解する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
3	少子高齢社会の展望	少子高齢社会の現状を理解し今後の展望を考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
4	子ども家庭福祉の基本的枠組み	子ども家庭福祉の基本的枠組みを理解し社会資源や援助技術等について理解する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
5	子ども・子育て支援新制度	子ども・子育て支援新制度の全体像の理解と幼保連携型認定子ども園について理解し考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
6	海外の子育て支援	子育て支援の先進国、北欧の事例を知り今後の方向性について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
7	子育て支援・日本の取り組み	北欧の子育て支援を日本でもどのように取り入れているか。今後の方向性について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
9	子ども虐待の防止	子ども虐待の状況、子ども虐待への対応、児童相談所の対応について考察する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
10	児童養護施設の生活状況	児童養護施設で暮らす子ども達の生活状況と社会的支援を理解する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
11	児童相談所について	児童相談所の実態等について具体的に学ぶ。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
12	乳幼児期・学童期における生活状況	乳幼児期・学童期における生活状況と社会的支援を理解する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
13	まとめ、振り返り	授業で扱ったテーマを振り返り、ポイントをまとめる。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
14	ポイント確認、筆記試験	全体的な内容を振り返り、要点を理解しているか筆記試験で確認する。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60
15	授業のまとめ、フィードバック	答案返却後、正解を確認しフィードバックする。全体的に授業内容のまとめを行う。	予習:テーマに関連する書籍を読む。復習:課題レポートの指示に従い締切日までに提出する。	60

授業名	ビジネスマナー	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎山口 猛		
開講期			
授業の概要	就職活動を視野に入れ、社会人として働く際のビジネスマナーを様々な角度から実践的に学ぶ。最終授業で全体に対するフィードバックを行います。		
授業の到達目標	①各回授業で出される課題に挑戦し、授業受講前よりも自信をもって就職試験・面接に臨むことができるようになる。②各回の授業で課題を遂行し提出物を提出する。③めばえドリルを達成度100%を目指して何度も挑戦すること。※単位認定の最低基準:各回の提出物を確実に出し、課題に対して8割以上の理解度であること。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	①各回授業提出物70点(35点×担当者2名)、②めばえドリル達成度30点
テキスト	随時資料を配布		
参考書	随時提示する		
学生への要望	めばえドリル達成度100を目指して取り組む。基礎学力を向上させることは就職試験対策になる。		
位置付け・水準	CD2134		
ディプロマポリシーとの関係	3)課題解決力、4)主体的行動力		
オフィスタイム	山口 月曜1限,月曜3限、 芸術館2階地域創成学科研究室NO.3 仲田 火曜Ⅴ限,水曜Ⅴ限 創学館4階NO.4研究室		
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してめばえドリルの実施、マインドマップや履歴書作成などの作業を要する		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス (山口、仲田)	授業の進め方をシラバスに基づいて説明する。めばえドリルの目標設定を説明する。	資料配布物などをよく読み、次回の予習をする。	60
2	マインドマップ (山口)	就職活動に向けた自己分析を行うための手法を学ぶ。分析事例として、	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	60
3	マインドマップを実現するために何をするか (山口)	第1回で作成したマインドマップを実現するため何をすればよいのかグループディスカッションする。	〃	60
4	就職活動対策（1）企業研究 (山口)	本学の求人状況の理解、求人票の見方および企業研究について。※めばえドリルの進捗状況について講評し、必要に応じて注意する。	〃	60
5	就職活動対策（2）履歴書対策 (山口)	面接の受け方、自己アピールの仕方等について模擬面接で実践的に学ぶ。	〃	60
6	就職活動対策（2）履歴書対策の続き(山口)	本学の履歴書を記入する際の注意事項、応募書類を送付する際の送付状の書き方を学ぶ。	〃	60
7	就職活動対策（3）面接対策(山口、仲田)	面接の受け方、自己アピールの仕方等について模擬面接で実践的に学ぶ。	〃	60
8	SPI対策（1）(山口、仲田)	めばえドリル3 SPIを実施する。	めばえドリルで不正解であった箇所の解説を読み、復習をする。	60
9	ビジネスマナー(1)社会人のマナー(仲田)	テキストや検定試験の問題を参考に、社会人として大切なマナーについて考える。※めばえドリルの進捗状況について講評し、必要に応じて注意する。	復習：授業で配布した資料などをよく読んで復習し気づいたことをノートに書く。予習：次回のテーマからキーワードを2つ以上調べておく。課題が出た場合はそれを完成させ提出する。	60
10	ビジネスマナー(2)接遇のマナー(仲田)	好感の持たれる服装・身だしなみ・立ち居振る舞いについて理解するとともに、来客対応の基本マナーについて学ぶ。	〃	60
11	ビジネスマナー(3)交際のマナー(仲田)	社会人として身に着けておくべき慶事、弔事に際してのマナーについて学ぶ。	〃	60
12	公務員試験対策（1）(仲田)	公務員試験の準備方法や、試験スケジュールについて理解する。公務員ではなく民間企業等の就職を希望する者も、就職活動全体のスケジュール感覚を養うために把握をする。	公務員試験を含めた就職活動スケジュールの全体像を理解できるよう、配布資料等を復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	公務員試験対策（２）（仲田）	公務員試験対策の問題に取り組み、試験内容を理解する。 公務員ではなく民間企業等の就職を希望する者も、一般常識試験の対策として、取り組む。	公務員試験対策の問題で不正解であった箇所の解説を読み、復習をする。	60
14	SPI対策（２）（山口、仲田）	めばえドリル３SPIを実施する。	めばえドリルで不正解であった箇所の解説を読み、復習をする。	60
15	まとめ・講評（山口、仲田）	※めばえドリルの進捗状況について講評し優秀者を発表、提出物の状況を確認し授業を振り返りフィードバックする。	授業終了後も関連書籍を読み各自で学び続ける。	60

授業名	ビジネスホスピタリティ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎知野 愛			
開講期	Ⅱ			
授業の概要	就職活動や社会人となってから役に立つように、ビジネス面を意識したホスピタリティの精神の重要性や実践例を具体的に学ぶ。吉田いくよ先生は現在アナウンス業の会社取締役としての経験を活かして、社会人としての心構えや電話対応の仕方などの授業を行う。知野は元日本看護協会調査研究室での調査研究員経験を活かし授業ガイダンス・全体的運営に携わる。最終授業で課題全体に対するフィードバックを行う。			
授業の到達目標	授業目標は、将来どのような職に就職しても重要となるホスピタリティの精神を学び実践できる人になること。達成目標は、授業中の課題を確実に提出すること、レポートを指定通りに提出すること。 単位認定の最低水準:内容の8割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	①授業時の提出物(60点)②レポート(40点)	
テキスト	指定しません			
参考書	必要に応じて紹介します			
学生への要望	最終的に「私が考えるホスピタリティ」についてレポートを提出し発表することを目標とします。			
位置付け・水準	位置づけ・水準:CD2135			
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係:1)知識理解、3)課題解決力、4)主体的行動力			
オフィスタイム	月曜Ⅲ限、金曜Ⅱ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)			
アクティブラーニング実施内容	吉田いくよ先生担当3回目、4回目では実際の電話対応をアクティブラーニングで学ぶ			
実務家教員の経歴	【実務経歴】(吉田)有限会社ヴォイス・プロ代表取締役・元福島中央テレビアナウンサー、(知野)元日本看護協会調査研究室勤務、調査研究員			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、ホスピタリティを学ぶ意義(知野)	シラバスに基づいて授業の概要、目標、成績評価の付け方を説明する。「ホスピタリティ」の重要性を文献から紹介し、ホスピタリティの重要性を考える。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
2	社会人としての心構え(吉田いくよ先生1)	社会人としての心構え、言葉遣いの基本と敬語、クッション言葉、職場での態度、心得ておくべき点を具体的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
3	看護や介護現場でのホスピタリティを学ぶ(知野)	介護の場で実施されている様々な事例を紹介し、真のホスピタリティの実践とは何かを考える。「利用者の気持ちを感じ取るトレーニング」視聴。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
4	パフォーマンス技術を磨く(吉田いくよ先生2)	自己表現の重要性。自分の思いをいかに相手に伝えるか、様々な年齢の人々とコミュニケーションをとれるようになる。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
5	電話対応の仕方(吉田いくよ先生3)	電話のかけ方・受け方の基本(1)、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への応対等を実践的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
6	ビジネスシーンでの様々な留意事項(吉田いくよ先生4)	電話のかけ方・受け方の基本(2)、伝言メモの取り方、クレーム対応の仕方、伝言依頼電話への応対等を実践的に学ぶ。(「授業概要」記載の実務経歴による)	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
7	発達障害を抱える子どもとホスピタリティ(知野)	障がいを抱える人々との共生、相手を思いやる心について、様々な事例を基に学ぶ。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
8	衣服とホスピタリティ(1)(田辺真弓先生1)	服装が初対面の人に与える印象に大きくかわることを知り、社会人として知っておくべき服装のマナーとして、ビジネスの場にふさわしい服装ならびに冠婚葬祭時の服装について学ぶ。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
9	衣服とホスピタリティ(2)(田辺真弓先生2)	衣服は人間の心と深くかわっており、衣服には着る人の健康や幸福を願う心情が託されてきた。このことを理解し、衣生活におけるホスピタリティについて考える。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
10	ホテルにおけるホスピタリティ(ゲストスピーカー、知野)	講話を聴く。ホテル・旅館等の宿泊施設でのホスピタリティの実践例、社会人として心掛けるべきこと、キャリア形成、就職活動で気をつけるべき点などを学ぶ。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	前回講義の感想発表(知野)	感想や意見を発表する。他の人の考えを知り理解を深める。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
12	レポート作成	テーマ:授業を通じて(または関連書籍を読み)考えた「私が考えるホスピタリティとは」をA4版1枚(32字×40行)にまとめて提出する。PC、書籍、資料などを持参すること	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
13	レポート結果を発表する(1)	3つのグループに分かれて第1グループが発表する。質疑応答、講評をする。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
14	レポート結果を発表する(2)	3つのグループに分かれて第2グループが発表する。質疑応答、講評をする。	予習:ホスピタリティに関する文献を積極的に読む。復習:配布資料を読み直し疑問点などを調べる。	60
15	プレゼンテーション(3)、全体の講評、フィードバック	3つのグループに分かれて第3グループが発表する。講評する。レポートにコメントをつけてフィードバックする。	自分が興味関心をもった分野の書籍を読む。	60

授業名	マーケティング論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎佐藤 啓三		
開講期			
授業の概要	「マーケティング」は一部の人たちが理解して取り組みればよかった時代から、今やビジネスパーソンの誰もがマーケティングを意識しなければならない時代となった。マーケティングとは何か？ マーケティングが世の中でどのような役割を果たしているのか？ マーケティングをうまく実行していく上で「理論」がどのように役に立つのか？ デジタルの進化でマーケティングはどう変化しているのか？ そしてマーケティング活動を推進していく上で最も理解しておくべき「消費者行動」とは何か？ 企業が目指すべき今後のマーケティングの方向性とは何か？ について学ぶ。そして終盤では「一消費者」という立場（視点）から見た社会の様々な課題についてを学ぶ。 流通業及び総合広告業での企画部門（マーケティング分野を含む）での勤務経験を活かして、企業がどのようにマーケティングに取り組んでいるのかを実例を挙げながら講義していく。実務経歴：西友 にて百貨店やショッピングモールの営業計画マネージャー及びファッション専門店ビルの館長を経験、その後ゼビオ本社にて販売促進チームリーダーを経験した後に地元総合広告代理店にて執行役員企画制作部長を経験。 課題に対してのフィードバックは、レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。 位置づけ・水準：CD2137		
授業の到達目標	本授業における達成目標は次の通りとする。 1. これからのビジネスパーソンの誰が必要とされるマーケティングの基礎知識を身につける。 2. マーケティングと社会責任の関係についての基礎知識を身につけ、これからの自分の取るべき消費行動についても考えられるようになる。 単位認定の最低基準 ＝「内容の6割は理解できること」 ディプロマ・ポリシーとの関係：2)創造的思考力、4)論理的な課題探求力と課題解決に向けた主体的行動力		
履修条件	地域創成学科1年	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題により評価する。課題は中盤に1回、終盤に1回の合計2回提示し（レポート提出形式にて）確認を行う。評価の比率は中盤を40％、終盤を60％とする。
テキスト	無し。（適宜資料配布）		
参考書	無し。		
学生への要望	授業内容を自分の実生活（消費行動）に置き換えて考えることで、理解を深めて欲しい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション 1. マーケティングとは？ ①マーケティング論の成り立ち ②マーケティングの基本概念	この授業の目的・内容・成績評価等について説明する。 ■マーケティングの基礎編についての講義。 マーケティングとは何か？マーケティングが世の中でどのような役割を果たしているのか？マーケティングをうまく実行していく上で「理論」がどのように役に立つのか？の3点を中心に学ぶ。	■復習として 身近にある商品やサービスで、実際にどのようなマーケティング活動がなされていたのかを考えてみる。	30
2	1. マーケティングとは？ ③デジタル・マーケティング ④「消費者行動論」についてのイントロダクション	■デジタル・マーケティングの基礎知識となる「理論」や「概念」について学ぶ。 ■マーケティング実践の出発点である「ターゲットを知ること」（＝消費者行動を知ること）が、いかに重要な分野であるかということを理解する。	■復習として アマゾン、ライン、インスタ、FBなど、普段自分たちが何気なく関わっているデジタル・マーケティングについて、講義内容を振り返りながら結び付けて考えてみる。	30
3	2. 消費者行動論 ◇個人としての消費者とは ①知覚について ②学習について	■生活者が消費行動をとるときに製品やサービスなどのそれらに関連する情報を「知覚」するプロセスを学ぶ。 ■経験によって引き起こされる行動の永続的变化のことを指す「学習」について学ぶ。	■復習として 「知覚」と「学習」について、自分の生活の中で実際にあった消費行動を振り返りながら当てはめてみる。	30
4	2. 消費者行動論 ◇個人としての消費者とは ③記憶について ④態度について	■生活者が消費活動をする際に大きな役割を果たしている「記憶」について学ぶ。 ■何かを対象にする際に「好き・嫌い」や「良い・悪い」などの評価をする「態度」について学ぶ。	■復習として 「記憶」と「態度」について、自分の生活の中で実際にあった消費行動を振り返りながら当てはめてみる。	30
5	2. 消費者行動論 ◇個人としての消費者とは ⑤意思決定について ◇個人消費者へのマーケティング ①セグメンテーション	■生活者が消費についてどのように「意思決定」しているのかを学ぶ。 ■個人消費者へのマーケティング編の最初は「市場のセグメンテーション」について、デモグラフィックスとサイコグラフィックスを中心に学ぶ。	■復習として 「個人としての消費者」についての全体的復習をしておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	2. 消費者行動論 ◇個人消費者へのマーケティング ②コミュニケーション ③店頭マーケティング	■企業が発信している「説得的コミュニケーション」について「メッセージ効果」と「発信源効果」を中心に学ぶ。 ■店舗には消費者に購入してもらうための知恵や工夫が詰まっていることを事例を通して学ぶ。	■復習として CMなどで多くみられる説得的コミュニケーションをピックアップし、なぜ多いのかを考えてみる。	30
7	2. 消費者行動論 ◇社会的存在としての消費者 ①アイデンティティ ②家族	■消費という行為が「私とは何か？」ということとどのように関係しているのかを学ぶ。 ■家族による消費において、メンバーが担っているそれぞれの役割の違いについて学ぶ。	■復習として 家族の形態の変化、「ひとり暮らしが多くなった」という視点で、コンビニではどのような対応をとっているかを観察してみる。	30
8	2. 消費者行動論 ◇社会的存在としての消費者 ③集団 ④ステイタス	■消費活動の中でも他者の影響を受ける（特に集団の中）ことについて学ぶ。 ■消費行動とステイタスについて、集団内や集団間におけるレベルに注目して学ぶ。	■復習として 最近自分が取り入れた流行を取り上げ、それがどこから発生したのか、自分はなぜそれを取り上げたのかを考えてみる。	30
9	2. 消費者行動論 ◇社会的存在としての消費者 ⑤サブカルチャー ⑥文化	■ある軸で集団が共有している文化である「サブカルチャー」と消費行動の関係について学ぶ。 ■文化と消費、聖なる消費と俗なる消費、儀式としての消費について学ぶ。	■復習として 日頃行っている儀式としての消費を考えてみる。	30
10	3. 行動経済学について ◇不合理な消費者行動の存在 ①行動経済学とは何か？ ②インサイトとは何か？	従来の経済学では「経済活動において人は合理的な判断をする」というのが定説であるが、実際の消費者行動をみると実に不合理にあふれていることがわかる。リチャード・セイラー教授がノーベル賞を受賞したことで注目されてきた「行動経済学」についての概要と、それを企業がマーケティング上でどのように活かしているかについて学ぶ。	■復習として 自分でも不合理な消費活動をしたことを思い出し、なぜそのような行動になったかを考えてみる。	30
11	4. これからのマーケティング ◇関係のマネジメント ①顧客理解のマネジメント ②顧客関係のマネジメント	企業側は、消費者行動を調査・理解したうえで、生活者とのような関係を構築しようとしているのかを学ぶ。 ■インサイトとは何か？ ■顧客理解の事例（自動車メーカー）、顧客関係の事例（アウトドアメーカー）	■復習として 身近にある商品で、徹底した顧客理解をもとに開発された商品はないかどうか考えてみる。	45
12	4. これからのマーケティング ◇社会責任のマネジメント ①マーケティングとCSR ②CSV経営とは？	過去、マーケティングとCSRは別ものと考えられがちだったが、現在ではCSRはマーケティングの今後の広がりと期待されている。そして、新たにCSVを経営の中核として取り組む企業も出てきた。ここではそれらを学ぶ。	■復習として 企業の公共性とはどのような考えか？どのような問題があるかを考えてみる。	30
13	4. これからのマーケティング ◇社会責任のマネジメント ③SDGsとは？ ④SDGsとCSVの関係	SDGsとは何か？企業はSDGsにどう取り組んでいこうとしているのか？（CSRとCSVの違い）生活者は消費活動の中でどうSDGsに取り組んでいかなければならないのか？等々について学ぶ。	■復習として 企業としてすぐに取り組んでくんでいるSDGsには何があるのかについて考えてみる。	30
14	5. 消費生活概論 ◇生活知識 ①地球環境問題 ②エネルギー需給問題 ③もう一度SDGsを考える	エネルギーや環境の問題は、地球全体で知恵を出し合って考えていかなければならず、そこに住む1人ひとりの意識と消費行動が将来を大きく左右することとなる。これらはSDGsの取り組みの中でも重要な課題でもある。ここでは、企業側のマーケティング視点ではなく、ひとりの生活者としてどう意識を変えて向き合っていかなければならないかということ学ぶ。	■復習として 個人としてすぐに取り組めるSDGsについて考えてみる。	45
15	5. 消費生活概論 ◇生活知識 ①（衣・食・住）生活の今後の課題 ②ICTサービス利用と今後の課題 ③契約トラブルについて	企業側からの視点ではなく、「一消費者」という立場（視点）から見た社会の様々な課題について、ポイントを絞りながら学ぶ。また、社会人として世に出ていった際の「契約」に関するトラブルを未然に防ぐ知識を身につける。	■復習として 今後の課題であがっていた各内容を自分の生活に置き換えてみて、自分はどのように対応していけば良いかを具体的に考えてみる。	30

授業名	経営学基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎長谷川 貴弘			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	経営学とは、急速に変化する社会の中で組織をいかに効率的に運営するかという組織論的側面と、「企業」という特定の存在を扱う企業論的側面の二つがある。本講義では、経営学の基礎的な内容を学修することを通じて、公務員試験の経営学の問題に答えることのできる知識を養うことを目標とする。 【課題（小テスト）に対するフィードバックの方法について】 小テスト採点后、特に誤りが多かった部分についてその後の授業で解説を行う。			
授業の到達目標	経営学の基礎的な知識を習得し、公務員試験の過去問題等に対応できるだけの能力を培うことを目標とする。この目標の8割程度を達成することをもって単位認定の最低基準とする。			
履修条件	地域創成学科 1年生	成績の 評価方法・基準	小テスト20点（1回×20点） 定期試験80点	
テキスト	プリントを配布。			
参考書	担当教員が適宜紹介する。			
学生への要望	プリントを配布するので、授業内容の把握に活用すること。授業中の私語を慎み、確実に理解を深めること（小テスト等で確認する）。			
位置付け・水準	CD2138			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解			
オフィスタイム	月曜日 4コマ目 木曜日 4コマ目 食品経営学研究室			
アクティブラーニング実施内容	特になし			
実務家教員の経歴	特になし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス及び企業論①	授業の内容について紹介し、併せて経営学の中心的概念である「企業」とは何か、その企業の二つの側面について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	30
2	企業論②	様々な企業の形態について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
3	企業論③	企業集中（カルテル、トラスト、コンツェルン）について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
4	企業論④	株式会社制度とコーポレート・ガバナンスについて学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
5	伝統的管理論①	テイラーとファヨールの伝統的管理論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
6	伝統的管理論②	テイラーとファヨールの伝統的管理論について学修する（前回の続き）。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
7	伝統的管理論③	ホーソン実験と人間関係論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
8	伝統的管理論④	D.マクレガーのX理論・Y理論他各種理論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
9	伝統的管理論⑤	V.H.グルームの期待理論他各種理論について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
10	経営組織論①	経営組織の基本構造（ライン組織、ファンクショナル組織、ラインアンドスタッフ組織、事業部制組織等）について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
11	経営組織論②	その他の経営組織の形態（プロジェクトチーム等）について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
12	経営組織論③	組織の一般原則について学修する。	プリントを読んで内容を把握すること。	60
13	経営戦略論①	経営戦略の定義、経営資源、経営の各種戦略について学修する。	プリントを読んで内容を把握し、小テストや定期試験に備えること。	90
14	経営戦略論②	経営の各種戦略について学修する。（前回の続き）	プリントを読んで内容を把握し、小テストや定期試験に備えること。	90
15	学修内容の復習	これまでの学修内容を過去の公務員試験問題等を通じて復習し、小テストを実施する。	プリントを読んで内容を把握し、定期試験に備えること。	90

授業名	地域デザイン論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	本講義ではソーシャルデザインの方法と事例について学ぶ。外部講師を招聘して、地域課題に対する理解を深めるとともに、実践上の問題を取り上げていただき、どのように解決していったかをお話しいただく。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：各回でミニッツペーパーを配布する。興味・関心や疑問点、理解度について確認を行いフィードバックする。 ・位置づけ・水準 CD2139		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①「ソーシャルデザイン」の理論と方法について、その意味と価値を理解する。 ②「ソーシャルデザイン」の考え方を援用した地域社会の課題解決について理解する。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
履修条件	地域創成学科2年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①授業への態度・意欲（30%）②授業内容の理解度（30%）③レポート（40%）
テキスト	適宜、ハンドアウトを配布する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	地域デザイン論の授業内容、目標、成績評価、教科書、参考書について説明する。	シラバスの内容を確認する。	60
2	ソーシャルデザイン	ソーシャルデザインの方法と事例について解説する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
3	デザイン思考①	ソーシャルデザインにおいてデザイン思考は有効な方法とされている。デザイン思考の歴史、方法について講義を行う。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
4	デザイン思考②	デザイン思考の「共感」「課題定義」のプロセスについて講義を行う。対話、インタビューの方法について実践する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。ループリックをもとに対話の振り返りを行う。	60
5	デザイン思考③	デザイン思考の「共感」「課題定義」のプロセスについて講義を行う。対話、インタビューの方法について実践する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。ループリックをもとに対話の振り返りを行う。	60
6	デザイン思考④	デザイン思考の「アイデア創出」プロセスについて講義を行ない、グループワークで実践する。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
7	デザイン思考⑤	デザイン思考の「プロトタイプ」「テスト」のプロセスについて講義を行う。	配布資料を読んで、授業内容をノートに整理する。	60
8	外部講師による講演Ⅰ-①	外部講師による講義を前に、事前学習を行う。	事前学習をもとに質問事項を考える。	60
9	外部講師による講演Ⅰ-②	外部講師による講演を行う。※実施日に変更が生じる場合がある。	講演内容をもとにレポートを作成する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	外部講師による講演Ⅰ-③	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションを行い、内容をまとめる。	ループリックをもとにディスカッションの振り返りを行う。	60
11	外部講師による講演Ⅰ-④	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションの結果を発表する。	他のグループの発表内容を確認する。	60
12	外部講師による講演Ⅱ-①	外部講師による講義を前に、事前学習を行う。	事前学習をもとに質問事項を考える。	60
13	外部講師による講演Ⅱ-②	外部講師による講演を行う。※実施日に変更が生じる場合がある。	講演内容をもとにレポートを作成する。	60
14	外部講師による講演Ⅱ-③	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションを行い、内容をまとめる。	ループリックをもとにディスカッションの振り返りを行う。	60
15	外部講師による講演Ⅱ-④	外部講師から提案された議題について、グループディスカッションの結果を発表する。	他のグループの発表内容を確認する。	60

授業名	チーム発想法概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	社会では、チームの目的達成のためにリーダーシップ・フォロワーシップを意識ながら適切な手法を用いて議論する力を身に着けていることが望まれます。チームで課題解決を行うための各種手法（ブレインストーミング・KJ法・マインドマップ等）を学び、協調して建設的な課題解決のスキルを身に付けます。授業は基本的にアクティブラーニング形式を取り進めます。			
	随時質問を授業内外で受け付け、対面でフィードバックを行います。			
授業の到達目標	1. チームでの課題解決方法の考えを理解すること 2. 問題解決に向けた議論ができること 3. 主体的・能動的に自分の意見を出したり、他人の意見を尊重し建設的なチームワークが発揮できること			
	単位認定の最低基準：内容の70%程度を達成していること			
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは、チーム発想法実践で作成する各種成果物で評価する。具体的な採点配分は、「ブレインストーミング20%」「KJ法20%」「マインドマップ20%」「マンダラート20%」「プレゼンテーション20%」である。	
テキスト	担当教員作成のプリント			
参考書	なし			
学生への要望	自分の発言に自信を持ち、主体的に各種アクティブラーニングに参加してください。			
位置付け・水準	CD2140			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通してグループワークによるアイデア発想のアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・チーム編成	授業内容を解説するとともに、授業の最も重要なチーム編成を決定する	ガイダンスのあった内容を理解する。	30
2	アイスブレイク	チーム編成直後は、お互いを知らないために、チームワークを発揮することが難しい。そこで、さまざまな方法でチームメンバー間の信頼や緊張感緩和を促すアイスブレイクが有効である。授業では、いくつかのアイスブレイク方法の解説と、実践を行う。	自分の所属チームのメンバーと連絡先の交換などをおこない、コミュニケーションを図る。	30
3	ブレインストーミングの理解・実践	アレックス・F・オズボーン氏が考案したチーム発想法「ブレインストーミング」を学ぶ。ブレインストーミングのルールを学んだ後、チームで実践を行う。以降の授業で実践するチーム実践は、共通テーマの課題解決を想定し、行っていく。テーマは授業内で説明する。	ブレインストーミングを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
4	ブレインストーミングの実践・まとめ	前回の授業から継続し、ブレインストーミングの実践を行う。また、実践後には、ブレインストーミング手法のメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	ブレインストーミングを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
5	KJ法の理解・実践	川喜多二郎（かわきた じろう）氏が考案した情報をまとめる手法「KJ法」を学ぶ。KJ法のルールを学んだ後、チームで実践を行う。KJ法には、前回の授業までに実施したブレインストーミング実践結果を用いる。	KJ法を理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
6	KJ法の実践・まとめ	前回の授業から継続し、KJ法の実践を行う。また、実践後には、KJ法のメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	KJ法を理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
7	マインドマップの理解・実践	トニー・ブザン氏が考案した思考手法「マインドマップ」を学ぶ。マインドマップのルールを学んだあと、チームで実践を行う。マインドマップには、前回の授業までに実施したブレインストーミングおよびKJ法の実践結果を用いる。	マインドマップを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	マインドマップの実践・まとめ	前回の授業から継続し、マインドマップの実践を行う、また、実践後には、マインドマップのメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	マインドマップを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
9	マンダラートの理解・実践	今泉浩晃（いまいずみ ひろあき）氏が考案した発想法「マンダラート（マンダラチャートとも呼ばれる）」を学ぶ。マンダラートのルールを学んだあと、チームで実践を行う。マンダラートには、前回の授業までに実施したブレインストーミング、KJ法、マインドマップの実践結果を用いる。	マンダラートを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
10	マンダラートの実践・まとめ	前回の授業から継続し、マンダラートの実践を行う。また、実践後には、マンダラートのメリット・デメリットを理解するための、まとめ作業を行う。	マンダラートを理解するために、チーム実践結果を写真などに撮影し、復習する。	60
11	プレゼンテーション準備	ブレインストーミング、KJ法、マインドマップ、マンダラートの実践結果を踏まえて、チームで議論した結果を、プレゼンテーションするための、準備を行う。	プレゼンテーション準備のためにチーム内で分担した役割や作業を、次回の授業で遅延がないように作業を進める。	60
12	プレゼンテーション準備（続き）	前回の授業から継続し、プレゼンテーション準備を行う。	プレゼンテーション準備のためにチーム内で分担した役割や作業を、次回の授業で遅延がないように作業を進める。	60
13	プレゼンテーション実施	プレゼンテーションを実施する。プレゼンテーション実施チームは、全体の半分とし、残りは、次回の発表とする。プレゼンテーションを行わないチームは、評価者として、プレゼンテーション内容の採点を行う。	プレゼンテーションを実施したチームは、プレゼンテーション内容を反省する。評価者となったチームは、評価結果をまとめる。	60
14	プレゼンテーション実施（続き）	前回の授業から継続し、実施する。	プレゼンテーションを実施したチームは、プレゼンテーション内容を反省する。評価者となったチームは、評価結果をまとめる。	60
15	総合まとめ	授業内で学んだチーム発想法を振り返る。	成果物（ブレインストーミング・KJ法・マインドマップ・マンダラート）を復習し、チーム発想に自身が果たした役割や、課題について整理する。	60

授業名	日本文化史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 愛未			
開講期				
授業の概要	日本社会の移り変わりに影響を受け、様々な発展を遂げた日本文化について近世を中心に検証を行う。社会と文化の関わりから、その特質・独自性を考えてみる。 授業テーマは、「江戸～明治時代の政治・社会と文化」である。徳川幕府成立から明治新政府の行った政策などとの関わりからどのように日本の文化が形成されていったのかを紹介する。 なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	現代に通じる日本文化形成の理解を深め、日本史や現代社会においての視野を広げる。を達成目標とします。 単位認定の最低基準は、 ①授業内容の7割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	①課題レポート30点 ②期末試験70点	
テキスト	プリントを配布する。			
参考書	尾藤正英『日本文化の歴史』岩波新書、2000年 青木美智男『近世庶民文化史 日本文化の原型』小学館、2009年 ほか適宜指示する			
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。			
位置付け・水準	CD2151			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解・創造的思考力			
オフィスタイム	火曜日・水曜日のⅡ時間目。創学館4階、No.5研究室			
アクティブラーニング実施内容	ミニットペーパーの提出			
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・南蛮文化の伝来と安土桃山文化	ガイダンスを行う。その後、以下の内容で授業を行う。15世紀に始まった「大航海時代」の波は天文12年(1543)ポルトガル人の種子島上陸により、日本にも押し寄せた。渡来したポルトガル人・スペイン人えお南蛮人とよび彼らがもたらした南蛮文化と呼ばれる。その当時の日本文化とされる安土桃山文化との関わりを検討する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	寛永文化と「鎖国」	徳川家康は慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いに勝利し、同8年に征夷大將軍就任、江戸幕府を開いた。その頃の17世紀前半の文化を寛永文化とよぶ。サロンの文化と呼ばれ茶の湯や和歌が中心となった寛永文化と幕府の「鎖国」政策との関係を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	文治政治への転換と文化	江戸幕府4代目将軍家綱の治政の後半にあたる寛文期は武断政治から文治政治へと転換した時期である。この時期は文化の面でも同じく転換期とされており仏教・学問など様々な変容が見られる。そこから、文治政治と文化の関わりを検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	「浮世」の元禄文化と町人	17世紀末から18世紀のはじめにかけての元禄の頃は、上方を中心に都市がにぎわい、文化が栄えた時代である。そのため、元禄文化は「浮世」という言葉で代表され、独特の民衆文化が芽生え始めた時代とされている。一方で、身分制社会の文化としての特徴を持っていた文化でもある。この文化を理解するために時代背景と合わせて文化を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	松尾芭蕉と俳諧	元禄文化では武士階級出身の担い手も多く、『奥の細道』で知られる松尾芭蕉もその一人であり、俳諧で蕉風を確立させる。福島県内にも立ち寄りいくつかの俳句を残している。また、芭蕉の旅は地方の門人によって支えられていた。そこで、芭蕉が福島県での旅で出会った相楽等躬をはじめとする人々との関わりなどを検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
6	実学の発展と『会津農書』	元禄時代には諸産業の発達にともない、実学が発展する。実学とは、人々の日々の生活に実際に役立つ学問、実際の見聞にもとづく学問のことである。それは、本草学・和算・医学・農学など様々である。農学では、会津藩の村役人である佐瀬与次右衛門が記した『会津農書』が著名である。そこで、生活を豊かにする実学を中心に当時の庶民の生活を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	宝暦・天明文化と洋学	宝暦・天明期になると学問世界にも新しい動きが現れてくる。その中でも、西洋学術の研究が本格的にはじまり、洋学が大いに発展することになった。なかでも、医学や天文暦学などが中心となり、研究が進められ多くの分野にわたり特異な能力を発揮する人々があらわれた。この時代に活躍した伊能忠敬や平賀源内などを通して文化を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	亜欧堂田善と洋風画	須賀川で生まれた永田善吉（後の亜欧堂田善）は、白河藩主松平定信との出会いから、洋風画家の谷文晁や銅版画家の司馬江漢の弟子となり技術を学び、数々の作品を生み出した。江戸で活躍し、晩年に郷里へ戻った亜欧堂田善の生涯を検証していく。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	町人の文化「化政文化」	江戸時代後期になると文化の中心が江戸に移っていく。この時期の文化は化政文化と称される。浮世絵や遠方の寺社や名所への旅も盛んに行われるようになった。「いき」と遊興から、当時の町人の生活を考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	学問の発展と諸藩教育	江戸時代では、幕府・藩による学問の奨励や経済の変化により、武士・庶民を問わず教育が普及した。そこで諸藩には、主に藩士の子弟教育を行う機関として藩が運営した藩校が数多く誕生する。会津藩の「日新館」など福島の中にも藩校を創設した藩がいくつかあった。そこで、福島にあった藩校教育から、藩の教育について探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	伝統工芸品と諸藩	現在、「伝統工芸品」が全国各地で生産されているが、その中には美術工芸品として重要文化財・重要有形民俗文化財に登録されているものもみられる。この工芸品は江戸時代に藩の政策により奨励された例もいくつかある。このことについて工芸品と藩政策の関係を検討する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	洋学と留学生	開国後、欧米の国々との交流を行って、欧米の文化や学術を取り入れて近代化を目指すとした。そのため、幕府及び諸藩は、文化・学術を学ぶために国内外へ留学生を派遣した。それらの留学がそのようなものだったのかを探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	文明開化と「和魂洋才」	明治初期、欧米の文物・制度を取り入れ日本の近代化を図ることが国家目標になった。文明開化の風潮がひろまり、政府主導で積極的な西洋文化の導入が図られ急激な西洋化が図られたが、日本の伝統を見直そうという反動の動きも起こり「和魂洋才」という言葉もよく使われた。文明開化と「和魂洋才」について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	万博とジャポニスム	日本は慶応3（1867）年に初めて万国博覧会（パリ万博）へ出品参加をする。また、明治6（1873）年のウィーン万博にも参加する。それをきっかけに、日本美術（浮世絵、琳派、工芸品など）が注目され、西洋の作家たちに大きな影響を与えた。日本の万博参加と西洋で広まったジャポニスムについて考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	明治政府とお雇い外国人	日本には幕末から明治にかけて、「殖産興業」などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人であるお雇い外国人を官庁や学校に招聘した。そのなかで東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入したドイツ人外交官のオットマール・フォン・モールという人物がいる。そこで、オットマール・フォン・モールを中心にお雇い外国人について探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

授業名	ヨーロッパ文化史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎桑野 聡			
開講期				
授業の概要	現代社会の共通要素として大きな意味をもつヨーロッパ文明（欧米文化）の形成と近代化について、古代・中世～近現代にいたる過程を概観します。また歴史を大学の学問として学ぶ際の一つの切り口として歴史学の歴史と歴史観の問題に着目します。同じ事実が異なった解釈を生むことで歴史像が作り上げられ、変容することを学ぶことで、歴史とは単なる暗記科目ではないことを体感したいと思います。			
授業の到達目標	大学で歴史学を学ぶ基本姿勢を整え、現在の日本が直面する歴史問題や周辺諸国との関係、国際社会における役割などを正しく考える基本姿勢を育むことを目的とします。その成果として単位認定の最低基準は、課題の期末レポートに対して歴史学の知識を用いて論理的な文章を書くことが出来ることです。			
履修条件	地域創成学科 1・2年生・一般聴講生（生涯学習参加者等）	成績の 評価方法・基準	毎回の確認ワーク（最大 4 × 15 = 60点）と必須期末レポート（40点）で評価	
テキスト	特に使用しないが、参考書が本講義の骨子部分は網羅しているため、一読を薦める（本学図書館所蔵）。WLRにパワーポイント資料を掲載。授業時に配布資料あり。			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説』全2巻 DTP出版 2006年 （希望者は購入可能） 金澤周作 監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020年			
学生への要望	①地図を見る姿勢、②新聞・ニュースを見る姿勢、③高校世界史の基礎知識の確認を期待する。			
位置付け・水準	CD2152			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解・創造的思考力			
オフィスタイム	火曜V時限目。			
アクティブラーニング実施内容	毎回のワークとレポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。	講義で話した3つの基本姿勢を大切に、次回からの授業のために準備をする。	60
2	歴史学のあゆみ	大学で歴史を学ぶための一つの切り口として「歴史学」の歴史を取り上げる。19世紀に確立した近代歴史学が、現在どのような状態にあるかを解説する。これによって歴史学とは、単なる暗記科目ではなく、現代社会と自己の関係を考えることになることを確認する。	高校までの西洋史の知識を思い出すだけでなく、「歴史ってなんだろう？」と考えてみる。そして、参考文献を手にとってみる。	120
3	古代世界①	ギリシア・ローマをオリエント世界と共に古代地中海世界という独自の文明世界として考える立場を紹介する。	地中海世界をイメージしてみる。そのために必要な情報を集める。	120
4	古代世界②	ケルト・ゲルマンを中心に古代地中海世界の周辺民族文明について紹介し、ローマの滅亡が単純な「蛮族の侵入」として理解されるべきではないことを解説する。	文明の中心と辺境の関係を理解する。日本の場合の畿内（西日本）と東北の関係などを自分で想像してみる。	120
5	古代世界③	古代末期（4～7世紀頃）に地中海世界が分裂していく過程を概観し、H.ピレヌやH.オパンのテーゼなどを例に発想の転換の重要性を確認する。	同じ事実をどう解釈するかで歴史像が違ってくことを理解し、その背後にある歴史観を考える。	120
6	中世世界① 前期中世（カロリング・ルネサンス）	前期中世（7～10世紀頃）の西方世界がヨーロッパとして分離・形成されてくる上で重要なカロリング朝フランク王国の役割について解説する。	同じ国名でも時代と関係によって役割が異なることで歴史が動くことを理解する。	120
7	中世世界② 盛期中世（12世紀ルネサンス）	盛期中世（11～13世紀頃）にキリスト教世界として確立するヨーロッパ文明圏の形成を概観し、この時期にヨーロッパが古代文明やビザンツ・イスラム世界などから継受した多様な文化を融合させながら独自の文化を確立した「12世紀ルネサンス」について解説する。	12世紀にヨーロッパ文明が誕生したという考え方を理解し、疑問があれば議論できる準備をする。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	中世世界③ 後期中世（ルネサンス時代）	後期中世（14～16世紀頃）のヨーロッパが封建制の危機の中で新しい価値観（人文主義）を手掛かりに、ルネサンスや宗教改革、大航海時代などに象徴される歴史の転換点に立ったことを解説する。	かつて近代のはじまりとされたルネサンスが、現在は中世として扱われる理由を理解する。	120
9	近世① 絶対主義時代	近世（16～18世紀頃）を特徴づける絶対主義の構造を解説し、宗教戦争や重商主義政策などがヨーロッパ文明の世界への拡大と不可分に結びついていたことを確認する。	近代化のステップと発展のプロセスを理解する。封建制・封建社会が7世紀と12世紀、そして18世紀では全く違うことを理解する。	120
10	近世② 啓蒙主義と市民革命	近世（16～18世紀頃）に顕著となる12世紀以来の個人主義・現実主義などがさまざまな形でヨーロッパ文明を特徴づけ、近代のヨーロッパ社会の形成へと繋がることを解説する。	私たちの近代市民社会の理念を確立した啓蒙主義と市民革命とは何かを理解する。	120
11	近代① ヨーロッパの世紀	19世紀のヨーロッパの変容を概観します。前半のウィーン体制の崩壊による近代市民社会の形成、後半のビスマルク体制の崩壊による世界大戦への疾走の歴史を解説する。	19世紀という時代のダイナミズムを感じる。同じ時代に日本も幕末から明治への転換を経験することと連動した理解が重要。	120
12	近代② 産業革命と帝国主義	ヨーロッパの経済発展が民主的な近代市民社会の発展に大きな貢献を果たす一方で、帝国主義による世界支配を作り上げていったメカニズムを解説する。	ヨーロッパの功罪二つの側面を正しく理解することが21世紀の課題に応えるための大切な前提であることを理解。	120
13	近代③ 二つの世界大戦とファシズム	列強の帝国主義政策が招いた二度の世界大戦の中で台頭した共産主義とファシズムという二つの亡霊の中で、まずファシズムのもつ現代的危険性について解説する。	ファシズムという現象を過去の歴史ではなく、現在も散在する問題として理解する。	120
14	近代④ 社会主義・共産主義と20世紀	19世紀ヨーロッパで生まれたマルクス主義は、第一次大戦末期のロシア革命で最初の社会主義国家建設に成功し、第二次大戦後は東西冷戦の構造を作り出した。社会主義・共産主義を単なる遺物としてではなく、私たちの未来像との関係で捉え直したい。	社会主義・共産主義を単ある前世紀の遺産としてではなく、現在進行形の未来にとって欠かせない警告であることを理解する。	120
15	まとめ 現代ヨーロッパの課題	イギリスの離脱などで揺れる統合ヨーロッパの歴史を概観し、EUが抱える今日的課題と私たちの関係を考えたい。	EUというヨーロッパの実験が何故、重要なのかを考えることで、日本の未来像をイメージする。	120

授業名	考古学	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘		
開講期			
授業の概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、現実社会に応用できる実践的な考古学について講義を行う。考古学は物から人類の過去を明らかにする学問である。考古資料というモノからどのようにして人類の過去を明らかにするのか、考古学の基本的な考え方、方法について講義を行う。課題は「めばえ」を通じて発表し、学生は期限までに提出する。それを添削し、コメントを加えフィードバックを行う。 位置付け・水準CD2153		
授業の到達目標	<到達目標>考古学の基本概念、用語を理解し、考古学論文を読解するの十分な知識を得ること。成績認定基準に基づき、7割以上の理解が望ましい。 ディプロマポリシーとの関係：知識理解創造的思考力		
履修条件	地域創成学科学生	成績の 評価方法・基準	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。 60点以上を合格とする。考古学で卒業論文を作成する学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
テキスト	浜田耕作『通論考古学』、泉拓良『考古学—その方法と現状』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	考古学とは何か	考古学的な思考の成立と簡単な研究史を述べた上で、考古学の定義と範囲について述べる。考古学のめざすものについて、考古学の現代的諸問題を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
2	考古資料論（1）	考古資料については浜田耕作の定義を紹介し、遺物、遺構、遺跡について説明し、それらを分類し、その特質を説明する。考古資料の特質、考古資料の資料的価値、考古学の限界について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
3	考古資料論（2）	考古資料の分類を説明し、実際の遺物を実例を示しながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
4	発掘調査の方法	分布調査、測量調査、予備調査、本調査の方法について説明し、さらに文化財保護法にある発掘調査の法的手続きについて説明する。	授業内容を整理する。	30
5	発掘調査の実例	郡山女子大学短期大学部文化学科考古学研究室で2001年から継続して行っている笹山原遺跡No.16の調査の積み重ねとその成果について、記録画像を見ながら説明する。宮城県東松島市里浜貝塚の発掘調査について調査の記録画像を見ながら説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
6	文化財保護法	日本では考古学と文化財は不可分の関係にある。戦後日本の考古学は埋蔵文化財保護のために莫大な予算を投入した。その法的背景にある文化財保護法について説明する。	授業で取り上げた文化財保護法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
7	層位学的研究法	特殊的研究法のひとつである層位学的研究法を概説する。 層位学的編年の例 1) 洞窟堆積層によるフランス旧石器の編年 2) 火山灰編年学を用いた広域編年 3) 貝塚堆積層を用いた縄文土器編年	授業内容を整理する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	層位的研究法の実例	松本彦七郎博士の里浜貝塚の層位的発掘調査について、東北大学理学部に保管されていた松本資料を用いて再検討を行った。その結果松本博士は正しく層位的発掘を行っていたことが明らかになった。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
9	型式学的研究法	古典的型式学。浜田耕作の型式学を説明し、O. モンテリウスや田中琢の例示した型式の組列を説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
10	型式学的研究法の実例	型式の考古学的意味について考える。J. ディーツとデスレフソンの「ドクロ、智天使、柳と骨壺」の論文を説明し、型式の意味を考える。 型式の認定方法について様々な議論がある。ホッドソンが4人の考古学者と1人の解剖学者に留め針を分類させた結果とコンピュータを用いた分析について説明する。	授業内容を整理する。	30
11	暦年代決定の方法	暦は年代決定の物差しである。キリスト紀元をいかにさかのぼらせることができるか。エジプト王名表をもとに、民衆暦とソティス暦を繋ぎ合わせたマイヤーの研究を紹介する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
12	暦年代決定の実例	日本の先史時代の暦年代は中国の暦に頼らざるを得ない。中国と直接交渉のない時代は朝鮮半島を経由して暦年代を決定している。暦年代を決定する資料を紹介しながら、日本の暦年代について説明する。日本国内においても、暦年代を決定するためには大きな困難を伴う。文献と考古資料の間がそこにはある。文献や文字資料を用いて考古資料の相対編年に暦年代を与える問題点を検討する。	授業内容を整理する。	30
13	理化学的年代決定法（1）	理化学的年代決定法は暦とはまったく別の原理に基づいて年代を決定する方法である。地球の周期的な変化に基づく年代推定法と不安定な原子が崩壊する速度を時間の単位する方法がある。まず、地球の周期的な変化から説明する。年輪年代決定法の原理と実際の応用例について説明する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
14	理化学的年代決定法（2）	放射性炭素年代測定法の原理を説明し、その実際の測定方法、測定資料、測定例を紹介する。放射性炭素年代測定法の登場によって考古学界に起こった短期編年・長期編年論争について説明する。放射性炭素年代決定法によって明らかになった年代の実例。放射性炭素年代測定の補正によって暦年代に置きなおされた年代とその問題点を検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
15	考古学と現代社会	考古学と現代社会の関係を述べ、考古学の将来を考える。	授業内容を整理する。	30

授業名	美術史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎斎藤 美保子		
開講期	I 期		
授業の概要	学芸員補（認定資格）選択科目。日本と西洋の美術史の基礎を理解し、鑑賞する力を身につける。 フィードバック：毎回ミニッツペーパーの提出を求め、次の回にコメントを付して返却する。		
授業の到達目標	①地域や時代によって特徴のある美術が作られてきたことを理解する。②重要な作品と美術家についての確かな知識を得る。 単位認定の最低基準：日本美術、西洋美術、それぞれの時代様式の違いが見極められること。		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	授業内で指示する課題（50点） 記述式の期末試験（50点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指すこと。
テキスト	必要に応じてコピーを配布する。		
参考書	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』美術出版社、高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』美術出版社		
学生への要望	図書館、美術館を積極的に活用すること。授業内で指示した資料を良く読み、作品鑑賞に努めること。		
位置付け・水準	地域創成学基礎 CD2154		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	火曜日16：10-17：05 金曜日10:30-11：30		
アクティブラーニング実施内容	第4回の授業でがいの生活文化博物館を案内する。その後は各自で見学に行き、学修に役立てる。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	古代ギリシア美術	紀元前6世紀から紀元前1世紀までの神殿建築、彫刻、陶器画を映像等で鑑賞、その様式の変遷を理解する。	ギリシア神話の知識をふやす。	90
2	古典期様式のカノン	パルテノン神殿（BC.5C）を中心に古典期様式の美の規範を理解する。定規とコンパスで黄金比を作図する。	身の回りのものから、黄金比を探す。	90
3	ガンダーラ美術	初期の釈迦像を映像等で確認しヘレニズム美術が西インドで仏教と融合、仏像が誕生した経緯を理解する。	アレキサンダー大王について調べる。	90
4	日本古代美術	神社建築等に見られる日本古来のさやかな美に、仏教伝来後に大陸的な美が加わった経緯を理解する。	開成山大神宮を参詣し、千木の形を確認する。	90
5	日本仏像美術史	飛鳥、白鳳、天平、平安、鎌倉と変化した仏像の様式史を理解する。	図書館等で仏教伝来と仏教美術について、知識を深める。	90
6	中世後期キリスト教美術	巡礼路沿いに残るロマネスク様式と、都市の大聖堂に多いゴシック様式の違いを理解する。	近隣の教会建築を見る。	90
7	平安時代の美術	遣唐使廃止後の国風化した王朝美術を＜宇治の平等院＞＜源氏物語絵巻＞、十二単などから理解する。	『源氏物語』について知識を深める。	90
8	鎌倉、室町時代の美術	鎌倉五山、鹿苑寺、慈照寺と水墨画を中心に、武士と禅宗の美術を理解する。	生活文化博物館で、各時代の服装の変遷を理解する。	90
9	初期ルネサンス	15世紀フィレンツェの彫刻、絵画を映像等で鑑賞理解する。一点透視の遠近法を作図をする。	一点透視を使って、季節の絵を描く。	90
10	盛期ルネサンス	16世紀初期のレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロの代表作を映像等で鑑賞理解する。	画集等で、三巨匠の作品を見極められるようにする。	90
11	桃山美術	戦国大名の美意識を表現した大胆で絢爛豪華な美術を映像等で鑑賞理解する。南蛮文化、茶の湯にも言及。	身近な人から、茶道や華道について話を聞いてみる。	90
12	バロック、ロココ美術	17世紀、18世紀の神話画、宗教画、人物画、風景画を映像等で鑑賞理解する。パステル画に挑戦する。	画集等で、バロックとロココの違いがわかるようにする。	90
13	近代西洋絵画	19世紀のフランスを中心とする西洋絵画の変遷を、映像等で鑑賞理解する。近隣の美術館案内をする。	郡山市立美術館、または、福島県立美術館を見学する。	270
14	浮世絵とジャポニスム	江戸時代末の浮世絵木版を鑑賞理解し、それらがフランスでジャポニスムを引き起こした経緯を理解する。	配布したコピーを読み込み、理解を深める。	90
15	印象派から20世紀美術へ	日本と欧米の交流が盛んになり、東西の美術が刺激し合って発展した経緯を理解する。	配布したコピーとノートを整理し、日本と西洋の大まかな美術の流れを理解する。	90

授業名	宗教文化史	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎福島 寅太郎		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①本学の建学精神を理解するために必要な教養的知識を習得させる。 ②教養のある現代人として宗教に関する必要な知識を身につけさせる。 〔授業の概要〕 本講義は本学の建学精神に基づいた全学科・専攻の必修科目である。 宗教は人間生活のあるところ、どの時代にもどの場所にも影響を及ぼしており、現在の私たちもまた日常生活の中で常にそれらと関わっている。グローバル化が進み、異文化間の相互理解が求められる現代において、宗教は果たしてどのような役割を果たすことができるのであろうか。 本講義は、諸宗教の思想や信仰、特に現代日本およびアジアの諸宗教におけるさまざまな事例を取り上げ、宗教学的観点から探ることを目的とする。授業への理解を深めるために、アニメなどの映像を数多く取り扱う予定である。ちなみに「トトロはオスですか、それともメスですか」。素朴な疑問が学問への重要な一歩である。 本年度は、本学の学問の特徴である「生活学」に焦点を当てて、宗教と生活との関わりを考えてみたい。具体的には、当該当該問題に関連した最新の研究書を教科書として用い、当該教科書の読解を通じて理解を深めていきたいと考えている。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準:CD2155		
授業の到達目標	〔到達目標〕 ①宗教学的“ものの見方”を理解する。 ②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。 ③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係: 知識理解、創造的思考力		
履修条件	特になし	成績の 評価方法・基準	試験成績60点、授業における発表20％、授業における参加態度20％など。理解度8割で、合とする。
テキスト	とくに指定しない。必要に応じて、授業で指示する。		
参考書	特になし。		
学生への要望	ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進み方、建学精神との関連について述べるとともに、テストや成績評価などについて紹介する。教科書についても案内する予定である。	初回に当たり、とくになし	1.5
2	生活と宗教（１）～アップル製品は何故シンプルか～	具体的には禅を取り上げる。禅の歴史や基本的な教えについて、教科書に沿って述べる。アップルの創始者・ジョブズ氏は敬虔な禅の実践者である。シンプルさを追求したアップル製品を話題にしながら、生活における禅の役割を考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
3	生活と宗教（２）～今どうして禅なのか～	前回の続き。教科書に沿って、禅とは何かを、身近な話題を通して考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
4	生活と宗教（３）～今はどうして生活禅なのか～	「生活禅」とは何か。教科書を通して学びながら、一緒に考えてみる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
5	生活と宗教（４）～ダルマとは誰か～	「達磨さんが転んだ」という鬼ごっこをみんなは一度ぐらい遊んだことがあろう。ここに出てくる達磨さんとは誰のことであろうか。歴史上の達磨さんと民間信仰のそれとの異同を明らかにしてみたい。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
6	生活と宗教（５）～般若心経とはどんな教えを説いているのか～	『般若心経』と生活禅について述べる。日常生活の中で、『般若心経』に触れる場面があると思う。ここでは教科書を用いながら『般若心経』とはどんなお経なのかを学ぶと共に、生活禅との関係を理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	生活と宗教（６）～心の三次元～	心とは何か。宗教は人間の不可視的なものを可視的にする文化的装置である。ここでは宗教から見た人間の心とは何かを、禅における心のとらえ方を通して理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
8	生活と宗教（７）～心の成長物語～	前回の続き。具体的には『十牛図』という最古のマンガを通して理解を深める。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
9	生活と宗教（８）～悩みはどこから来るのか～	悩みとは何か。禅における悩みの対処法を、教科書を通して理解する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
10	生活と宗教（９）～特別授業～	気分転換のために、アニメにおける宗教的要素について考察する。具体的には『となりのトトロ』を取り上げる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
11	生活と宗教（１０）～特別授業～	前回の続き。ちなみに、トトロの性別はオスか、それともメスか。素朴な疑問が学問への重要な第一歩である。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
12	生活と宗教（１１）～生活と宗教との関わり～その一	再び教科書に戻る。「生活の中で修行し、修行の中で生活する」という教科書の著者の言葉を理解しながら、生活と宗教との関わりを考える。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	0
13	生活と宗教（１２）～生活と宗教との関わり～その二	前回の続き。人間らしく生きるためにはどうしたらいいか、人間の本質とは何かについて教科書を参考にしながら、考えてみる。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
14	生活と宗教（１３）～まとめ～	これまでの授業の全体についてまとめると共に、期末テストについて説明する。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5
15	最終回～まとめ～その②	授業の内容を踏まえつつ、建学精神である「尊敬・責任、自由」の意義を再び考えることにする。	紹介された参考文献や講義ノートをしっかり読み返し、内容への理解に努めること。	1.5

授業名	介護概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎廣野 正子		
開講期			
授業の概要	介護の社会化の背景を理解し介護の意義について演習や映像などを通して考える。さらに、「介護」について自分自身に起こりえることを想像し、そこから人間の理解として、からだのメカニズムを基に健康なからだを考察して介護が必要な方の理解につなげる。 また、リアクションペーパー・レポート提出後は次ぎの授業においてフィードバックを行います。		
授業の到達目標	介護は生活の中に存在する身近な行為であることを理解し、介護を通して生活の質を考慮した人生を考えることができる。 1. 介護の社会化による介護保険制度を理解する。 2. 地域における高齢者を把握し、介護を必要とするひとを理解する。 3. からだのメカニズムを理解し、自身の体調管理につなげることができる。 単位認定の最低基準：からだのメカニズムについて7割理解していること。		
履修条件	地域創成学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	リアクションペーパー14回分（60点） 筆記試験（40点）
テキスト	なし 授業毎に必要な資料等を配布します。		
参考書	授業の中で随時紹介します。		
学生への要望	介護は身近な課題であることを理解し、主体的に学んでください。		
位置付け・水準	CD2142		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	廣野：火曜日・木曜日のV限 創学館4階 No.2研究室		
アクティブラーニング実施内容	介護の実践の映像から介護について考察する。		
実務家教員の経歴	実務経験：特別養護盲老人ホームでの介護職員と特別養護老人ホームでの相談援助の実務経験をもとに介護概論の授業を行う。 実務経歴：社会福祉法人において介護職員（介護福祉士）と生活相談員として勤務。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 授業の目的とシラバスについて説明	「介護」のイメージをまとめる。	30
2	介護の歴史	1. 介護の意義 2. 日本における介護の成り立ち	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
3	介護の歴史	1. 老人ホームの質的变化 2. 介護の社会化	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
4	介護事例	1. 介護の実践（事例から考察） 2. 脳血管障害	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
5	介護の理解	1. 介護福祉の概念 2. 自己実現「マズローの欲求」	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
6	高齢者の理解	1. 目の病気、難聴、加齢による変化（消化）	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
7	高齢者の理解	1. 老化の定義 2. 介護保険制度	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
8	認知症の理解	1. 認知症の定義 2. 中核症状、周辺症状	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
9	認知症の理解	1. 認知症に種類 アルツハイマー型認知症と脳血管認知症	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
10	認知症の理解	1. 長谷川式簡易スケール 「認知症の第一人者が認知症になった」	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
11	認知症の理解	1. 認知症予防 2. 介護予防	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
12	ストレス	1. ストレス 2. アンガーマネジメント	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
13	アロマセラピー	1. アロマセラピーのメカニズム 2. 女性のからだのリズム	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
14	アロマセラピー	1. 高齢者、介護者のアロマセラピー 2. アロマセラピーの取り入れ方	リアクションペーパーへの記載項目について、さらに自身の考えをまとめる。	30
15	介護概論のまとめ	1. 高齢者の日常から介護を考える 2. これまでの授業の総括	「介護」の意義を考察し、加齢に伴う身体 のメカニズムについて理解する。	30

授業名	社会福祉概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎山脇 功次		
開講期	I 期		
授業の概要	本科目では、「社会福祉」を以下のテーマに基づいて学習を進める。 （１）社会福祉の意義と歴史の変遷を学ぶ。 （２）ソーシャルワークの基本的知識と援助技術を学ぶ。 （３）社会福祉の法や制度について学ぶ。 * 授業実施方法については、各授業にてグループ・ディスカッション等を通して学びの深化を図る。授業内でグループワークを実施し、終了後コメントによるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	【達成課題】 （１）地域福祉の役割を理解し実行できる。 （２）社会福祉の「価値」を説明することができる。 （３）社会福祉の視点を取り入れた課題解決が立案できる。 【単位認定の最低基準】地域福祉の課題とニーズについて7割が理解できている。		
履修条件	地域創成学科 1年	成績の 評価方法・基準	授業内で実施するテスト100点（2回実施：50点/回）
テキスト	保育所保育指針及び解説書、幼稚園教育要領及び解説書 その他随時紹介する。		
参考書	山縣文治・岡田忠克 編「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房		
学生への要望	配付プリント等を整理し、適宜メモを取り、予習しましょう。		
位置付け・水準	CD2143		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、課題解決力		
オフィスタイム	水曜日 4 限、木曜日 4 限 場所：822号室（山脇研究室）		
アクティブラーニング実施内容	発見学習／問題解決学習、グループディスカッション／ディベート／グループワーク		
実務家教員の経歴	行政機関委託事業の障がい者基幹相談支援センターおよび障がい者就業・生活支援センター（センター長）、就労移行支援事業（主任）および就業定着支援事業（主任）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の概略を説明します。 みなさんが住む街と福祉の関係を考えます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
2	社会福祉の意義・理念	現代社会における福祉の課題について考えます。	現代社会で問題となっている、あるいは関心のある福祉課題を書き出しておく	30
3	社会福祉の歴史① 世界史	社会福祉の歴史について勉強します。はじめに世界史から学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
4	社会福祉の歴史② 日本史	社会福祉の歴史について勉強します。日本の歴史から福島県の社会福祉についても学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
5	社会保障	社会福祉の諸制度について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
6	地域福祉①	社会福祉の中の地域福祉とはどのようなものを学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
7	地域福祉②	地域福祉の理論や実践について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
8	地域福祉③	福祉でまちづくりをしていく意義や展望について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
9	福祉ニーズのあるこども①	障害のあるこどもを中心に、福祉ニーズのあるこどもの理解について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
10	福祉ニーズのあるこども②	障害のあるこどもを中心に、福祉ニーズのあるこどもの支援の実際を学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
11	福祉ニーズのあるこども③	障害のあるこどもを中心に、施設入所についてや、自立支援について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
12	高齢者福祉	高齢者を取り巻く環境や諸制度について学びます。	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
13	福祉でまちづくり①	授業内で学んだことをもとに、みなさんが住む街を分析し、地域の強み（ストレングス）についてグループワークを行います。	みなさんが住む街がどのような地域かを整理する	30
14	福祉でまちづくり②	地域の強み（ストレングス）等を分析し、どのようなまちづくりが必要かグループワークにて検討します。	みなさんが住む街がどのような地域かを整理する	30
15	福祉でまちづくり③	グループワークにて実施した検討内容を発表します。	発表準備等を行っておく。	30

授業名	デッサンⅠ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎斉藤 弘久		
開講期			
授業の概要	「デッサンは芸術の実体そのものであり輪郭をなぞるだけではない。－中略－デッサンもまた独自の表現であり内的なフォルムであり計画であり肉付けなのである。アングル（画家）」このようにデッサンには最小限の材料や色彩によって表現されたシンプルな美しさと厳しがあります。本授業では造形活動の基礎となるよう「見る・描く・造る」を繰り返し、ものの本質に迫り描写力と表現力そして造形力を養います。提出された作品は最終授業で講評会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2160		
授業の到達目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけのデッサン空間を創りあげていくことを目標とします。 単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	特になし		
参考書	例－アングル・ダヴィンチ・ラファエロ・ロダンなどのデッサン集・その他、授業に関連する画集等は適宜指示をする。		
学生への要望	すべての造形活動の基礎であるデッサンの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション及びクロッキー 1	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。	30
2	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
3	クロッキー 2	人物クロッキー ・クロッキー（Croquis）とは速写、略画など短時間でこなう写生のこと。 ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。	30
4	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	鉛筆デッサン	人物を描く ・鉛筆デッサンは形や調子を正確にとったり造形的な線の成り立ちを理解したり的確で微細な描写に優れた特性を持っている。 ・学生同士、お互いにモデルになりながら描く。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
6	同上	人物を描く ・モデル学生の特徴や雰囲気等を深く観察する。モデル学生に肉薄し、完成に近づけていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	鉛筆デッサン 2	人物を描く ・前回は別のモデル学生を描く。 ・鉛筆デッサンは形や調子を正確にとったり造形的な線の成り立ちを理解したり的確で微細な描写に優れた特性を持っている。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
8	同上	人物を描く ・モデル学生の特徴や雰囲気等を深く観察する。モデル学生に肉薄し、完成に近づけていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	クロッキー 3	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	風景デッサン	風景デッサン ・全員がスケッチブック or 更紙を持って開成山公園に行き、お気に入りの場所を探す。 ・各自が選んだ風景を鉛筆やパステルで描く。	【事前学習】授業に関連する風景デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
12	同上	風景デッサン ・引き続き、各自が選んだ風景を鉛筆やパステルで描く。 ・季節や天候などを意識して、それを感じながら描く。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	クロッキー－4	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。	30
14	同上	人物クロッキー ・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・鉛筆、木炭、パステルなど修得状況に応じて画材を変えてゆく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	フロッタージュ	フロッタージュ ・フロッタージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き、紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮かあがらせるという技法。 ・開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッタージュをする。（木炭・鉛筆・チョーク等使用）	【事前学習】授業に関連する描画材や参考作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
16	同上	フロッタージュ ・引き続き、開成山公園で木の枝、葉、石等をフロッタージュをする。（木炭・鉛筆・チョーク等使用）	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	鉛筆デッサン	静物デッサン ・油彩画のモチーフ（描画対象）を鉛筆デッサンする。 ・的確で微細な描写のできる鉛筆デッサンをすることによってデッサン力と油彩画の描き込みのヒントになるという両方の効果が望める。	【事前学習】授業に関連する鉛筆デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
18	同上	静物デッサン ・引き続きデッサン。細部を描写しつつ全体の形も整えながら仕上げていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	映像メディア表現－1	建物の入った風景と人物の構成（コラージュおよび半立体絵画） ・各自カメラを持ち開成山公園で自由に取材をする。それを次週までにプリントしておく。	【事前学習】授業に関連するコラージュ作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
20	同上	建物の入った風景と人物の構成（コラージュおよび半立体絵画） ・他人とは違う自分だけの視点、切り口により様々なアングルで興味ある場所を撮影する。撮影したものは次週までにプリントアウトしておく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	映像メディア表現－2	建物の入った風景と人物の構成（コラージュおよび半立体絵画） ・前回取材しプリントアウトした写真を並べ簡単な意見交換会 ・その写真を自由に拡大・縮小コピーして台紙に貼り、更に彩色をして作品にする。	【事前学習】授業に関連するコラージュ作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
22	同上	建物の入った風景と人物の構成（コラージュおよび半立体絵画） ・制作最終コマ。全体感を損なわないように彩色をして完成に向かう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	段ボール壁画制作－1	壁画（平面および半立体）共同制作 ・いくつかのグループに分かれて、更紙などにそれぞれメンバーのアイデアや構想を描いてみる。	【事前学習】授業に関連する壁画資料集などを事前に関覧、研究しておく。	30
24	同上	壁画（平面および半立体）共同制作 ・エスキース（下絵）の中からメンバーで話し合い、少しずつ作品のイメージを作っていく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
25	段ボール壁画制作－2	壁画（平面および半立体）共同制作 ・前回同様、メンバーでディスカッション後、更なる壁画作品のイメージを詰めてゆく。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	同上	壁画（平面および半立体）共同制作 ・ある程度、構想がまとまったら大型ダンボールに制作を始める。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	段ボール壁画制作－ 3	壁画（平面および半立体）共同制作 ・大型段ボールに制作をする。 画材、色材、コラージュするものを準備しておく。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
28	同上	壁画（平面および半立体）共同制作 ・あまり細かくなならないように大きな視点で制作していく。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	段ボール壁画制作－ 4	壁画（平面および半立体）共同制作 ・大型段ボールに制作をする。最初の直感やインパクトを忘れずに仕上げる。	【事前学習】授業に関連する壁画作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
30	同上	壁画（平面および半立体）共同制作 ・大型段ボールに制作をする。最終仕上げる。 講評会 ・段ボール壁画の講評会、意見交換及びデッサンⅠの総評。	【事後学習】実技授業実施内容（講評会）を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

授業名	デッサンⅡ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎斉藤 弘久		
開講期			
授業の概要	デッサンは主に線的な手段を用いて対象の輪郭、構造、量感、質感などを探り出す技術の総称です。また絵画表現の基礎的な物の見方の訓練としても大切なものであります。ここではデッサンⅠの授業内容を引き継ぎ、更に一歩踏み込んで各自の個性に合わせ、徐々に表現内容、素材の幅を広げていき、平面 or 立体作品を制作していきます。提出された作品は最終授業で講評会を行い学生へのフィードバックとします。 CD2260		
授業の到達目標	デッサン素材の鉛筆や木炭・パステルなどの特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえでより確かな描写力と表現力を養うことを目標とします。単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していることとし、ディプロマ・ポリシーとの関係は創造的思考力・主体的行動力となります。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	特になし		
参考書	授業に関連する画集等は適宜指示する。 例－画家のスーラ・ゴッホ・セザンヌ・ピカソなどのデッサン集		
学生への要望	デッサンすることの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望むこと。 【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理し、必要な場合はポートフォリオなどを製作する。（1時間）		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション及びフロッターージュ	オリエンテーション ・開講中の授業内容や使用道具の説明。 ・フロッターージュとは柔らかい紙の下に凹凸のある物を置き紙の上から鉛筆等の描画材料でこすり、形を浮きあがらせるという技法。 ・学内や開成山公園で木の枝、葉、石等を自由にフロッターージュをする。（木炭・鉛筆・チョーク等使用） ・放射線量に細心の注意を払い、長時間の屋外滞在は避け効率よく実施する。	【事前学習】授業に関連するフロッターージュ作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
2	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
3	人物クロッキー 1	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用）	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。	30
4	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	人物クロッキー 2	・学生が輪になり、順番にモデルになる。 ・修得状況に応じて画材、色の幅を広げてゆく。（鉛筆、木炭、水彩絵具など使用） ・二人ポーズや1分クロッキー	【事前学習】授業に関連するクロッキー集などを事前に関覧、研究しておく。	30
6	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	石膏像デッサン 1	石膏像デッサン ・石膏像デッサンは形態、質感、動勢、構図などの要素を正確に把握し客観的に造形化する基礎的な訓練である。 ・細部にとらわれず、たえず全体とのバランスを見る。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
8	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	石膏像デッサン 2	石膏像デッサン ・対象をよく観察し、形態や大きな構造をとらえる。 ・全体的な像の量感、質感をはっきりさせ反射光などの淡い調子も意識しながら完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	鉛筆構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせて鉛筆デッサンする。 ・強く握ったり、やさしく握ったり、いろいろ角度を変えたりして自分の手をよく観察する。 ・自分が美しいと思う手の表情が出来たら、いくつか組み合わせてデッサンする。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
12	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	色彩を使った構成デッサン	二つ以上の手を自由に組み合わせてパステル、水彩等の色材でデッサンする。 ・観察が大事で基本的には前回の鉛筆デッサンと同じだが、ここでは描画材料の特質を引き出し色彩的効果を考えながら制作する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
14	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	静物デッサン１	トレーシングペーパーを含んだ静物を描く。 ・トレーシングペーパーと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・単なる静物デッサンと違いトレーシングペーパーから少し透けて見える部分の微妙な違いを描き分ける事により物の質感の把握、鉛筆の技法等の向上が期待できる。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
16	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	静物デッサン２	透明フィルムを含んだ静物を描く。 ・透明フィルムと学生個人の私物を自由に構成して透明、不透明を描き分ける。 ・前回のねらいとほぼ同じだが透明感及び光沢を表現するという事でより高度なデッサン力が要求される。	【事前学習】授業に関連するデッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
18	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	人物デッサン１	人物デッサン（鉛筆or木炭） ・モデルを使い最初は数分のクロッキーから始め、幾つかのポーズにしばらく、その中から多数決で固定ポーズを決める。 ・生きている人のまさに生き生きとした表情を自分なりに表現してみる。	【事前学習】授業に関連する人物デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
20	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	人物デッサン２	人物デッサン（鉛筆or木炭） ・モデルを使い固定ポーズで描く。 ・全身の立体感などを忘れずに顔や手の表情もよく観察して完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連する人物デッサン集などを事前に関覧、研究しておく。	30
22	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	自由制作（平面or立体）－１	自由制作 ・ダンボールを支持体として平面（コラージュ含む）or立体を制作し一年間の集大成とする。 ・ダンボールは木炭や鉛筆描画の他、地塗りや彩色、更には切り張りといった加工がしやすい材料である為、様々な可能性がある。 ・スケッチブックや更紙に構想を練る。	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30
24	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
25	自由制作（平面or立体）－２	自由制作 ・平面（コラージュ含む）or立体制作で重要な、自由な発想とダイナミズムを忘れずに構想を詰める。 ・コラージュや立体制作の学生は材料を集める。 ・ある程度、エスキース（下絵）が煮詰まったら制作を開始する。	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に関覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	自由制作（平面or立体）－ 3	自由制作 ・制作も山場にはいり、作品が徐々に具現化してくる。 ・墨汁や彩色、あるいは接着剤使用で乾燥が間に合わない場合はドライヤー等も使い来週の完成を目指す。	【事前学習】授業に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
28	同上	同上	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	自由制作（平面or立体）－ 4 と 講評会	自由制作 ・作品制作も佳境に入り細部の仕上げなど、まとめにはいる。 講評会 ・各自、自由制作の作品を並べ制作コンセプトを発表する。その後、学生との意見交換も含めた講評会を実施する。 ・デッサンⅡ及び1年間の総評。	【事前学習】講評会に関連するデッサン集や立体作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
30	同上	同上	【事後学習】講評会指摘内容を踏まえ、制作した作品の検証を自分なりにしておく。	30

授業名	油彩画Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	通年		
授業の概要	今日、日本の文化の中で絵画ほど人々に浸透し愛され生活の中で欠くことの出来ない存在になっているものはないでしょう。その中でも油絵は油彩絵具によるもので非常に便利で自由、しかも高度な表現が可能とされています。それだけに可能な限りの新造形運動の実験の場となり総合的な表現スタイルをとっている分野でもあります。本授業では基礎的な技法の理解と研究を行ない、一步一步、作品の制作向上を計りながら、更にデッサンの授業と相まって描写力と表現力を養うことを目的とします。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りだしていくことを目指します。		
履修条件	地域創成学科 1 年生、生涯学習講座受講生	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	特になし		
参考書	・新技法シリーズ絵画技術入門…佐藤一郎（美術出版社） その他、授業に関する画集、資料などは適宜指示する。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、技法に早く慣れ、自分の世界を創っていく。また主体的、積極的な姿勢で授業に望む。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2161		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力を、油彩画作品制作を通し養う。		
オフィスタイム	火曜Ⅳ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品制作において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	ガイダンス ・ 1 年間の授業内容や使用道具の説明。 ・ 道具点検…各自、油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（F 20号キャンパスを含む）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
2	静物画ガイダンス	静物画のモチーフ（描画対象）制作 ・ 静物画制作では身近な"物"の美しさを発見し自分の内的感情を追求してゆく。 ・ 全員でモチーフ倉庫に行き各自好きな静物を選びそれを組み合わせてモチーフを作る。	【事前学習】授業に関連する道具やモチーフなどを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
3	静物画制作－ 1	作品制作 ・ スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・ 静物の全体感を損なわないように気を使いながら構図を徐々に決めてゆく。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
4	静物画制作－ 2	作品制作 ・ 油絵具、オイルなどの基本的な使用方法を具体的に解説しながら指導する。 ・ まず、固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。 ・ 参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
5	静物画制作－ 3	作品制作 ・ 細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・ ペインティングナイフ（油彩画専用コテ）や絵画用砂を使いマチエール（画肌）や画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
6	静物画制作－ 4	作品制作 ・ 細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・ 光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	静物画制作－ 5	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば反対色は強烈な効果が生まれ、同色系は統一した効果が生まれる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
8	静物画制作－ 6	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	静物画制作－ 7	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
10	静物画制作－ 8	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る ・制作もかなり進んできたが、描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	静物画制作－ 9	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・かなり完成に近づいてきたが完成まで手を抜かず細心の注意をはらう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
12	静物画制作－ 10	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の形とバランスを再確認しながら完成へと向かう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成にする。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	静物画講評会	静物画講評会 ・仕上がった静物画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30
14	風景スケッチ	・Ⅱ期から始まる風景画の為に準備スケッチ。各自構内を自由に散策しながら好みの場所を探す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	風景画ガイダンス	※これよりⅡ期 風景画ガイダンス ・風景画制作のポイントや具体的方法を指導する。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。 ・各自、大学構内の好きな場所で油彩画制作を視野に入れながらスケッチをする。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したスケッチを整理しておく。	30
16	風景画制作－ 1	作品制作 ・風景写生は外に出て自然の美しさの中にひたり、そこでの一体感から始まる。 ・風景画制作の為に場所（大学構内）を決定する。 ・カリキュラムスケジュール上、期間が晩秋に至るので風景の色合いや雰囲気の変化なども考慮に入れる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	風景画制作－ 2	作品制作 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。 ・参考資料や画集、デッサン集も適宜見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
18	風景画制作－ 3	作品制作 ・キャンバスに入る風景の全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めていく。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与える。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	風景画制作－４	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例えば木の葉の塊、道、空などを色面で捉えてみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
20	風景画制作－５	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・画面の中で強調、又は不必要なものを省略しながら形を探っていく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	風景画制作－６	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・密度のある描き込みによって物と空間の関係をしっかりと把握していく。 ・画面をまとめるにあたり、もう一度画面構成を確認してみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
22	風景画制作－７	作品制作 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・完成に近づいてきたが完成までは手を抜かず細心の注意をはらう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	風景画講習会	風景画講習会 ・仕上がった風景画作品を並べ画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画風景制作の目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30
24	人物画ガイダンス及び人物画制作－１	作品制作（クロッキー） ・人物モデルによるクロッキーを４回実施し、その中から固定ポーズを決める。 ・スケッチブックに鉛筆でエスキース（下絵）をする。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
25	人物画制作－２	作品制作（固定ポーズ） ・人物の全体感を損なわないように気をつけながら徐々に構図を決めていく。 ・単純な描写だけではなく、人物の内に秘められたキャラクターや美しさなども同時に表現しようと試みる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
26	人物画制作－３	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・光の方向や色彩の取り入れ方なども工夫してみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	人物画制作－４	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・バックとの関係に気をつけながら人物の顔や衣装を描き込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
28	人物画制作－５	作品制作（固定ポーズ） ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	人物画制作－６	作品制作（ポーズ無） ・モデル無しで最終制作を行う。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものをとらえる。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランス（特に人物とバックの関係）を整えて完成へと向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
30	人物画講習会及び油彩Ⅰの総評	講評会 ・仕上がった人物画作品を並べ、画集や参考作品も用いながら講評する。 ・質問や意見交換も行い油彩画人物制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅰの一年間の総評及び反省	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

授業名	塑造基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎黒沼 令			
開講期				
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。塑造とは彫刻の技法の一つで、粘土などの可塑性のある素材で彫刻作品をつくる事を言います。塑造基礎の授業では粘土による造形、テラコッタ（焼成による造形）を体験し、彫刻の基礎的な技法や表現を身につけ、ものをつくる喜びや達成感を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。			
授業の到達目標	塑造作品の制作を通して、塑造の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、 授業理解度は7割以上を求めます。	
テキスト	特に無し。			
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等			
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。			
位置付け・水準	CD2167			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室			
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	塑造基礎の授業について	・塑造基礎の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	テラコッタ－1	◆塑造（モデリング）の表現の一つである、テラコッタについて学習する。粘土の練り方や保管の方法など、理解する。 テーマは自由。各自彫刻性を意識したものを構想し、制作する。 《アイディアデッサン》 ・自由に構想を練りながらデッサンする	・作品の構想を練りながら、取材、デッサンを用意する	120
3	テラコッタ－2	《モデリング・1》 ・粘土の練り方を練習する ・手びねり（芯棒を用いない）で制作する	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
4	テラコッタ－3	《モデリング・2》 ・第3回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
5	テラコッタ－4	《モデリング・3》 ・第3回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
6	テラコッタ－5	《モデリング・4》 ・第3回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
7	テラコッタ－6	《モデリング・5》 ・第3回に同じ	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
8	テラコッタ－7	《モデリング・6》 ・焼成の準備 1、少し乾燥させた作品の内側を空洞にする 2、量のある部分は穴を開けるなど、空気の逃げ道を作る	・授業の内容を振り返りながら制作を進める	60
9	テラコッタ－8	《モデリング・7》 ・第8回に同じ	・焼成できる状態まで完成させる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	テラコッタ－9	《モデリング・8》 ・第8回に同じ	・焼成できる状態まで完成させる	60
11	テラコッタ－10	《モデリング・9》 ・第8回に同じ ・やすりをかけるなど、乾燥した粘土でなければ出来ない造形を行う	・焼成できる状態まで完成させる	60
12	テラコッタ－11	《モデリング・10》 ・第8回に同じ	・焼成前に作品をヤスリがけする	60
13	テラコッタ－12	《モデリング・11》 ・第8回に同じ ・着色について学習する	・焼成前に作品をヤスリがけする	60
14	テラコッタ－13	《台座の制作》 ・台座の制作を行う	・台座をサンドペーパーなどで磨く。 着色を行う。	120
15	合評会	《合評会を行う》 ・制作したテラコッタ作品についてのプレゼンテーションを含めた合評を行う		0

授業名	基礎デザイン	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎斉藤 弘久		
開講期			
授業の概要	この授業ではでデザインの基本的な考え方や提示の仕方を学びます。点・線・面など構成の基礎となる造形の諸要素を知り、色彩を体系的に把握します。5つほどの課題に取り組みながら、他者への発信の仕方やその技法などを学びます。 提出した作品のいくつかは全員で鑑賞し意見などを述べ合います。また提出したレポートを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2168		
授業の到達目標	日常生活の中で一定の情報をわかりやすく視覚的に伝えていく表現の一つにデザインがあります。「視覚言語としてのデザイン」が社会で果たす役割について考えてください。 ・単位認定の最低基準：課題作品の提出（ルーブリック評価の基づいて判定します） ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	制作姿勢(20%)課題作品の提出状況と達成度(80%)の他、授業目標への意欲や関心などを含めて総合的に判断します。
テキスト	ありません。 必要に応じて関連資料を配布します。		
参考書	○参考書 ・デザイン概論（ダヴィッド社）など ○画材・道具など （画材についてガイダンスを行い購入希望者がいた場合はまとめて発注します） ・アクリル絵具、マスキングテープ、筆、定規、カッターなど		
学生への要望	・生活の中にあるデザインについて興味・関心を持ってください。 ・美術館・博物館などへ足を運び、ワークショップなどにも積極的に参加してください。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	基礎デザインの授業内容について説明し、生活の中のデザインについて考える。	ガイダンスで配布された資料を参考に生活の中にあるデザインの役割について考える。	30
2	点の構成（1）	・点が平面構成の原点であることを理解する。点と点の関連性から線や面への可能性を考える。美しいデザインを考えるときに必要とされるいくつかの要素には、リピテーション（リズム）、コントラスト、シンメトリー、グラデーション、アクセント、ムーブメントがある。ここではシンメトリー（左右対称、点对称、平行移動など）について理解する。 ・課題1についてのガイダンス	造形の要素についての理解を深める。	60
3	点の構成	【課題1】 正方形の内側に●を配置して、秩序のある構成を心掛けながら課題に取り組み、提出する。 （条件） ・以下の6つのテーマに従って自由に表現する。 ①集合のイメージ ②拡散のイメージ ③感情のイメージ ④匂いのイメージ ⑤色のイメージ ⑥音のイメージ	エクセルの機能を使いながら①～⑥の課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
4	点の構成	・課題1の講評 提出された作品を鑑賞し合い、造形の要素としての点について考える。 ・造形の要素としての線と面についてガイダンスを行う。	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	30
5	線の構成	【課題2】 正方形の内側にさまざまな太さの線を自由に構成する課題に取り組む。 （条件） ・タテ ヨコー 斜め／ の3種類を使用すること ・線の太さは任意 ・点線や二重線は使用しない	エクセルの機能を使いながら課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	線の構成	・課題2の講評 提出された作品を鑑賞し合い、造形の要素としての線と面について考える。 ・課題3についてのガイダンス	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	60
7	面の構成	【課題3】 正方形の内側に、面の要素を利用した構成の課題に取り組む。 (条件) ・任意の国の国旗を選ぶ ・国旗にある色の再現する ・面の構成に使用するパーツを2種類以上、それぞれ同じ形でサイズを2種類以上考える	エクセルの機能を使いながら課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	60
8	面の構成	・課題3の講評 提出された作品を鑑賞し合い、造形の要素としての線と面について考える。 ・課題4についてのガイダンス	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	30
9	名刺のデザイン	【課題4】 課題1～3の点・線・面の構成をもとに名刺のデザインを行う。 (条件) ・点を文字に置き換えてレイアウトする(書体・サイズなど自由) ・線と面の要素を取り入れる(線の太さ・色など自由) ・名刺はタテとヨコのデザインを1つ以上制作して提出する	エクセルの機能を使いながら課題に取り組む。	30
10	名刺のデザイン	同上	エクセルの機能を使いながら課題に取り組む。	60
11	名刺のデザイン	・課題4の講評 ・課題5についてのガイダンス	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	60
12	ブックカバーのデザイン	【課題5】 美しいレイアウトを心掛けてブックカバーのデザインを行う。 (条件) ・指定されたサイズに、表表紙、裏表紙、背表紙がわかるようなデザインを考える ・表表紙にはタイトル、出版社、作者名を必ず挿入する ・裏表紙には、出版社、価格の他に、架空のバーコード、ISBNを配置する ・イラストや写真を使ってもよい	エクセルの機能を使いながら課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
13	ブックカバーのデザイン	同上	エクセルの機能を使いながら課題に取り組む。造形の要素についての理解を深める。	30
14	ブックカバーのデザイン	・課題5の講評	講評をもとに各自で制作した作品について振り返る。	30
15	まとめ	【まとめ】 これまでの課題について振り返り、生活の中のデザインについて考える。	生活の中におけるデザインの役割について改めて考え理解を深める。	30

授業名	絵本とイラストレーション	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択/短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎松田 理香			
開講期	Ⅱ期			
授業の概要	簡易な絵本を制作しながらイラストレーション表現のためのさまざまな技法について学び、「伝える」ことの重要性を学びます。表紙、扉、本文、裏表紙を合体して16ページの絵本を制作します。既刊の代表的な絵本も参考にしながら、文字やイラストレーション、写真、切り絵、飛び出す絵本など、各自のコンセプトに合わせた表現方法で絵本を制作し完成させ提出してください。 授業のフィードバック：完成した作品を全員で鑑賞し感想などを述べ合う際や提出したレポートを返却する際に、コメントなどによるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	編集デザインの視点から絵本を制作します。絵本を手にする対象(年齢や場面など)を具体的にイメージしながら制作してください。 ○単位認定の最低基準：課題作品およびレポートの提出（ルーブリック評価に基づいて判定します） 作品は7割以上の完成度を目指すこと。			
履修条件	地域創成学科の学生 専攻科幼児教育学専攻の学生	成績の 評価方法・基準	提出作品〔絵本〕(80点)、本の装丁や編集デザインの理解度など(20点)を総合的に判断します。	
テキスト	簡易な制作手順資料を配布します。			
参考書	既刊の絵本や写真集等の資料を提示します。			
学生への要望	各自の表現方法を活かしながらオリジナルの手作り絵本を完成させてください。また、アニメーションなどの映像表現との違いを知り、あるいはコラボレーションの可能性など、これからの絵本のあり方についても追求してください。			
位置付け・水準	CD2169			
ディプロマポリシーとの関係	①知識理解 ②創造的思考力			
オフィスタイム	金曜日Ⅰ・Ⅱコマ 研究室			
アクティブラーニング実施内容	学生相互に表現方法についての意見交換を行い、完成後はお互いの作品を鑑賞し感想を述べ合います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	1. 本の装丁について学ぶ。特に、絵本の装丁の魅力を再確認する。 2. イラストレーション表現に面白さがある本、構成や造本、色調に工夫がある本など、デザインの視点から絵本を見る。本の構造や種類、本の部位の名称について学ぶ。 3. 材料、制作上の諸注意、作業の下がれについて確認する。 ◎教室の収容人数を越えた場合や一人当たりの作業スペース等において不都合と判断した場合には2つのグループに分かれて実施します。（その場合は事前に通知） 全員で実施できる人数の場合には、Aグループの予定で実施します。	配布された資料を参考に絵本の魅力を改めて考え理解を深める。	30
2	絵本の表現技法および絵本の構成と構造 1-①	Aグループ<表現技法の体験> 以下の4つのテーマについていろいろな画材で描く ①花 線描き ペン・色鉛筆で描く ②太陽 くれよんで描く ③風景（山・川・海・空・草原など） 水彩絵の具で描く ぼかし 擦筆など ④私のお弁当 切り絵 ハサミで切る 紙をちぎる マスキングテープなど Bグループ<絵本の構成>（ストーリーを考える） ①ページの順番を確認しながら中身を制作する。既成の絵本やイラストレーション作品なども参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 ②キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。	図書館や書店などで実際に絵本を手に取り、絵本についての理解を深める。	60
3	絵本の表現技法および絵本の構成と構造 1-②	同上 ※Aグループ 表現技法の体験 ※Bグループ ストーリーを考える	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	絵本の表現技法および絵本の構成と構造 2-①	グループA<絵本の構成>（ストーリーを考える） ①ページの順番を確認しながら中身を制作する。既成の絵本やイラストレーション作品なども参考にしながらオリジナルの表現方法を探る。 ②キャラクターなど主人公が登場する場合は、同一人物であることがわかるようにする。 グループB<表現技法の体験> 以下の4つのテーマについていろいろな画材で描く ①花 線描き ペン・色鉛筆で描く ②太陽 くれよんで描く ③風景（山・川・海・空・草原など） 水彩絵の具で描く ぼかし 擦筆など ④私のお弁当 切り絵 ハサミで切る 紙をちぎる マスキングテープなど	配布資料を参考に絵本の基本的な構成を知り各自の絵本についてオリジナルイメージを固める。	30
5	絵本の表現技法および絵本の構成と構造 2-②	同上 ※グループA ストーリーを考える ※グループB 表現技法の体験	16ページの展開をイメージしてスケッチを行う。	60
6	表紙の台紙を作る 1-①	グループA<表紙の台紙制作> ○絵本の完成形状（タテ型にするかヨコ型にするか） 1）本のページ構成の確認 ①表紙と裏表紙・背 ②見返し（接着面・遊び紙・奥付） ③本文16ページ（両面使用のため用紙は8枚） 2）中身（本文）に合うように表紙・裏表紙となる色紙を選ぶ。 3）表紙・裏表紙に合わせて見返し紙を選ぶ。 グループB<ストーリーを考える> ①ストーリーが読み手にとって内容が伝わる構成になっているか確認しながら作業を進める。 ②読み手を意識して制作する。	自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	60
7	表紙の台紙を作る 1-②	同上 ※グループA 表紙の台紙制作 ※グループB ストーリーを考える	自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	60
8	表紙の台紙を作る 2-①	グループA<ストーリーを考える> ①ストーリーが読み手にとって内容が伝わる構成になっているか確認しながら作業を進める。 ②読み手を意識して制作する。 グループB<表紙の台紙制作> ○絵本の完成形状（タテ型にするかヨコ型にするか） 1）本のページ構成の確認 ①表紙と裏表紙・背 ②見返し（接着面・遊び紙・奥付） ③本文16ページ（両面使用のため用紙は8枚） 2）中身（本文）に合うように表紙・裏表紙となる色紙を選ぶ。 3）表紙・裏表紙に合わせて見返し紙を選ぶ。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。	60
9	表紙の台紙を作る 2-②	同上 ※グループA ストーリーを考える ※グループB 表紙の台紙制作	自分の作品に合う表現方法について考え、さまざまな素材で試作する。	0
10	中身(本文)を制作する 1	1. 文字や文章を配置する場合は、誤字・脱字がないかなどを確認する。 2. 全体の仕上がりがイメージ通りとなっているか、効果的な流れになっているか確認しながら制作する。	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。	60
11	中身(本文)を制作する 2	同上	自分の作品に合う表現方法で作業を進める。	60
12	中身(本文)を制作する 3	同上	本文に合わせた表紙のデザインをイメージしてスケッチを行う。	30
13	中身(本文)を制作する 4	同上	台紙の仕上がりを確認しながら表紙・裏表紙のデザインを考える。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	表紙のデザイン 最終確認	○表紙と裏表紙のデザイン 1) 作品タイトル、作者名、出版社名、また価格やバーコードなど絵本に必要な情報を決める。必要な情報をどのようにレイアウトするかも含めてバランスを見ながら検討すること。 2) 中身（本文）に合わせた表現の表紙と裏表紙を制作する。 3) 合本作業。最終的な仕上がりを予想して表紙と中身を組み合わせる。	既存の絵本なども鑑賞し絵本全体の完成イメージを固め作業を行う。	60
15	まとめ（鑑賞と講評）	○合評会と作品提出 1) 作品発表 お互いの作品を鑑賞し、内容や仕上げについて感想を述べ合う。 2) まとめ	感想や意見を受け、自分の作品について客観的に検証する。	30

授業名	C G 基礎Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	コンピュータ上で写真やイラストレーション、図形、文字、記号などの視覚的要素を作成・編集するために必要なソフトウェアの基礎知識・操作方法を学ぶ。特に本演習では、Draw系グラフィックソフトウェアの操作方法を中心に学習する。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザイン制作におけるコンピュータ利用についての実践的な指導も行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：提出物の内容が不十分である場合は、修正箇所を指示した上で再提出を受け付ける。 ・位置づけ・水準：CD2164		
授業の到達目標	本演習の達成目標は以下の通りとする。 ①コンピュータ・グラフィックス技術の基礎的知識が理解できている。 ②Draw系グラフィックソフトウェアの基礎的操作方法を習得している。 ③ベクトル画像の描画・編集ができる。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力		
履修条件	地域創成学科 1 年	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①課題の提出状況 20%、②課題の内容 60%、③模擬試験の成績 20%
テキスト	Illustrator®クイックマスターCC Windows&Mac、株式会社ウイネット		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・教科書に対応した動画教材を準備している。学習内容に不明な点があれば参照すること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	C G 基礎Ⅰの授業内容、目標、成績評価、教科書、参考書について説明する。コンピュータの設定、及び授業で使用するソフトウェアのダウンロード・設定をおこなう。	コンピュータの設定、ソフトウェアの設定方法について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
2	基本操作	Illustratorの起動と作業エリア、アートワークの表示とプリント、環境設定について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter1」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
3	オブジェクトの基本操作	塗りと線、オブジェクトの描画、基本的な編集操作について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter2」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
4	カラー設定	基本的な編集操作、カラーパネルによるカラー設定について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter3」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
5	レイヤー、文字	レイヤー、オブジェクトの組み合わせによる編集、文字の作成、文字関連の機能について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter4・5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
6	パスの描画・編集の基礎	パスの基本的な描画、パスの編集について学修する。	教科書「第1部 基本操作編 Chapter6」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
7	オブジェクトの描画、線	オブジェクトの描画方法と線の描画・設定について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter1」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	レイアウトの補助、スウォッチ・パターン	レイアウトの補助機能、スウォッチ、パターンの作成方法について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter2」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
9	グラデーション、アピアランス	グラデーションの作成・編集、アピアランスの設定方法について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter2」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
10	レイヤー、文字の応用	レイヤーの応用操作、パス上の文字入力、文字の種類、文字関連の機能について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter3・4」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
11	パスの編集	応用的なパスの編集方法について学修する。	教科書「第2部 基本操作編 Chapter5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
12	コンテンツの作成①	名刺のデザインを通して、DTPの基礎を学修する。	教科書「第3部 基本操作編 Chapter5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
13	コンテンツの作成②	DMのデザインを通して、DTPの基礎を学修する。	教科書「第3部 基本操作編 Chapter5」について復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
14	知識理解の確認①	実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について復習する。	模擬テストの内容を復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60
15	知識理解の確認②	実技形式の模擬テストを実施する。これまでの学習内容について復習する。	模擬テストの内容を復習する。理解の不十分な点があれば、GoogleClassroomの動画教材を参照する。	60

授業名	写真基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎吉村 友紀			
開講期				
授業の概要	写真とカメラの基本的な知識を学び、撮影に対して柔軟な対応ができるよう技術の習得を目指します。 フォトスタジオでの実務経験をもとに、現場および被写体の捉え方や、実際に使用する撮影・修正技術の指導を行います。またカメラマンとして感じてきた写真の価値や、その変化を伝えるとともに。人や社会にとって写真とはどういうものなのか、その本質や将来性を考えていきます。 全体をとおして写真を「撮る力」と「見る力」を身に付けます。(提出された課題は添削・返却しコメント等によるフィードバックを行います。)			
授業の到達目標	1. 写真の基本的な教養、撮影の感覚を身につける。 2. 学生各自の研究領域に活かせるような写真の撮影、加工修正ができるようになる。 3. 現代社会における写真の価値や役割への理解を深め、写真に対する感性を磨く。			
履修条件	地域創成学科1年	成績の 評価方法・基準	①課題提出 40% ②学習態度 60%	
テキスト	特に指定しません。			
参考書	授業内で掲示します。			
学生への要望	1. デジタルカメラ（コンパクトデジタルカメラ、ミラーレス一眼カメラ、一眼レフカメラ）の場合は、カメラに対応した8GB以上のメモリーカードを準備すること。カメラは1,200万画素以上が望ましく、Wi-Fi対応機種なら尚良い。 2. スマートフォンの場合は標準のカメラアプリを使用すること、アウトカメラで1,200万画素以上が望ましい。OSやアプリのアップデートは欠かさずおこない、写真を撮影するためのストレージを必ず確保しておくこと、一回の授業での撮影目安は50枚とする。(写真一枚あたりの容量は1,200万画素で2～4MBほど) 【参考】iPhone 15 Pro：広角 約4,800万画素(f/1.78) 超広角 約1,200万画素(f/2.2) 望遠 約1,200万画素(f/2.8) 3. 授業内で撮影した写真を修正印刷し、課題として提出すること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	①現代写真家列伝	(1) 梅佳代、(2) 森山大道、(3) 「人形の都」 以上を参考に自分にとっての写真表現とは何かについて考える	自主撮影・印刷	30
2	写真の歴史	写真の発明から現在までを欧州から日本に分けて学習	自主撮影・印刷	30
3	写真機の構造と種類	カメラの構造を知ることにより何故、画像を定着できるかを学習	自主撮影・印刷	30
4	デジタルカメラについて	現在主流のデジタルカメラについて、撮影方法について構造を学習	自主撮影・印刷	30
5	画像編集ソフトについて	GINPを用いて撮影画像のパソコンへの取り込み、画像調整を学習	自主撮影・印刷	30
6	人物撮影学習	デジタルカメラによる人物撮影	自主撮影・印刷	30
7	画像編集実習	画像のパソコンへの取り込み→画像の調整の実習	自主撮影・印刷	30
8	①画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習	自主撮影・印刷	30
9	②画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	画像調整の終わった写真をプリントして仕上げの実習	自主撮影・印刷	30
10	②現代写真家列伝	(4) 川内倫子、(5) 藤原新也 以上を参考に自分にとっての写真表現とは何かについて考える	自主撮影・印刷	30
11	①静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習	自主撮影・印刷	30
12	②静物撮影実習	写真スタジオでスティルライフの撮影実習	自主撮影・印刷	30
13	①画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→仕上げ	自主撮影・印刷	30
14	②画像編集実習→ 写真出力→仕上げ	撮影画像のパソコンへの取り込み→画像調整→出力→仕上げ	自主撮影・印刷	30
15	まとめ	撮影作品、課題提出ノートの合評会	自主撮影・印刷	30

授業名	木彫基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎黒沼 令		
開講期			
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。木彫とは彫刻の技法の一つで、木を素材として彫刻作品をつくる事を言います。木彫基礎の授業では木による造形を体験しながら、木彫の基礎的な技法を学ぶ、また、木の素材的な魅力を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。		
授業の到達目標	木彫作品の制作を通して、木彫の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。
テキスト	特に無し。		
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等		
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。		
位置付け・水準	CD2172		
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、創造的思考力		
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室		
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	木彫基礎の授業について	・木彫基礎の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	しおり制作－1	◆木彫について学習する 木彫の初めての学習として、しおりをつくることで、木彫の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、木彫の基礎的技法（木の材質的特徴、魅力や造形方法）の習得を目指す。 《課題についての説明とアイディアスケッチ》 ・しおりをつくる目的、意義について ・木についての学習 ・アイディアスケッチを行う	・アイディアスケッチを進めながら構想を練る	120
3	しおり制作－2	《材料選び》 ・アイディアスケッチを基に材料を選択する ・鋸などを使い、材料を加工する	・材料を短冊型に加工する	60
4	しおり制作－3	《しおり作り・1》 ・彫刻刀などを使い、造形する ・道具の扱い等学習する	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
5	しおり制作－4	《しおり作り・2》 ・第4回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
6	しおり制作－5	《しおり作り・3》 ・サンドペーパーなどを使い、木を磨く ・磨くことで感じる材質的な変化や魅力について学習する	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
7	しおり制作－6	《しおり作り・4》 ・着色する ・飾ひなどを付けて仕上げる	・授業内容を振り返りながら作品を完成させる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	自然物をモチーフとした木彫作品制作－１	◆動物や植物などの自然のものをモチーフとして小さな木彫作品を制作する。その際、モチーフの選択など、木彫に適したものであることを考慮し、構想する。 《アイディアデッサン・１》 ・自由に構想を練りながらデッサンする	・自分がつくりたいものを基に取材、デッサンを進める	120
9	自然物をモチーフとした木彫作品制作－２	《アイディアデッサン・２》 ・自由に構想を練りながらデッサンする ・立体的にデッサンする	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
10	自然物をモチーフとした木彫作品制作－３	《木彫・１》 ・素材を選択する ・素材にデッサンを入れる	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
11	自然物をモチーフとした木彫作品制作－４	《木彫・２》 ・鋸、鑿などを使い、粗どりを行う	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
12	自然物をモチーフとした木彫作品制作－５	《木彫・３》 ・第11回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
13	自然物をモチーフとした木彫作品制作－６	《木彫・４》 ・彫刻刀、ヤスリなどで総計する	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
14	自然物をモチーフとした木彫作品制作－７	《木彫・５》 ・第13回に同じ	・授業内容を振り返りながら制作を進める	60
15	合評会	《合評会》 ・作品についてのプレゼンテーションを含めた合評会を行う		0

授業名	版画基礎	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎斉藤 弘久		
開講期			
授業の概要	版画の基本的4版種を実習を通して学んでいく。実際の版に触れ積極的に様々な技法を試し用いて描いて行く。そして試し刷りを繰り返すことによって、イメージした物がどのように完成して行くかを思い浮かべながら作品を仕上げる。手作業やパーソナルコンピュータによる制作も加え授業を展開していく。(CD2162)		
授業の到達目標	版画表現の豊かさを感じ、人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。		
履修条件	地域創成学科 1 年生	成績の 評価方法・基準	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（20点）
テキスト	そのつど担当者が資料を配布する。		
参考書	そのつど担当者が紹介する。		
学生への要望	多種多様な素材と表現方法により未だ経験のしたことのない表現を体験するために、各版種の面白さを実感し、可能な限り版から得るイメージを想像し膨らませ制作してください。日頃から版から受けるイメージを想像し、学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	版画とはどういう物なのか。歴史と人に与える影響などを解説する。	授前、4版種の基礎を自学習 授後、版画の認識を深める	180
2	木版画の基礎	木版画と言っても表現の幅はいろいろで、簡単な表現から高度な表現を学びます。	授前、木版画の基礎を自学習 授後、木版画を深める	180
3	銅版画の基礎	銅版画の直接技法と間接技法を学びます。	授前、銅版画の基礎を自学習 授後、銅版画を深める	180
4	石版画の基礎	石版画は現代の印刷手段であるオフセット印刷の基本であることを学びます。	授前、石版画の基礎を自学習 授後、石版画を深める	180
5	シルクスクリーンの基礎	古来より用いられて来た技法から、現在使われている特殊な印刷方法を学びます。	授前、版画の歴史を自学習 授後、版画の歴史を深める	180
6	デジタル版画の基礎	デジタルを、アナログではない版とする版画の意味と表現を学びます。	授前、現代の印刷を自学習 授後、印刷全般を深める	180
7	版種の併用	学んだ様々な版形式を併用して、単独の版種では得られない効果を学びます。	授前、版形式の再確認 授後、版を選択する	180
8	版画制作	ここまで学んだ版種を基に、作品を制作していきます。表現方法を考えます。	授前、表現方法を考える 授後、イメージを膨らませる	180
9	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの様々な技法に取り組みます。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を判断する	180
10	版画制作	技法を身につけるために、失敗を恐れなくて試し刷りをしながら制作してください。	授前、試作を試みる準備 授後、試作の結果を活かす	180
11	版画制作	技法が身に付いて来たところで、自分で考えたイメージを作品にしていきます。	授前、制作準備 授後、次回の制作に活かす判断をする	180
12	版画制作	試し刷りを重ねながら、加えるところ、削るところを調整していきます。紙によっても刷られた表情が違うので、いろいろな紙で刷りを試みてください。	授前、制作準備 授後、次回の制作に活かす判断をする	180
13	版画制作	完成を視野に入れながら版の調整、色の調整などをします。	授前、制作準備 授後、次回の制作に活かす判断をする	180
14	版画制作	作品を完成させる。	授前、制作準備 授後、完成作品の扱い方を考える	180
15	版画制作	完成した作品の扱い方や、展示方法などを説明しながら教員が講評する。	授前、展示方法などを調べる 授後、作品を鑑賞する	180

授業名	日本史演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎佐藤 愛未		
開講期			
授業の概要	江戸時代は徳川氏が江戸幕府を開いた17世紀初頭から、戊辰戦争により新政府が誕生する19世紀半ばまでの約260年間の時代である。幕府と諸藩による長期間の全国統治により、現代社会の仕組みはこの時代に形づくられることになった。現代社会につながる江戸時代および明治時代初期について考えてみる。 江戸時代は、なぜ長期にわたり継続し、そしてなぜ倒れたのか。これを成立期～解体期前後の国内外の情勢から日本史の流れの概略を、各講義内容に関連する史料を読みながら、政治体制や社会構造、経済、外交などを基本的な視点に据えて把握する。あわせて近世・近代における福島県内で起こった出来事についても合せて学ぶ。 なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。		
授業の到達目標	過去と現在とを対比し理解を深めること。過去を学ぶことにより、現在・未来の自信を展望すること。を達成目標とします。 単位認定の最低基準は、 ①授業内容の7割を理解していること。 ②資料読解の基礎を7割理解していること。		
履修条件	地域創成学科 2年生	成績の 評価方法・基準	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	佐々木潤之助ほか『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年 松尾正人『維新政権』吉川弘文館、1995年 児玉幸多監修 丸井佳寿子ほか『県史7 福島県の歴史』山川出版社、1997年 ほか適宜指示する。		
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。身近にある歴史に関心・興味を抱くこと。		
位置付け・水準	CD2251		
ディプロマポリシーとの関係	課題解決力・主体的行動力		
オフィスタイム	火曜日・水曜日のⅡ時間目。創学館4階、No5研究室		
アクティブラーニング実施内容	ミニットペーパーの提出、史料読解		
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス及び資料の読み方について	この授業では、実際に史料（くずし字の文書史料を含む）を読み、これまでに学んできた日本史をさらに深く学ぶことを目的としているため、導入として史料の読み方や、それに伴う必要な知識（度量衡など）について説明する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	関ヶ原の戦いと徳川三代と江戸幕府の成立	関ヶ原の戦いについて史料を基に紹介する。また、その戦いで勝利した家康は慶長8（1601）年に征夷大将軍に就任し、江戸幕府を開き、江戸を建設させた。その後、秀忠・家光の時代を経て、政治や社会の仕組みが確立する。近世の政治や社会の仕組みが確立するまでを、織豊期から江戸幕府開設に至るまでの時代背景との関連で考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	「鎖国」への道と四口	日本におけるキリスト教禁教のため、幕府は「鎖国」への道を歩むこととなった。一方で、幕府の管理・独占のもと長崎・対馬・薩摩・松前でオランダやアジアとの交易が行われることとなった。この場をまとめて四口と呼ぶ。「鎖国」と四口について検証し、江戸時代の海外交流について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	交通網の整備と商業発展	江戸時代は、人々や物（商品）の往来が盛んになり商業経済が発展した時代でもある。その1つの要因として、街道と宿場町の整備、海運・舟運の整備の陸上・海上における交通網の整備行われたためである。これらの整備がふくしまにおいてどのように実施され、商業発展に影響したのかを論じてみたい。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	江戸幕府の政治構造と藩の設立	江戸時代は将軍以下の武士階級がその社会を掌握・支配するために、幕府・藩として構築された幕藩体制が確立した。そのため、全国各地には藩が成立し、多岐にわたる格式序列が形成された。幕府と藩、将軍と大名など江戸幕府の構造について論じる。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	ふくしまの藩と城下町	本県下には、会津・中通り・浜通りに大中小の諸藩が置かれた。各藩の成り立ちを大名配置および城下町の形成との関連から検証し、その特色について学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
7	近世の村社会	江戸時代、人口の大部分を占め、幕府や大名の経済基礎である米年貢を負担する農民は生産と生活のために相応しいように村をかえていった。村組織・申し合わせや掟、村の共同整備などについても村々で整えられた。村のあり方は社会の変容と共に少しずつ変化し、農民の自立を可能にした背景について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	寛政改革と地域諸産業の発展	宝暦・天明期には、飢饉や災害などによって政治的・社会的危機が引き起こされた。そこで、松平定信が寛政改革を遂行し、幕府が直面していたさまざまな課題や問題の解決に尽力した。また、諸藩でも、財政窮乏対策のため商品生産や特産物生産の奨励などを行い藩政を立て直した。諸藩の政策と産業発展について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	天保改革と飢饉～諸藩の改革～	天保期、江戸幕府は内憂外患の本格的な危機の時代をむかえ、その対応策として天保改革を断行した。多くの諸藩も幕府同様に危機に直面し、藩政改革を行う。それらの改革を紹介し、寛政期の藩政改革との相違、および天保期の藩政改革がその後の社会にどのように影響したのかを考察する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	朝幕関係と尊号事件	寛政元（1789）年の尊号事件により朝廷と幕府の間に江戸時代初期以来の緊張が走った。江戸時代の朝廷と幕府の関係について、寛永4（1627）年に起こった紫衣事件と尊号事件が前後について学び、その後の国内情勢への影響について考察する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	異国船の来航と沿岸防備	江戸時代後期以降、ラクスマン来日で現実化した対外的危機に直面し、対応策が幕府の重要課題になった。幕府が実施した沿岸防備にも多くの諸藩が動員された。本県下の会津藩・白河藩なども命じられた。沿岸防備の実態について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	開港の影響と動揺	安政5（1858）年幕府は米蘭露英仏の5ヶ国と修好通商条約を締結した。それによって、日本は資本主義的世界市場のなかに強制的に組み込まれることとなり、政治・経済などに大きな混乱と影響がおよんだ。開港による社会にもたらした影響と揺らぐ幕藩体制について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	戊辰戦争と明治維新	慶応4（1868）年1月から始まった戊辰戦争によって、それまで長期にわたって続いた江戸幕府が倒れ、明治政府（維新政府）が誕生した。明治政府の基本方針や実施した政策などについて紹介し、藩体制の解体がどのように進められたのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	お雇い外国人と文明開化	明治政府は、「殖産興業」や文明開化などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人（お雇い外国人）を官庁や学校に招聘した。交通・工業技術・軍備・教育面で活躍し、日本の近代化に大きく貢献した。お雇い外国人と文明開化の関係について紹介する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	廃藩置県と福島県設立について	明治4（1871）年に全国の藩を廃止して府県に統一する、廃藩置県により藩体制が解体された。全国には府県が成立し、本県にも県が置かれ、現在の福島県になるまでには、いくつかの県の統合が行われた。現在の福島県が出来るまでの過程を探る。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

授業名	ヨーロッパ史演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎桑野 聡		
開講期			
授業の概要	1年次のヨーロッパ文化史では、ヨーロッパの形成から近代化の歴史を駆け足で学んだ。この時間では、その後に日本文化史や考古学、美術史、宗教学などを学ぶと共に、学芸員ユニット・図書館司書ユニット、情報処理士ユニットおよびアート系諸科目を広く学んだ学生が、歴史の知識を生活の中で活用していくためのアカデミック・トレーニングを行うと共に、卒業研究に取り組む学生には、論文執筆のサポートとなる歴史的思考力の育成に努める。 今年度は、ヨーロッパにおける言語に注目する。 CD2252		
授業の到達目標	授業で取り上げられる話題に関心をもって取り組み、現代社会との相違点を発見すると共に、その意味や役割を考える力を育成する。 ディプロマ・ポリシーとの関係： 課題解決力・主体的行動力		
履修条件	ヨーロッパ文化史履修学生	成績の 評価方法・基準	毎回のワークないしリアクションペーパー（90％）・授業時の質疑応答（10％）
テキスト	新田春夫「ヨーロッパの言語」、西村淳子「ヨーロッパ多言語主義の可能性－現代ヨーロッパの言語事情」（武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編『ヨーロッパ学入門』改訂版 朝日出版社 2007年／初版2005年）84～106頁・113～143頁。		
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説 1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説 2 近現代篇』 DTP出版 2006年 堀越宏一・基野尚志 編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』ミネルヴァ書房 2013年、など必要に応じて提示する		
学生への要望	基本用語を『世界史B用語集』や高校の教科書、資料集などを用いて自主的に調べる姿勢も期待したい。 新聞やニュースの国際情報にアンテナを張って欲しい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方を解説し、次回からのウォーミングアップを行う。	授業の目的と仕組みを理解する。原作の歴史小説を手にとってみる。	30
2	ウォーミングアップ	導入として、教科書として提示した文献を講読する。	分からない部分があっても、まず一度、全体を通して読んでみましょう。	60
3	ヨーロッパ語を考える①	「語族」という考え方を確認し、インド・ヨーロッパ語族という概念がもつ意味を解説する。	人種や民族との関係を考えてみよう！	60
4	ヨーロッパ語を考える②	インド・ヨーロッパ語族と「アーリア人」という概念の問題を解説する。	語族や人種、民族が歴史の中で作られた概念であることを理解しよう。	60
5	ヨーロッパ語を考える③	EUの多言語主義という言語政策について解説する。	言葉が異なることの意味を考えよう。	60
6	ヨーロッパ語を考える④	ラテン語から英語への公用語の変化について解説する。	グローバルと地域性の関係を考えてみよう。	60
7	ヨーロッパ語を考える⑤	ヨーロッパの言語教育について解説する。	言葉話を話すことの意味を考えてみよう。	60
8	ことばと歴史を考える①	新田論文を用いて、英独仏の言語の関係から歴史を考える。	言葉が歴史の中で作られていく過程を想像してみよう！	60
9	ことばと歴史を考える②	生活言語から見えてくるものを解説する。	言葉が伝わり、使用されて、定着していく過程を想像してみましょう。	60
10	ことばと歴史を考える③	学術用語から見えてくるものを解説する。	ギリシア語やラテン語だけでなく、アラビア語の重要性を理解しよう。	60
11	ことばと歴史を考える④	英独仏の相互の言語的影響から見えてくるものを解説する。	交流や征服など、歴史事象と言語の関係を再確認しよう。	60
12	ことばと歴史を考える⑤	国家と言語の関係を解説する。	言語教育の明暗を理解しよう。	60
13	まとめ作業①	ジョージ・オーウェル作『1984』の映画を鑑賞する。	出来れば、原作を手にとって読んでください。	60
14	まとめ作業②	同上	小説と映画の違いを考えてみましょう。	60
15	まとめ作業③	ことばが変化することと単純化、矮小化することの違いを考えて、本講義のまとめとする。	積極的に議論に参加する姿勢を持ちましょう。	60

授業名	美術史演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎斎藤 美保子		
開講期	Ⅳ期		
授業の概要	今期のテーマ：女性像の鑑賞と意味 1年生の「美術史」の知識を元に、古今東西の女性像鑑賞し、そこに表現されている意味を読み取る。 仏画および日本画の女性像、ギリシア神話の女性彫刻、キリスト教美術の聖母マリア、寓意画、肖像画等が対象となる。授業中の課題は提出後1か月以内に評価を記して返却する。		
授業の到達目標	多様な女性像の意味を、制作年代の時代背景や地域性、思想宗教等から読み取れるようになる。 女性像の意味を的確な言葉で表現できるようになる。 単位認定の最低基準：寓意的な女性像をスケッチやCGを用いて、自ら提案する。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①授業中のテキスト読解と意見交換（30点）②寓意像の簡単な作画（20点）③記述式の期末試験（50点）
テキスト	齋藤美保子著「アングルとドラクロワのカヴェ夫人像」「上村松園作品展を読み解く」の抜刷を配布する。 その他、授業内でコピー資料を配付する。		
参考書	神林恒道編著『西洋美術 1 0 1』三元社、2008年		
学生への要望	美術館や美術書に親しみ、女性像に関する多くの知識を得ること。 スケッチブックに気軽に線を描くように、心がける。		
位置付け・水準	地域創成学探求 CD2254		
ディプロマポリシーとの関係	課題解決力、主体的行動力		
オフィスタイム	火曜日16：10-17：05 金曜日10：30-11：30		
アクティブラーニング実施内容	第13回第14回で寓意画を実作し、第15回で合評する。		
実務家教員の経歴	なし		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	「美術史」の知識を確認し、授業の進め方を理解する。	参考文献を準備する。	90
2	神道および古代の女性像	神道の美術では女神像を表すことが稀であること、高貴な女性は＜源氏物語絵巻＞の様に引き目鉤鼻で描かれることを理解する。	開成山大神宮に参詣し、天照大神の表し方を確認する。	90
3	上村松園等の女流作家の女性像	上村松園についての資料を読み、図版等で鑑賞理解する。 松園の後輩の小倉遊亀、荘司福と共に、同時代のパリ派のマリー・ローランサンの女性像を比較検討する。	学内の美術品をを鑑賞する。	90
4	ギリシア神話の女性彫刻	パルテノン神殿東破風について幾つかの解釈を比較する。	配付資料を読み込む。	90
5	ギリシア神話の女性彫刻 つづき	サモトラケのニケについて、鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。	90
6	キリスト教美術の聖母マリア像	マリアの生涯を名作でたどる。	美術書を渉猟する。	90
7	キリスト教美術の図像学	キリスト教絵画の寓意を読み取る。	美術書を渉猟する。	90
8	寓意画における女性像	『図像学事典』から17世紀の図像学を理解する。	真理、正義等の寓意像を探す。	90
9	寓意画における女性像 つづき	フランス革命期の図像学を理解する。	自由、平等、友愛の寓意像を探す。	90
10	肖像画における女性像	アングルの女性肖像画を鑑賞理解する。	配付資料を読み込む。	90
11	肖像画における女性像 つづき	アングルとドラクロワの女性肖像画の違いから、古典主義とロマン主義を理解する。	配付資料を読み込む。	90
12	花の女神フローラの変遷	古代から近代までの、同一主題の絵画を比較検討する。	配布資料を読み込む。	90
13	寓意像の作画	正義、平和の寓意像のアイディアを出す。	アイディアスケッチの数を増やす。	90
14	寓意像の作画 つづき	「寓意像になった私」を描く。	作品を完成させる。	90
15	作品の合評 まとめ	作品を持ち寄り、感想を述べ合う。美術における意味について考える。 試験の準備指示。	合評のマナーを身につける。試験の準備をする。	180

授業名	宗教文化史演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎福島 寅太郎		
開講期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①必要な文化知識を習得させること。 ②幅広い専門知識を養わせること。 ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。 〔授業全体の内容の概要〕 この授業は、末木文美士氏の『日本宗教史』（岩波新書）を教科書として使い、毎回輪読をし、日本宗教の歴史と文化を学ぶ。新書版だから、読みやすいというイメージがあるが、実際に読んでみると読めない言葉、わからない用語が多々ある。一字一句を声を出して読むという読書の経験が少なく なってきた今日では、一冊の本を時間をかけてじっくり読むという姿勢が珍しいと思われるかも知れないが、必要なことであり、学ぶという本来あるべき姿勢だと考える。なお、後期の概要については改めてお知らせする。 〔授業終了時の到達目標〕 ①文化としての宗教を理解する。 ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。 ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準:CD2255		
授業の到達目標	〔授業終了時の到達目標〕 ①文化としての宗教を理解する。 ②日本の歴史における宗教の影響とその役割を学び、日本文化の総合的な理解を目指す。 ③紹介された諸事例について学問的な理解をする。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係:課題解決力、主体的行動力		
履修条件	短大地域創成学科 2年	成績の 評価方法・基準	試験成績60点、授業における発表20%、授業における参加態度20%など。理解度8割で、合とする。
テキスト	特に指定していないが、途中から必要に応じて指定する場合がある。その場合は事前に詳細を知らせる。		
参考書	末木文美士『日本宗教史』、岩波新書。担当教員個人が持っているが、授業でよく参考にするので、できればそれぞれが一冊を購入することをおすすめする。		
学生への要望	・授業に積極的に参加すること。 ・ノートをこまめにとること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	各回の内容や計画、成績評価の方法などについて説明するほか、教科書のことや参考文献購入のことについても話す予定ですので、必ず出席してください。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
2	日本宗教史とはなにか	これまで日本史の立場に日本宗教史の研究が多かったが、宗教学独自の視点によるものはあまりないようである。宗教学独自の「日本宗教史」は可能か。これまでの議論を踏まえつつ考えてみる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
3	記紀神話の世界	古事記や日本書紀に伝えられている神々の構造を分析し、記紀時代の神話はいったい何を意味するのかを考える。丸山真男の「古層」の問題も話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
4	神と仏	仏教の伝来と神々の変容、神仏習合の諸相などについて、指定された教科書を一緒に読みながら、理解する。神話から歴史への移行に見られる宗教の役割を考えることも課題として予定されている。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
5	神仏論の展開	これまでの話を踏まえ、中世の神仏論の展開を考えてみる。具体的には、実践しようとしての仏教思想、王法と仏法との関係を取り上げて話題にする。『日本霊異記』を参考しながら授業を進める予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	神仏と中世（１）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的にに取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
7	神仏と中世（２）	習合神道の理論や中世的思惟と神仏の関係を具体的にに取り上げて話題にする予定である。また、鎌倉新仏教の「新」にも注目し、中世の神仏論の展開を総合的に理解することを目指している。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
8	世俗と宗教（１）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
9	世俗と宗教（２）	キリシタンと権力者崇拝、宗教統制と権力者崇拝、儒教のイデオロギー、宗教と世俗倫理などを取り上げて話題にする予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
10	神道とナショナリズム（１）	近世の神道の展開などを話題にしながら、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
11	神道とナショナリズム（２）	近世の神道の展開などを話題にしながら、「神儒」や「神仏」および「国学」、国家神道の問題を考えてみる。本居宣長の「古層」発見の方法や神道イデオロギーの問題にも注目してみたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
12	近代化と宗教（１）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的にに取り上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
13	近代化と宗教（２）	国家神道と他の諸宗教の関係を考える。神仏分離から国家神道、キリスト教と国家（内村鑑三事件をの波紋）精神主義の提唱者である清澤満之を具体的にに取り上げてみることにしたい。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
14	民衆宗教の形成	前半は新宗教の誕生、戦後宗教の消長を概観する。後半は「宗教」という概念の生成の背景に注目しつつ、宗教とはなにか、宗教史とは果たして可能かを総括的に考えてみる予定である。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
15	前期のまとめ	レポートを書いて提出する。		1.5
16	後期のガイダンス	絵画に見る「天神さま」について		1.5
17	天神信仰における東福寺の位置づけについて	東福寺における天神信仰の伝承を探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
18	天神像の変容について	怨霊信仰から学問の神様への「変身」についての歴史的な過程をたどる	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
19	怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
20	天神信仰と陰陽道について	陰陽道の動向を視野に入れつつ、天神信仰の展開をさらに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
21	梅と天神信仰	菅原道真像を手がかりに梅と天神の変容のあり方を探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
22	北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
23	学問の神様としての菅原道真像の形成	学問の神様としての菅原道真像の形成とその確立について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
24	天神信仰の広がりについて	天神信仰の地方への広がりについて具体的な事例を取り上げて述べる。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
25	東北地方における天神信仰	東北六県における天神信仰の実体を写真などを通じて探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
26	会津地方における天神信仰の特徴	学問の神様へと変容された会津地方の天神信仰の実体とその特徴について探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
27	庶民信仰としての天神信仰	地域の人々が天神信仰とどのように関わっているかを市町村の関連資料を基に探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
28	天神信仰の現在－地方神社における合格祈願を手がかりに－	神社と天神信仰の関係について、会津地方の事例を手がかりに探る。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	まとめ～その①天神信仰の宗教性と歴史的性格	まとめに当たって、天神信仰の宗教性と歴史性、地方的特徴について考える。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
30	まとめ～其の②天神信仰の宗教性と歴史性	前回と同じ。期末試験については、レポートを提出すること。詳しいことは授業で指示する。	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5

授業名	考古学実習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎會田 容弘			
開講期				
授業の概要	史跡整備、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、遺跡の発掘調査準備、調査、整理作業の実習を行う。5月に実施する実習発掘調査に向けて、様々な発掘調査の方法、実際について講義と実習を行ないながら学んでゆく。本年は5月18日から5月28日まで笹山原遺跡No. 16の実習発掘を実施する。受講者は発掘調査に参加しなくてはならない。発掘調査終了後は、発掘調査で出土した遺物の整理を行う。課題に対するレポートはデータで提出し、それを添削し、コメントを加えるなどのフィードバックを行う。内容が不十分な場合は再提出を求め、同様のフィードバックを行う。 位置付け・水準CD2253			
授業の到達目標	<到達目標>発掘調査の全過程を理解し、実際の発掘調査を行う場合、作業、資料整理の流れを理解できるレベルに到達できること。発掘調査・報告書製作補助ができること。単位認定の最低基準は授業内容の7割以上を理解していること			
履修条件	1年次において考古学を履修しているか、考古学の基本知識を有していること。	成績の 評価方法・基準	レポート及び実習課題と授業への積極的な貢献状況を100点を満点として評価する。60点以上で合格とするが卒業論文を考古学で作成する学生は80%以上の理解が必要である。	
テキスト	文化庁文化財保護部記念物課監修『発掘調査のてびき』			
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～21集,地域創成学科報告集第1～5集			
学生への要望	考古学実習を受講する学生は5月から6月に実施する笹山原遺跡No. 16の発掘調査に参加しなくてはなりません。多様な参加方法を提示しますが、何らかの事情で、全期間発掘調査に参加できない学生は會田に相談してください。			
位置付け・水準	考古学の深い専門性につながり、将来文化財調査の専門職を希望する場合、必須の経験となる。			
ディプロマポリシーとの関係	考古学の発展的理解。			
オフィスタイム	水曜日が授業が少なく、考古学実習室にいます。			
アクティブラーニング実施内容	発掘調査実習に参加すること、調査後の資料整理を行うこと、これらの実習は自主性が問われます。積極的に参加するほど、大きな成果が得られます。			
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	猪苗代湖の自然史	笹山原遺跡群の位置する猪苗代湖の自然史について、福島大学を中心とした研究成果を紹介する。磐梯山の火山学的研究と湿原のボーリング調査によって得られた植生史から、人類が生活できる環境の変遷を述べる。	過去の発掘調査の理解。	30
2	笹山原遺跡群の調査史	郡山女子大学短期大学部考古学研究室によって実施された、笹山原A遺跡、No. 8遺跡、No.16遺跡の発掘調査の調査成果を紹介する。	過去の発掘調査の理解。	30
3	発掘調査の方法	遺跡発掘調査方法について笹山原遺跡No.16の調査を示しながら講義を行う。	過去の発掘調査の理解。	30
4	発掘調査の実際（1）	発掘調査で用いる機材の名称、使い方について講義を行い、それを用いた実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。	30
5	発掘調査の実際（2）	発掘調査における記録方法を説明する。出土位置の記録方法、レベルの使い方、平面図の描き方、層序断面図の描き方を説明する。発掘現場で用いる野帳の使い方、毎日記録する調査日誌の書き方を説明する。	過去の発掘調査の理解。	30
6	発掘調査の実際（3）	教室内に発掘調査区を模擬的に作り、遺物の出土記録の取り方の実習を行なう。	過去の発掘調査の理解。	30
7	発掘調査実習（1）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱa層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
8	発掘調査実習（2）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱa層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
9	発掘調査実習（3）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱa層上面の精査及び掘り下げ。	発掘調査の記録の整理。	30
10	発掘調査実習（4）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱb層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
11	発掘調査実習（5）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱb層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
12	発掘調査実習（6）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅱb層の掘り下げ。縄文時代前期出土資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
13	発掘調査実習（7）	笹山原遺跡No.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	発掘調査実習（8）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
15	発掘調査実習（9）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅲ層の掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
16	発掘調査実習（10）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ。	発掘調査の記録の整理。	30
17	発掘調査実習（11）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。	30
18	発掘調査実習（12）	笹山原遺跡N0.16の発掘調査。Ⅳ層aの掘り下げ。旧石器資料の出土位置の記録及び取り上げ	発掘調査の記録の整理。	30
19	発掘調査のまとめ	発掘調査経過、調査内容、最終的な調査成果について説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
20	資料整理実習（1）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
21	資料整理実習（2）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
22	資料整理実習（3）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
23	資料整理実習（4）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、土器接合、石器母岩分類、図面整理の実習。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
24	資料整理実習（5）	縄文土器整理法。縄文土器の製作技術、型式、機能について観察方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
25	資料整理実習（6）	縄文土器の記録方法としての拓本、実測について説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
26	資料整理実習（7）	石器の実測法。石器製作技術の説明を行い、石器実測図の描き方を説明する。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
27	資料整理実習（8）	石器実測実習。石器の実測図を描く実習を行なう。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
28	資料整理実習（9）	石器・縄文土器の写真撮影方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
29	資料整理実習（10）	報告書作成のための図版作成方法を説明し、実習を行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30
30	発掘調査・整理の成果	考古学実習の総まとめを行う。	授業で行った作業の復習として作業を行う。	30

授業名	地域歴史遺産論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎會田 容弘			
開講期				
授業の概要	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館建設・経営を担ってきた。また並行して埋蔵文化財保護行政の一環として里浜貝塚の国史跡指定その後の整備、管理運営の実務経験もあり、埋蔵文化財の範囲確認・試掘・記録保存、学術調査などのさまざまな目的の発掘調査の実務経験を活かし、現実社会に応用できる実践的な文化財学として地域歴史遺産について講義を行う。歴史遺産とは有形無形の地域の財産を指す。地域の人々が長い年月の間守り続けてきた、あるいは継承し続けてきた地域共有の財産である。よって、歴史遺産とは広義の文化財である。文化財の範囲を文化財保護法にもとめ、具体的な地域の歴史遺産である文化財がどのようなもので、それらがどのようなもので、活用されているのかを実例をあげながら論じてゆく。さらに近年文化財を含む文化資源を「文化観光」に活用することが文化庁を中心に行われている。それらの動向を把握し、地域の活性化の手がかりとしたい。課題は「めばえ」を通じて発表し、学生は期限までに提出する。それを添削し、コメントを加えフィードバックを行う。 位置付け・水準CD2153			
授業の到達目標	地域の歴史資産に対する理解を深め、行政における文化財保護の実際を十分理解し、公的職業人としても、地域住民としても歴史遺産を守り、活用できる社会人としての基礎知識を獲得する。			
履修条件	地域創成学科学生	成績の 評価方法・基準	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。 60点以上を合格とする。学芸員補資格を目指す学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。	
テキスト	文化財保護法、博物館法（令和5年4月施行）、文化芸術基本法、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律、福島県文化財保存活用大綱			
参考書	授業の中で紹介する。			
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	歴史遺産とは何か	歴史遺産にはさまざまなものがある。地域と密接に結びつく歴史遺産は地域の歴史そのものである。地域に残る歴史資料とはどのようなものか、受講生が意識する地域の歴史資料から、文化財として保護すべき要件は何かを整理する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
2	文化財保護法について	日本における文化財保護の考え方が歴史的にどのようなものであったのかからはじめ、文化財保護法成立までの前史と法隆寺火災を期に作られた文化財保護法の理念と改正の過程を示す。そして、改正文化財保護法のねらいと改正博物館法の目指す歴史遺産の保護、活用法について解説する。	授業で取り上げた文化財保護法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
3	有形文化財・無形文化財	建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの（これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む。）並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料をさし、福島県内の有形文化財について学習する。 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いものをさし、福島県内における国指定無形文化財について学ぶ。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	民俗文化財・記念物	衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないものをさし、福島県内における国指定民俗文化財について学ぶ。貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁りよう、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いものをさし、福島県内の記念物について学ぶ。	授業内容を整理する。	30
5	文化的景観・伝統的建造物群	地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないものをさし、福島県内の文化的景観について学ぶ。周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いものである福島県内の喜多方市小田付、下郷町大内宿、南会津町前澤についてその活用法を検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
6	博物館法	令和5年4月から施行される改正博物館法について、改正点を理解する。博物館法が社会教育法に加え、文化芸術基本法に基づく法律になったことを理解する。そこで、特に文化観光の中核施設として位置付けられたことから、博物館の担う地域歴史遺産の活用についてその可能性を検討する。	授業で取り上げた博物館法・文化芸術基本法を指定HPからダウンロードし、熟読すること。	30
7	文化観光の推進について	地域が守り育んできた歴史遺産を「文化観光」資源として活用することが求められている。そのもとになる法律を理解する。そこから何をめざそうとするのか、地域はどれをどのように受け止め、活性化につなげるのかを考える。	授業で取り上げた「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」をHPからダウンロードし、熟読すること。	30
8	福島県文化財保存活用大綱	文化財保護法の改正に伴い策定された「福島県文化財保存活用大綱」に基づき、福島県の目指す文化財保護の方針を理解し、地域歴史遺産の保護と活用の針路を探る。	授業で取り上げた「福島県文化財保存活用大綱」を福島県HPからダウンロードし、熟読する。	30
9	文化財の保護 1	有形文化財のうち重要なものは重要文化財に指定することができる。重要文化財に指定されたものの管理と保存、活用、公開の方法について福島県内の実例を用いて検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
10	文化財の保護 2	重要文化財以外の有形文化財のうち、その文化財としての価値に鑑み保存及び活用のための措置が特に必要とされるものを文化財登録原簿に登録することができる。福島県内の実例を用いて検討する。	授業内容を整理する。	30
11	文化財の保護 3	記念物のうち重要なものを史跡、名勝又は天然記念物（以下「史跡名勝天然記念物」と総称する。）に指定することができる。史跡名勝天然記念物の管理と保存、活用、公開の方法について福島県内の実例を用いて検討する。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
12	遺跡の保存活用の実例 1	福島県文化財保存活用大綱をテキストとして、福島県が進める豊かな歴史と文化に育まれた特色ある文化財について、保存と活用に係る本県の基本的方向性を明らかにし、県内市町村が各種の取組を進めて行く上で、共通の基盤とするために策定した大綱を学び、文化財保存活用の方向性を学ぶ。	授業内容を整理する。	30
13	遺跡の保存活用の実例 2	史跡里浜貝塚の史跡指定から活用の事例。「奥松島縄文村構想」の計画から実施過程、そして完成まで。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
14	遺跡の保存活用の実例 3	山田上ノ台遺跡の保存活用の実例。「縄文の森広場」の構想と計画、そして運営実績。	授業内容を整理し、パワーポイント資料を閲覧する。	30
15	全体総括	身の丈にあわせた歴史遺産の活用に向けてこれから地域創成の核となる地域歴史遺産を発掘し、保存活用して行く方向性を考える。	授業内容を整理する。	30

授業名	地域社会と食生活Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎加藤 雅子			
開講期				
授業の概要	〔授業概要〕 私たちの食生活は、通常摂取する食事である「日常食」と、地域や家庭にとって特別な習慣や行事のために準備する「行事食」とに分類することができます。さらに行事食には「年中行事」や「通過儀礼」といった豊作への祈願や人生の節目を祝う行事など多種に亘る。これらの行事には食物との深い関連性があることを学び理解を深めることを目的とする。 〔課題に対するフィードバック方法〕 レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。			
授業の到達目標	①「日常食」と「行事食」について理解する。 ②地域社会における行事食について理解を深める。 ③実習を通じて食文化や食生活に関心を高める。 ④プレゼンテーション発表会を実施する。 単位の認定の最低基準は、内容の6割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	課題の取組み60％、プレゼンテーション発表内容40％の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とする。	
テキスト	特になし。授業内容について資料を配布する。			
参考書	必要に応じて連絡する。			
学生への要望	グループ内での学習が主となるため、無断で欠席しないこと。調理実習時は注意事項をよく守り、衛生的な配慮と安全に心がけること。			
位置付け・水準	CD2182			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
オフィスタイム	月曜日12:15-12:45、水曜日12:15-12:45、No.1 給食管理研究室（家政学館1F）			
アクティブラーニング実施内容	プレゼンテーション発表			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	地域社会と食生活ガイダンス	地域社会と食生活の授業目的について理解を深めるとともに、今後のスケジュール確認等を行う。	配布資料に「日常の食生活」を記入する。	30
2	日常における食生活について①	食生活における栄養バランスの良い食事について理解する。「献立マスターシール」を利用して自分の食生活を振り返り、栄養バランスを視覚的に確認する。	「献立作成マスターシール」の使い方について復習する。	30
3	日常における食生活について②	前回に続き、「献立マスターシール」を作成する。	「献立作成マスターシール」の使い方について復習する。	30
4	日常における食生活について③	完成した「献立マスターシール」を見て、普段の食事バランス、改善方法、今後の食生活において注意して取り組みたいこと等を確認する。感想をまとめて提出する。	「献立マスターシール」の感想をまとめる。	30
5	家族の食生活について①ー子どもの栄養ー	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会は少ない。子育てから介護と、ライフステージにおける食生活の注意点について理解する。本時は特に子どもの栄養について理解する。	配布資料にをもとに「子どもの栄養」を振り返り、調理実習の確認を行う。	30
6	家族の食生活について②ー介護食についてー	女性にとって、家族の食生活や健康管理に携わる機会は少ない。子育てから介護と、ライフステージにおける食生活の注意点について理解する。本時は特に介護食について理解する。	配布資料をもとに「介護食」を振り返る。	30
7	家族の食生活について③	子どものおやつ調理実習と試食を行い、理解する。	調理実習の振り返りを行う。	30
8	家庭における行事食について、地域における行事食について	家庭において人生の節目を祝う「通過儀礼」など、特別な習慣や行事のために用いる行事食について理解し、家庭における行事食を振り返る。また、地域において、天地の恩恵に感謝し豊作を祈願する「年中行事」について調査するとともに、その際に振る舞われる行事食についても知る。	各自、家庭で行っている「行事食」について振り返る。「年中行事」について振り返る。	30
9	福島県内における行事と行事食について①	グループワーク：福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事について取り上げ、食材と行事食について理解する。	発表準備を進める。	30
10	福島県内における行事と行事食について②	グループワーク：福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事について取り上げ、食材と行事食について理解し、発表準備を行う。	発表準備を進める。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	福島県内における行事と行事食について③	行事食に関わる調理実習と試食を行い、理解を深める。	調理実習の振り返りを行う。	30
12	福島県内における行事と行事食について④	福島県内（会津地方、中通り地方、浜通り地方）における行事についてグループごとに発表を行い、県内の行事食について理解する。	福島県内の行事食を振り返る。	30
13	郡山市の行事食について、新しい行事食について①	郡山市における行事と、行事食について知り、地元の取り組みについても理解する。 これまで県内における行事食について理解を深めてきた。地域創成学科の学生として、今後新しい行事食として、県内をPRできるような献立について検討する。	郡山市と地元（出身地）の特徴を振り返る。また、新しい行事食を検討する。	30
14	新しい行事食について②	グループワーク:新しい行事食のアイデアを考え、他へ発信できるよう資料を作成する。	新しい行事食について、振り返る。	30
15	授業の確認とまとめ	これまでの授業をを通して学んだ内容について振り返る。	これまでに学んだ内容をまとめる。	30

授業名	地域社会と食生活Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎柳沼 和子		
開講期			
授業の概要	〔授業概要〕 私たちの食生活は、通常摂取する食事である「日常食」と、地域や家庭にとって特別な習慣や行事のために準備する「行事食」とに分類することができる。特に行事食では、「年中行事」や「通過儀礼」といった豊作への祈願や人生の節目を祝う行事など多種に亘る。今期では、これらの行事と日本の食物には深い関連性があることを学び理解を深める。さらに、県や市町村における食育推進計画を通じて、地元の食文化や食生活に関心を高めることを目的とする。 〔課題に対するフィードバック方法〕 レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。		
授業の到達目標	〔達成目標〕 ①地域社会における行事食について理解を深める。 ②地元の食文化や食生活に関心を高める。 ③プレゼンテーション発表会を実施する。 単位の認定の最低基準は、内容の6割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	確認テスト50点、課題への取り組み30点、プレゼンテーションへの取り組み20点の結果を総合的に判断し、60点以上で合格とする。
テキスト	特になし。授業内容について資料を配布する。		
参考書	必要に応じて連絡する。		
学生への要望	講義・課題に対して意欲的に取り組み、グループでは積極的にディスカッションすること。調理実習時は注意事項をよく守り、衛生・安全に心がけること。		
位置付け・水準	CD2282		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力		
オフィスタイム	家政学館2階 NO.2給食管理研究室 金曜日 3・4限目		
アクティブラーニング実施内容	調理実習		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションおよび「日本の四季」について	シラバスをもとに授業概要や達成目標を確認し、課題を提示する。オリエンテーション後、日本の四季について二十四節気を通し、理解を深める。	配布資料をもとに、Ⅳ期の授業内容について理解を深める。	30
2	「米」について	稲作の伝播や年中行事について理解を深め、神事と関わりの深い日本の稲作文化について考える。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
3	「年中行事」について	年中行事と行事食について学び、特に五節句について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
4	「通過儀礼」について	通過儀礼と食事について学び、日本の米・餅文化について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
5	「郷土料理」について①	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
6	「郷土料理」について②	郷土料理の特徴として、食材・地理・気候・歴史等が関係することを学ぶ。また、福島県の産業や特産物を学び、郷土料理について理解を深める。	配布資料をもとに、地域の食について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
7	「食育」について①	食育基本法の理念を学び、福島県が推進する「福島県食育推進計画」について学ぶ。 【個人課題】「自身の考える「地域の食育」について」	配布資料をもとに、地域の食育と出身地の食育推進計画について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30
8	「食育」について②	各地の食育の事例をもとに、地域社会と食生活について考える。	配布資料をもとに、地域の食育と出身地の食育推進計画について理解を深める。 食に関する新聞記事を収集する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備①	グループワーク：グループワークの手法を学び、学生が地域に関わり、地元の食を継承していくためのディスカッションをする。 【グループ課題】「地域社会の食の伝承」の方法	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
10	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備②	グループワーク：料理の由来や作り方を学び、PRに関する課題点と、今後の伝承・発信方法等を考え、発表用のパワーポイント作成を行う。 【個人課題】「自身の考える「地域の食育」について」を提出	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
11	「正月料理」について	正月にまつわる行事や、「おせち」のいわれについて学ぶ。	実習前に、調理手順について理解する。	30
12	調理実習「正月料理」	前回の授業をふまえ、実際の調理を通して「正月料理」について学ぶ。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
13	地域社会と食生活の関わり プレゼンテーション準備③	グループワーク：料理の由来や作り方を調査し、PRに関する課題点と、今後の伝承・発信方法等を考え、発表用のパワーポイント作成を行う。 授業の復習として、確認テストを行う。	プレゼンテーションに向け、文献調査をする。	30
14	授業のまとめ プレゼンテーション	グループごとに発表し、他グループとディスカッションする。 【グループ課題】「地域社会の食の伝承」の方法を提出	Ⅳ期の内容をまとめる。	30
15	授業のまとめ プレゼンテーション	グループごとに発表し、他グループとディスカッションする。 返却：Ⅳ期の提出物、確認テストの解説	Ⅳ期の内容をまとめる。	30

授業名	地域服飾文化論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎田辺 真弓		
開講期			
授業の概要	本演習は地域創成学科の選択科目として地域社会と衣生活の関わりについて学ぶ。授業概要をつぎに掲げる。 ①日本の伝統的な無駄のない衣生活と現在求められている持続可能な社会について学ぶ。 ②衣生活に関連する福島県内の産業について、古くから継承されてきたもの、その現在の状況、今後の展望について学ぶ。 ③福島県内のアパレルファッションビジネスについて学ぶ。 ④福島県内の農村を例とする伝統的な服飾文化、ならびに会津の地歌舞伎とその衣裳について学ぶ。 ⑤この授業で学んだ内容で特に関心を持った事柄の中からテーマを決めて各自で調査してまとめ、プレゼンテーションを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。		
授業の到達目標	目標は ①身近な生活圏の服飾・衣生活文化を理解し、地域社会に貢献できる力を身につけていること。 ②柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけていること。 ③現代の衣生活における多様な課題を発見し、分析・解決する能力を身につけていること。 ④衣生活文化に関する専門的知識を基に論理的に課題を探索し、他者と協調しつつ、主体的に問題を解決していく能力を身につけていること。 単位認定の最低基準は内容の7割を理解していること。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	達成目標の到達度合いは課題レポート、パワーポイント、プレゼンテーションにより確認と評価を行う。 ①課題レポート提出 20点 ②パワーポイントデータ提出 40点 ③プレゼンテーション 40点 60点を合格点とする。
テキスト	教科書は用いず、プリントを配付する。		
参考書	福島県内自治体史、『衣服の百科事典』丸善出版株式会社・平成27年、一般社団法人日本家政学会編『被服学事典』平成28年、その他は授業で紹介する。		
学生への要望	地域社会で営まれている衣生活に関心をもち、また、新聞や雑誌の衣生活に関する記事や参考図書などを読み、広く知識を得ること。 事前学習:当日の内容をシラバスで確認しておく。 事後学習:授業内容を振り返り、ノートにまとめる。 11回から15回は学生各自がプレゼンテーションを実施するため、テーマを決めて調査することを念頭に置きながら受講することが望ましい。		
位置付け・水準	位置づけ・水準 CD2183		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマ・ポリシーとの関係 1) 地域社会貢献力 2) 創造的思考力 3) 課題の発見と解決力		
オフィスタイム	場所 教務部非常勤講師控室 時間 水曜日V時限		
アクティブラーニング実施内容	福島県内の服飾文化についての講義を受けて、学生各自が最も関心を持った事柄について、文献調査、見学、聞き取り等を実施し、それらの内容のまとめと考察を行ってパワーポイントを作成する。これにより能動的学習力、課題解決力、構成力を養う。また、プレゼンテーションを行うことにより表現力を養う。プレゼンテーションに対して質疑応答を実施し、学びを深める。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業計画の提示 日本の伝統的な布を大切に使いきる衣生活	授業の目標ならびに授業内容について説明する。 日本のきものは直線裁ち、直線縫いの平面構成であり、長い間、季節毎にきものをほどこいて縫い直し、布を無駄なく使いきるという衣生活が実践されてきた。この衣生活について、文学作品や図版資料を基に考える。	シラバスの内容をよく読み、自分が関心を持つ内容について、どのように調べていくか考えてみる。 本日の授業内容についてまとめる。	60
2	衣服の廃棄とリサイクル (1)	現在、地球環境を守り、限られた資源を無駄なく活用しようとする意識が高まりつつある。「持続可能な社会」「サステナブル」「SDGs」などのキーワードについて確認するとともに、リサイクルの方法について理解する。また、衣服の大量廃棄が行われている現状と、その原因について学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
3	衣服の廃棄とリサイクル (2)	近年、アパレル産業でも環境問題に配慮した「サステナブルファッション」や、労働問題、社会問題に配慮した「エシカルファッション」等の言葉が使用されるようになってきた。その取り組みについて具体例を学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	福島県内の服飾関連産業(1) 昭和村のカラムシ栽培とカラムシ織	かつてカラムシは広く自生し、また栽培されていたが、現在では奥会津の昭和村のみで伝統的な方法を守って栽培されている。昭和村で行われているカラムシ栽培とカラムシ織の取り組みについて学ぶ。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。	60
5	福島県内の服飾関連産業(2) 川俣の絹生産と絹織物	江戸時代中期に伊達郡地方の養蚕業は高い技術を持ち、先進地として全国に知れ渡っていたという。明治期になるとこの地方で生産された生糸は輸出され、日本経済を支えた。その後外国産の安価な絹に押されて衰退したが、現在は技術革新によって優れた絹製品を作り出し、世界的に認められるようになってきている。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。 これまでの授業内容に関連して、最も関心を持った事柄について調べる。	60
6	福島県内の服飾関連産業(3) 会津木綿と新たな木綿産業	会津地方では16世紀末から木綿栽培が始まり、会津藩の綿花栽培・織物奨励により、会津木綿は特産品のひとつとして発展した。現在は民芸織物として生産されている。また、東日本大震災後の復興を目的として始められた木綿産業についても紹介する。	本日の授業内容について、関心を持ったこと、ならびに感想をまとめる。 これまでの授業内容に関連して、最も関心を持った事柄について調べる。	60
7	福島県内の服飾関連産業(4) ニット・縫製業	福島県は縫製業が盛んな県として知られている。県内各地で多くの縫製工場が稼働している。大手アパレルメーカーと提携して縫製を行っている工場や、独自のブランドを立ち上げ、企画から販売までを行い、業績を上げている会社もある。それらの例を挙げ、福島県内のアパレル産業について学ぶ。	①計画 これまでの授業の中で、最も関心を持った内容を選び、それに関連するプレゼンテーションの計画を立てる。	60
8	福島県の伝統的衣生活	福島県の農村ではかつて、各戸で衣服材料となる繊維を生産し、機織りや染色をして生地とし、衣類に仕立て着用していた。また、蓑や笠、わらじ等も家内で生産していた。この自給自足を原則とした衣生活について学ぶ。	②資料の収集 関連図書、ホームページ、聞き取りなどにより、プレゼンテーションに必要な資料を集める。	60
9	会津の角巻	明治期に都会から流行した「赤毛布」が地方に伝わり、「角巻」に変化して雪国の防寒具として着用された。会津地方では「御高祖頭巾」と組み合わせで愛用されたという。会津地方の自治体史を基に雪国の衣生活を知る。	③パワーポイント作成 収集した資料を組み立て、パワーポイントを作成する。	60
10	会津の地歌舞伎と歌舞伎衣裳	会津地方は近世から近代にいたるまで、農民が自ら演じる地歌舞伎が盛んな地域であった。この地歌舞伎の歴史を知るとともに、その舞台で使用された歌舞伎衣裳についての知識を得、地歌舞伎についての理解を深める。	④データの提出と練習 完成したパワーポイントのデータを「めばえ」に提出し、プレゼンテーションの練習をする。	60
11	プレゼンテーション(1)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
12	プレゼンテーション(2)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
13	プレゼンテーション(3)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
14	プレゼンテーション(4)	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。	60
15	プレゼンテーション(5) まとめ	パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行い、さらに質疑応答を行う。 これまでの授業内容を振り返り、補足説明を行う。また、質問に答える。さらに、授業の目標について改めて確認し、達成度を確認する。	本日のプレゼンテーションの内容についてまとめる。 この授業で学んだことを今後どのように発展させていくかについて、自分の考えをまとめる。	60

授業名	油彩画Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期			
授業の概要	油彩画Ⅰで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追究します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
履修条件	油彩画Ⅰを履修していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2261		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・主体的行動力を油彩画制作を通して養います。		
オフィスタイム	水曜Ⅴ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・授業目標と内容、および授業の進め方について。 ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（制作キャンパス含む）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
2	自由画制作－1	・表現は具象・抽象のどちらでも可。モチーフは静物・風景・人物・構成画など選定は自由。 ・各種モチーフの組み合わせによる心象表現でも可。 ・F50号以上のキャンパス及びF6号程度の小キャンパスを数枚準備する。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
3	自由画制作－2	基底材（キャンパス）の準備… ・木枠に布を張る（2人組共同作業）。または市販の張りキャンパスを使用。各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。 ・表現したいテーマについての取材やモチーフ選定、セット。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
4	自由画制作－3	エスキース制作… ・スケッチやエスキース（下絵）などで構想を練る。 ・表現のイメージがある程度かたまったら50号または小キャンパスに制作を始める。	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
5	自由画制作－4	作品制作… ・表現意図をなるべく明確にする。 ・固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
6	自由画制作－5	作品制作とさまざまな技法の試み… ・50号制作と並行させて、小キャンパスにさまざまな技法を試みる。 ・大画面の絵具の乾燥を待つ間や発想の転換を図る際に有効。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	自由画制作－ 6	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－グリザイユ（単色描画法）、グラッシ（おつゆ描き）、ドリップング（液状絵の具の滴下）、フロETTE（刷り込み）、フロウイング（流し込み）、スクラッチング（引っかき）など。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
8	自由画制作－ 7	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－絵の具の掻き取りや盛り上げ、異物混入、コラージュ、デカルコマニー、フィンガーペインティング、プリンティング、その他。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	自由画制作－ 8	作品制作とさまざまな技法の試み… ・制作意図に応じて様々な技法を画面に応用したり、発想の転換を図ることなどを繰り返しながら画面上で各自の表現意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
10	自由画制作－ 9	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿ったものであるかどうかを確認しながら、また全体の関係を見ながら制作を進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	自由画制作－ 1 0	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面創りを目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
12	自由画制作－ 1 1	作品制作… ・制作意図が十分に表現できているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	自由画制作－ 1 2	作品制作… ・完成に近づきつつある作品を前に、更により深い表現を追究する。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
14	自由画制作－ 1 3	作品制作… ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の構成要素のバランスを整えて完成に向かう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	自由画制作 < 講評会 >	・完成した作品を並べて一点一点講評する。 ・学生、教員の意見交換をおこない、作品制作の、より高い目標達成を目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

授業名	油彩画Ⅲ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期			
授業の概要	油彩画Ⅱで学習したことを基礎として更に、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追究します。提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
履修条件	油彩画Ⅰ・油彩画Ⅱを履修していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。CD2361		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・主体的行動力を油彩画制作を通して養う。		
オフィスタイム	水曜Ⅴ限（No.2 地域創成研究室）		
アクティブラーニング実施内容	すべての課題作品制作において、学生が自主的に判断・工夫し取り組む。		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	後期ガイダンス	・授業の目標と内容、および授業の進め方についての説明。 ・用具材料の点検。（不足品については各自で購入補充する。） ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（制作キャンバス含む）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
2	自由画制作－1	作品制作…主題の設定とモチーフの取材および選択 ・テーマの設定は自由とする。表現は具象、抽象どちらでも可。モチーフの設定も自由。 ・自分のテーマに合うモチーフや作家の作品等について取材し、制作のコンセプトを明確にしていく。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
3	自由画制作－2	作品制作…基底材（キャンバス）の準備 ・木枠に布を張る（2,3人組共同作業）。F80号～F150号の木枠を準備する。 ・各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。 【事後学習】授業実施内容を踏まえ、道具や材料などを更に調べておく。	30
4	自由画制作－3	作品制作…エスキース制作 ・自由な発想で画面構成を試みる。 ・油彩画Ⅰや油彩画Ⅱ前半で試みた様々な技法も応用して自分の制作意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
5	自由画制作－4	作品制作… ・木炭エスキース、淡彩画、小キャンバスの利用などいろいろ試みながら発想の柔軟性を図り、画面構成をおこなう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
6	自由画制作－5	作品制作… ・構想がまとまり、画面構成がおおまかに決まったら大画面制作をはじめめる。 ・F30号以上のキャンバスを使用。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	自由画制作－ 6	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係を見ながら制作を進める。 ・自分の制作意図をより効果的に表現するための、技法の選択と組み合わせも考えながら進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
8	自由画制作－ 7	作品制作… ・制作意図に応じて、さまざまな技法を画面に取り入れてみる。 ・発想の転換を図ったりしながら画面上で自分の表現意図を絞り込んでいく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	自由画制作－ 8	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿っているかどうかを確認する。 ・全体の関係をみながら制作を進める。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
10	自由画制作－ 9	作品制作… ・制作意図に沿っているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探っていく。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	自由画制作－ 1 0	作品制作… ・細部に捕らわれずに絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面づくりを目指す。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
12	自由画制作－ 1 1	作品制作… ・自分の制作意図やイメージに沿った作品となっているかどうかを絶えず確認する。 ・密度のある画面作りを目指して更に描き込む。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	自由画制作－ 1 2	作品制作… ・完成に近づきつつある作品に対して、より深い表現となるよう追究する。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
14	自由画制作－ 1 3	作品制作… ・必要に応じて強調や省略等を加え、画面全体の構成要素のバランスを整えて魅力ある完成度の高い画面づくりを目指す。 ・制作もかなり進んできたが、描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	自由画制作　＜講評会＞	完成した作品を並べ講評。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅲの総評。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

授業名	水彩表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択	
担当教員名	◎斉藤 弘久			
開講期				
授業の概要	水彩絵の具は水を加えるだけで手軽に使用でき、誰もが子供の頃、手にした事のあるなじみの深い彩色材料です。しかも他の描画材料との併用も容易であり、この素材的特性から水彩画は柔軟性にとみ、多くの可能性を秘めた表現媒体であるといえます。 (CD2171)			
授業の到達目標	授業では、水彩絵の具のほかにその他の水性絵の具の使用方法も含めて、それらの素材的特性の理解と技術の習得を目指し、技法の開拓を図ることにより更に水彩画の表現の可能性を追究していきます。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	①授業目標の達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)	
テキスト	そのつど担当者が資料を配布する。			
参考書	そのつど担当者が紹介する。			
学生への要望	水彩絵の具の表現方法の工夫。例えばティッシュで拭き取ったり、ニードルで引っ掻いたりと様々な表現を納得のいくまで追究すると共に制作そのものを楽しみましょう。また、空き時間を利用して画材に触れるよう心掛けてください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の目標と内容について、および授業の進め方について話します。 水彩画の特色と歴史および用具と材料について話します。 透明絵の具と不透絵の具、透明描法と不透明描法について説明します。	授前、水彩画について自学習 授後、制作の準備	180
2	風景画	キャンパス風景写生の制作をします。校舎内外の描きたい場所を選びます。 作品参考例により構図（近景、中景、遠景の関係と組み合わせ等）を考えます	授前、制作の準備 授後、構図の確認	180
3	風景画	○キャンパス風景写生 キャンパスの描きたい所2～3箇所をスケッチして淡彩で塗ります。クロッキーやデッサンには鉛筆、コンテ、各種の素材を試みましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
4	風景画	○キャンパス風景写生 大気に漂う瑞々しい季節感を肌で感じ取りながら、描いている対象の中心（主題）を見極めて行きましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
5	風景画	○キャンパス風景写生 淡彩スケッチ2～3枚の中から制作場所を選び、四つ切り水彩用紙（コットマン紙）に描きます。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
6	風景画	○キャンパス風景写生 主題と構図の関係を考えながらデッサンしましょう。対象の風景に含まれるいろいろな物には省略や移動を加えて効果的な構図を考えましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
7	風景画	あくまでも自分の描きたい場所で、楽しく制作を進めることが大切です。 彩色に入ります。（透明描法、不透明描法の何れでもよいです。）	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
8	風景画	各自の主題、コンセプトに合わせ、基調色を選びましょう。 全体の色調のバランスを考えながら、大まかに色を置いていきます。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	風景画	細部に拘らずに太めの筆でのびのびと彩色しましょう。 構図や色調が各自の主題表現に沿っているかどうか確認しながら、追究し、加筆しましょう。	授前、制作の準備 授後、仕上げに向けての準備	180
10	風景画	キャンパス風景写生を完成させる。担当教員が講評する。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてのまとめ	180
11	静物画	各自が描きたいモチーフを選び、2箇所にモデルを設置します。（2グループでモデル設置作業を行います。）写生による写実的表現を原則としますが、心象的表現を試みてもかまいません。	授前、静物画について情報を集める 授後、静物画に対しての認識を深める	180
12	静物画	2種類のモデルより一つ選びます。 複数のモチーフの中から各自描きたいものを選び、画面構成を考えながらデッサンします。 モチーフは多すぎないように注意しましょう。 半切または全紙の水彩用紙を使用します。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
13	静物画	画面上でのモチーフの省略や移動も試みて、各自のコンセプトをより明確に表現できるような構図を考えましょう。	授前、制作の準備 授後、次回の制作に向けて反省箇所や工夫等を考える	180
14	静物画	単なる写生に止まらず、モチーフに対する感情移入を大切にして、心象表現の試みなども可能です。表現の方針が決まり、デッサンが済んだら彩色に入ります。色は透明描法、不透明描法および両者の併用など各自のコンセプトに合わせて使い分けましょう。	授前、制作の準備 授後、完成にむけて準備	180
15	静物画	作品を完成させる。最後に教員がこの授業で学んだ風景画、静物画に対しての講評を行う。	授前、制作の準備 授後、完成作品についてまとめ	180

授業名	塑造表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎黒沼 令			
開講期				
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。塑造とは彫刻の技法の一つで、粘土などの可塑性のある素材で彫刻作品をつくる事を言います。塑造表現の授業では粘土による造形、石膏取りなどの技法を体験し、彫刻の基礎的な技法や表現を身につけ、ものをつくる喜びや達成感を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。			
授業の到達目標	塑造作品の制作を通して、塑造の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。			
履修条件	地域創成学科2年生 生涯学習生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、 授業理解度は7割以上を求めます。	
テキスト	特に無し。			
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等			
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。			
位置付け・水準	CD2267			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室			
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	塑造表現の授業について	・塑造表現の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	頭像制作－1	◆塑造について学習する 塑造の初めての学習として、友人の頭像をつくることで、彫刻の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、塑造の基礎的な技法（芯棒づくり、石膏取りなど）の習得を目指す。 《課題についての説明とデッサン》 ・頭像をつくる目的、意義について ・具象彫刻についての学習 ・グループ分けを行いデッサンする	授業外でもモデルの正面と側面のデッサンを進める	120
3	頭像制作－2	《頭部のデッサン》 ・前回に続きデッサンを行う。 ・様々な角度から対象をとらえる。		0
4	頭像制作－3	《芯棒制作と粘土練り》 ・芯棒を作る ・粘土を練る	粘土を練り制作の準備を行う。	120
5	頭像制作－4	《芯棒制作と粘土練り》 ・芯棒を作る ・粘土を練る		0
6	頭像制作－5	《モデリング・1》 ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する	荒づけの段階を進める	120
7	頭像制作－6	《モデリング・1》 ・荒づけ ・モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する		0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	頭像制作－ 7	《モデリング・ 1》 ・ 第7回に同じ。	細部の造形に入る前の全体的な形をつくる。	120
9	頭像制作－ 8	《モデリング・ 2》 ・ 荒づけ ・ モデルをよく観察し、頭部構造を把握する ・ 細部にとらわれず、大きな形の組み立てを理解する		0
10	頭像制作－ 9	《モデリング・ 2》 ・ 第9回に同じ	細部の造形に入る前の全体的な形をつくる。	120
11	頭像制作－ 1 0	《モデリング・ 3》 ・ 前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・ 注意する点 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか		0
12	頭像制作－ 1 1	《モデリング・ 3》 ・ 第11回に同じ。	彫刻性を意識し、作品制作を進める。	120
13	頭像制作－ 1 2	《モデリング・ 4》 ・ 前段階を踏まえて、全体のバランスを考えながら、部分的造形に移行していく ・ 注意する点 1、彫刻性を意識しているか（構造、量塊感など） 2、全体の中で破綻がないか 3、イメージを持って表現しているか		0
14	頭像制作－ 1 3	《モデリング・ 4》 ・ 第13回に同じ	彫刻性を意識し、作品制作を進める。	120
15	頭像制作－ 1 4	《モデリング・ 5》 ・ 完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げていく		0
16	頭像制作－ 1 5	《モデリング・ 5》 ・ 第15回に同じ。	仕上げに向けて作品を進める。	120
17	頭像制作－ 1 6	《モデリング・ 6》 ・ 引き続き完成をイメージしながら、表面処理、細部の表現など、仕上げていく		0
18	頭像制作－ 1 7	《モデリング・ 6》 ・ 第17回に同じ	粘土段階を完成させる。	120
19	頭像制作－ 1 8	《石膏取り・ 1》 ・ 石膏取りについて学習する ・ 雌型をつくる 1、石膏取りの環境をつくる 2、粘土作品に切り金を差し込む 3、石膏液を振りかける 4、石膏を盛り上げる		0
20	頭像制作－ 1 9	《石膏取り・ 1》 ・ 第19回に同じ	雌型の完成まで行う。	120
21	頭像制作－ 2 0	《石膏取り・ 2》 ・ 雄型をつくる 1、離型剤を雌型に流し込む 2、雌型に石膏液を流し込む 3、スタッフで補強する		0
22	頭像制作－ 2 1	《石膏取り・ 2》 ・ 第21回に同じ	雄型の完成まで行う。	120
23	頭像制作－ 2 2	《石膏取り・ 3》 ・ 割り出し、修正を行う ・ 乾燥後着色		0
24	頭像制作－ 2 3	《石膏取り・ 3》 ・ 第23回に同じ	割り出し修正作業を進める。	120
25	頭像制作－ 2 4	《石膏取り・ 4》 ・ 割り出し、修正を行う ・ 乾燥後着色		0
26	頭像制作－ 2 5	《石膏取り・ 4》 ・ 第25回に同じ	作品に着色し仕上げる。	120
27	頭像制作－ 2 6	《台座制作》 ・ 台座について理解する ・ 木材で台座を制作後		0
28	頭像制作－ 2 7	《台座制作》 ・ 木材で台座を制作後、頭像を設置する	台座を仕上げる。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	頭像制作－2 8	《台座制作》 ・台座の着色など仕上げを行う。		0
30	合評会	《合評会を行う》 ・制作した作品についてのプレゼンテーションを含めた合評を行う	合評会の反省を踏まえて作品を完成させる。	120

授業名	木彫表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎黒沼 令			
開講期				
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。木彫とは彫刻の技法の一つで、木を素材として彫刻作品をつくる事を言います。木彫表現の授業では動物をモチーフとした木による造形を体験しながら、木彫の基礎的な技法を学ぶ、また、木の素材的な魅力を味わう事を目標とします。 最終授業で取り組んだ作品に対するフィードバックとして合評会を行います。			
授業の到達目標	木彫作品の制作を通して、木彫の技法と表現を学ぶことを目標とします。また、もみじ会や展覧会などの作品発表を積極的に行い、学習の成果を確認する機会とします。 ・単位認定の最低基準：課題作品を提出すること。その達成度が8割以上であること。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70% ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30% 以上の配分で評価します。60点以上で合格としますが、授業理解度は7割以上を求めます。	
テキスト	特に無し。			
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立美術館、郡山市立美術館、他） ・街の中の彫刻 ・公募展覧会等			
学生への要望	公共彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を観ることを心がけてください。			
位置付け・水準	CD2272			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室			
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	木彫表現の授業について	・木彫表現の履修及び授業の年間計画について ・彫刻室の使用について ・準備する道具、材料、費用について ・彫刻の基礎的な学習		0
2	動物彫刻制作－1	◆木彫について学習する 木彫の表現（造形要素や用語など）を学習していくとともに、木彫の基礎的な技法（木の材質の特徴、魅力や造形方法）の習得を目指す。 《課題についての説明とアイディアスケッチ》 ・目的、意義について ・木についての学習 ・アイディアスケッチを行う	・アイディアスケッチを進めながら構想を練る	120
3	動物彫刻制作－2	《アイディアスケッチ》 ・つくりたい動物を考える。		0
4	動物彫刻制作－3	《アイディアスケッチ》 ・つくりたい動物を考える。	・授業内容を振り返りながら制作を進める	120
5	動物彫刻制作－4	《木彫制作・1》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。		0
6	動物彫刻制作－5	《木彫制作・1》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。	・授業内容を振り返りながら制作を進める	120
7	動物彫刻制作－6	《木彫制作・2》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。		0
8	動物彫刻制作－7	《木彫制作・2》 ・木材にデッサンを入れる ・ノコギリ等で木取りする。	・自分がつくりたいものを基に取材、デッサンを進める	120
9	動物彫刻制作－8	《木彫制作・3》 ・ノコギリ等で木取りする。 ・鑿などで粗彫りする。		0

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	動物彫刻制作－ 9	《木彫制作・ 3》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
11	動物彫刻制作－ 1 0	《木彫制作・ 4》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
12	動物彫刻制作－ 1 1	《木彫制作・ 4》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
13	動物彫刻制作－ 1 2	《木彫制作・ 5》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
14	動物彫刻制作－ 1 3	《木彫制作・ 5》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
15	動物彫刻制作－ 1 4	《木彫制作・ 6》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
16	動物彫刻制作－ 1 5	《木彫制作・ 6》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
17	動物彫刻制作－ 1 6	《木彫制作・ 7》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
18	動物彫刻制作－ 1 7	《木彫制作・ 7》 ・ ノコギリ等で木取りする。 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
19	動物彫刻制作－ 1 8	《木彫制作・ 8》 ・ 鑿などで粗彫りする。		0
20	動物彫刻制作－ 1 9	《木彫制作・ 8》 ・ 鑿などで粗彫りする。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
21	動物彫刻制作－ 2 0	《木彫制作・ 9》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。		0
22	動物彫刻制作－ 2 1	《木彫制作・ 9》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
23	動物彫刻制作－ 2 2	《木彫制作・ 1 0》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。		0
24	動物彫刻制作－ 2 3	《木彫制作・ 1 0》 ・ 鑿などで粗彫りする。 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
25	動物彫刻制作－ 2 4	《木彫制作・ 1 1》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。		0
26	動物彫刻制作－ 2 5	《木彫制作・ 1 1》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
27	動物彫刻制作－ 2 6	《木彫制作・ 1 2》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。		0
28	動物彫刻制作－ 2 7	《木彫制作・ 1 2》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。 ・ 着色等、仕上げの工程に取り組む。	・ 授業内容を振り返りながら制作を進める	120
29	動物彫刻制作－ 2 8	《木彫制作・ 1 3》 ・ 彫刻刀などを用いて、徐々に細部の表現を行う。 ・ やすりなどを用いて、表面の表現を行う。 ・ 着色等、仕上げの工程に取り組む。		0
30	合評会	《合評会》 ・ 1年間の作品についてのプレゼンテーションを含めた合評会を行う	・ 講評会の反省を踏まえて作品を完成させる。	120

授業名	版画表現	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎斉藤 弘久			
開講期				
授業の概要	版画基礎で学んだ事の中から興味を持った版種を２種類選び技法をさらに深めて表現方法を考える。技法は基礎で学んだ以外にもあるので、さらに挑戦してみる。アナログとデジタルの併用による効果なども試して行く。(CD2262)			
授業の到達目標	版画への理解を深め、表現の豊かさ新鮮さを感じる。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（20点）	
テキスト	そのつど担当者が資料を配布する。			
参考書	そのつど担当者が紹介する。			
学生への要望	学んだことを工夫して発見したり活かしたりしながら課題内容の充実を図ってください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	版画の表現手段を再確認する。	授前、版画の基礎を確認 授後、自分にあった技法を選択	180
2	2版種の選択	選ぶために技法を確認する	授前、選ぶ技法を確認 授後、選んだ技法を確認	180
3	1版種目の技法の再確認	選んだ技法の確認と試作。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
4	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
5	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
6	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
7	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
8	版画制作	選択した版種で制作 完成をさせる。	授前、制作の完成を目指す 授後、完成作品を振り返る	180
9	2版種目の技法の再確認	2つ目に選んだ技法の確認。この時間は下書きをしながら表現方法を考えます。	授前、絵柄を考える 授後、絵柄の確認	180
10	版画制作	自分の選んだ版種をどこまで深められるか、版種ごとの試作つくります。	授前、さらに絵柄を深める 授後、試作の活かし方を考える	180
11	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
12	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
13	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
14	版画制作	選択した版種で制作	授前、制作準備 授後、次の制作の準備	180
15	版画制作まとめ	完成した作品を鑑賞する。	授前、制作の完成を目指す 授後、版画についてまとめる	180

授業名	ビジュアルデザインⅠ		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択
担当教員名	◎小松 太志			
開講期				
授業の概要	視覚的な伝達を試みる課題に取り組みます。広告表現の効果的な方法には、文字のみによって意味を伝える方法と、文字や言葉に頼らない意味の伝達方法があります。自分の意見や考えを視覚的要素を駆使しながら表現することを試みます。 完成した作品は講評時に全員で鑑賞し感想などを述べ合います。また提出したレポートを返却する際はコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2163			
授業の到達目標	広い視野で物事に関心を寄せ、身近な社会問題にも興味を持ってください。また、撮影の際はモラルとマナーを守り、自分らしい視点を大事にしながら制作にあたってください。 ・単位認定の最低基準：課題作品の提出（ルーブリック評価に基づいて判定します） ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	課題作品の提出状況と達成度(80点)、制作姿勢（20点）の他、授業目標への意欲や関心度などを総合的に判断します。	
テキスト	ありません。 必要に応じて関連資料を配布します。			
参考書	○参考書 ・デザイン概論（ダヴィッド社） ・graphic elements（武蔵野美術大学出版局） など ○表現材料・道具など ・撮影し出力したもので制作します。各自の表現方法に合わせて準備をしてください。 （材料についての相談は受けます）			
学生への要望	例えば、標識の図記号やスマートホンのアイコンなどは単純でわかりやすく、それらを構造化、システム化して表示することにより、言語のようなメッセージを発信します。 自分の伝えたい情報が適切に提示できているか、他者を意識した視点で課題制作に取り組んでください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	「視覚的な伝達」について事例を提示してガイダンスを行う。	配布された資料にもとづき視覚的要素による伝達について考え理解を深める。	30
2	視覚言語とは何か	色や形、イメージなどの要素となる「視覚言語」について考える。	校内や街中にある身近なサインを複数確認して間違いのない理解が可能かを確かめる。	60
3	演習：課題制作 ①-1 テーマの検討	【カルタの制作過程】 特定の言葉やイメージを連想させる写真を撮影し、カルタを1セット制作する。 ①読み札となるキーワードを五十音で考える。 ※名詞と動詞を原則とし固有名詞や抽象的な形容詞はし ょうしない。 ②①のキーワードを連想させる適切な写真を撮影する。 ③指定された大きさと取り札としてのカードを制作する。	五十音で始まるキーワードを提案するために図書館や書店、その他で情報を集める。	60
4	演習：課題制作 ①-2 テーマの検討	・制作のための情報収集を行う。 ・キーワードの候補をいくつかセットで考える。	五十音で始まるキーワードを提案するために図書館や書店、その他で情報を集める。	60
5	演習：課題制作 ②-1 写真撮影	・キーワードに合わせるための写真撮影を行う。 ・必要に応じて撮影した写真の加工などを行い、より効果的な構図を検討する。	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。	60
6	演習：課題制作 ②-2 写真撮影	・キーワードに合わせるための写真撮影を行う。 ・必要に応じて撮影した写真の加工などを行い、より効果的な構図を検討する。	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。	60
7	演習：課題制作 ②-3 写真撮影 ③-1 テーマの検証	・キーワードと写真の組み合わせについて検討を重ね、自分の意図が明確に伝わる材料となっているを確認して作業を進める。	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。 テーマとの整合性を確認する。	60
8	演習：課題制作 ③-2 テーマの検証 ④-1 カルタ制作の準備	・キーワードと写真の組み合わせについて検討を重ね、自分の意図が明確に伝わる材料となっているを確認して作業を進める。 ・カルタの材料加工を行う。（ボール紙の裁断等）	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。 テーマとの整合性を確認する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	演習：課題制作 ③-3 テーマの検証 ④-2 カルタの制作	・キーワードと写真の組み合わせについて検討を重ね、自分の意図が明確に伝わる材料となっているを確認して作業を進める。 ・カルタの材料加工を行う。（ボール紙の裁断等）	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。 テーマとの整合性を確認する。	60
10	演習：課題制作 ③-4 テーマの決定 ④-2 カルタの制作	・キーワードと写真の組み合わせについて検討を重ね、自分の意図が明確に伝わる材料となっているを確認して作業を進める。 ・カルタの材料加工を行う。（くるみ紙の裁断等）	キーワードを連想させるための写真を撮影し、データを収集する。 テーマとの整合性を確認する。	30
11	演習：課題制作 ③-5 写真の選定と決定 ④-3 カルタの制作	・キーワードと写真の組み合わせについて検討を重ね、自分の意図が明確に伝わる材料となっているを確認して作業を進める。 ・最終的に選んだ44枚の写真を準備し絵札を仕上げる。	写真とテーマとの整合性を検証する。	30
12	演習：課題制作 ④-4 カルタの制作	・仕上がった絵札を入れる箱を制作する。 （ボール紙の裁断等／身とフタ、仕切り）	パッケージのデザインを考える。	60
13	演習：課題制作 ④-5 カルタの制作	・絵札を入れる箱を仕上げる。 （くるみ紙の裁断） ・箱の表面にテーマや名前などを入れる。	撮影した写真とテーマやキーワードを検証し必要があれば改めて撮影し、絵札の修正を行う。	30
14	演習：課題制作 ④-6 カルタの制作 ⑤ 作品としてのカルタとレポート提出	・カルタを仕上げる。 ・カルタの絵札、箱のデザイン、テーマとの整合性を改めて確認する。 ・制作についてのレポートを提出する。	44枚の絵札を並べ、全体の統一が図られた仕上がりとなっているか確認する。	30
15	まとめ（鑑賞と講評）	作品提出 お互いの作品を鑑賞し感想を述べ合う。	感想や意見などを受け、自分の作品について客観的に検証する。	30

授業名	ビジュアルデザインⅡ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎斉藤 弘久			
開講期				
授業の概要	視覚伝達デザインとも言われるように、視覚に訴える行為でコミュニケーションには欠かせないものである。手作業の時代からコンピュータの出現した今日に到るまでと、今を考えます。途中その都度制作された物を各自のアイデアを活かし最後に1冊の本にまとめます。（CD2263）			
授業の到達目標	人間相互のコミュニケーションとしての極めて重要な役割を担っている印刷への理解を深めて行く事を目標としている。			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①授業目標の達成度が70%以上であること。（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）	
テキスト	そのつど担当者が資料を配布する。			
参考書	そのつど担当者が紹介する。			
学生への要望	ビジュアルデザインとそれ以外の様々なデザインの存在を意識しながら、自分がどのようにデザインと関わって生活しているかを考えてください。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	教員の経験を交えながらビジュアルデザインを解説します。	授前、ビジュアルデザインを自学習 授後、ビジュアルデザインの可能性を考える	180
2	形の面白さ	平面上に現れる2Dと3Dの捉え方と不思議。	授前、2Dと3Dの違いを自学習 授後、2Dと3Dの扱い方を考える	180
3	色で遊ぶ	どれだけの数の色があるか、配色による効果。	授前、伝統色について自学習 授後、配色の効果を探す	180
4	文字の表現	文字の種類と形とその表現。	授前、文字の種類について自学習 授後、文字の配置等のの効果調べる	180
5	表現される文字	テーマを決めて自分流文字を制作する。	授前、自分流の文字を作る 授後、テーマと文字が効果的か考察する	180
6	1mmを知る	色、文字などを用いて1mmを知る。	授前、30cm以内の世界を考える 授後、1mmの違いを考察する	180
7	バランス	ここまで学んだ事を用いて画面にまとめる。	授前、画面構成の準備 授後、テーマと文字や色が効果的か考察する	180
8	バランスⅡ	さらに画面への工夫を加える。	授前、画面構成の準備 授後、テーマと文字や色が効果的かさらに考察する	180
9	スケール	バランスの良い悪いを考える。	授前、意識的のバランスの悪い方向を考える 授後、バランスが視覚的にどう映るか考察する	180
10	スケールⅡ	拡大、縮小の面白さを学ぶ。	授前、拡大、縮小率を自学習 授後、拡大、縮小の面白さ組み合わせを考える	180
11	構成	写真を加えて画面構成をして見る	授前、写真の事について知る限りを自学習 授後、写真との構成した結果を考察する	180
12	構成Ⅱ	さらに様々な素材を試みる	授前、紙やインクなど制作の準備 授後、どのような効果が得られたか考察する	180
13	フライヤー制作	自分の好きなもの表現して見る。	授前、制作の準備 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	180
14	フライヤー制作Ⅱ	自分自身を表現して見る。	授前、制作の準備 授後、最終調整	180
15	まとめ	この授業を通してのまとめ	授前、まとめにむけての準備 授後、ビジュアルデザインとはを考える	180

授業名	映像メディア表現Ⅰ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎小松 太志			
開講期				
授業の概要	映像は時間や空間、音を構成要素として持つことで、静止画像のテキストや画像よりも情報量が多い。スマートフォンの普及やネットワークの発展も背景として、インターネット動画広告市場は大きな伸長を見せている。映像を介したコミュニケーションがより一般化されることを踏まえて、今後必要となる映像制作の基礎知識・技術について学ぶ。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの観点から映像制作の指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：授業内で課題の講評を行う。 ・位置づけ・水準 CD2173			
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りである。 ①映像原理を理解している。 ②映像機器の基本的な仕組みを理解している。 ③映像編集ソフトウェアの基本的な操作方法を理解している。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力			
履修条件	・CG基礎ⅠもしくはCG基礎Ⅱを履修済みであること。CG基礎Ⅰ・Ⅱともに履修済みであることが望ましい。 ・受講者数の定員を15名とする。15名を超えた場合は、他の科目の履修状況や希望進路などをもとに受講者数を制限する。	成績の 評価方法・基準	以下の項目で成績評価を行う。 ①課題の提出状況（40%）②課題作品の内容（60%）	
テキスト	適宜、提示する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の内容、目標、受講資格、評価について説明する。 授業で使用するコンピュータの設定、ソフトウェアのダウンロードなどを行う。	授業で使用するコンピュータの基本的な操作方法について復習する。	60
2	映像の原理①	課題①「線によるフレームアニメーション」を制作する。 Adobe Photoshopのタイムライン機能を使用して制作を行う。	課題制作に取り組む。	60
3	映像の原理②	課題①「線によるフレームアニメーション」の講評会を行う。 仮現運動について解説し、動きとその認知の仕組みについて理解を深める。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
4	映像の原理③	課題②「写真を使用したストップモーションアニメーション」を製作する。 スマートフォンのアプリケーション「Stop Motion Studio」を使用する。	課題制作に取り組む。	60
5	映像の原理④	課題②「写真を使用したストップモーションアニメーション」の講評会を行う。 カメラの基本原理について解説する。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
6	カメラワークの基礎①	フィクス、パン、ティルトなどのカメラワークの種類とその映像効果について解説する。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	カメラワークの基礎②	前回授業で解説した各カメラワークで撮影を行う。撮影にはスマートフォンの動画機能を使用する。	各カメラワークの特性を踏まえた動画を撮影する。	60
8	映像編集①	映像編集ソフトウェア（Adobe Premiere Pro）の使用方法について学修する。ソフトウェアの概要、インターフェイス、環境設定について解説する。	授業内で提示する資料を読む。演習用の動画素材を撮影する。	60
9	映像編集②	映像編集ソフトウェアの使用方法について学修する。映像の入力、シーケンスの作成・設定、タイムラインパネルの操作方法について解説して演習を行う。	授業で解説した機能について復習する。演習用の動画素材を撮影する。	60
10	映像編集③	映像編集ソフトウェアの使用方法について学修する。ツールの使用方法、エフェクトについて解説して演習を行う。	授業で解説した機能について復習する。演習用の動画素材を撮影する。	60
11	映像編集④	映像編集ソフトウェアの使用方法について学修する。編集データの出力、映像のファイル形式について解説して演習を行う。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
12	映像の制作①	課題③「詩と映像」を制作する。詩を題材とした実写による映像を制作する。作品に使用する詩を決めて、テキストデータを作成する。	課題制作に取り組む。課題用の動画素材を撮影する。	60
13	映像の制作②	課題③「詩と映像」を制作する。映像編集ソフトウェアにおける文字の入力・編集方法について解説する。	課題制作に取り組む。課題用の動画素材を撮影する。	60
14	映像の制作③	課題③「詩と映像」を制作する。カット編集の種類と映像効果について解説する。	課題制作に取り組む。授業内容をノートにまとめる。	60
15	映像の制作③	課題③「詩と映像」の講評会を行う。	他の受講生の作品を閲覧する。	60

授業名	映像メディア表現Ⅱ	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎小松 太志			
開講期				
授業の概要	画像やテキストなどの情報に対して、動きを設定して表現するモーショングラフィックスについて学ぶ。時間や空間、音などを使用した効果的な情報の提示方法について理解を深める。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの観点から映像制作の指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務。 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：授業内で課題の講評でフィードバックを行う。 ・位置づけ・水準 CD2273			
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りである。 ①映像編集ソフトウェアの基本的な操作方法を理解している。 ②映像のデジタル合成を行うことができる。 ③モーショングラフィックスや効果的なタイトルを作成できる。 ・単位認定の最低基準：授業内容の7割を理解していること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力			
履修条件	・映像メディア表現Ⅰを履修済みであること。	成績の 評価方法・基準	以下の項目で成績評価を行う。 ①課題の提出状況（40%）②課題作品の内容（60%）	
テキスト	適宜、提示する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	本授業の内容、目標、受講資格、評価について説明する。 授業で使用するコンピュータの設定、ソフトウェアのダウンロードなどを行う。	授業で使用するコンピュータの基本的な操作方法について復習する。	60
2	AfterEffectsの基本	AfterEffectsのインターフェース、アニメーション設定からレンダリングまでの操作を演習を通して概観する。	復習用の課題に取り組む。	60
3	モーションの基礎①	モーション設定の基本的な方法について学ぶ。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
4	モーションの基礎②	ポジション、ローテーション、スケールなどの基本属性を使用したモーションの設定を行う。	復習用の課題に取り組む。	60
5	モーションの基礎③	ポジション、ローテーション、スケールなどの基本属性を使用したモーションの設定を行う。	復習用の課題に取り組む。	60
6	マスクアニメーション①	トラックマット、マスクなどの機能の基本を学ぶ。	授業内容についてノートにまとめて復習する。	60
7	マスクアニメーション②	トラックマット、マスクなどの機能を利用して、モーションワークを制作する。	復習用の課題に取り組む。	60
8	エフェクトアニメーション①	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。エフェクトの種類と設定方法について学ぶ。	参考作品を閲覧してアイデアスケッチを作成する。	60
9	エフェクトアニメーション②	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。音源を選択して、モーション素材を制作する。	課題制作に取り組む。	60
10	エフェクトアニメーション③	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。素材に対してモーションの設定を行う。	課題制作に取り組む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	エフェクトアニメーション④	課題①「Sound Visualization」エフェクト機能を利用して音と連動した映像を制作する。課題の講評会を行う。	他の受講生の課題作品を閲覧する。	60
12	テキストアニメーション	エフェクトを活用したテキストアニメーションの作成方法について学ぶ。	復習用の課題制作に取り組む。	60
13	ループアニメーション①	課題②「walking」リギング機能をして2Dキャラクターのウォーキングアニメーションを制作する。リギングの設定方法について学ぶ。	課題制作に取り組む。	60
14	テキストアニメーション②	課題②「walking」リギング機能をして2Dキャラクターのウォーキングアニメーションを制作する。キャラクターを制作して、モーションを設定する。	課題制作に取り組む。	60
15	テキストアニメーション③	課題②「walking」リギング機能をして2Dキャラクターのウォーキングアニメーションを制作する。課題の講評会を行う。	他の受講生の作品を閲覧する。	60

授業名	卒業研究（桑野 聡）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎桑野 聡			
開講期				
授業の概要	本卒業研究は、文化・歴史系の学びを通して歴史学（西洋史）の専門的な知識を学問的に探究した成果です。学生各自が独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本目的です。 授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導します。			
授業の到達目標	・論理的なものごとを考えることができる能力を修得します。 ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。 ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。 ・期日までに卒業論文を提出し、学会形式の発表を行うことを単位認定の最低基準とする。			
履修条件	「ヨーロッパ文化史」履修学生が望ましい（Ⅱ期終了時に未履修者はⅢ期に履修すること）	成績の 評価方法・基準	・授業における発表（30点） ・卒業論文は、表紙・目次・本文に加えて、註・資料・参考文献が付加されたものであること（50点） ・卒業研究発表会（20点）	
テキスト	特に使用しません。			
参考書	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説』 1・2 DTP出版 2006年 金澤周作 監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房 2020年 その他、適宜提示する。			
学生への要望	各自の就職・資格・アルバイト活動などを考慮してスケジュール管理を確実に、計画的に取り組むこと。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・課題解決力・主体的行動力			
オフィスタイム	火曜V時限目。			
アクティブラーニング実施内容	個別相談・ゼミ内発表・レポート提出と添削などによるフィードバックを行います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。 ゼミ参加学生のテーマについて話し合い、課題を提示する。	自分の関心テーマについて、主体的に説明し、課題に取り組む。	60
2	ウォーミングアップ①	図書館の使い方や文献検索方法を説明する。	実際に自分の関心テーマの参考文献を検索してみる。	120
3	ウォーミングアップ②	学生各自が課題を報告し、話し合う。更に次の課題を提示する。	自分の課題への取り組み方と他の学生の取り組み方を比較し、よりよい取り組み方を考える。	120
4	ウォーミングアップ③	文献検索に関する課題を報告し、話し合う。	自分の課題への取り組み方と他の学生の取り組み方を比較し、よりよい取り組み方を考える。	120
5	報告1-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
6	報告1-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
7	報告1-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
8	報告2-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
9	報告2-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
10	報告2-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
11	報告3-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
12	報告3-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
13	報告3-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	インターミッション①	前期の報告を踏まえて、各自の課題を整理し、問題点を話し合う。	各自の報告の中から課題を見つけ、解決に取り組む。	120
15	前期まとめ	前期の作業を振り返り、各自の論文構成を考え、夏休みのスケジュールを確定する。	各自の研究スケジュールを計画する。	120
16	後期ガイダンス	夏休みの成果を報告し、後期の研究スケジュールを相談する。	夏休みの課題を作成し、提出する。	60
17	インターミッション②	課題に対するコメントを確認し、後期の報告に備える。	夏休みの課題に対するコメントをよく理解し、次の作業準備を進める。	120
18	インターミッション③	次週からの報告に備えて相談を受ける。	報告準備を進め、具体的な質問事項を用意する。	120
19	報告4-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
20	報告4-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
21	報告4-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
22	報告5-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
23	報告5-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
24	報告5-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
25	報告6-①	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
26	報告6-②	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
27	報告6-③	学生各自がテーマについて報告し、話し合う。	レジュメの作成、プレゼンテーション、質疑応答の準備を行う。	120
28	最終確認①	卒業研究の要旨をまとめ、最終の章立て、論文構成を確認する。	各自の論文の全体像を要旨にまとめ、添削を受ける準備を行う。	120
29	最終確認②	論文提出のための書式確認、註の付け方などを確認する。	本文だけでなく、論文としての体裁、形式を理解し、正しく準備する。	120
30	最終確認③	論文提出後の確認と発表会の準備を行う。	発表用パワーポイントの準備を行い、発表原稿をまとめる。	120

授業名	卒業研究（黒沼 令）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎黒沼 令			
開講期				
授業の概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。彫刻作品をつくっていく中で、ものをつくる喜びや充実感を味わうとともに、彫刻の基礎的な知識や表現の理解を深めることを目標とします。 最終授業や卒業制作展で取り組んだ作品に対するフィードバックを行います。 教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填することとします。			
授業の到達目標	卒業制作展に向けて作品を制作し、発表を行います。 作品制作の中で、彫刻の基礎的な技能の習得と自己表現、自己探求を深める事を目標とします。 ・単位認定の最低基準：作品を最低1つ完成させること。			
履修条件	地域創成学科 2 年	成績の 評価方法・基準	・課題作品 70％ ・授業態度、授業に対する意欲・関心 30％ 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。	
テキスト	教科書は無し。			
参考書	・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立、郡山市立、他） ・街の中の彫刻（仙台市、福島市、他） ・公募展覧会			
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
オフィスタイム	水曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～11:00）・木曜日Ⅰ、Ⅱコマ（9:00～12:10）彫刻室、No.1工芸室			
アクティブラーニング実施内容	実技科目として、能動的に課題制作を行う。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・卒業研究の進め方、設備、道具についてなど説明する。 ・各自、目標や技法について考える。		0
2	構想	・卒業制作作品を構想する。 ・資料、作品などを参考にしながら、自分が目指す表現について確認する。 ・デッサンする。	・作品の構想をデッサンする	120
3	構想	・第2回の内容をより深める。		0
4	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
5	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
6	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
7	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
8	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
9	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
10	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
11	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
12	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
13	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0

[illegible]

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
44	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
45	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
14	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
15	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
46	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
47	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
48	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
49	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
50	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
51	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
52	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
53	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
54	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
55	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
56	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
57	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
58	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。	・自主的に制作を進める	120
59	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。		0
60	合評会	・作品についてプレゼンテーションを行い1年間の成果を確認する。	・自主的に制作を進める	120

授業名	卒業研究（佐々木 達矢）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎佐々木 達矢			
開講期				
授業の概要	自然界や人間社会の様々な現象に関する疑問や課題について、数理的、統計的な手法を用いて、問題の解決や新しい知見の獲得を目指して研究活動を行う。研究テーマは基本的に個人ごとに設定する。また研究スキル底上げのために、プログラミングやデータ分析を習得する時間も用意する。そして、研究テーマや研究の進捗に関し、対面での相談・アドバイスや、資料へのコメント・添削などを通じて、フィードバックを行う。 位置づけ・水準 CD2101			
授業の到達目標	1. 卒業研究論文作成に必要な、先行研究の調査、研究課題の設定、予備的な実験や分析を終了している 2. 単位認定の最低基準：研究意欲を持ち、卒業論文を提出し、卒研発表を行うこと 3. ディプロマポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	研究意欲20%、論文50%、研究発表30%	
テキスト	必要なテキストは、適宜指示する。			
参考書	研究計画全体については：上野千鶴子, 2018, 情報生産者になる, ちくま新書。他にも、適宜紹介する。			
学生への要望	研究テーマを独自に考え、積極的に調査・実験・分析に取り組み、そして研究の成果を分かりやすく伝える、そういう努力をすること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の概要を説明する。また、全体的に関心のある研究テーマについて議論し、大まかな研究対象のイメージをつける。	研究活動を理解するために、説明内容を振り返る。	60
2	テーマ設定に向けて	全体的に関心のある研究テーマについての議論を行う。また、個人ごとのテーマについて相談、検討を行う。	自分の興味関心をまとめて研究課題として整理し、自分なりの問いに対して、自分がどのように取り組むかをイメージできるようにする。	60
3	テーマ設定に向けて	全体的に関心のある研究テーマについての議論を行う。また、個人ごとのテーマについて相談、検討を行う。	自分の興味関心をまとめて研究課題として整理し、自分なりの問いに対して、自分がどのように取り組むかをイメージできるようにする。	60
4	テーマの決定と研究計画書作成	一旦、おおよその研究テーマを決定し、それをもとに研究計画書を作成する。	最終卒研発表までの研究計画を具体的なタイムスケジュールに落とし込み、ToDoを明確にしてみる。	60
5	テーマの決定と研究計画書作成	一旦、おおよその研究テーマを決定し、それをもとに研究計画書を作成する。	最終卒研発表までの研究計画を具体的なタイムスケジュールに落とし込み、ToDoを明確にしてみる。	60
6	研究活動（1）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
7	研究活動（2）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
8	研究活動（3）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
9	研究活動（4）	先行研究の調査、独自性の明確化、モデル構築、実験の設計等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
10	研究活動（5）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	研究活動（６）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
12	研究活動（７）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
13	研究活動（８）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
14	研究活動（９）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
15	中間報告	これまでの研究進捗をまとめてレポートする。併せて必要な研究計画の軌道修正を行う。	他のメンバーとの進捗確認、研究活動の見直し等を行う。	60
16	研究活動（１０）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
17	研究活動（１１）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
18	研究活動（１２）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
19	研究活動（１３）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
20	研究活動（１４）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
21	研究活動（１５）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
22	研究活動（１６）	プログラミング、実験・シミュレーションの実施、データ分析、仮説検証等の研究活動を行う。	適宜教員の指導を仰ぎつつ、自身の研究活動を実施する。	60
23	論文作成（１）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
24	論文作成（２）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
25	論文作成（３）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
26	論文作成（４）	これまでの研究成果に基づき論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
27	プレゼンテーション準備（１）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料の作成を行う。	60
28	プレゼンテーション準備（２）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料の作成を行う。	60
29	卒研発表練習	発表練習を行う。	グループでの発表練習リハーサルを行う。	60
30	卒業研究発表	卒業研究発表会において、発表を行う。	最終的な発表見直しを行う。	60

授業名	卒業研究（佐藤 愛未）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎佐藤 愛未		
開講期			
授業の概要	卒業研究は各自の2年間の学びの総まとめです。独自の課題をみつけ、教員の丁寧な指導を受けて資料の収集調査を進め、論理的な考察を経て、創造的な論文や作品に仕上げます。その成果は卒業研究発表会（報告会、展示会）で、多くの人に知ってもらいます。 歴史・文化系、アート＆デザイン系、情報系のいずれかの専門分野に関わる独創的な研究テーマを見出し、教員の指導で専門的な研究の基礎力を養い、社会に貢献できる力を身につけます。 ■課題に対するフィードバック方法 1、個人発表を行い、提出された課題をその都度チェックし授業内でフィードバックします。 2、卒業論文の提出後、内容を確認して説明します。		
授業の到達目標	(1) 自ら問題意識を持って選択したテーマについて調査研究、または卒業研究作品としての制作活動を通し、論理的かつ創造的にものごとを考える事ができる能力を修得する。 (2) 専門分野の探究において、各分野の多様性を理解するとともに、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につける。 (3) 専門的な知識の探究及び制作活動を通して知見を得、それらを社会に貢献できる力を身につける。 単位認定の最低基準は、 ①卒業研究の時間内に個人の研究中間発表を最低2回はすること。 ②卒業論文を提出日時に必ず提出すること。		
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	各自の指導教員が最終的に評価をする。 【論文系の評価】 ① 研究に取組む姿勢(計画性・主体性・継続性・創造性など)がどの程度であったか(40点) ② 卒業論文の内容が論理的で創造的であったか(40点) ③ 卒業研究発表会、成果のプレゼンテーション力(20点)
テキスト	なし		
参考書	研究テーマ・課題に即した文献を個別に指示する。		
学生への要望	各人の研究テーマ・課題を自覚し、自主的に探究すること。		
位置付け・水準	CD2101		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力・課題解決力・主体的行動力		
オフィスタイム	火曜日・水曜日のⅡ時間目。創学館4階、No5研究室		
アクティブラーニング実施内容	個人発表、資料・文献調査など		
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	年間スケジュールを説明して、テーマの大枠について確認を行う。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。	60
2	研究論文の書き方	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。	60
3	研究テーマの決め方（1）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
4	調査研究の方法（1）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。ここでは主に、図書館の活用法について説明する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
5	研究テーマの決め方（2）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
6	研究論文題目の決め方・論文講読（1）	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。また、論文講読により論文の構成や註の書き方などについて学ぶ。	自学自習：自分の卒業論文のテーマ決めに向けて、興味のある分野の図書を読む。ある程度、テーマを絞る	60
7	研究論文題目の決め方・論文講読（2）	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。また、論文講読により論文の構成や註の書き方などについて学ぶ。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、要約する。研究論文題目などの発表にむけた準備を行う。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	仮題目の発表（1）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、要約する。研究論文題目などの発表にむけた準備を行う。	60
9	仮題目の発表（2）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
10	調査研究の方法（2）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フィールドワークなどを概説し、質疑応答する。ここでは、フィールドワークと史料の使い方について説明する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
11	調査研究の方法（3）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フィールドワークなどを概説し、質疑応答する。ここでは、フィールドワークと史料の使い方について説明する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
12	研究構想発表会（1）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
13	研究構想発表会（2）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
14	研究構想発表会（3）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
15	研究計画の作成	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
16	卒業論文の題目確定・章立ての発表	研究構想発表での質疑応答を踏まえ、研究課題・構想の妥当性、研究課題解明の方策などを検討し、研究論文の題目を確定する。	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
17	卒業論文の章立て発表（1）	論文提出に向けて研究経過を持ち廻り形式で発表する。資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。個人発表1回目①	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
18	卒業論文の章立て発表（2）	論文提出に向けて研究経過を持ち廻り形式で発表する。資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。個人発表1回目②	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
19	卒業論文の章立て発表（3）	論文提出に向けて研究経過を持ち廻り形式で発表する。資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。個人発表1回目③	自学自習：決定した自分の卒業論文のテーマに関係する図書・文献・史料を読み、目次構成を構想し、発表にむけた準備を行う。	60
20	卒業論文の発表と執筆（1）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表2回目①	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
21	卒業論文の発表と執筆（2）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表2回目②	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
22	卒業論文の発表と執筆（3）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表2回目③	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
23	卒業論文の提出計画	章立ての確認や研究上の問題点を解決し、論文執筆と論文提出に向けて、具体的な論文提出工程計画表を作成する。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
24	卒業論文の発表と執筆（4）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表3回目①	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
25	卒業論文の発表と執筆（5）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表3回目②	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
26	卒業論文の発表と執筆（6）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。個人発表3回目③	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
27	卒業論文の執筆（7）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
28	卒業論文の点検	直前の研究論文提出に備え、研究論文を最終的に点検する。	自学自習：構想した卒業論文の目次構想を元に本文の執筆を行う。	60
29	卒業論文発表会（1）	日本史所属の学生による発表会の説明及び準備	自学自習：卒業論文発表会の準備を行う。	60
30	卒業論文発表会（2）	日本史所属の学生による発表会の準備	自学自習：卒業論文発表会の準備を行う。	60

授業名	卒業研究（斎藤 美保子）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎斎藤 美保子		
開講期			
授業の概要	美術史の分野に関わる独創的な研究テーマを見出し、文献調査、作品調査の結果を踏まえ、論理的な考察と議論を経て、創造的な論文に仕上げる。少人数のゼミゆえ、毎時間輪読、発表、ディスカッションを繰り返し、個々のテーマで調べ、まとめ、論文にまとめていく。その都度、丁寧に評価を伝えます。CD2101		
授業の到達目標	専門的な研究の基礎力を養い、社会に貢献できる力を身につけることができる。 単位認定の最低基準は、各自の論文を完成させること。 DPとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力を身につける。		
履修条件	地域創成学科2年生 一年次に「美術史」の単位を取得していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	①研究に取り組む姿勢（計画性・主体性・継続性・創造性など）（40点） ②論理的で創造的な論文であったかどうか（40点） ③発表会、成果のプレゼンテーション力（20点）
テキスト	特になし		
参考書	適宜指示する		
学生への要望	地道に、積極的に取り組むこと。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	仮所属	仮所属の確認と調整。教員の自己紹介。過去の論文の閲覧。	一年間、本当に研究したいテーマかどうか、よく考える。	60
2	テーマの確認と研究倫理	テーマについて指導教員と共通の理解を持ち、研究倫理の基本を学ぶ。	研究倫理を良く理解する。	60
3	参考文献選択	教えられた参考文献から5冊適度を選ぶ。	図書館等で参考文献を手にとって、更に検討する。	90
4	文献調査 1	参考文献から知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進む。	90
5	文献調査 2	参考文献から知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進み、ノートを取る。	90
6	文献調査 3	参考文献から知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進み、ノートを取る。	90
7	文献調査 4	参考文献をから知り得た情報を報告する。	参考文献を読み進み、ノートを取る。	90
8	ゼミ内発表	この段階で抱いた自分なりの意見を発表する。	先行研究とは少し違う、自分独自の意見を探す。	90
9	作品分析 1	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	美術書、美術館等で、特に重要な作品の理解を深める。	90
10	作品分析 2	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	美術館、美術書等で、特に重要な作品の理解を深める。	90
11	作品分析 3	特に重要な作品について自分なりの分析をする。	美術館、美術書等で、特に重要な作品について理解を深める。	90
12	作品解釈 4	特に重要な作品について自分なりに分析する。	美術館、美術書等で、特に重要な作品の理解を深める。	90
13	英文資料指示	各自に短い英文資料を指示するので、和訳をする。	訳文をわかりやすく美しい日本語にしている。	90
14	英文資料解読	英文資料の内容を理解する。	英文資料の内容を深く理解する。	90
15	課題指示	各自のテーマにあわせ、美術館見学など夏休みの課題を指示する。	指示された美術館を見学し、論文の下書きを始める。	450
16	課題発表	夏休みの課題の成果を発表する。	パワーポイント等を使って、わかりやすい発表を心がける。	270
17	作品解釈 1	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	参考文献を増やし、多様な視点から、納得できる自分の解釈を見つける。	90
18	作品解釈 2	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	ゼミ内の意見を参考に、自分の解釈を深める。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	作品解釈 3	特に重要な作品について自分なりの解釈を試みる。	参考文献を増やし、多様な視点から、自分の解釈を再考する。	90
20	作品解釈 4	特に大切な作品を選び自分なりの解釈を試みる。	学生同士で議論しながら、自分の解釈を深める。	90
21	ゼミ内発表	この段階で考えていることを発表する。	発表の準備と振り返り。	180
22	課題設定の書き方	課題を設定する「はじめに」の文章から、書き始める。	執筆と読み返しを繰り返す。	180
23	章立て	四章程度に構成し、論理的な文章を書き進める。	執筆と読み返しを繰り返す。	180
24	論考のまとめ方	独自の推論をわかりやすい文章で書き進む。	執筆と読み返しを繰り返す。	180
25	結論の導き方	無理のない推論かどうか自問しながら、結論をまとめる。	執筆と読み返しを繰り返す。	180
26	注、参考文献、図版等の付け方	研究倫理を念頭に、論文としての形式を整える。	細部を吟味する。	180
27	要旨提出	A4一枚程度の要旨をまとめる。	過不足のない文章に仕上げる。	180
28	論文提出	A4で10枚程の論文に、誤字脱字等がないことを確認して印刷、〆切りまでに提出する。	見た目も美しく仕上げる。	180
29	発表会準備	要旨を元に、パワーポイントで図像資料を提示するなど、わかりやすい発表の準備をする。	パワーポイント等の資料を作り、リハーサルなど、発表会の準備をする。	180
30	卒業研究発表会	自分の卒業研究の概要を7分程度で発表し、質問にこたえる。	発表会の準備をし、また、発表会で指摘された事項について、必要があれば手直しする。	180

授業名	卒業研究（山口 猛）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎山口 猛			
開講期				
授業の概要	情報処理、情報メディア、ICT（Information and Communication Technology）、情報モラル、コミュニケーションなど、情報処理士ユニットの学修に関連する研究テーマに基づき、個々の興味関心に応じて研究テーマを設定し、研究活動を進める。 授業は基本的にアクティブラーニング形式を取り進める。能動的に調査や発表を行い、教員からのコメントなどによるフィードバックを積み重ねて論文作成を目指す。 課題・研究進捗に関し、対面・資料へのコメント添削などにより、フィードバックを行う。			
授業の到達目標	卒業研究論文に必要な、予備調査、予備分析を終了している。 単位認定の最低基準：研究意欲を持ち、卒業論文を提出すること			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	研究意欲20%、論文50%、研究発表30％	
テキスト	なし			
参考書	適宜、資料等を用いて指導を行う			
学生への要望	研究テーマに沿って、積極的に実験・調査に取り組むこと。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
オフィスタイム	月曜1限・月曜3限 芸術館2階No.3地域創成学科研究室☒			
アクティブラーニング実施内容	授業全体を通して論文執筆に関わるアクティブラーニングを実施			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の概要を説明する。また、学生が関心のある研究テーマについて議論し、大まかな研究対象のイメージをつける。	研究活動を理解するために、説明内容を振り返る。	60
2	研究スケジュール・役割分担の検討	グループ研究のメインテーマにおける学生個々の役割分担を検討する。	自分の興味関心をまとめて、研究課題に対する自分なりのアプローチをイメージできるようにする。	60
3	論文執筆の方法の理解（1）	論文執筆の基本ルールを解説する。	授業内容を復習して、倫理や論文の構成について理解する。	60
4	論文執筆の方法の理解（2）	論文執筆の基本ルールを解説する。	授業内容を復習して、倫理や論文の構成について理解する。	60
5	研究活動（1）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
6	研究活動（2）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
7	研究活動（3）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
8	研究活動（4）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
9	研究活動（5）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
10	研究活動（6）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
11	研究活動（7）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
12	研究活動（8）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
13	研究活動（9）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
14	研究活動（10）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
15	中間報告	研究活動（10）までの研究進捗をまとめ、中間報告を行う。	グループの他のメンバーとの進捗確認、研究活動の見直し等を行う。	60
16	研究活動（11）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
17	研究活動（12）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	研究活動（１３）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
19	研究活動（１４）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
20	研究活動（１５）	実験、検証、データ分析等の研究活動を行う。	自身の研究活動を実施する。	60
21	論文作成（１）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
22	論文作成（２）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
23	論文作成（３）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
24	論文作成（４）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
25	論文作成（５）	研究活動（１５）までに実施した研究成果に基づき、論文作成を行う。	教員からのアドバイスを理解し、論文作成を行う。	60
26	論文発表プレゼンテーション準備（１）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
27	論文発表プレゼンテーション準備（２）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
28	論文発表プレゼンテーション準備（３）	卒業研究発表会に向けたプレゼンテーションPowerPointスライドを作成する。	教員からのアドバイスを理解し、プレゼンテーション資料及び・リハーサルを行う。	60
29	論文発表練習	発表練習を行う。	グループでの発表練習リハーサルを行う。	60
30	卒業研究発表	卒業研究発表会において、発表を行う。	最終的な発表見直しを行う。	60

授業名	卒業研究（小松 太志）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎小松 太志		
開講期			
授業の概要	コンピュータを媒介とした静止画や動画、We bなどの制作による卒業研究を行う。研究テーマを定めて計画的に取り組み、制作にかかわる技術・知識・思考力の向上を目指します。 ※この授業は、映像メディア、印刷、イラストレーションなどの分野を中心に展開し、3名の各分野の専門教員が連携を図りながら指導します。 ※教授会で授業が休講となる場合は事前に連絡し、卒業制作展の搬入・展示・搬出作業および会期中の役割などで補填します。 ・実務経験に関連する内容：広告制作会社に勤務した経験を活かして、デザインの視点から映像メディアに関わる研究指導を行う。実務経歴：デザイナーとして広告制作会社（株式会社ミサイル・カンパニー）に勤務 ・課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：個別の研究指導を通してフィードバックを行う。 ・備考：教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填することとします。 ・位置づけ：水準 CD2101		
授業の到達目標	本授業の達成目標は以下の通りとする。 ①卒業制作展に向けた制作活動を通じて、独自の表現を探究する基盤ができている。 ②コンピュータ・グラフィックスによる造形表現技術の向上を目指すための基盤ができている。 ③工程を明確にして、計画的に制作を進めることができる。 ・単位認定の最低基準：教員の指導を踏まえて卒業研究作品を提出し、卒業制作展に出品すること。 ・ディプロマ・ポリシーとの関係：知識理解、創造的思考力、課題解決力		
履修条件	・地域創成学科 2年 対象 ・CG基礎Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	下記の基準で評価する。 ①卒業研究の制作過程・取り組む姿勢（30%）②卒業研究作品の内容（70%）
テキスト	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	・授業支援システムを活用して、授業資料の配布や課題提出をおこなうため、操作に慣れること。 ・欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように自習すること。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	●卒業研究の授業目標・授業計画について説明 - 過去の卒業研究作品とその制作過程を紹介	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60
2	一次制作（もみじ会出品作品の制作）	●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60
3	一次制作	●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示（以後、適宜資料を提示） →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集（以後、適宜資料を収集） →造形的な方向性について検討を試みます。	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60
4	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討	【事前学習】卒業研究のテーマを検討する。 【事後学習】卒業研究のテーマを決めるための資料を収集する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現（静止画、動画、Web）に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を定めるための資料を収集する。	60
6	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を定めるための資料を収集する。	60
7	一次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】表現方法を検討する。 【事後学習】表現方法を定めるための資料を収集する。	60
8	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
9	一次制作	●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
10	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
11	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
12	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
13	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
14	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
15	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
16	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
17	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
18	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
19	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
21	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
22	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
23	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
24	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
25	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
26	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
27	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 (静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力)	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
28	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
29	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
30	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
31	二次制作（卒業制作展出品作品の制作）	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
32	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
33	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
34	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
35	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
36	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
38	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
39	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
40	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
41	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
42	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
43	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
44	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
45	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
46	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
47	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
48	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
49	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
50	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】制作計画、技術的課題について見直す。	60
51	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 （静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60
52	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。 （静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）	【事前学習】必要な技術・知識について検討する。 【事後学習】作品要素を収集・制作する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
53	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
54	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
55	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
56	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。	【事前学習】出力結果を検討する。 【事後学習】出力結果に応じて、修正する。	60
57	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
58	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
59	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。	【事前学習】展示計画を作成する。 【事後学習】展示計画を確認する。	60
60	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。	【事前学習】プレゼンテーションに向けて、資料を準備する。 【事後学習】卒業研究発表に向けて、準備する。	60

授業名	卒業研究（松田 理香）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎未定			
開講期				
授業の概要	デザインの表現や提示の仕方に新しい価値や意味を見出し、自分のアイデアを形にして発表（展示）します。研究テーマを決め発表方法をいくつか考えます。そのための資料収集や材料の選定を行いながら試作を重ね、自分の作品のイメージを絞っていきます。展示会場の下見などもしながら本制作し卒業制作展で発表します。 完成した展示作品は講評時に全員で鑑賞し、感想などを述べ合います。また解説やコメントなどによるフィードバックを行います。 CD2101 □教授会で授業が休講となる場合は事前に連絡し、卒業制作展の搬入・展示・搬出作業および会期中の役割などで補填することとします。 □デザイン分野の卒業研究は複数の教員で横断的に担当します。授業開始後に、取り組む作品制作の内容によって主となる指導担当者を決定しますが、状況により他教員の指導も受けながら制作をすることになる場合があります。			
授業の到達目標	伝えたいメッセージを明確にし、主体的に研究と制作へ取り組むことを目標とします。 ・単位認定の最低基準：卒業制作展における作品展示・発表（ルーブリック評価に基づいて判定します） ・ディプロマ・ポリシーとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
履修条件	地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①自分のテーマへの探究心・情報収集の成果（20点） ②制作姿勢（40点） ③作品の完成度（40点）	
テキスト	ありません。 必要に応じて資料などを提示します。			
参考書	取り組むテーマに応じて参考となる書籍や図録、情報などを紹介します。			
学生への要望	専門的な視点を意識して主体的に研究・制作してください。参考資料や使用する道具・素材などについてはできるだけ多くの現物で検討し、制作のための準備に時間をかけることを希望します。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究について説明する。	卒業研究で取り組む作品テーマについて資料などに当たりながら考える。	30
2	討論会	デザインとは何か、デザインの役割と問題点について考える。デザインには人や暮らし、社会を豊かにするという目的が含まれていることを起点とし、デザインの領域について理解を深める。 その中でも、絵本やブックバイディング（装丁）を中心に、新しい価値やその存在意味について考える。	生活の中にあるデザインの役割などについて調べる。	30
3	研究方法	作品テーマ（表現のための主題）と発表方法について考える。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
4	研究方法	作品テーマ（表現のための主題）と発表方法について考える。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
5	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
6	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
7	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
8	研究資料について	参考文献と参考作品の収集を行う。イラストレーターやデザイナーに直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などにも積極的に取り組む。	美術館や博物館、ギャラリーなどへ行き、イラストレーションやデザイン作品等に触れる。	60
9	研究テーマ①	自分が表現したい事柄をレポートにまとめる。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	研究テーマ①	自分が表現したい事柄をレポートにまとめる。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
11	研究テーマ②	レポートを見返し過不足があれば書き加える。キーワードを抜き書きし、研究テーマの輪郭を探る。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
12	研究テーマ②	レポートを見返し過不足があれば書き加える。キーワードを抜き書きし、研究テーマの輪郭を探る。	自身の作品テーマに関係しそうな資料や材料、表現方法や展示計画等について情報収集を行いファイリングをする。	60
13	資料の収集①	自分の作品テーマが世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
14	資料の収集①	自分の作品テーマが世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
15	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品として展示する（視覚化）ために必要な材料や資料について検討する。授業時間外で収集した資料なども持ち込んでさらに確認・検討する。	自分の作品テーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
16	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品として展示する（視覚化）ために必要な材料や資料について検討する。授業時間外で収集した資料なども持ち込んでさらに確認・検討する。	自分のテーマをいくつか検討しながら情報収集を行う。	30
17	ムードボードの制作①	収集した資料（画像・テキストなど）を整理する。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	30
18	ムードボードの制作①	収集した資料（画像・テキストなど）を整理する。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	30
19	ムードボードの制作②	色調のバランスを考えながらスケッチを行う。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	60
20	ムードボードの制作②	色調のバランスを考えながらスケッチを行う。	収集した資料の整理を行い、必要に応じて追加も検討する。	60
21	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに各自のテーマを決定する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
22	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに各自のテーマを決定する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
23	表現技法の決定	テーマを表現するためにもっとも適している表現方法・技法について考える。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
24	表現技法の決定	プリンターによる出力や手描き、または業者への発注などについて検討する。 手描きの場合は描画材料の他に、基底材についても検討する。	作品制作のための材料・資料について確認し入手ルートなども調べる。	60
25	プレ制作①	材料実験を重ね、おおよその完成形をイメージして制作する。	作品のスケッチを重ねる。	60
26	プレ制作①	材料実験を重ね、おおよその完成形をイメージして制作する。	作品のスケッチを重ねる。	60
27	プレ制作②	計画を進める段階で考えられる問題点を予測する。	作品のスケッチを重ねる。	60
28	プレ制作②	材料的・技法的な問題がないか、追加や交換が必要な資料・機器などについて確認し、展示に向けた問題点を細かく洗い出し予測する。	作品のスケッチを重ねる。	60
29	制作計画書の作成	時間配分などを見直し本制作の全体計画書を作成する。機器の不具合や材料の不足、アクシデントによる修正など、有事に備えて二週間程度の予備日を確保するよう計画する。	制作に係る時間を検討し、完成させるまでの計画を練る。	60
30	材料の手配	作品の完成形のイメージを固め、必要な材料・道具などを検討する。	制作に係る時間を検討し、完成させるまでの計画を練る。必要な材料などを揃え制作に備える。	60
31	本制作①（本文）	作品制作で使用する道具・材料をいくつか選び、それぞれをそのように使用するかを検討する。	道具の使用方法を確認し、材料を使用して表現方法の試作を行う。	30
32	本制作①（本文）	作品制作で使用する道具・材料をいくつか選び、それぞれをそのように使用するかを検討する。	道具の使用方法を確認し、材料を使用して表現方法の試作を行う。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	本制作②（本文）	表現方法に合わせて下絵・下図を描く。	使用する画材などの試作を行う。パソコンなどで制作する場合は作業時間の確認や出力した際の色調などの確認作業を行う。	60
34	本制作②（本文）	表現方法に合わせて下絵・下図を描く。	使用する画材などの試作を行う。パソコンなどで制作する場合は作業時間の確認や出力した際の色調などの確認作業を行う。	60
35	本制作③（本文・表紙）	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
36	本制作③（本文・表紙）	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
37	本制作④（本文・表紙）	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
38	本制作④（本文・表紙）	発表する作品の点数やサイズなどを検討して、色彩、配置、また展示場所についても考慮しながら制作を進める。	制作を続ける。	60
39	本制作⑤（本文）	作品に客観性をもたせるため、他分野の教員や学生に作品を見てもらい、率直な感想や意見を聞きながら作業を進める。	制作を続ける。	60
40	本制作⑤（本文）	作品のサイズなど基本的な間違いがないかを確認しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
41	本制作⑥（本文）	平面構成的な作品の場合は画面の大勢を占める色調を把握する。描画的な作品は全体の書き込みのバランスを見ながら作業を進める。	制作を続ける。	60
42	本制作⑥（本文）	平面構成的な作品の場合は画面の大勢を占める色調を把握する。描画的な作品は全体の書き込みのバランスを見ながら作業を進める。	制作を続ける。	60
43	本制作⑦（本文・表紙）	色彩計画は下図の段階でおおよそ決めてあるが、実寸においては再考し、色調整を検討しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
44	本制作⑦（本文・表紙）	色彩計画は下図の段階でおおよそ決めてあるが、実寸においては再考し、色調整を検討しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
45	本制作⑧（本文・表紙）	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
46	本制作⑧（本文・表紙）	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
47	本制作⑨（本文・表紙）	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
48	本制作⑨（本文・表紙）	細部にこだわらず全体を意識しながら作業を進める。	制作を続ける。	60
49	本制作⑩（本文）	パソコン作業では画面上の色彩と出力した場合の色彩が異なるので、ときどき出力しながら色調整を繰り返す作業を行って制作する。画材などを使用して作品制作を行う場合は、基調色や背景など全体の色彩のバランスを見ながら作業を行って制作する。	制作を続ける。	60
50	本制作⑩（本文）	パソコン作業では画面上の色彩と出力した場合の色彩が異なるので、ときどき出力しながら色調整を繰り返す作業を行って制作する。画材などを使用して作品制作を行う場合は、基調色や背景など全体の色彩のバランスを見ながら作業を行って制作する。	制作を続ける。	60
51	本制作⑪（本文・表紙）	制作に専念する。色彩調整や表現材料に気を配りながら作業を行う。	制作を続ける。	60
52	本制作⑪（本文・表紙）	制作に専念する。色彩調整や表現材料に気を配りながら作業を行う。	制作を続ける。	60
53	途中経過の発表	制作中の作品について授業選択者全員で鑑賞し、意見や感想を述べ合う。	制作を続ける。	60
54	途中経過の発表	経過発表で確認した点について修正・見直しなどを行い完成度を高めていく。	制作を続ける。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
55	修正と仕上げ①	テーマに合う展示方法、考えられる問題点などを確認し完成度を高めていく。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
56	修正と仕上げ①	会場に作品を持ち込み効果的な展示方法を検討する。 必要に応じて微調整を加える。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
57	修正と仕上げ②	会場に作品を持ち込み効果的な展示方法を検討する。 必要に応じて微調整を加える。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
58	修正と仕上げ②	展覧会はまとまった一つの空間構成として捉える必要があるため、会場全体の調和を図る展示となっているかを検討する。	制作を続けながら細部の確認作業を行う。	60
59	作品の講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返る。 卒業制作展開催中は作品をさまざまな視点で鑑賞し、自分の作品についてメッセージ性が失われていないかなどを検証する。	デザインの観点から、伝えたいメッセージが表現されているかを検証する。	60
60	作品の講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返る。 卒業制作展開催中は作品をさまざまな視点で鑑賞し、自分の作品についてメッセージ性が失われていないかなどを検証する。	今後の創作活動について考えながら、卒業制作全体を振り返る。	60

授業名	卒業研究（斉藤 弘久）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎斉藤 弘久		
開講期			
授業の概要	現代社会におけるグラフィックデザインの役割は重要なものとなってきた。対人間のより良いコミュニケーションはもとより、地球環境全体にまで及ぶ深い洞察と積極的関与が求められている。このような時代の中にあって、グラフィックデザイン及びデザインが人間生活にどのように寄与できるかを考え制作する。尚、教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割などで補填する。（CD2100）		
授業の到達目標	人間が生活にどのように寄与できるかを考えると共に、学生としての新しい視点を見つけ出すことを目的としている。作品の完成度が高いことも大切であるが、主体的な研究・作品制作の過程がより重要である。		
履修条件	地域創成学科 2年生	成績の 評価方法・基準	①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	なし。		
参考書	各自の研究制作に参考となる書籍や図録などを推薦する。		
学生への要望	専門的な立場から、主体的に研究・制作されたい。 参考資料や使用する道具・素材を事前に準備しておくことが大切である。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	卒業研究の目的と進め方について説明する。 現代デザインの動向を知り、その役割と問題点を理解する。	授前、卒制の心構えを考えてみる 授後、どのように取り組むかを考える	240
2	討論会	現代デザインの役割と問題点について、特に人間のコミュニケーションのあり方と地球環境の側面から討論する。	授前、制作に向けての姿勢を考える 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
3	研究方法	作品テーマ（表現のための主題）を決定するための研究方法について学ぶ。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
4	研究資料について	参考文献と参考作品の収集の方法を知る。直接取材についても考える。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
5	研究テーマⅠ	デザインの分野や技法から考えるのではなく、純粋に表現したい事柄を文章化してみる。提出する。人間生活の中で、どのようなことがデザインの力で、より良くなるのかを考える。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
6	研究テーマⅡ	文章化した「表現のためのテーマ」を読み返し、過不足があれば書き加える。次にキーワードを抜き書きし、考えていること全体の輪郭を見る。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
7	資料の収集Ⅰ	自分が考えているテーマが現代のデザイン界で、どのように表現されているのか。その類型を収集する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
8	資料の収集Ⅱ	文章化したテーマを作品化（視覚化）するために必要な資料を考え収集する。 授業時間内だけの収集には限界があるので、普段から心がけて資料のスクラップを行う必要がある。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240
9	ムードボード制作Ⅰ	収集した資料（画像・テキストなど）をB2のパネルに貼り、考えている事柄全体の雰囲気を感じ取る。写真・新聞の切り抜き・メモ・スケッチなど幅広く集め、一覧できるものにする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果がもたらされるか考察する	240

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	ムードボード制作Ⅱ	貼り付ける画像やスケッチの大小・傾き・色調のバランスも考えながら制作する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
11	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに、表現テーマを決定する。 小さいスケッチ（サムネイル）を描いてみる。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
12	表現技法の決定	テーマを表現するために、最も適している技法を考える。大きくＣＧと手描き技法に分けて考えるが、併用もありうるので柔軟に考える。手描きの場合は描画材料のほかに、基底材についても考える必要がある。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
13	プレ制作Ⅰ	材料実験を兼ねて、縮小サイズでミニチュアを制作し、これを完成予想図とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
14	プレ制作Ⅱ	この時に、今後制作中に起こる問題点を予測する。材料的な問題・技法的な問題点・さらに必要な資料・展示の際の問題点などを予測する。また、どこに多くの時間を要するかも考えておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
15	制作計画・材料の手配	本制作の計画書を作成する。時間の配分をよく考えて作成する。修正作業に２週間は確保すること。展示作業も含め、必要な材料・用具を手配する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
16	本制作①(基底材)	基底材に対応した下地処理を行う。紙の場合は水張りなど。パソコンによる制作の場合でも、最終的に印刷物で展示する場合はパネルを準備する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
17	本制作②(下絵)	トレシングペーパーなどを使用して、下絵を描く。大きい画面の作品は離れて見てバランスを確認することが必要である。パソコンでの場合は、スケッチをスキャンして下絵とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
18	本制作③(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
19	本制作④(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
20	本制作⑤(下絵の転写)	トレシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
21	本制作⑥(下絵の転写)	トレシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
22	本制作⑦(描画・彩色)	平面的な作品の場合は、大きい面から彩色し、画面の大勢を占める色調を把握する。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
23	本制作⑧(描画・彩色)	大まかに全体的に制作を進めていく。最初から細部に走らない。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
24	本制作⑨(描画・彩色)	迷わずに制作し、一定の結果が出たら作品の検証を行う。授業時間内だけでは時間的に不足するので、学生は空き時間をすべて利用して制作に専念すること。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
25	本制作⑩(描画・彩色)	制作に専念する。パソコンで制作している学生は、この時点で出力しておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
26	途中経過発表会	制作中の作品を全員で鑑賞し、感想を述べ合う。特にテーマとの合致性、今後の問題点について確認し、以後の制作の指針とする。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、どのような効果もたらされるか考察する	240
27	修正・仕上げ①	経過発表会で確認した点につて、修正・強調などを行い、完成度を上げていく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、完成に向けた取り組みを考える	240

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	修正・仕上げ②	同上。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、完成に向けた取り組みを考える	240
29	修正・仕上げ③	離れて作品を鑑賞し、微調整を加えていく。展示具をパネルに取り付けておく。	授前、試行錯誤して準備にあたる 授後、最終段階で仕上がりを確認する	240
30	作品講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返って、鑑賞する。自分で決定したテーマが表現できているか、それが、どのくらいできているのか検証する。お互いに意見を述べ合う。教員は講評する。	授前、完成作品の調整 授後、完成した作品を鑑賞しまとめる	240

授業名	卒業研究（知野 愛）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎知野 愛		
開講期	通年		
授業の概要	家族社会学、女性史(日本近現代)に関するテーマの中から、自分の課題を主体的に決定し、各自のテーマについて調査研究する。半期に2回程度、中間発表会を行い、お互いの進捗状況を知り質疑応答や議論をしてさらに発展させる。		
授業の到達目標	自分の課題をどのように調査研究したか、他のメンバーに説明ができ質問に応じることができ、ディスカッションができること。最終的には、論文（複数で1テーマを追う場合などはレポート冊子）の形でまとめ、卒業研究発表会で発表する。		
履修条件	地域創成学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	中間報告会での発表内容(10点)、卒研発表会での発表内容(10点)、論文(80点)
テキスト	なし		
参考書	適宜紹介する		
学生への要望	積極的に調査研究を行い、地道に論文作成に取り組むこと		
位置付け・水準	位置づけ水準:CD2101		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係： 創造的思考力、課題解決力、主体的行動力		
オフィスタイム	(Ⅰ期)火曜Ⅱ限、Ⅲ限、(Ⅱ期)月曜Ⅱ限、水曜Ⅱ限。 地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)		
アクティブラーニング実施内容	必要に応じてフィールドワークを実施する		
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスに基づき授業内容、目標、成績評価の付け方などを説明する。卒論のテーマを決めるようにする。年間計画についても確認する。	復習:各自のテーマが、すでにどのように研究されているのか、インターネット検索し先行研究を調べる。その結果を報告書に書いて提出する。	60
2	論文形式の確認	毎回パソコンを持参する。パソコンでのレポート作成上の注意点を確認する。	論文の書き方に関する資料を渡すので、それをよく読む。目次の構成などをどうするか、1枚に書き出して提出する。	60
3	研究倫理	研究倫理、特に著作権の問題について学ぶ	予習・復習:先行研究、論文・書籍類を図書館などで入手し、次回持参する。内容を読む。	60
4	研究テーマに関する本を探す	各自で関連図書(先行研究)を探し、自分のテーマに関連する部分を書き留める。(引用箇所は著者名『書名』出版社、出版年、ページまで書いておく)	先行研究を一冊ずつ読み進める。その概要を書き出していく。	60
5	研究テーマに関する本を探す	2～3冊の関連図書を読み、自分のテーマに関連することについてどう述べているかを検討する。	先行研究を一冊ずつ読み進める。その概要を書き出していく。	60
6	論文構成の確認	「テーマ」「目次」を所定のフォーマットに従って作成し提出する。	論文構成を考える。先行研究をよく読み、引用する部分を考える。	60
7	テーマ発表(中間発表1)	卒研生同士で「各自のテーマ」と「関連図書で述べられていること」、「それに対して自分はということを証明したいのか」「何に焦点をあてて何を明らかにしたいのか」を発表し質疑応答する。	発表が終わった人は次の段階へ進む。先行研究を読み、各自の調査を進める。	60
8	テーマ発表(中間発表2)	卒研生同士で上記のテーマについて発表し話し合う。2回目	発表が終わった人は次の段階へ進む。先行研究を読み、各自の調査を進める。	60
9	見直し・修正	前回までの質疑応答を経て、自分のテーマや内容を見直し作成することに各自で取り組む。	論文構成を考える。修正する。	60
10	論文構成の確認	「テーマ」「目次」を見直したものを再度提出する。	論文に関する本を読む。	60
11	論文構成を知る	前回提出したものを全員で発表しあう。	他の人の論文構成も参考にして修正などする。	60
12	論文作成	パソコンを持参して教室で卒業論文を作成する。個別に相談に応じる。	先行研究の調査結果、各自のデータ調査結果などをパソコン入力する。	60
13	論文作成	パソコンを持参して教室で卒業論文を作成する。個別に相談に応じる。	先行研究の調査結果、各自のデータ調査結果などをパソコン入力する。	60
14	論文作成	現在の進行状況を卒研生全員の前で発表する。卒論作成上の疑問点などがあれば質問を受け付ける。皆で疑問点を解消する。夏季休業中にすることを確認。	先行研究の調査結果、各自のデータ調査結果などをパソコン入力する。発表準備をする。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	発表、質疑応答	現在の進行状況を卒研生全員の前で発表する。卒論作成上の疑問点などがあれば質問を受け付ける。皆で疑問点を解消する。夏季休業中にすることを確認。	発表した結果、修正をする。各自の調査を進める。	60
16	進捗状況の発表	各自が中間発表で指摘された点などを修正。夏休み後に進行状況を発表する。	中間発表を経て、あらためて、研究テーマ・研究方法・内容についての計画を点検する。	60
17	研究調査	各自で作成作業をすすめる。各自の質問などを随時受け付ける。	論文構成を踏まえて調査を進める。質問疑問点があれば次回質問できるように整理しておく。	60
18	研究調査	各自で作成作業をすすめる。各自の質問などを随時受け付ける。	これまで調査して入力した結果を提出してもらうので、ここまでのデータをUSBに入れて提出できるように準備する。	60
19	研究調査	各自で作成作業をすすめる。各自の質問などを随時受け付ける。	論文構成を踏まえて調査を進める。質問疑問点があれば次回質問できるように整理しておく。	60
20	要旨集原稿作成	卒論要旨集の原稿を作成して提出し教員のチェックを受ける。	要旨集原稿を作成し、自分の論文の要旨は何かをまとめる。	60
21	要旨集原稿作成、提出	卒論要旨集の原稿を修正し最終的に提出する。	要旨集原稿を作成し、自分の論文の要旨は何かをまとめる。	60
22	要旨集原稿確認、全体構成の確認	全員の卒論要旨集の原稿を教員が確認し修正点を修正する。チェックが済んだ人は、各自の作業を進める。	フィードバックを踏まえて、論文内容を見直し、足りない部分を調べて書き加える。	60
23	要旨集原稿確認、全体構成の確認	全員の卒論要旨集の原稿を教員が確認し修正点を修正する。チェックが済んだ人は、各自の作業を進める。各自の研究を進めてパソコン入力し、論文にまとめられるようにする。	フィードバックを踏まえて、論文内容を見直し、足りない部分を調べて書き加える。	60
24	要旨集原稿最終提出	卒論要旨集の原稿提出締め切りまでにUSBにデータを入れて提出する。	指摘事項などを訂正し、修正作業をする。	60
25	研究調査内容の発表と質疑応答(1)	卒論内容を卒研生同士で発表し、質疑応答して気づいた点を加筆修正する。	指摘事項などを訂正し、修正作業をする。	60
26	研究調査内容の発表と質疑応答(2)	卒論内容を卒研生同士で発表し、質疑応答して気づいた点を加筆修正する。	フィードバックを踏まえて、論文内容を見直し、足りない部分を調べて書き加える。	60
27	研究調査内容の確認	卒論をおおよそ完成させUSBでデータを提出する。	指摘事項などを訂正し、修正作業をする。	60
28	論文完成へ向けて	冬季休み明けに、各自責任をもって所定の場所へ提出する。	卒論完成後、卒論発表会で使用するパワポ作成に自宅できりかかる。	60
29	卒論発表会のパワポ確認	卒論発表会でのパワポを完成した人から発表し質疑応答、修正作業をする。目安16～20枚程度。	卒論完成後、卒論発表会で使用するパワポ作成に自宅できりかかる。	60
30	発表予行練習	卒論発表会で使用するパワポを持ち寄り、卒研生同士で発表し質疑応答する。	卒論発表会の質疑応答などで気づいた点があれば修正する。	60

授業名	卒業研究（仲田 佐和子）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎仲田 佐和子			
開講期				
授業の概要	2年間の学びの総まとめとして、独自の課題をみつけ、調査、資料収集をおこないます。そこから論理的な考察を経て論文に仕上げていきます。課題は博物館学（博物館教育論、博物館展示論等）を基本とします。博物館は生涯学習施設であることをふまえ、幅広く柔軟な考え方で、今後の博物館を含む生涯学習施設と学生の社会との関わりについても展望します。論文に仕上げるまで、レポートや論文下書きを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準CD2101			
授業の到達目標	①自ら問題意識を持って選択したテーマについて調査研究し、論理的かつ創造的にものごとを考えることができる能力を修得する。（創造的思考力） ②専門分野の探求煮おいて各分野の多様性を理解するとともに、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につける。（課題解決力） ③専門的な知識の探求を通して知見を得、それらを社会に貢献できる力を身につける。（主体的行動力）			
履修条件	短期大学部地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	卒業研究論文（80点） 卒業研究発表会での発表（20点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指してほしい。	
テキスト	使用しない。			
参考書	各自のテーマ設定により、適宜、参考文献等を紹介します。			
学生への要望	博物館を含む生涯学習施設や社会全体に対して興味を持ち、自分が今後どのように関わっていくかを考えながら、柔軟な発想をしてほしい。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	主体的行動力			
オフィスタイム	月曜日・Ⅳ時限、火曜日・Ⅱ時限。創学館4階No.4研究室			
アクティブラーニング実施内容	研究の進捗に応じて、パワーポイントを用いた発表を行います。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。	生涯学習施設としての博物館の役割を考える。	90
2	資料の探し方	大学図書館での資料の探し方を学ぶ。	大学図書館へ行き、興味のある分野を探しておく。	90
3	テーマ設定①	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
4	テーマ設定②	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
5	テーマ設定③	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
6	テーマ設定④	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
7	テーマ設定⑤	興味のある事がらからテーマを考えていく。	大学図書館や地域図書館で調べる。	90
8	論文の構成を考える①	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
9	論文の構成を考える②	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
10	論文の構成を考える③	論文全体の構成を考える。	図書館で不足している資料を調査する。	90
11	論文の章立てを行う①	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
12	論文の章立てを行う②	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
13	論文の章立てを行う③	構成から大まかな章立てを考える。	資料を深く読み込み、自分なりの課題を見つける。	90
14	Ⅲ期のまとめ	これまでで明らかになったことを整理する。	参考にした資料をまとめておく。	90
15	今後の進め方について	夏休みにやるべきことを明確にする。	参考にした資料をまとめておく。	90
16	論文執筆①	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
17	論文執筆②	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	論文執筆③	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
19	論文執筆④	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
20	論文執筆⑤	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
21	論文執筆⑥	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
22	論文執筆⑦	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
23	論文執筆⑧	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
24	論文執筆⑨	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
25	論文執筆⑩	論文執筆を進める。授業では逐次発表をおこなう。	資料や調査でわかったことに、自分の考え方を含めて書いていく。	90
26	論文のまとめ	論文に誤植がないか、確認する。	自分の論文を丁寧に読み返す。	90
27	卒業研究発表会準備①	卒業研究発表会の発表原稿をつくる。	発表時間内に発表できる原稿をつくる。	90
28	卒業研究発表会準備②	卒業研究発表会の発表原稿をつくる。	発表時間内に発表できる原稿をつくる。	90
29	卒業研究発表会準備③	卒業研究発表会のパワーポイントをつくる。	発表に合わせたパワーポイントをつくる。	90
30	卒業研究発表会リハーサル	パワーポイントと発表が時間内に行えるかを確認する。	発表会の最終確認をおこなう。	90

授業名	卒業研究（福島 寛太郎）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎福島 寛太郎			
開講期				
授業の概要	授業の概要】 卒業研究は文化学科 2 年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。 〔授業の目的・ねらい〕 ①地域創成学科の卒業生として必要な文化知識を習得させること。 ②幅広い専門知識を養わせること。 ③文献の読解および扱い方に必要な基礎力を高めさせること。 授業時の質疑応答やレポートの返却等によってフィードバックを行う。 位置づけ・水準:CD2101			
授業の到達目標	所属学生の問題関心にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。 なお、卒業論文（1200字以上）の提出日および最終発表会は別途にて指示する。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係:創造的思考力、課題解決力、主体的行動力			
履修条件	短大地域創成学科 2 年	成績の 評価方法・基準	論文成績60点、ゼミにおける発表20％、ゼミにおける参加態度20％など。理解度 8 割で、合とする。	
テキスト	とくに指定しない			
参考書	個々の卒業研究のテーマに合わせて案内する			
学生への要望	・ 授業に積極的に参加すること。 ・ ノートをこまめにとること。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	『卒業研究手引き』を使いながら、ゼミのやり方と流れについて話す。1年生の授業を復習し、その中から課題を見つける試み	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
2	課題1 宗教史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
3	課題2 神話	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
4	課題3 神と仏	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
5	課題4 神仏習合の歴史	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
6	課題5 神仏と中世（1）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
7	課題6 神仏と中世（2）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
8	課題7 世俗と宗教（1）	課題を発見する方法を学ぶ。研究テーマの相談	参考文献を読み、理解すること	1.5
9	課題8 世俗と宗教（2）	課題を発見する方法を学ぶ。参考文献案内	参考文献を読み、理解すること	1.5
10	課題8 神道とナショナリズム（1）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
11	課題9 神道とナショナリズム（2）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
12	課題10 近代化と宗教（1）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	課題11 近代化と宗教（2）	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
14	課題12 民衆宗教の形成	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
15	前期のまとめ	中間発表。個々のテーマを確定する。		1.5
16	後期のガイダンス			1.5
17	課題13 天神信仰における東福寺の位置づけについて	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
18	課題14 天神像の変容について	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
19	課題15 怨霊信仰と天神信仰について	先行研究の紹介とその問題点について探る	参考文献を読み、理解すること	1.5
20	課題16 天神信仰と陰陽道について	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
21	課題17 梅と天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
22	課題18 北野天満宮をめぐる諸問題	担当者の実地調査を踏まえつつ、北野天満宮の実体と天神信仰の変容について探る。	参考文献を読み、理解すること	1.5
23	課題18 学問の神様としての菅原道真像の形成	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
24	課題19 天神信仰の広がりについて	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
25	課題20 東北地方における天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
26	課題21 会津地方における天神信仰の特徴	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
27	課題22 庶民信仰としての天神信仰	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	参考文献を読み、理解すること	1.5
28	課題23 天神信仰の現在―地方神社における合格祈願を手がかりに―	課題を発見する方法を学ぶ。各自発表を行う	教科書と参考文献を読み、理解すること	1.5
29	まとめ I	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5
30	まとめ II	論文の完成を確認する	卒業研究手引きを読み、よく理解すること	1.5

授業名	卒業研究（米本 順子）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎米本 順子		
開講期	Ⅲ～Ⅳ期		
授業の概要	絵画というものは精神性なくして成立しないことは当然ですが、同時にその精神は素材を通して表現されます。故に技術と精神は切り離しては考えられません。どうすれば自分の表現したいものに近づけるか。作者はいつも技法の研究と発見に努力をしなければならないということです。この授業では油彩画Ⅰで学習した内容を基礎とし、更に一步踏み込んで学生各自の個性に合わせ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。 提出された作品は課題ごとに講評会を行い学生へのフィードバックとします。なお教授会で休講になった授業については、卒業制作展の搬入搬出、会期中の役割業務参加などで補填します。		
授業の到達目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで、個性ある自分だけの絵画空間を創りあげ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。		
履修条件	地域創成学科 2 年生 油彩画Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	この授業の理解度が 7 ～ 8 割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品や小テストによる課題目標達成度が70％以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
テキスト	教科書は特に使用しません。		
参考書	・新技法シリーズ絵画入門 … 佐藤一郎著 （美術出版社） ・彩色技法 … J・M バラモン （グラフィック社） ・その他、授業に関する画集・資料などは適 宜指示します。		
学生への要望	油彩画の大作を描くことの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望む。また、空き時間を有効に活用し十分に時間をかけて、制作を進めること。		
位置付け・水準	単位認定の最低基準は授業内容の7割を理解していること。		
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力、主体的行動力を、油彩画作品制作を通し養う。		
オフィスタイム	木曜 V 限		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究履修についてのオリエンテーション	・各自、卒業研究の目標を確認します。 ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検—各自で油絵具や筆などを点検して不足分の補充をして下さい。（作品の大型化に伴い、大型ペインティングナイフの準備等）	【事前学習】授業に関連する道具や材料などを事前に調べておく。	30
2	同上	・静物画及び自由画どちらかを選び、それぞれモチーフ作りやエスキースを始めます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
3	静物画、自由画制作－1	… 作品制作 ・各自で制作日程を検討し、作品完成までの計画を立てましょう。 ・静物画に関しては身近な“物”の美しさを発見し、自分の内的感情を追及し作品にしていきましょう。 ・自由画に関しては自分のテーマ、進め方について考えましょう。 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。（大型化のため、共同作業。）	【事前学習】授業に関連する道具や作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
4	同上	… 作品制作 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。（大型化のため、共同作業。）	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、張り終ったキャンバスを整理しておく。	30
5	静物画、自由画制作－2	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めて行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
7	静物画、自由画制作－3	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみしましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
8	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めて行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
9	静物画、自由画制作－4	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観みましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
10	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では人物とは異なる“物”の持つ形の面白さに着目しながら組合わせをして表現しましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
11	静物画、自由画制作－5	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観みましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
12	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与えてみましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
13	静物画、自由画制作－6	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観みましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
14	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では床、モチーフ台、モチーフ、背面の関係をもう一度確認してみしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
15	静物画、自由画制作－7	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観みましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
16	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例としては、色相反対色は強烈な印象、同系色は統一した印象になる等。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
17	静物画、自由画制作－8	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観みましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながらいい形を探って いきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
19	静物画、自由画制作－ 9	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
20	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握していきます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
21	静物画、自由画制作－ 1 0	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
22	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが描きこむ事によって表現が硬くならないように注意しましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
23	静物画、自由画制作－ 1 1	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
24	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみるなど、工夫をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
25	静物画、自由画制作－ 1 2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
26	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきましたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
27	静物画、自由画制作－ 1 3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましよう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
28	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成とします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
29	静物画、自由画講評会	…講評会 ・仕上がった作品を並べ、画集や参考作品なども用いながら講評します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	同上	…講評会 ・質問や意見交換も多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指します。	【事後学習】講評会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄や見え方を確認・検証しておく。	30
31	オリエンテーションとエスキース制作	※これよりⅣ期 ・残り半期の授業内容や使用道具の説明をします。 ・道具点検一各自で、油絵具や筆などを点検して不足分の補充をしましょう。 ・卒業制作をイメージしながら80号以上のキャンパス1点と小キャンパスを5～6枚準備して下さい。	【事前学習】授業に関連する使用道具や材料などを事前に調べておく。	30
32	同上	…作品制作 ・卒業制作をイメージしながら少しずつエスキースをしましょう	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作したエスキースを整理しておく。	30
33	構成画制作－1	…作品制作 ・構成画制作では今までの油彩画やデッサンで学んだことを踏まえ、構想を練りましょう。 ・各自、効率的な制作日程を検討し、計画を立てましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
34	同上	…作品制作 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
35	構成画制作－2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
36	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、"良い形"を探っていきましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
37	構成画制作－3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・作品制作・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
38	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集等を適宜見ながら、徐々に進めていき、まとめに入ります。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
39	構成画作品講評会	…作品講評 ・仕上がった構成画作品を並べ参考作品や画集等も用いながら講評します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
40	同上	…作品講評 ・質問や意見交換も多角的に行ない油彩画構成制作の目標達成を目指します。	【事後学習】作品講評内容を踏まえ、自分なりに指摘点を整理しておく。	30
41	市民展搬入準備	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。	30
42	同上	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。 ・額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材、搬入する作品を整理しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
43	市民展見学	…市展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事前学習】市民展見学に際し事前に、この展覧会の会場や歴史を調べておく。	30
44	同上	…市展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。	【事後学習】市民展見学後に、展示された自分の作品の見え方や展示方法を確認・検証しておく。	30
45	卒業制作－1	…ガイダンス ・油彩画の平面作品に限定せず他の素材を使った立体作品またはインスタレーションなど表現方法は自由とします。 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
46	同上	…作品制作 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースします。 ・各自、制作日程を検討し、計画を立てましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
47	卒業制作－2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
48	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながら、いい形を探って行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
49	卒業制作－3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
50	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握して行きましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
51	卒業制作－4	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
52	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが描き込むことによって表現が硬くならないように注意をしましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
53	卒業制作－5	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30
54	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描き込むことによって表現が硬くならないように注意しながら完成へと向かいます。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
55	卒業制作－6	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。	【事前学習】授業に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
56	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。	【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、制作した作品を整理しておく。	30
57	卒業制作作品搬入準備	…作品の完成、搬入準備 ・卒業制作作品の額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。	【事前学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方を事前に確認しておく。	30
58	同上	…作品の完成、搬入準備 ・会場展示のプレゼンテーションをします。	【事後学習】作品搬入に際し、道具や機材の使い方の復習・検証をしておく。	30
59	卒業制作作品講評会	…講評会 ・完成した作品は卒業制作展において展示し、2年間の学習の成果として発表します。	【事前学習】講評会に関連する作品集などを事前に閲覧、研究しておく。また作品記録用にカメラを準備しておく。	30
60	同上	…講評会及び意見交換 ・各自、作品の前で質問や意見交換も多角的に行ないながら講評します。 ・一年間の総評をします。	【事後学習】講評会実施を踏まえ、自分の作品の出来栄や見え方を確認・検証しておく。また、制作した作品および作品画像を整理しておく。	30

授業名	卒業研究（和知 剛）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	図書館情報学研究における基礎となる技術と理論の樹立と展開を目指し、学問的に有益であり、かつ地域社会への貢献が期待できる研究の遂行を目指す。担当教員はこれまで大学図書館に30年ほど勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について解説していく。 タイミングを見ながら論文執筆の進捗状況に関するレポートの提出を求め、提出されたレポートに対して適切な指導を行う。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科2年次に所属する学生（司書ユニットを受講していることが望ましい）	成績の 評価方法・基準	完成した卒業論文および卒研報告会における発表・発表資料等を総合的に評価する。	
テキスト	特になし（必要なテキストはその都度作成配布）			
参考書	特になし（必要なテキストはその都度指定する）			
学生への要望	卒業研究は大学における勉学の総決算です。知力と体力を惜しまないでください。			
位置付け・水準	CD2101			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	毎回教員を交えたディスカッションを行う。			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究計画の立案（1）	研究目的の明確化	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
2	卒業研究計画の立案（2）	論点整理	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
3	卒業研究計画の立案（3）	論文構成の当初計画作成	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
4	卒業研究計画の立案（4）	参考文献の洗い出し	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
5	参考文献の収集と読解（1）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
6	参考文献の収集と読解（2）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
7	参考文献の収集と読解（3）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
8	参考文献の収集と読解（4）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
9	参考文献の収集と読解（5）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
10	参考文献の収集と読解（6）	大学図書館等を利用して参考文献を収集し、その読解をすすめる	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
11	論文の構成準備（1）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
12	論文の構成準備（2）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
13	論文の構成準備（3）	当初計画に基づく論文構成の確認と論文における議論の構築	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた参考文献の読解に取り組むこと	60
14	論文執筆（1）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
15	論文執筆（2）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
16	論文執筆（3）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	論文執筆（４）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
18	中間発表	ゼミ内での卒業研究中間発表とゼミ生による相互確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
19	論文執筆（５）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
20	論文執筆（６）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
21	論文執筆（７）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
22	論文執筆（８）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
23	論文執筆（９）	本文執筆と推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
24	論文初稿提出	卒業研究本文ならびに要旨提出	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
25	初稿修正（１）	本文における問題点の洗い出しと推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
26	初稿修正（２）	本文における問題点の洗い出しと推敲	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
27	論文修正稿提出	修正稿の提出と確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
28	論文修正稿確認，論文完成	提出用論文の完成	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた論文の執筆に取り組むこと	60
29	卒研発表用資料確認	卒研発表用パワーポイント資料の提出と確認	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60
30	卒研発表会リハーサル	卒業研究発表会リハーサル	受講生それぞれの卒業研究における目的に基づいた発表の準備に取り組むこと	60

授業名	卒業研究（會田 容弘）（論文もしくは制作）	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 4単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘		
開講期			
授業の概要	【授業の目標・ねらい】 卒業研究は地域創成学科 2 年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられる。専門分野にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められる。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本である。 【授業の概要】 授業では各自の問題関心に合わせながら、考古資料の取り扱い方と観察方法、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画している。授業では毎回課題を課し、次の授業で発表を行う。それにコメント、添削を加え、論文基礎資料とする。なお、卒業論文（A 4 版12000字以上）の提出日は2021年1月14日（木）、発表会は2月 2 日（火）。 位置付け・水準：CD2101		
授業の到達目標	【到達目標】 ・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。 ・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。 ・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。 ・DPとの関係：創造的思考力、課題解決力、主体的行動力、単位認定基準は成績評価基準に基づき、7 割以上の理解が望ましい。		
履修条件	地域創成学科 2 年生	成績の 評価方法・基準	【成績評価法】 ・授業における内容の発表（30点） ・卒業論文の内容は論理的で創造的であること（50点） ・卒業研究発表会（20点）
テキスト	會田 著述「短大生のための考古学論文作法」（私家版）		
参考書	『文化学科（資格課程）報告集』第 4 ～21集『地域創成学科報告集』第1～4 集		
学生への要望	1 年間かけてじっくりと自分の研究テーマを完成させてほしい。それにはたゆまず考古学の勉強をすることが必要である。授業は課題研究と発表および実習である。課題を調べることが予習である。発表および実習の指摘点を修正するのが復習である。 一日 3 0 分を考古学の時間にあててほしい。		
位置付け・水準	実践的な技術を習得し、次のステップを目指すことをめざす。		
ディプロマポリシーとの関係	ディプロマポリシーとの関係：研究能力と研究課題解決能力		
オフィスタイム	水曜日は授業が少ないので考古学実習室に在室であればいつでも対応します。		
アクティブラーニング実施内容	授業は毎回課題解決を行い、それを発表する。また、考古学は基礎的技術習得も必要である。資料の実測、写真撮影などの実習では、自分で納得できるまで行う。		
実務家教員の経歴	東北大学文学部考古学研究室助手として考古学教育の補助、奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。考古資料を用いた実際的な研究を行ってきた経験を授業に生かし、指導する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	研究倫理の説明を行う。考古資料・文化財を研究に利用する場合の手続き、調査研究方法、卒業論文作成の過程を説明する。	自分の興味ある分野と卒論担当教員の説明が一致しているかどうか十分検討する。	30
2	論文作成の動機付け（1）	対話を行いながら、興味ある対象が考古学研究の対象であるかないか、どのようにすれば考古学・博物館学・文化財学研究となるかを明らかにする。	自分の研究テーマ候補をいくつか考え、自分の興味はどこにあるのか整理する。	30
3	論文作成の動機付け（2）	実際の考古資料（笹山原遺跡No.16出土資料）を観察する。	資料観察を授業時間外にも行う。	120
4	論文作成の動機付け（3）	會田の最新論文（「考古学動作連鎖研究の社会的効用―遺跡博物館での活用法―」『考古学研究』第64巻第4号pp.31-35（2018.3）「上屋地遺跡B 地点出土石器群の石器技術学的再検討」東北日本の旧石器文化を語る会編『東北日本の旧石器時代』pp.239-254（2018.5.31））の読み合わせを行い、考古学論文の構成・資料・提示方法などを説明する。	論文を読み、読書ノートを作成する。	120
5	論文資料の決定	論文で扱う資料を決定する。実物考古資料、文献考古資料、現地遺跡などにより論文作成方法は異なる。	文献リストを作成する。	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	資料操作方法（１）	取り扱う資料（遺物（石器・土器・骨角器・自然遺物・木製品・金属器）遺構（住居・土坑・古墳））によりその折扱い方が異なる。基本的な資料の取り扱い方法を説明し、論文作成に備える。	文献リストを作成する。	120
7	資料操作方法（２）	資料操作の実習。土器であれば個体分類、接合作業。石器であれば石材分類、接合作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
8	資料化作業（１）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
9	資料化作業（２）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
10	資料化作業（３）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
11	資料化作業（４）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
12	資料化作業（５）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
13	資料化作業（６）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
14	資料化作業（７）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
15	中間発表	操作した資料がどのような状況にあるか、報告する。さらにその資料から何が言えそうか対話により検討する。	先行研究文献読破とノート作成、資料観察。	120
16	図化作業（１）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
17	図化作業（２）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
18	図化作業（３）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
19	図化作業（４）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
20	図化作業（５）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
21	図版レイアウト	図化した図版をレイアウトし、図版を作る。	実測図作成、資料の写真撮影、図版作成。	120
22	論文作成（１）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
23	論文作成（２）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
24	論文作成（３）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
25	論文作成（４）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
26	論文作成（５）	事実記載。	論文執筆と資料観察。	120
27	研究史上の位置付け	記述した資料がどのような位置にあるものか、指導教員が関連文献を提示し、記述する。	論文執筆。	120
28	考察の執筆（１）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	論文執筆。	120
29	考察の執筆（２）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。	パワーポイント作成。	120
30	発表データ作成および予行	卒業論文発表会に向けてパワーポイントを作成し、実際にそれを持ちいて発表の練習を行う。	パワーポイント修正。	30

授業名	児童サービス論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎籠田 まき子 和知 剛 桑野 聡			
開講期	I			
授業の概要	① 幼少期の読書体験は生涯にわたり自ら学び課題を解決していく力の礎となります。「児童サービス論」では、公共図書館における児童サービスの意義・運営・活動などについて学ぶとともに、その在り方や重要性についての理解を深めます。 ② 課題をとおして、子どもへ本を繋げる様々な方法を学びます			
授業の到達目標	【目標】 公共図書館における児童サービスの意義・運営・活動などについて学ぶとともに、その重要性を理解する。 【課題】 ① パーソナルシート ② 本の紹介文（3回） ③ 私の考える「児童図書館員」			
履修条件	地域創成学科学生 科目等履修生	成績の 評価方法・基準	課題演習 60％（レポート等） 参加態度 20％（積極性・質問等） 総合評価 20％（出席状況等）	
テキスト	特に使用しません。都度、資料を配布します。			
参考書	堀川照代編著『児童サービス論 JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 6』日本図書館協会 2014年			
学生への要望	期限までの課題提出は必須			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 児童サービスの意義	「児童サービス論」の講義の進め方について 公共図書館における児童サービスの意義と歴史について	資料を再読し、理解度を深める パーソナルシートの記入 （2回目に提出）	60分
2	子どもの生活と読書	子どもを取り巻く社会の動きと、子どもの発達と読書について	資料を再読し、理解度を深める 自身の幼少期の読書体験を振り返る	60分
3	児童資料の種類と特色	児童資料の種類とそれぞれの特色について ＊紹介文の書き方	資料を再読し、理解度を深める 絵本を実際に読み、保護者に向けた紹介文を書く（5回目に提出）	120分
4	児童資料の選書と管理	児童資料の選書と整理、蔵書構成等について	資料を再読し、理解度を深める	120分
5	児童サービスの諸活動	児童資料の提供、レファレンスサービス、フロアワーク、行事、展示、PR等について	〃	120分
6	児童サービスの運営	児童サービスの運営、管理、評価、施設等について 地域及び地域住民との協働等について	資料を再読し、理解度を深める 物語（小学生向け）を実際に読み、照会文を書く（8回目に提出）	120分
7	子どもと本をつなぐ	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等の活動について	テキストを再読し、理解度を深める 絵本を選び読み聞かせの練習をする	120分
8	児童サービス① 乳幼児	乳幼児サービスの意義と現状について 乳幼児向けの選書・サービス等の展開について	〃	120分
9	児童サービス② 小学生	児童へのサービスの意義と現状について 児童向けの選書・サービス等の展開について	資料を再読し、理解度を深める	120分

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	児童サービス③ ヤングアダルト（中高生）	中高生へのサービスの意義と現状について 中高生向けの選書・サービス等の展等について	資料を再読し、理解度を深める 物語（中高生向け）を実際に読み、照会文 を書く（１２回目に提出）	120分
11	児童サービス④ 支援が必要な子どもたち	支援が必要な子どもへのサービスの意義と現状について 支援が必要な子供向けの選書（形態）・サービスの展開に ついて	資料を再読し、理解度を深める	120分
12	学校・学校図書館への支援と 連携、協力	学校及び学校図書館の現状について 学校及び学校図書館との連携、協力、支援等について	資料を再読し、理解度を深める 「私の考える児童図書館員」を書く （１４回目に提出）	120分
13	関連施設との連携、協力	幼稚園・保育所・子ども文庫・博物館・美術館等の関連施 設との連携、協力、支援等について	資料を再読し、理解度を深める	120分
14	子どもの読書活動推進と図書館 の役割	国・自治体・民間団体による読書活動の推進と公共図書館 の活動について	〃	120分
15	児童図書館員のキャリア・スキ ルアップと児童図書館界の動向	児童図書館員の職務とキャリア・スキルアップについて 児童図書館界の動向等について	〃	120分

授業名	図書館サービス概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	公共図書館をはじめとする各館種で行われている「図書館サービス」の種類とそのあらましを学ぶ。図書館サービスの内容を覚え、図書館で働く際はもとより、図書館を利用する側になったときも、的確なサービスを選択し図書館を効率的に利用できる社会人になる。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していくとともに、学生自らが図書館サービスを調査報告する課題と機会を設けて、学生が主体的に学ぶことを身につける。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポート5割、期末試験5割	
テキスト	講義ではその都度プリントを配布します			
参考書	参考書よりも、自ら図書館利用者となって足繁く通い、実際に様々なサービスを楽しむことが講義の参考になります			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2112			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	受講生は、主に公共図書館で現在提供されている個々の図書館サービスについて調査し、その成果を授業内で報告する。報告の際、他の受講生から質問を最低でも3問受け付け、報告を担当している受講生は質問に回答することを必須とする。			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「図書館サービス」のあらまし：意義と理念	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	「図書館サービス」とは（1）	実際に行われている「図書館サービス」の類型	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	「図書館サービス」とは（2）	「図書館サービス」は外部からどのように見られているか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	学生による事例報告（1）	国立国会図書館、移動図書館、専門図書館、病院図書室	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	学生による事例報告（2）	コレクション構築（蔵書構成論）、蔵書管理、閲覧・貸出、予約・リクエスト	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	学生による事例報告（3）	複写サービス、参考図書、地域資料、逐次刊行物（継続資料）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	学生による事例報告（４）	オーディオ・ビジュアル（AV）資料、新聞、上映会、演奏会	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	学生による事例報告（５）	地域交流・集会、読書会、TRPG・ボードゲーム、レファレンスサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	学生による事例報告（６）	レフェラルサービス、エンベディット・ライブラリアン、広報、展示	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	学生による事例報告（７）	利用者支援（利用者教育）、読書通帳、児童サービス、ヤングアダルトサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	学生による事例報告（８）	認知症の方へのサービス、多文化サービス、法情報サービス、視覚・聴覚障害者へのサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	学生による事例報告（９）	アウトリーチサービス、ビジネス支援・課題解決型サービス、電子書籍、医療情報サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	学生による事例報告（１０）	学校図書館との相互協力、大学図書館との相互協力、博物館・美術館との連携、公民館との連携	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	まとめ（１）	「図書館サービス」計画の策定と評価	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ（２）	「図書館サービス」のこれから	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館情報資源概論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	図書館で扱う情報資源の歴史について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。講義の最後に毎回、時間をもってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	目標は①図書館で扱う情報資源は一朝一夕にいまの形になったものではないことを8割理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
テキスト	その都度プリントを配布。			
参考書	NDC014, 021, 023に分類される書籍			
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2113			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション(1)	記憶と記録のメディア	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	イントロダクション(2)	アナログからデジタルへ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	文字の歴史(1)	文字の誕生	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	文字の歴史(2)	日本における文字の歴史	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	紙の歴史(1)	紙以前の記録媒体と紙の出現	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	紙の歴史(2)	紙の発明と伝播	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	印刷の歴史(1)	黎明期の印刷（木版印刷）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	印刷の歴史(2)	活字の発明	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	印刷の歴史(3)	活版印刷の発明	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	書物について	さまざまな書物のかたち	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	近代出版の歴史(1)	16世紀ヨーロッパの出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	近代出版の歴史(2)	17世紀ヨーロッパの出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	近代出版の歴史(3)	近世日本の出版(1)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	近代出版の歴史(4)	近世日本の出版(2)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	近代出版の歴史(5)	明治時代以降の出版	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報資源組織論		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	図書館業務において「混沌（カオス）」から「秩序（コスモス）」を作り出し、利用者に必要な情報資源を提供しやすくしておくことの手段のひとつが「情報資源の組織化」であることを学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	情報資源および情報資源の組織化に関する基礎的な知識を修得することを目標とする			
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート4割，期末試験6割で評価します。	
テキスト	プリントをその都度配布します			
参考書	『知識資源のメタデータ』（谷口・緑川），『情報資源の組織化と提供』（根本・岸和田）など			
学生への要望	知識を習得する講義です。受講生の無断欠席は受講を継続する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2114			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	情報資源の組織化とは ・「情報資源」とは？ ・「情報資源の組織化」とは？ ・なぜ「情報資源」の「組織化」が必要なのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	目録規則の歴史（1）	目録規則と分類法の歴史 ・古代中国 ・日本	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	目録規則の歴史（2）	目録規則と分類法の歴史（続き） 西洋の分類事始め ・古代オリエントの「図書館」 ・古代アレクサンドリア図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	目録規則の歴史（3）	目録規則と分類法の歴史（続き） ・修道院図書館 ・国際書誌協会ほか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	「情報資源」とは何か（1）	ネットワーク情報資源とは ・「ネットワーク情報資源」とは？ ・ネットワーク情報資源の種類	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	「情報資源」とは何か（2）	ネットワーク情報資源とは（続き） ・図書館におけるネットワーク情報資源の利活用 ・図書館が生成するネットワーク情報資源	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	情報資源の組織化	情報資源の組織化とは ・なぜ「情報資源の組織化」が必要なのか？ ・書誌コントロール	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	メタデータとは何か	メタデータ ・メタデータ（Metadata）とは ・メタデータ詳説 ・メタデータスキーマ ・Dublin Core	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	日本目録規則のはなし	日本目録規則について ・1987年版の特徴	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	目録規則の大転換	目録規則の大転換 ・パリ原則・ISBDからFRBRへ（さらにIFLA RLMへ） ・「実体関連分析」の手法を用いた目録の機能要件のモデル化	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	目録規則の大転換	目録規則の大転換（続き） ・FRBR（書誌レコードの機能要件）解説 ・日本目録規則1987年版から2018年版へ	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	日本目録規則のはなし	日本目録規則2018年版について ・2018年版の特徴 ・2018年版の今後	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	日本十進分類法について	日本十進分類法について ・日本十進分類法の成立 ・日本十進分類法の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	日本十進分類法について	日本十進分類法について ・日本十進分類法の成立 ・日本十進分類法の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	・リクエストアワー（学生の質問とその回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館情報技術論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	現在の図書館の現場において使われている情報技術（ICT）にどのようなものがあるかを学ぶとともに、これまでの歴史を踏まえ、技術を支える法制度の現状を見て、単なる知識の習得に終わらない、情報技術の「困難さ」をめぐる思考を深めていく。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館サービスに有効に活用されている情報技術にどのようなものがあるかを学修し、エンドユーザーとして使いこなすことが可能になることを目指す。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。	
テキスト	プリントをその都度配布します			
参考書	「ITパスポート試験」「基本情報技術者試験」の教科書、参考書の類を読んでおくとう理解に役立ちます。 『電子書籍と電子ジャーナル』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版） 『メタデータとウェブサービス』（日本図書館情報学会研究委員会編/勉誠出版）			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2115			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	コンピューターと図書館 ・身の回りにあふれるコンピューティング ・個人情報の危険性 ・システムリスク ・コンピューターにおける3つのコアな技術 ・コンピューターと図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	コンピュータ（電子計算機）の簡単な歴史	アナログとデジタル ・アナログとは ・デジタルとは ・データをデジタル化する ・デジタル化されたデータの利点 ・アナログデータの利点	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	コンピュータの構成要素	ノイマン型コンピューターの基本構造 ・CPU（Central Processing Unit、中央処理装置） ・memory（メモリ、主記憶装置） ・storage（ストレージ、補助記憶装置） ・入力装置 ・出力装置	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	ソフトウェア	ソフトウェア ・「ハードウェア」との違い ・ソフトウェアに依存する社会 ソフトウェアの種類 ・システムソフトウェア ・オペレーティング・システム（OS） ・アプリケーションソフトウェア（「アプリ」または「ソフト」と呼ばれる）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	インターフェース	「インターフェース」とは ・ユーザーインターフェース ・マンマシンインターフェース ・ハードウェアインターフェース ・ソフトウェアインターフェース	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	インターネットの簡単な歴史	インターネットについて ・インターネットの基盤となる技術 ・インターネットとハイパーテキスト	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
7	日本のインターネット	日本のインターネット ・インターネット前史 ・インターネットの商用解禁	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	日本のインターネット	日本のインターネット（続き） ・Windows95と2000年問題 ・自然災害とインターネット	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	情報検索と検索エンジン	情報検索と検索エンジンの歴史 ・インターネット以前の情報検索（Information Retrieval）のはなし	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	情報検索と検索エンジン	情報検索と検索エンジンの歴史 ・「ポータルサイト」の時代 ・インターネット上の情報量の飛躍的な増加 ・Googleの登場（2000年）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	データベース	データベースのはなし ・そもそも「データベース」とは ・データベースの簡単な歴史 ・データベースの種類 ・リレーショナルデータベース	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	図書館システム	「図書館システム」とは 図書館システム導入の歴史 図書館システムの構成例	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	図書館システム	図書館システムについて（続き） 図書館システムの現状と課題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	OPACのGoogle化？	OPACとリンクリゾルバ/ディスカバリーサービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	セキュリティ	情報セキュリティについて	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館制度・経営論		配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	公共図書館の経営に関して必要な法制度および代表的な公共図書館経営論について学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。図書館をとりまく環境（法律・政策・社会）やニーズ（社会的需要・利用者の要求）を考えながら、どのように経営されるのかについて理解を深める。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート3割、期末試験7割	
テキスト	その都度プリントを配布			
参考書	NDC013に排架されている書籍を中心に			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがある。			
位置付け・水準	CD2116			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館制度・経営論の前提 図書館制度・経営論で学ぶこと 地方自治・地方行政のしくみ 出版流通業界のこと 図書館法	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館法逐条解説（1）	図書館法逐条解説（その1）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館法逐条解説（2）	図書館法逐条解説（その2）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館法逐条解説（3）	図書館法逐条解説（その3）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館法逐条解説（4）	図書館法逐条解説（その4）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館法逐条解説（5）	これまでの図書館法改正の要点	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	地方行政とその制度	地方行政・制度における公共図書館の位置づけ 公共図書館（公立図書館）は地方行政組織の一部局 図書館設置条例と図書館法・地方自治法 地方自治体の仕事 事務区分 住民	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	公共図書館とその制度（1）	公共図書館政策 国（文部科学省）の政策 地方自治体の政策 私立図書館 子どもの読書活動の推進に関する法律	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	公共図書館とその制度（2）	地方自治体の政策 子どもの読書活動の推進に関する法律 公立図書館の人事制度（その1） 地方公務員制度の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	公共図書館とその制度（3）	私立図書館に関する政策 公立図書館の人事制度（その1） 地方公務員制度の概要 会計年度任用職員制度の導入	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	公共図書館とその制度（4）	業務委託 指定管理者制度 公共（公立）図書館の委託・指定管理	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	出版流通（1）	出版流通について（その2） 本が書店に並ぶまで 本ができるまで 本が読者に届くまで 取次の役割 再販制度	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	出版流通（2）	再販制度について 再販制度と図書館	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	公共図書館と出版流通	図書館における「選書論」 図書館と出版流通をつなぐ「選書」の役割 「文庫本の貸出は控えて」の是非 電子書籍の導入で「選書」と「貸出し」は変わるのか	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	図書館の危機管理	図書館の危機管理 災害時の危機管理 図書館利用における危機管理 資料保存における危機管理	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報サービス論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	まず各自の情報リテラシーを高め、その上で図書館における情報サービス（主にレファレンス）業務に関する知識を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。情報を取り扱うための新しい情報サービスについて学修し、情報を選択するための多様な手段を習得する。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、図書館司書課程を選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポート4割、期末試験6割で評価します。	
テキスト	その都度プリントを配布。			
参考書	NDC015に分類される書籍			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2117			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「情報サービス」とは 「ドキュメンテーション」とは 図書館・図書館情報学分野における「情報サービス」 「情報サービス論」の構成	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	しらべる力を身につける	情報サービスの実際 レファレンスサービスとは レファレンスサービスの事例 情報検索サービス 事例：国立国会図書館デジタルコレクション	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	その情報はどこから	コミュニケーションの枠組みとしての「メディア」 社会に「メディア」があふれている 「メディア」の変容 記憶/記録する媒体としての「メディア」 図書館と「メディア」の関係	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	マクルーハンのメディア論	マクルーハンのメディア論 「メディアはメッセージである」 「身体の拡張としてのメディア」	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	情報リテラシー	情報リテラシーとは 情報を判断する、その前に 情報を集めよう	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	情報リテラシー教育	情報を編集する 適切な情報を集めるには コミュニケーション・スキル フローとストック よい編集物に必要な要素	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	情報リテラシー教育	情報を編集する：その前提 フローとストック 「コミュニケーション・スキル」の話をもう少し 図書館における「情報サービス」再考 アウトプットをどのようにかたちづくるか ブランドをつくる≡ブランディング	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	情報サービスの見地から見るアウトリーチ・サービス	社会保障（社会福祉）としてのアウトリーチ・サービス 図書館サービスにおけるアウトリーチ・サービス	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
9	広報	広報の基礎知識 組織における「広報」の役割	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
10	図書館の広報	図書館における「広報」 これからの図書館広報を考える	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
11	電子書籍	電子書籍とは	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
12	電子ジャーナル	「電子ジャーナル」とは 電子ジャーナルの歴史 電子ジャーナルの現在と学術コミュニケーション	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
13	査読・オープンアクセス・ハゲタカジャーナル	「学術雑誌の査読」について オープンアクセスの話 「ハゲタカジャーナル」とは	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
14	ハゲタカジャーナル（続き）	「ハゲタカジャーナル“Predatory Publishers”」問題 ハゲタカ学会	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
15	まとめ	リクエストアワー（学生の質問への回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報サービス演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	PDCAサイクルに倣って、情報サービスの各種の業務における設計から評価までを考える能力、利用者の質問に対する適切かつ柔軟なレファレンスサービスと情報検索サービスの適用が可能な能力、そして積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。 また図書館における種々の情報サービスについて設計・展開・評価を、それぞれ実際の業務に近い形で実習し、学生が相互にそのプロセスと結果に評価を加える。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通して解説していく。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーもしくは報告の記録の記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	課題レポート（4本程度）で評価します	
テキスト	プリントをその都度配布します			
参考書	あらかじめ レファレンス協同データベース http://crd.ndl.go.jp/reference/ 等を見ておくように。			
学生への要望	技術と能力を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2217			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探索し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	前半は、学生は各自が課せられたテーマに沿って質問を考え、演習内で担当教員にその質問に基づきインタビューを実施する。 後半では「図書館だより」を作成するグループワークと成果報告を行う。			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報サービス演習の目的と概要	演習のすすめかた 質問への回答	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	課題提示	課題提示と解説	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
3	情報検索の使い方	レポート・論文作成に役立つ情報検索の使い方	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
4	レポート作成の時間	課題レポート作成	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
5	課題解決	学生による質問と回答（1）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	課題解決	学生による質問と回答 (2)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	課題解決	学生による質問と回答 (3)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	課題解決	学生による質問と回答 (4)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
9	課題解決	学生による質問と回答 (5)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	課題解決	学生による質問と回答 (6)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
11	課題解決	学生による質問と回答 (7)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	課題解決	学生による質問と回答 (8)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	課題解決	学生による質問と回答 (9)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	課題解決	学生による質問と回答 (10)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	課題解決	学生による質問と回答 (11)	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	課題解決	学生による質問と回答 (12)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
17	課題解決	学生による質問と回答 (13)	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	課題解決	学生による質問と回答（14）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	課題解決	学生による質問と回答（15）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
20	課題解決	学生による質問と回答（16）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	課題解決	学生による質問と回答（17）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その1） ・制作班の顔合わせと役割分担の確定	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その2） ・各班ごとに「図書館だより」を発行する公共図書館の設定を構築する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
24	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その3） ・各班ごとに「図書館だより」を発行する公共図書館が所在する架空の自治体の設定を構築する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	「図書館だより」制作	中間報告会 ・各班ごとに「図書館だより」を発行する公共図書館の設定を報告する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その4） ・各班ごとに設定した架空の自治体および公共図書館の設定に沿って「図書館だより」の細部を構想する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その5） ・各班ごとの構想により「図書館だより」を制作する	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	「図書館だより」制作	「図書館だより」を作る（その6） ・各班ごとの構想により「図書館だより」を制作する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
29	「図書館だより」制作	「図書館だより」完成品に基づく報告会 ・各班ごとに制作した「図書館だより」について報告する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	まとめ	リクエストアワー（学生の質問への回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	情報資源組織演習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎和知 剛		
開講期			
授業の概要	日本でもっとも利用されている、情報資源を組織化するためのツールである『日本十進分類法』、『日本目録規則』、『基本件名標目表』を中心に、国立情報学研究所のNACSIS-CATや国立国会図書館件名標目表、基本的なメタデータの記述規則であるDublin Core等も交えつつ、情報資源の組織化の実際を学び、受講生がこれらのツールを用いて図書館目録の整理を行うに必要な知識と技術を習得する。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について、演習を通じて解説していく。図書館利用者がその検索結果を以って、十分な図書館利用を可能にする目録の提供が可能な技術の習得を目標とする。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーもしくは報告の記録の記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。 位置づけ・水準 CD2214		
授業の到達目標	目標は①内容の7割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー③にある「地域社会において円滑に対応できるコミュニケーション力を活かしながら、現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し解決する能力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。		
履修条件	地域創成学科に在籍し図書館司書課程を受講している学生	成績の 評価方法・基準	レポート5割、期末試験5割で評価します。
テキスト	プリントをその都度配布します		
参考書	『日本十進分類法』新訂9版・新訂10版 『日本目録規則』1987年版改訂3版、2018年版 他		
学生への要望	技術を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。		
位置付け・水準	CD2214		
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。		
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）		
アクティブラーニング実施内容	演習の時間内に実施する目録カード作成は、周囲の学生と相談しながら進める。		
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	情報資源組織演習で学ぶツール 日本目録規則（NCR） 日本十進分類法（NDC） 基本件名標目表（BSH） 日本目録規則（NCR）解説（その1）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	分類法課題	分類法課題その1（個人伝記）の出題と課題	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	分類法課題	分類法課題その1の課題解決（自修）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	分類法課題	分類法課題その1の課題解決（自修）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	分類法課題	分類法課題その1の回答例解説と課題その2（文学）の出題および解題	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	分類法課題	分類法課題その2の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
7	分類法課題	分類法課題その2の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
8	分類法課題	分類法課題その2の回答例解説と課題その3（法律）の出題および解題	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
9	分類法課題	分類法課題その3の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
10	分類法課題	分類法課題その3の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
11	分類法課題	分類法課題その3の回答例解説と課題その4（ノンセクション）の出題および解題	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
12	分類法課題	分類法課題その4の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
13	分類法課題	分類法課題その4の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
14	分類法課題	分類法課題その4の課題解決（自修）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
15	分類法課題	分類法課題その4の回答例解説	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
16	目録規則課題	カード目録の時代 過去の日本目録規則	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
17	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第0章について	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
18	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その1）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
19	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その2）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その3）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
21	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その4）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
22	目録規則課題	日本目録規則1987年版改訂3版第2章（その5）	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
23	目録規則課題	日本目録規則2018年版概説。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
24	目録規則課題	日本目録規則2019年版概説。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
25	目録規則課題	目録規則課題：日本では導入されていないが、アメリカ合衆国などでは「CIP（Cataloging in Publication）」と呼ばれる制度が導入されているそうである。「CIP」の概要を知りたい。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
26	目録規則課題	目録関係の言葉では“ICP”と略されるものもある。今日は“ICP”について調べること。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
27	目録規則課題	“RDA（Resource Description and Access）”について解説を採し出し、説明してください。	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
28	目録規則課題	図書館利用者（OPACがインターネットで活用できるのであれば、図書館利用者に限らないのかも）の情報リテラシーを支援する基盤として、これからの「図書館目録」に求められるものって、例えばどんな機能でしょうか？	課題レポートを作成・提出し、その内容について配布されたプリント等で十分に復習し、事例によっては複数の正解があることにも慣れることが望ましい。	60
29	目録規則課題	これからの図書館経営において「目録を作成する技術」はどのように評価され、どのように活用されていく必要があるのか。	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
30	まとめ	リクエストアワー（質問と回答）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館基礎特論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	図書館業務の上で必要不可欠な参考文献である「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」について学び、ライブラリアンシップの醸成に努める。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、図書館の過去と現在、そして図書館情報学を図書館の現場に活用した未来（これからの図書館）について講義解説していく。「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」を学び、その現実的な運用精神を習得する。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。 担当教員は大学図書館に30年勤務し、目録作成や閲覧参考業務の経験がある。 位置づけ・水準 CD2118			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、司書ユニットを選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポートの成績による	
テキスト	その都度プリントを配布。「図書館の自由に関する宣言」はあらかじめ日本図書館協会のサイト等で確認しておくこと。			
参考書	「図書館の自由に関する宣言」「図書館員の倫理綱領」「公立図書館の任務と目標」「図書館の設置及び運営の望ましい基準」に関連する書籍			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2118			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館基礎特論の内容 職業倫理について 「図書館の自由に関する宣言」の成立	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	図書館の自由に関する宣言(1)	成立した「図書館の自由に関する宣言」 棚上げされた「図書館の自由に関する宣言」 「図書館の自由に関する宣言」改訂の端緒	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	図書館の自由に関する宣言(2)	「図書館の自由に関する宣言」1954年版の改訂 ・「自由宣言」の副文問題 ・「自由宣言」改訂へ ・「図書館の自由に関する宣言」1979年改訂の特徴	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	図書館の自由に関する宣言(3)	1979年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	図書館の自由に関する宣言(4)	1980年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する（続き）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	図書館の自由に関する宣言(5)	1981年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する（続き）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	図書館の自由に関する宣言(6)	1981年の改訂以降に発生した「図書館の自由に関する宣言」に関わる案件（「自由案件」と呼ぶ）を主文の項目ごとに紹介する（続き）	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	図書館員の倫理綱領	「図書館員の倫理綱領」について	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	図書館情報資源特論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎和知 剛			
開講期				
授業の概要	著作権法制度について、その概要を学ぶ。担当教員はこれまで大学図書館に勤務してきた実務経験から得た、専門的な知識および専門的なスキルを活用して、著作権制度の沿革および日本の現行著作権法制度とその問題点について解説する。現在の日本の著作権法制度について知り、著作物の適切な利用法を習得する。 なお、「図書館基礎特論」から続く時間割になるが別の講義である。 講義の最後に毎回、時間をとってミニットペーパーの記入を求め、質問・意見を受け付け後日回答する。			
授業の到達目標	目標は①内容の8割を理解すること。②地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけること。			
履修条件	地域創成学科に所属し、司書ユニットを選択している学生	成績の 評価方法・基準	レポートの成績による	
テキスト	『著作権テキスト』（文化庁）文化庁著作権課のページから最新のテキストを受講生各自がダウンロードすること			
参考書	雑誌「ジュリスト」「情報の科学と技術」の特集号ほか			
学生への要望	知識を学修する講義です。受講生の無断欠席は講義を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
位置付け・水準	CD2213			
ディプロマポリシーとの関係	地域創成学科のディプロマ・ポリシー④にある「専門的知識を活用し、論理的に課題を探究し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力」を修得するための専門知識を学生が身につけることにより、ディプロマ・ポリシーの達成を目指している。☑			
オフィスタイム	毎週月・水・木曜日のそれぞれ2コマ目（10時30分～12時）に図書館情報学研究室まで（予定）			
アクティブラーニング実施内容	なし			
実務家教員の経歴	大学図書館に30年以上勤務し、目録作成・閲覧参考業務・管理職等の経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	図書館情報資源特論で取り上げる内容 ・知的財産権 ・産業財産権 ・ ・特許権 ・ ・実用新案権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
2	産業財産権（続き）	・産業財産権（続き） ・ ・意匠権 ・ ・商標権 ・ その他の知的財産権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
3	著作権法制度(1)	著作権 ・ 著作権制度の沿革 ・ 著作権制度の概要	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
4	著作権法制度(2)	著作権 ・ 著作者の権利 ・ ・著作人格権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
5	著作権法制度(3)	著作権 ・ 財産権としての著作権	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
6	著作権法制度(4)	著作権 ・ 著作権の保護期間 ・ 著作隣接権 ・ 外国の著作物等の保護	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	著作権法制度(5)	著作権 ・ 他人の著作物を利用するには ・ 著作物等の「例外的な無断使用」ができる場合	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60
8	著作権法制度(6)	直近の著作権法改正とその目的 ・ 令和2年著作権法改正について ・ ・海賊版対策 ・ 令和3年著作権法改正について ・ ・新型コロナウイルスの影響に対する法制度の対応	本日の講義・配布したプリントで解説した専門用語について、図書館用語集等で復習するとともに、次回の講義として予告したテーマについて最近の動向を確認すること。	60

授業名	博物館資料論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 2単位 選択	
担当教員名	◎佐藤 愛未			
開講期				
授業の概要	学芸員の責務のなかに博物館資料の収集・保存・普及・活用などがある。 この授業では、博物館・文書館・図書館における歴史資料を中心とした資料の管理方法・取り扱い方・目録作成の方法について、文化施設における勤務経験をもとに授業を行う。 ①博物館ほか社会教育機関における歴史資料の重要性、活用方法、保存管理方法などを学ぶ。 ②歴史資料の取り扱い方法、史料の整理方法などの実例を紹介・実践し、博物館ほか社会教育機関における歴史資料の活用及び保存管理する意義を考察する考える。 なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行います。			
授業の到達目標	単位認定の最低基準は、 ①博物館資料及び博物館資料の整理・保存・活用における授業内容の7割を理解していること。 ②博物館資料の取り扱いの方法に関する授業内容の7割を理解していること。			
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点	
テキスト	適宜プリントを配布する。			
参考書	倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版、1997年 安藤正人『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年 林英夫監修『新編 古文書解読事典』柏書房、1993年 ほか適時指示する。			
学生への要望	次年度実施予定の「博物館実習」の課外実習に臨むための重要な講義となっているので、問題意識を持って受講し、講義内容を復習すること。また、博物館の展示を出来るだけ多く観覧し、関連する資料や文献を講読すること。			
位置付け・水準	CD2121			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解・創造的思考力			
オフィスタイム	火曜日・水曜日のⅡ時間目。創学館4階、No5研究室			
アクティブラーニング実施内容	史料取り扱い体験（掛け軸ほか）、博物館見学等			
実務家教員の経歴	千葉県立文書館ほか文化施設において勤務（資料整理・展示補助ほか）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入（ガイダンス）	博物館学芸員課程における、次年度実施予定の博物館館務実習に向けての準備に関して、今後の授業計画とあわせて説明する。	予習：参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントをおさらいする。	30
2	博物館資料の概要と資料化の過程	博物館資料（主に歴史資料）とは何かを博物館法や文化財保護法などから概説し、博物館における資料（モノ）の収集から整理、管理、活用までの過程を学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
3	資料の収集（1）	博物館など社会教育機関における資料の収集は、その館の基本的性格や目的にそって行うことが重要となってくる。そこで、資料収集における理念と原則について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
4	資料の収集（2）	博物館など社会教育機関における資料（モノ）の収集の方法について、どのような手法によって収集するのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
5	資料の整理方法（1）	収集・受け入れを行った資料は、分類を行い整理され、登録し管理される。そこで、収蔵されるまでの一連の過程を学ぶ。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
6	資料の整理方法（2）	収集した資料は、収蔵庫に入る前の整理の段階でクリーニングが実施される。クリーニングは資料の種類によって異なっているため、この方法について紹介し、クリーニングの重要性について説明する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	資料の整理方法（３）	資料は整理される際に史料概要の情報を資料カードや目録作成によってデータ化管理する。その意義と方法について考え、実際に資料整理を体験して資料カードを作成する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
8	資料の整理方法（４）-1	博物館など触れる機会の多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。ここでは、掛け軸の取り扱い方法を学びながら、資料の計測や資料名の付け方などを学び資料カードを作成する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
9	資料の整理方法（４）-2	博物館など触れる機会の多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。ここでは、掛け軸の取り扱い方法を学びながら、資料の計測や資料名の付け方などを学び資料カードを作成する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
10	資料の整理方法（５）	目録を作成するために必要な古文書の取扱い方、読み方について説明する。また、そこから実際に古文書を読んで目録作成を実践する。また、目録作成の過程やデータ化される資料の情報内容について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
11	資料の保存と活用（１）	博物館ほか社会教育機関では、収蔵資料の資料および作成した目録データの公開が行われている。そこから、資料の活用方法また、データの管理について考察する。その他、研究紀要などの研究成果を発表する刊行物が出版されている。では、博物館における調査・研究について、何を対象とし、いかなる方法があるのかを検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
12	資料の保存と活用（２）	博物館において、収集され登録された資料は収蔵庫に保存され、管理される。それにあたって、収蔵資料の保存方法や収蔵庫の条件・環境などが課題となる。資料の保存方法について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
13	資料の保存と活用（３）	資料は受け入れする際、その資料の状態は様々である。そのため、収蔵庫で管理するために、資料の処理や修復・修理が行われる。以上について、実例をいくつか紹介し、資料保存の在り方について考える。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
14	資料の保存と活用（４）	資料公開は、展示が代表的なものとなるが、研究者や市民への資料閲覧なども行われている。そして、近年では資料の画像データ化し、インターネット公開を行う機関が増加しているが博物館法の改正により、博物館のDX化が今後の課題となる。これらの実施状況や課題について検証する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30
15	まとめ～今後の史資料活用や保存～	これまでの講義を念頭に置きつつ、自然災害時における資料の管理・保管の措置や対応の一例を紹介し、資料を保存管理、活用する側とその利用者側との関係や、資料保存や活用における今後について展望する。	予習：授業配布時のプリントを予習する。 参考書ほか、授業に関係があると思われる図書を読んでくる。 復習：ノートや授業内配布プリントを読み、理解が不十分である部分を調べる。	30

授業名	博物館実習	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 3単位 選択
担当教員名	◎會田 容弘 仲田 佐和子 佐藤 愛未 米本 順子		
開講期			
授業の概要	奥松島縄文村歴史資料館学芸員として博物館経営・文化財保護行政を担ってきた。博物館の建設、運営、常設展示、企画展時、教育の実践を行ってきた経験をもとに、授業を行う。【授業の目標・ねらい】 学芸員資格取得を目指す学生が、1年次の博物館学概論・博物館学資料論・博物館教育論の知識を基に、博物館施設における多様な学芸員の仕事を実践的に学習することを目的とする。 【授業内容の概要】 学内実習では、福島県内の博物館施設と生活文化博物館で企画展を行う。8月と11月に実施する企画展示の展示計画、展示準備、展示、展示解説、展示撤収を実習の授業として行う。また学外実習では、博物館等施設5館見学と1週間程度の施設実習を実施する。施設実習に伴い、事前事後指導を授業の中で行う。 授業では展示を進める過程でそれぞれのグループに課題を与え、その成果発表を行い、適時指導を行う。不足している内容については指摘し、次回までの課題とする。位置付け・水準CD2222		
授業の到達目標	【達成目標】 主体的にコミュニケーションをとってグループ全体の作業を実現していけるように努力できる姿勢を育てること。 成績評価基準に基づき、7割以上の理解を求める。DPとの関係：課題解決力、主体的行動力		
履修条件	学芸員課程履修学生（要「博物館概論」・「博物館資料論」履修済） 1年終了時のG P Aが2.0以上であること。	成績の 評価方法・基準	授業態度と展示計画と展示品及びポスター（50％）・5館見学レポート（20％）・学外実習（30％）を総合的に評価する。
テキスト	特に使用しない。		
参考書	授業時に適宜提示する。『文化学科資格課程報告集』バックナンバー 『地域創成学科報告集』第1～4集		
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢と共に、博物館施設で実際に働くことを各自がイメージしながら実習に取り組んでほしい。 学内実習での学習態度・出席状況の悪い学生の学外実習参加は許可しない場合がある点、要注意！		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	全体ガイダンス	学芸員課程全体の中の博物館実習の位置づけを確認し、今年の展示実習の概要を説明する。また博物館施設5館見学レポートについて解説し、「博物館で働く側の視点」を学生が意識できるように準備を行う。1年次の文化学科研修旅行博物館見学レポート提出日。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
2	学外施設実習ガイダンス	6月から始まる学外施設実習を有効に実施するために諸注意や確認事項の事前指導を行う。実習施設への提出書類の作成も行うため、欠席しないこと！	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
3	展示施設見学①	福島県内の文化施設の施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	施設見学②	福島県内の文化施設の施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
5	施設見学③	福島県内の文化施設の施設見学を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
6	展示計画	福島県内の文化施設の展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
7	展示計画	福島県内の文化施設の展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
8	展示計画	福島県内の文化施設の展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
9	展示準備	福島県内の文化施設に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
10	展示準備	福島県内の文化施設に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
11	展示準備	福島県内の文化施設に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	展示準備	福島県内の文化施に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
13	展示準備	福島県内の文化施に展示する展示物、パネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
14	展示発表	福島県内の文化施に展示するために作成したパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを提示し、発表を行う。その結果に基づき修正を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
15	展示修正	展示品の指摘点を修正する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
16	模擬展示	作成した展示品を展示してみる。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
17	模擬展示修正	展示品を修正する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
18	展示品作成	展示品を作成し、搬入できるように準備する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
19	展示準備	展示内容を広報宣伝するためのポスター制作を行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	展示準備	展示原案に基づいて展示資料を制作する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
21	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
22	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
23	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
24	展示実習	福島県内の文化施において実際に展示を行う（7月10日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
25	展示解説実習	福島県内の文化施の展示初日、及び土曜日に展示解説を実施する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
26	展示撤収	福島県内の文化施の展示撤収作業を行う（9月15日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
27	展示撤収	福島県内の文化施の展示撤収作業を行う（9月15日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	展示撤収	福島県内の文化施設の展示撤収作業を行う（9月15日）	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
29	後期まとめ	展示の反省について討論会を開催する。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60
30	総まとめ	一年を通しての博物館実習、学内・学外実習の振り返りを行う。	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など、事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など	60

授業名	博物館情報・メディア論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎福島　ひろ子		
開講期			
授業の概要	博物館情報・メディア論の重要性と必要性が情報化社会および生涯学習時代において、益々高まってきており、情報技術の日進月歩の発達により、メディアが博物館などの文化施設の利用形態へ与える影響は特に大きい。本講義では、メディアの歴史や近代のマスメディアの発展、メディアと教育との関係、コンピューターの登場とインターネット、メディアリテラシー、知的財産権、世界の博物館や美術館における映像展示の歴史と現状及び災害報道などについて映像メディアを通して具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	①博物館における情報・メディアの意義、特性及び課題を理解する。 ②人間社会に与えるメディアの影響およびその意義を考える。 ③博物館や公民館などで働くために必要と思われる情報提供や活用に関する基礎的な知識を身につける。		
履修条件	学芸員課程	成績の 評価方法・基準	①出席状況、授業中の態度など20点 ②小テスト20点 ③課題20点 ④期末試験40点
テキスト	特に指定しない、必要に応じて、プリントの配布や参考文献の案内を行う。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	紹介された参考文献や図書などを可能な限り読んで、理解しておくこと。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	時間配分や進め方などについて説明し、参考文献の案内なども行う。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
2	ICT社会における博物館の現状と展望	日本及び世界の博物館に関する現状と課題を新聞記事、政府の統計調査資料やビデオなどを利用して、具体的な例を踏まえながら紹介する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
3	博物館における情報・メディアの意義①	視聴覚メディアの歴史と発展を映像で紹介し、その重要性を伝える。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
4	博物館における情報・メディアの意義②	Society5.0、スーパージンティ構想を中心に、デジタル社会における博物館の役割と意義を認識する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
5	メディアとしての博物館の歴史と発展	世界と日本の博物館の歴史を振り返りながら、博物館の情報メディアとしての特質を理解する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
6	博物館活動の情報化①	デジタルミュージアムの構築と現状（バーチャル展示、復元CG画像と双方向情報発信など）を紹介する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
7	博物館活動の情報化②	博物館の調査研究と展示活動におけるメディアの活用を修復や展示などの事例を取り入れて説明する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
8	博物館活動の情報化③	博物館の教育普及活動におけるメディアの活用を実例で説明する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
9	情報メディアの心理と基礎理論	認知心理学の基礎理論知識を学習しながら、博物館展示や来館者心理などに関する理解を深める。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
10	博物館と情報リテラシー①	博物館の社会教育施設という機能の側面から、デジタル教科書などの実例を取り入れて、博物館情報リテラシーへアプローチする。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	博物館と情報リテラシー②	博物館のバリアフリー建設という角度から、情報発信の仕方を検討する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
12	博物館と情報リテラシー③	映画（The Cove）などの実例を取り入れて、情報リテラシーの複雑さと難しさを認識する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
13	博物館と知的財産権①	実例を利用して、著作権法の中身と重要性について学習する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
14	博物館と知的財産権②	デジタルアーカイブと知的財産権の関係、プライバシーとパブリシティ権の取り扱いなどについて理解する。	毎回与えられた課題に取り組むこと。	60
15	まとめ	これまでの授業を振りかえつつ、授業の内容を纏めると共に、その狙いなどを指摘する。質疑応答という形で行うことになる。試験についての説明もする予定である。	授業ノートを読み返し、内容理解を深める	60

授業名	博物館教育論	配当年次 単位数	
担当教員名	◎未定		
開講期			
授業の概要	本授業では、社会教育施設である博物館の役割を教育・学習の観点から検討する。現代は社会生活の多様化、高学歴化、生涯学習の普及などにより、博物館の教育的役割が今までになく重視されるようになった。このことから、博物館教育の理念・方針、実践事例などを紹介し、生涯学習時代にふさわしい博物館のあり方、利用者と博物館の関係性を考察する。課題に対しては、レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準　C D 2124		
授業の到達目標	博物館の教育的活用・運営に必要な基本的知識を修得し（知識理解）、自ら課題を見つけ解決できる学芸員補としての知識を修得する（創造力・思考力）。単位認定の基準は、内容の8割を理解してほしい。		
履修条件	短期大学部地域創成学科2年生	成績の 評価方法・基準	①提出課題10点　②中間レポート40点　③期末レポート50点 60点以上を合格とするが、80点以上を目指してほしい。
テキスト	使用しない。適宜、資料を配布する。		
参考書	『博物館教育論』講談社・2015年、『博物館教育論』玉川大学出版部・2016年		
学生への要望	博物館、美術館等に問題意識を持って、積極的訪れてほしい。また、新聞等で文化財や博物館に関する記事に注意してほしい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	学芸員科目改正により「博物館教育論」新設の要因を解説し、今後の授業計画を説明する。	配布資料を読み復習する。	90
2	福島県の博物館	福島県博物館連絡協議会加盟の博物館を紹介する。規模・設置目的・収蔵資料など、県内の博物館が多様な形態であることを指摘し、財源難・入館者減・高齢化など、厳しい現状に直面している博物館を考える。	今まで訪れたことがある博物館を書きだす。	90
3	博物館教育の理念と目的①－生涯学習と博物館－	生涯学習の考え方を検証し、生涯学習時代到来が社会の要請であることを考える。生涯学習にとって、知識意欲を啓発する博物館の教育的役割が重要であることを確認し、博物館を拠点とする生涯学習のあり方を考察する。	生涯教育について具体的に調べる。	90
4	博物館教育の理念と目的②－地域社会と博物館－	住民参加による地域活動の拠点としての博物館、利用者（学習者）主体の博物館運営が要請されるようになった。特定の行政区域、地域社会を基準に設置された博物館は多種多様な地域資源を収蔵しており、地域再発見の役割を考えてみる。	自分の出身地域にどんな博物館があるか調べる。	90
5	博物館教育の理念と目的③－博物館教育と学校教育－	博物館と学校の役割を比較しながら、両者の連携のあり方、学校とは異なる学習体験可能な博物館教育の独自性を検証する。	生涯教育と学校教育の違いについて考える。	90
6	博物館教育の理念と目的④－博物館教育と学び－	博物館運営は資料（モノ）・知識の一方的伝達から利用者の自己学習を支援するように変化してきた。博物館における学びの特質を利用者の視点に立って考えてみる。	博物館利用者として博物館に望むことを考える。	90
7	博物館教育の方針①－博物館教育と利用者－	博物館は展示見学の一般市民・研究者・学生・友の会など、年齢・興味・関心・目的を異にする、さまざまな個人・団体に囲まれている。博物館教育にふさわしい博物館と利用者（学習者）との相互関係作りを検証する。	博物館利用者はどのような個人・団体が考えられるかを調べる。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	博物館教育の方針②－博物館教育の評価－	社会教育施設である博物館は、教育的活動が地域社会や利用者（学習者）により不断に評価される。博物館は教育活動の概要を外部に提示しなければならない存在となった。評価にふさわしい教育活動の企画立案と課題を考えてみる。	博物館が評価されるポイントにはどのようなものがあるか調べる。	90
9	博物館教育の方針③－博物館教育と学芸員－	利用者（学習者）の近くに位置する学芸員には、資料収集・展示・調査研究など多様な専門性に加えて、生涯学習支援者としての教育的役割が求められるようになった。博物館と地域をつなぐ学芸員像を検証する。	学芸員に求められる教育的役割について調べる。	90
10	博物館教育の実際①－展示と展示解説－	展示は資料（モノ）の陳列ではない。展示担当者の学芸員は利用者（学習者）の学習意欲を刺激し、興味を持たせるための展示を模索しなければならない。効果的に学習行動へ導く展示のあり方を検証する。展示理解を支援する展示解説・解説シートについても説明する。	「解説シート」とはどのようなものか調べる。	90
11	博物館教育の実際②－講習会と講座－	展示とともに、講習会・講座は学芸員の専門的研究成果と利用者（学習者）に発信する重要な手段である。利用者の学習支援に適う講習会・講座の運用を考える。	博物館で行われている講習会・講座にはどのようなものがあるか調べる。	90
12	博物館教育の実際③－出前講座－	学校と市民を対象とした「出前講座」がある。これは学芸員が専門分野の学習メニューを作成し、直接出向いて学校支援・生涯学習支援を図るものである。利用者の掘り起こしでもある「出前講座」の実例を紹介する。	「出前講座」とは何か調べる。	90
13	博物館教育の実際④－ワークショップ－	博物館教育は一方的に知識・情報を伝達することではない。「ワークショップ」は利用者（学習者）の主体性を重視した参加・体験型の教育活動である。新たな学びを創出する「ワークショップ」の実例を紹介する。	「ワークショップ」とは何か調べる。	90
14	博物館教育の実際⑤－博物館友の会－	博物館友の会は会員の相互親睦団体であり、博物館の支援団体である。会員は学芸員とともに博物館の教育活動を創造していく存在である。生涯学習の一翼を担うようになった博物館友の会活動を検証する。	「博物館友の会」とは何か調べる。	90
15	まとめ－博物館教育の今後－	これまでの授業内容から、生涯学習時代の社会が要請する利用者（学習者）主体の博物館教育を展望する。	これまでの授業を振り返りながら、まとめる。	90

授業名	博物館経営論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎藤原 妃敏		
開講期			
授業の概要	【授業全体の内容の概要】 ①博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実際について事例をあげながら解説する。 ②最終授業で全体のフィードバックを行います。		
授業の到達目標	【授業の目的・ねらい】 ①学芸員として身につけておかねばならない、博物館のさまざまな形態と活動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基本的な能力を養うことを目標とする。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 ①博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのかについて理解を深める。 単位設定の最低基準は内容の7割を理解していることとする。		
履修条件	地域創成学科 2年	成績の 評価方法・基準	レポート40点、期末試験60点
テキスト	プリント配布		
参考書	講義の中でその都度紹介します。		
学生への要望	出席を重視します。実施されている展示や事業の意図を考えるためにできるだけ多くの博物館を訪れてください。		
位置付け・水準	CD2225		
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	博物館経営（ミュージアムマネジメント）の概要を説明する。	講義資料について復習する。	60
2	博物館法および関連法規	博物館法、博物館施行規則、望ましい基準に示されている博物館経営内容について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	博物館の行政制度	行政内における公立博物館の位置づけについて具体的事例をあげて説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
4	博物館の財政制度	公立博物館における予算の作成について具体的事例を挙げながら説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	博物館の施設・設備	博物館の施設、設備の特徴について具体的な事例について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	博物館の組織と職員	博物館の組織を具体的例をあげて提示し、それぞれの職務内容を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	博物館の経営（1）	福島県立博物館を例にとり、その設立に至る経過、設立意義、条例などに基づきその使命を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	博物館の経営（2）	福島県立博物館の一年を通した博物館運営の実例を紹介し、博物館経営の実際を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
9	博物館の経営（3）	福島県立博物館の運営に関する評価方法、評価結果を提示し、博物館における評価制度の実際を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	博物館の経営（4）	博物館における、体験学習など教育普及活動の方法と実践例について説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
11	博物館の経営（5）	友の会、ボランティア、支援組織の設立と運営方法について具体的事例をあげて説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
12	博物館の経営（6）	博物館と地域の連携について具体的事例をあげながら説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	博物館の経営（7）	博物館の危機管理、学芸員の倫理について具体的事例をあげて、説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
14	博物館経営の諸問題	指定管理者制度の導入、予算の削減など現在の博物館の経営に関する問題点を説明する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	まとめ	授業全体をふりかえるとともに、博物館経営に学芸員がどのように関わるかを実際の経験を踏まえて説明する。	講義資料について復習する。	60

授業名	博物館資料保存論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎松田 隆嗣			
開講期	IV			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館や美術館等において資料を展示・保管するために注意すべき点あるいは資料の取り扱い方とともに文化財の保管や公開における国が定めた基準等について学習します。また、博物館等の文化施設及び地域の文化財の保存活用等において果たすべき役割についても学習します。特に、国の施策として博物館や美術館、歴史的建造物などの施設の活用も重要な課題となっています。半面、施設の活用は、文化財の保存と公開と同様に資料保存の観点からは相反した問題が内在していると考えられ、博物館や美術館等の文化施設における資料保存の果たす役割は、これまで以上に大きな役割が要求されており、この点についても言及します。 〔授業全体の内容の概要〕 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境の調査方法や環境を適切に保つ方法について学習します。また、文化財の保管や公開に当り注意しなければならない数多くの基準等についても学習します。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館や美術館ばかりでなく地域の文化財の保存や取り扱いについての一般的な知識について理解すること。 課題については最終授業において解説します。 〔実務経験に関する内容〕 福島県立博物館において資料の展示、収蔵環境の管理、資料の修復及び、考古資料の保存処理あるいはその他博物館収蔵資料の修復の経験をもとに博物館資料保存、管理について講義します。			
授業の到達目標	〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料の展示、保管の基本、資料の取り扱い方法および文化財の保管や公開において注意すべき基準等について理解するとともに地域の文化財の保存活用において博物館等の施設が果たす役割についても理解することを目的とします。 〔授業全体の内容の概要〕 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境を調査し把握する方法や環境を適切に保つ方法並びに文化財の保管や公開に当り注意しなければならない基準等について講義します。また、博物館等の文化施設及び地域の文化財の活用等において果たすべき役割についても講義します。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 単位認定の最低基準は講義した内容の6割以上を理解していること。 博物館活動の根幹をなすものは収蔵資料です。その資料を収集し後世に伝えることも博物館活動の根幹をなすものです。しかし、資料を収蔵しただけで後世に残るものではなく、保管、展示環境を把握しその環境を適正に管理し続けることが不可欠です。ただ、国内で資料保存を専門とする学芸員が勤務している博物館や美術館は少なく、大半の施設では他の分野の学芸員が資料保存についても担当しています。このため、資料保存を担当されても対処できるように資料の展示、保管について基本となる点について理解できることを達成目標としています。			
履修条件	地域創成学科 2 年	成績の 評価方法・基準	①課題 60点（15点×4回） ②期末試験40点 合計 100点 課題と期末試験の成績を合計点から成績を評価します。	
テキスト				
参考書	博物館学 IV 博物館資料保存論 * 博物館実習論（学社文）、文化財の保存環境（中央公論美術出版）、博物館資料保存論（講談社）、文化財保存環境学(朝倉書店)、美術工芸品の保存と保管(フジ・テクノシステム)など			
学生への要望	資料保存には様々な要因が複雑に絡み合っています。博物館資料保存論の講義の順序もこの点を考えて配置しています。つまり後ろにある講義はすでに行った講義の内容を理解していないと理解することが難しい内容が多くあります。このため、理解しにくい内容や事柄については、必ず復習を行うと共に内容によってはすでに学習した内容についても確認し理解を深めるようにして下さい。解らないことがあれば、授業終了後、気軽に質問していただければよいと思います。			
位置付け・水準	CD2226			
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	授業終了後			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴	福島県立博物館において資料の展示、収蔵環境の管理、資料の修復及び、考古資料の保存処理あるいはその他博物館収蔵資料の修復の経験をもとに博物館資料保存、管理について講義します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	文化財に害を及ぼす様々な要因は数多くあり、授業時間内で全てを説明することは困難です。このため、これらの要因を列挙し、簡単に説明するとともに博物館の資料保存に関する文献の調査方法について講義します。	教材としてプリントを配布します。予習については、記載した参考書などを用いて行うのが望ましいが、授業の項目をすべて網羅している参考書はないため、可能な範囲で行ってください。	30分
2	資料に影響を及ぼす物理的要因（1 温度）について	温度の変化が資料にどのような影響を与えるかを説明します。 特に、温度は他の物理的要因や化学的要因、生物的要因にも大きな影響を与えます。このため、これらの点の関連について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
3	資料に影響を及ぼす物理的要因（2 湿度）について	湿度の管理は、資料を展示・保管する上で最も注意すべき要因のひとつです。 このため、どのような要因が湿度の変化に影響及ぼし、どのような害が表れ、資料にどのような影響を及ぼすかについて講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
4	温度・湿度の計測について	温度・湿度の計測には温度計及び湿度計を用いますが、これらは、その種類により精度や測定方法が異なります。このため、温度計及び湿度計の基本的な測定法を説明する共に測定における注意点、測定した温湿度データの読み取り方について講義します。	温湿度計の使用法について詳しく記載された博物館資料保存論の参考書は、確認していません。 復習には教材として配布するプリントを用い予習に用いた参考書も参考としてください。	60分
5	資料に影響を及ぼす物理的要因（3 光（電磁波））とその計測について	博物館で資料を展示し、来館者に観ていただくには、光は不可欠なものです。また、資料の展示を様々に演出する上でも重要なものです。しかし、反面、光自体が資料に害を与えます。このため、この光による害とその測定法並びにその対処の仕方について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
6	資料に影響を及ぼす化学的要因について	資料に影響を及ぼす化学物質には、数多くの様々な物質がありますが、中でも有機酸、ホルムアルデヒド、アンモニアは特に注意すべき物質です。これらの化学物質が資料に及ぼす影響並びに発生原因、及び計測方法並びにその対処方法等について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	45分
7	資料に影響を及ぼす生物的要因について	資料に影響を及ぼす生物学的要因としては文化財害虫による害及びカビ等による害があります。この文化財に害を与える文化財害虫とカビについて解説すると共に引き起こされる害及びその発生要因について講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
8	燻蒸ガスによる資料の燻蒸とその問題点について	資料燻蒸の長所・短所及びその問題点・注意点について講義すると共に、現在使用されている燻蒸ガス種類と毒性及び資料に及ぼす影響などについても講義します。	予習には参考書の欄に記載の書籍で各自の学習しやすい参考書を参考にしてください。復習には教材として配布するプリントを用いると共に予習に用いた参考書も参考にされると良いと思います。	30分
9	I PMによる資料保存環境の管理と燻蒸剤によらない殺虫法について	I PM(総合的害虫管理)の概念についてはよく知られていますが、I PMの具体的な対策については殆ど理解されていません。このため、I PMの具体的な対策について講義を進めます。 また、I PMにより資料の保存環境を管理するに当たり燻蒸剤に依存しない防・殺虫法は重要な役割を果たしています。このため、これらについても講義します。	I PMについてはネット上に数多くの解説や事例が示されています。参考になる物が数多くあります。復習には教材として配布するプリントを用いるとともに有用なホームページを提示しますのでこれらも参考 としてください。	60分

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	展示室における資料展示環境とその維持方法について	展示室は外界などから、常に様々な影響を受けています。具体的にどのような影響を受けているかについて講義しをすると共に展示環境を適正に保つための具体的な対策について講義します。	特に参考となる参考書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用い復習を行ってください。	30分
11	収蔵庫における資料収蔵環境とその維持方法について	資料の保存環境の維持は空調設備により簡単に行えると思われませんが、現実には空調のみで環境を維持することは困難なことです。よりよい保管環境を維持するためにどのようなことを行っているかについて講義します。	特に参考となる参考書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用い復習を行ってください。	30分
12	伝統的な資料保存の方法について	昔から行われている日本古来の資料の保存方法には、現在でも資料を保存する上で重要な方法が数多くあります。また、博物館等に収蔵されている資料についても刀剣のように資料によっては伝統的な取り扱い方により定期的に手入れをする必要のある資料もあり、このような点について講義します。	一般的に博物館資料保存論の教科書で参考となる教科書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用いるとともに有用なホームページを提示しますのでこれらも参考としてください。	30分
13	博物館資料の災害防止について	博物館資料が受ける災害について述べると共にその防止方法について講義します。	文化庁から災害防止についての様々な通達や防災についての手引きなどが予習、復習役立ちます。これらを用いて予習、復習を行ってください。	45分
14	資料の修理、修復、保存処理の基本について	資料の修理や修復の基本的な考え方及び遺跡から出土した金属製遺物や木製遺物の保存処理方法についてもその方法（科学処理）の概略について話します。	一般的に博物館資料保存論の教科書で参考となる教科書は有りません。復習には教材として配布するプリントを用いるとともに有用なホームページを提示しますのでこれらも参考としてください。	30分
15	地域資源と地域の文化財の保存と活用について	各地域に数多くの様々な文化財や資料が存在しますが、これら文化財や資料の保存への取り組みや活用について話します。 特に、国内の経済状況を回復させるため国が力を入れているところです。博物館施設等の文化施設の活用や文化財などの積極的に活用についての国の考え方について講義します。	文化庁が実施する「文化遺産を活かした地域活性化事業」における「文化遺産を活用した地域活性化に係る取組への支援」において文化遺産を活かした地域活性化事業や文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業、事例集 が公開されておりますので参考にされると良いと思います。	45分

授業名	博物館展示論	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎斎藤 美保子 仲田 佐和子			
開講期	Ⅲ期			
授業の概要	展示の歴史、メディア、教育活動、諸形態に関する理論及び方法に関する知識、技術を習得し、博物館展示の基礎能力を養う。 フィードバック：毎回ミニッツペーパーの提出を求め、次の回にコメントを付して返却する。 2名の担当者が交代で、時に一緒に、授業をします。			
授業の到達目標	博物館展示に精通することによって、歴史資料や美術工芸品と向き合う姿勢、鑑識眼を身につけることの大切さを知る。 単位認定の最低基準：学内外の展示に積極的に関心を持ち、実践的な提案ができること。			
履修条件	地域創成学科2年生 学芸員資格取得必修科目	成績の 評価方法・基準	授業中の課題（50点） 学期末の記述式試験（50点）	
テキスト	授業内でコピー等を配布する。			
参考書	『博物館展示法』雄山閣出版、『新しい博物館学』芙蓉書房出版、『博物館展示論』講談社、『博物館展示論』放送大学			
学生への要望	時間をみつけて近隣の美術館、博物館を訪ねること。			
位置付け・水準	博物館学関係 CD2227			
ディプロマポリシーとの関係	創造的思考力、課題解決力			
オフィスタイム	火曜日16：10-17：05 金曜日10：30-11：30 No4地域創成学科研究室、 火曜日16:20～17:05 水曜日16:20～17:05 創学館No4研究室			
アクティブラーニング実施内容	第7回生活文化博物館展示の部分的な変更を実習する。第9回茶室を使用して和風の作法を実習する。第14回実際に花を生ける。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（斎藤）	学芸員資格としての展示論の意義。学内のブロンズ像を例に、コミュニケーションとしての展示を考える。	学内のブロンズ像を鑑賞して回る。	90
2	展示と展示論の歴史（日本）（仲田）	上野の国立博物館、西洋美術館、県内の美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
3	展示と展示論の歴史（西洋）（斎藤）	大英博物館、ルーヴル美術館の歴史を辿り、重要な展示品を映像等で鑑賞理解する。	各館のホームページを閲覧する。	90
4	調査研究の成果としての展示（仲田）	芸術鑑賞講座の展示、「発掘ガール展」の展示を例に、調査研究の成果を理解する。	各展示を振り返り、感想をまとめておく。	90
5	展示の政治性と社会性（斎藤）	大ルーヴル、山梨県立美術館、福島県立美術館を例に、展示の政治性と社会性を理解する。 更に、短期大学部に学芸員資格取得のカリキュラムが導入された経緯を理解する。	良く行く文化施設の設立の経緯を調べる。	90
6	展示の諸形態（斎藤、仲田）	資料から展示の諸形態を整理し、学内展示（ブロンズ像展示、生活文化博物館、上村松園作品展、62年館3階民具展示）を検討する。生活に溶け込んだ美術を理解する。	学内の諸展示に注意する。風呂敷を使ってみる。	90
7	展示の制作（斎藤、仲田）	今年度は特に、生活文化博物館の開館3年目に関わる展示作業の実習をする。	博物館実習の意義をよく理解する。	90
8	関係者との協力（外部講師）	学芸員として展示に関わっている卒業生から体験談を聞き、ひとつの展示が仕上がるまでの協働を学ぶ。	二本松市の大山忠作美術館を見学する。	270
9	日本文化再確認（斎藤、仲田）	慎思庵で和の文化を実体験する。掛け軸、茶碗、漆器、着物の扱いに慣れる。	浴衣のたたみ方を練習する。	90
10	展示の評価と改善（仲田）	観覧者への聞き取り、アンケートなど展示評価の種々の方法を比較検討する。学内の展示を評価し、改善策を提案する。	特に、ネーチャードームと生活文化博物館を熟覧する。	90
11	解説文・解説パネル（斎藤）	学内の解説文を検討評価し、各自でより良い解説文を試作する。	パネルの大きさ、字体等、より美しい解説パネルの試作を仕上げる。	90
12	人による解説（仲田）	前回の解説文を元に、学内展示の解説を順次行う。	自他の解説を振り返り、よりよい解説を工夫する。	90
13	展示解説書（斎藤）	芸術鑑賞講座のリーフレットや「発掘ガール展」の解説シートを参考に、学内展示の解説書を作る。	製本の仕方を工夫する。	90
14	設えと生け花（仲田）	日本の暮らしに潤いをもたらしてきた設えについて学び、生け花の実演から展示の意義を考える。	自分の部屋で花を飾ってみる。	90
15	まとめ（斎藤、仲田）	授業を振り返り、学内展示の一部分を実際に改善する。試験準備の指示をする。	15回のノートをまとめ、試験の準備をする。	270

授業名	ボランティア活動	配当年次 単位数	短期大学部 地域創成学科 1年 1単位 選択
担当教員名	◎山口 猛		
開講期			
授業の概要	講義においてはボランティア活動の意義やマナーについて学ぶとともに、ボランティア団体の実情を知り、理解を深める。実習では学科で推奨あるいは紹介するボランティア活動に全員で参加するものと、各自の希望でボランティア先を選択して参加の二通りの方法によって活動し、アクティブラーニングによるボランティア体験を通してボランティア精神を身につける。また活動の成果を発表する。 随時、授業内で問題を受け付け、対面でフィードバックを行います。 また、各種提出物への添削・コメントを通じてフィードバックを行います。 位置づけ・水準 CD2136		
授業の到達目標	・学科主催ボランティア1回以上、自主参加ボランティアを2回以上実施する ・知らない人とのコミュニケーションを取り、協調性を意識した作業ができる ・ボランティア精神を理解し、自主的に行動する意識を持つ 単位認定の最低基準：年度内を活動期限とした、学科主催ボランティアを1回以上及び自主参加のボランティアを2回以上実施するための計画を立てる ディプロマポリシーとの関係：課題解決力、主体的行動力		
履修条件	地域創成学科1年生	成績の 評価方法・基準	年度内を活動期限とした、学科主催ボランティアを1回以上及び自主参加のボランティアを2回以上実施するための計画を立てることで単位認定とする。本科目は認定科目であり、100点満点での採点は実施しない。※ボランティア実施後は、報告書を記載して提出する。
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生への要望	色々なボランティア活動に参加し、ボランティア活動をする事に慣れてください。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・一般ボランティア活動の紹介	青少年向けボランティア事業とボランティアセミナーの紹介を通し、ボランティア活動を行う基礎を作る。（国立磐梯青少年交流の家より講演）	自分がボランティアに参加するための心構えを考える	60
2	ボランティア計画方法	ボランティア活動の、授業内での管理方法や、ボランティアの参加計画を知る。	ボランティア実施スケジュールを大枠を組み立てる	60
3	ボランティアの意義を考えるグループワーク（作業）	ボランティア活動の意義の議論・まとめ・発表を行うグループワークを実施する。	グループでボランティアに関する理解を深めた結果を振り返り、自分の役割を理解する。	60
4	ボランティアの意義を考えるグループワーク（発表）	グループごとに発表を行い、ボランティア精神の共有を行い、授業全体のまとめを行う。	グループでボランティアに関する理解を深めた結果を振り返り、自分の役割を理解する。	60
5	体験活動推進ボランティア講習（1日目）※第1回就職模試	国立磐梯青少年交流の家で実施される、ボランティアセミナーを受講する。1泊2日予定。	実施要項を理解し、事前準備を行う。	60
6	体験活動推進ボランティア講習（2日目）	国立磐梯青少年交流の家で実施される、ボランティアセミナーを受講する。1泊2日予定。	ボランティア実施報告書を作成	30
7	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
8	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
10	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
11	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
12	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
13	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
14	自主参加のボランティア活動の実施	休日を利用して、各種の施設やイベントにおけるボランティアを2回自主的に実施する。 別途計画表で実施	ボランティア実施報告書を作成	30
15	活動まとめ	半期で実施したボランティア活動のまとめを行う	授業内で自分のボランティア成果を発表するための準備	60